2017 年度

地域連携事業【岡垣町／九州共立大学】

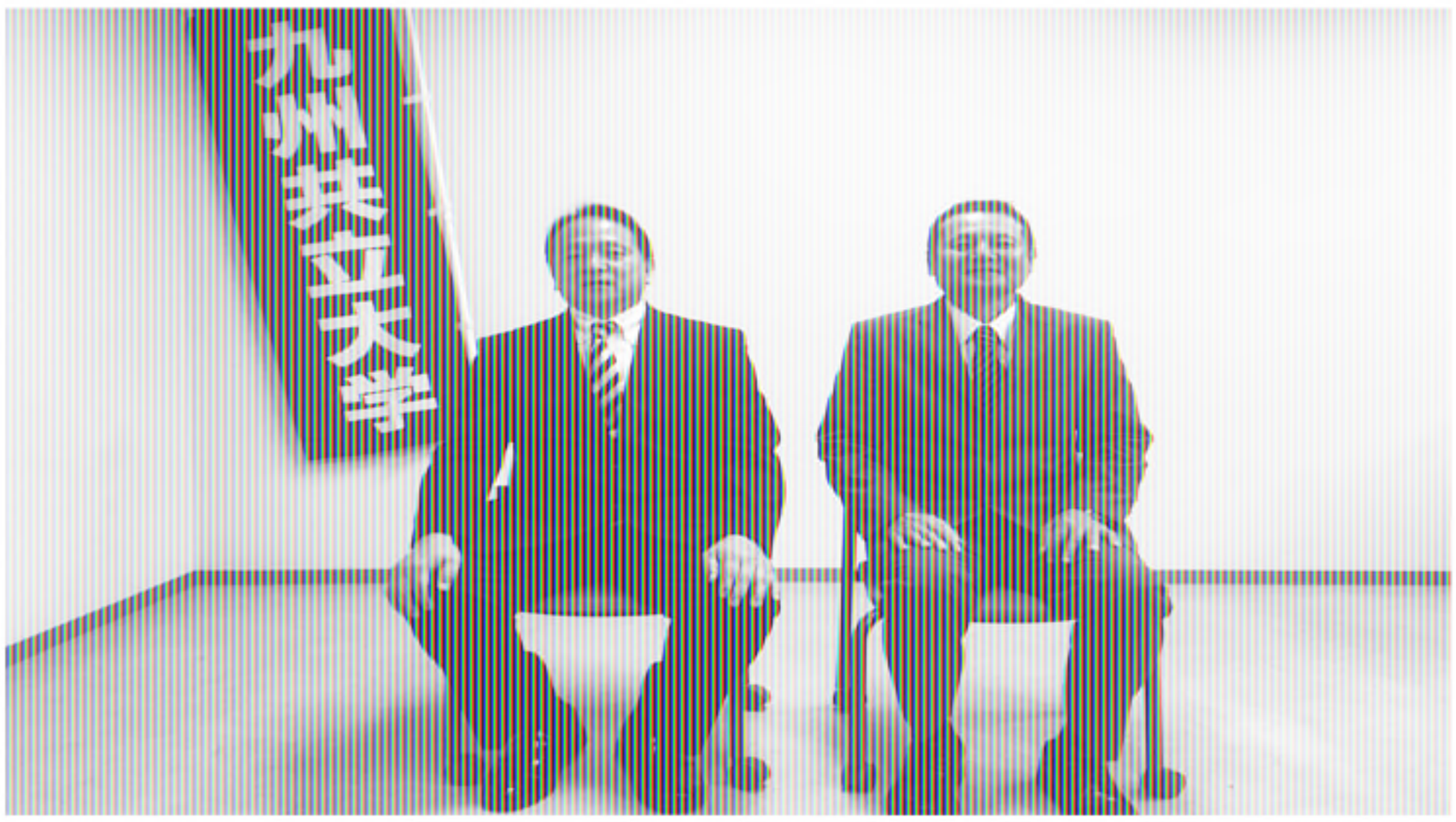
～小・中学生対象～

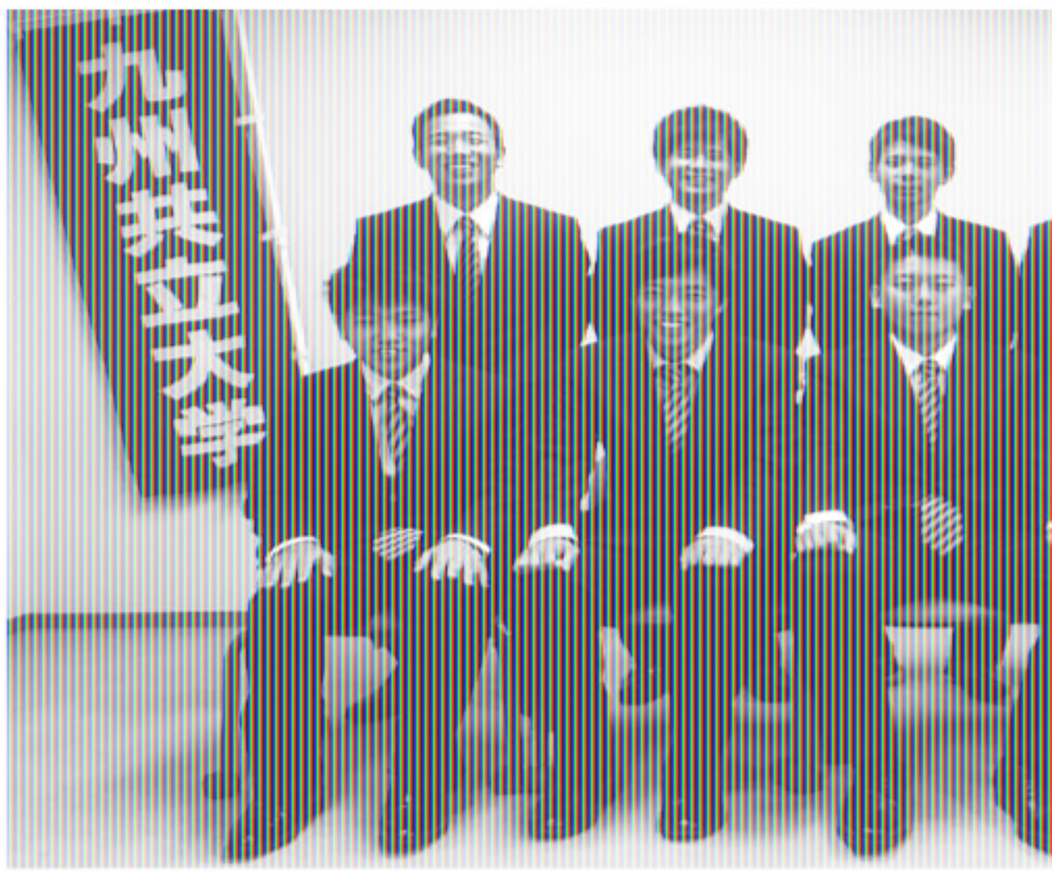
人権意識調

分析報告書

【プロジェクト・メンバー】

指導教員	九州共立大学スポーツ学部　山　田	
	公益社団法人　福岡県人権研究所（理事）	
協力者	筑紫女学園大学（人権教育）　峰　司郎	
	公益社団法人　福岡県人権研究所（研究員）	
学　生	九州共立大学スポーツ学部１年 大　賀　康　平	九州共立大学スポー 沖　中　翔
	九州共立大学スポーツ学部１年 赤　星　廣　大	九州共立大学スポー 川　勝　陽
	九州共立大学スポーツ学部１年 石　原　航　樹	九州共立大学スポー 川　上　滝
	九州共立大学スポーツ学部１年 今　井　智　紀	九州共立大学スポー 福　山　友





はじめに

本プロジェクトは、九州共立大学と岡垣町が締結した包括的地域連携
地域連携事業（「人権意識調査」）です。大学教員と学生が協働して同町の
対象に人権意識調査を実施し、その調査結果を基にデータ分析して報告
供致します。

プロジェクトの目的は、町内の小中学校における小学校 5 年生と中学
とした調査で、クラスや学年における人権意識の傾向を客観的に把握で
提供し、実態に即した教育活動に活用していただくことです。

人権意識調査の概要については、以下の通りです。

（1）アンケート調査は、福岡県教育センター作成の研究紀要 No. 157『
意識を高めるために ―児童生徒の人権意識調査「人権アンケート」の研究
岡教育センター 2006 年 3 月発行）の質問項目を使用しました。

（2）児童・生徒の人権意識は、行動を規定する一つの要因という観点か
び「行動意図」を人権意識と捉え、各 30 問併せて 60 問を質問しました。

（3）分析の内容として、人権意識を 6 項目＜生命尊重・自己認識・協調協
科学的認識・国際理解＞の観点からデータ化しました。また、今回は集団
についてのデータ分析を実施しました（個人のデータは提供しておりませ

調査対象となられた各学校におかれましては、今回の人権意識調査に
学年の集団の特徴を把握していただき、実態に即した教育活動、人権教
標設定、教育活動の改善等の資料として活用していただければ幸いです。

九州共立大学

目　　次

はじめに

調査概要　（　1

「人権意識アンケート」の解説　（　2

「人権意識アンケート」の調査用紙　（　3

「人権意識アンケート」の分析にあたって　（　8

【中学校の部／第２学年】

岡垣中学校　（　9

岡垣東中学校　（　27

【小学校の部／第５学年】

内浦小学校　（　43

海老津小学校　（　47

戸切小学校　（　63

山田小学校　（　67

吉木小学校　（　83

おわりに

調　査　概　要

Ⅰ　目的

岡垣町内の小・中学校における人権教育の推進については、児童生徒の
徴を具体的かつ客観的に把握した上で、実態に即した集団を支援する教育
れる。2017 年度の地域連携事業では、九州共立大学の教員（協力者を含
同町で人権意識調査を実施、データを分析して報告書を提供し、小・中学
告書を参考にして人権教育に関する目標設定や教育活動の改善に活用し
を目的とする。

Ⅱ　アンケート調査の概要

1	実施（主催）	（1）九州共立大学［山田明］及び学生 8 名 （2）調査分析協力者［峰司郎／筑紫女学園大学（非
2	調査対象	（1）小学校 5 年生［5 校］＊備考を参照のこと （2）中学校 2 年生［2 校］＊備考を参照のこと
3	実施時期	2017 年 4 月～6 月（7 月上旬に回収）
4	質問事項	児童・生徒の人権意識は行動を規定する一つの要因と ら、「認識」と「行動意図」を人権意識と捉え各 30 60 問を質問する。
5	調査の方法	「総合的な学習の時間」等で実施
6	分析の内容	（1）人権意識を次の 6 項目の観点からデータ化 生命尊重・自己認識・協調協働・労働観・科学的認識 （2）集団［学級・学年］についてのデータ分析
7	人権意識アンケート活用のメリット	（1）学級や学年の集団の特徴を把握でき実態に即し が充実する。 （2）人権教育に関する目標設定や教育活動の改善の 活用できる。

＊備考［調査対象者：岡垣町内の小学校 5 年生及び中学校 2 年生］

（1）中学校　2 校／298 名

岡垣中学校	第 2 学年　154 名
岡垣東中学校	第 2 学年　144 名

（2）小学校　5 校／322 名

内浦小学校	第 5 学年　10 名
戸切小学校	第 5 学年　11 名
吉木小学校	第 5 学年　46 名
海老津小学校	第 5 学年　117 名
山田小学校	第 5 学年　138 名

「人権意識アンケート」の解説

「人権意識アンケート」は、子どもの人権意識を「人権に関する認識」と「人権
からとらえています。

(1) 人権に関する認識

人権に関する認識とは、対象（人権に関連すること）について知っている知識や
応を指します。対象について実際の行動を起こすとき、認識は行動の重要な要素と
いじめについては、「いじめはゆるされないことだ！」という認識をもっているこ
い」「いじめを見たら止めさせる」という行動を促します。しかし、子どもたちは
に行動するわけではありません。心の弱さや周りの影響によって、自身の認識とは
まうことがあります。したがってアンケートで人権に関する認識だけを問うたとし
際にどのような行動をとるのかについての実態は表れてきません。また「いじめを
めを止めましたか」という実際の行動を問うことは、一人一人の経験の有無に左右

(2) 人権に関する行動意図

人権に関する行動意図とは，対象に向き合ったとき「こんな行動をとろう」と考え
すなわち、対象についての認識の影響を受け、どのような行動を行うか、その直接
を指します。いじめを例にすると「いじめをやめさせよう」その逆の「関わらない
うのがいじめに向き合ったときの行動意図ということになります。人権に関する認
には不一致があるように、行動意図と実際の行動の間にも不一致が想定されます。
る行動の多くが意図的行動（行為）であることから、事前の行動意図と対応する行
も少なくないと考えられます。したがって、この行動意図をアンケートで問うこと
する認識だけを問うよりも、より直接行動につながる意識を的確に把握することが
本アンケートでは、人権意識は行動を規定する一つの要因と仮定しています。人権
の行動の間には行動に直接影響をおよぼす行動意図が存在し、その認識と行動意図
ています。

(3) 人権に関する 指導目標

本「人権意識アンケート」では、６領域（生命尊重）（自己認識）（協調協働）
認識）（国際理解）を設定し、質問項目を作成しています。

①（生命尊重）生命の尊厳に対する理解を深め、生命を大切にする態度を育成する。
②（自己認識）自己を見つめ直し、自らを高めていこうとする意欲と態度を育成す
③（協調協働）互いのよさを尊重しあい、協調・協働して生活を高めていく意欲と
④（労働観）働くことの意義を理解させ、正しい労働観と職業観を育成する。
⑤（科学的認識）差別に対する科学的認識を高め、社会の矛盾や不合理を正してい
成する。
⑥（国際理解）平和な世界の実現に努めようとする態度を育成する。

［引用・参考文献］ 研究紀要 No. 157『子どもの人権意識を高めるために ―児童生徒の人権意識
の研究開発―』（福岡教育センター 2006 年 3 月発行）

『人権意識アンケート」調査用紙】

「ふりかえってみよう！」アンケート

学校　年　組　（男

番　名前

☆　このアンケートは、みなさんの学校や家での生活のようすや考

ので、テストではありません。

☆　このアンケートは、コンピュータで集計しますので、あなたが

答えたかは、だれにもわかりません。安心して答えてください。

☆　答えは、あなたの考えに近い数字を○でかこんでください。

☆　かならず、えんぴつで書いて下さい。まちがえた場合は、消し

消してから書き直して下さい。

○　答え方

「それぞれの質問に、１から４の数字で答えてもらいます。下の例のよ

あなたの考えに近い数字に○をつけてください。」

下の例のように、答えの数字を○でかこんでください。

〈答え方の例〉

２と答える場合　…	1	②	3	4
４と答える場合　…	1	2	3	④

じぶんをふりかえるアンケート

年　　組　　番　男・女　　名前

次のことについて、あなたはどう思いますか。

番号	質　　問	とても そう思う	少し そう思う	あ そう
1	人間のいのちは、みんな同じように大切にされていると思います。	1	2	
2	小さな動物や虫もいっしょうけんめい生きていると思います。	1	2	
3	病気やけがをしないようにいつも気をつけることは、とても大切なことだと思います。	1	2	
4	熱が出ている友だちのことをかわいそうに思います。	1	2	
5	年をとった人は、いつも、役に立つことを話してくれると思います。	1	2	
6	最後までがんばっても、失敗したら、なんにもならないと思います。	1	2	
7	自分のしたことをどんなときも、振り返ることは大切なことだと思います。	1	2	
8	いつも正しいと信じることをしたいと、思います。	1	2	
9	失敗したことをいつまでもなやんでも、しかたがないと思います。	1	2	
10	自分のことがあまり好きではありません。	1	2	
11	こまっている友だちを助けることは、その人のためにならないと思います。	1	2	
12	仲のよくない友だちとも、力を合わせることは、大切なことだと思います。	1	2	
13	意見の違う人とは、わかりあえるまで、いっしょに話し合う必要はないと思います。	1	2	
14	掃除をしているときに、自分がなまけると、友だちがこまると思います。	1	2	
15	自分のしたいことがあっても、友だちと合わせることの方が大切な時もあると思います。	1	2	

人権意識アンケ

番号	質　　問	とても そう思う	少し そう思う	あ そう
16	あせが出たりよごれたりする仕事は、しない方がよいと思います。	1	2	
17	どの係活動も学級の中で必要な係活動だと思います。	1	2	
18	どんな仕事も世の中の役に立つ仕事だと思います。	1	2	
19	働くことの目的は、お金をかせぐためだけではないと思います。	1	2	
20	生活にこまらなければ、仕事につかなくてもいいと思います。	1	2	
21	いじめは、ゆるされないことだと思います。	1	2	
22	知らない人が友だちをいじめているのを見たとき、やめるようにとめるべきだと思います。	1	2	
23	友だちが弱いものいじめをしていたら、やめるように注意をすることは大切なことだと思います。	1	2	
24	古くから伝わっていることは、今でも正しいことが多いと思います。	1	2	
25	まわりの友だちと違っていても、自分の考えを伝えることは大切だと思います。	1	2	
26	外国のいろいろなくらしは、知らなくてもよいと思います。	1	2	
27	学級にＡＬＴ等の外国の人が来たとき、その人のことをくわしく知りたいと思います。	1	2	
28	外国に住んでいる人と友だちになりたいと思います。	1	2	
29	どの国の人も、自分の国だけでなく他の国の人のことも大切に考えていると思います。	1	2	
30	自分が悲しいと感じることは、他の国の人も同じように感じると思います。	1	2	

人権意識アン

せいかつをふりかえるアンケート

年　　組　　番　男・女　　名前

※ いつもの自分の行動について、答えてください。

番号	質　　問	はい	少しはい	い
1	友だちが熱を出したり、けがをしたりしてつらそうにしているとき保健室につれていきます。	1	2	
2	学校や家で小さな動物や虫、花や植物の世話をすすんでします。	1	2	
3	年をとった人と話をするのは、いやではありません。	1	2	
4	むりなことをして、病気やけがをしないようにいつも気をつけています。	1	2	
5	車いすにのっている人が、こまっているのを見ても、自分から声をかけません。	1	2	
6	学校で決められたきまりは、いつも守るように心がけています。	1	2	
7	自分が正しいと思ったことは、みんなの前で話します。	1	2	
8	自分で決めたことでも無理だと思ったら、すぐにあきらめます。	1	2	
9	自分がしなくてはいけないと思っていることがあっても、友だちから遊ぼうとさそわれたら、遊びます。	1	2	
10	失敗したことをいつまでも、くよくよなやみます。	1	2	
11	こまっている友だちを見たとき、すぐに手伝います。	1	2	
12	あまり話をしない友だちと同じグループになったとき、自分からは進んで話しません。	1	2	
13	班の中で、自分が受けもった役割を最後まで、きちんとします。	1	2	
14	おうちの人がいそがしそうにしていたら、進んで手伝いをします。	1	2	
15	掃除をしているときに、友だちがなまけていたら「いっしょにしよう」とさそいます。	1	2	

人権意識アンケート

番号	質　　問	はい	少しはい	い
16	あせが出たり、よごれたりする仕事はしません。	1	2	
17	学級の係活動は、どの係になっても進んでします。	1	2	
18	大人になったとき、やってみたい仕事があります。	1	2	
19	人が見ていないときでも、いっしょうけんめい掃除をします。	1	2	
20	たくさんの職種、職業（仕事の名前）を知っています。	1	2	
21	身のまわりのきまりや習慣の中で、変だなと思った時はだれかにその理由をたずねます。	1	2	
22	友だちが知らない人をいじめているのを見たとき、友だちにやめるように言います。	1	2	
23	知らない人が友だちをいじめているのを見たとき、知らないふりをします。	1	2	
24	自分の言葉や行動でまわりの人（友だちや家族）の心をきずつけないようにいつも気をつけています。	1	2	
25	人をきずつけるような言葉を友だちが使ったら、友だちに注意をします。	1	2	
26	学級にＡＬＴ等の外国の人が来たとき、自分からは話しかけません。	1	2	
27	外国のくらしがテレビなどで紹介されていたら、日本と外国のくらしの同じところや違うところをさがします。	1	2	
28	その人が住んでいた国に関係なく、話しかけます。	1	2	
29	わたしが住んでいる町で外国の人が、こまっていたら、助けます。	1	2	
30	外国の歴史や文化について調べることが好きです。	1	2	

人権意識アンケート

「人権意識アンケート」の分析にあたって

今回のアンケート結果に関する分析についての留意点は、以下の通りで

①アンケートは、子どもの人権意識を「人権に関する認識(知識及び対応)」と「人権に関する行動意図（こんな行動をとろう、いじめをみたらとからとらえています。

②アンケートは、福岡県教育委員会の人権教育指導目標の６指導目標、（自己認識）（協調協働）（労働観）（科学的認識）(国際理解）から質問項目ます。

③アンケートの結果は、「レーダーチャート」と「帯グラフ」で表示さ準的な得点の範囲」も示されており、学級・学年の人権意識の傾向を示し

④学級・学年の実態はさまざまです。また、子ども一人ひとりの子どもさまざまです（自分に甘い子厳しい子、等）。そこで、アンケートの結果他の学校と比較はできません。また、今回は岡垣町の子どもたちの人権意高めていくという目的でアンケートを行っています。個人の結果も把握し今回は学級・学年の全般的な傾向を把握するという趣旨で結果のみを掲載

⑤人権意識を把握する方法として面接法・観察法、そして、今回のアンな質問紙法があります。アンケートの結果は、一つの傾向の把握です。子関係を大切にし、面接法・観察法と関連させ把握することが大切です。

以上の留意点をご理解の上、今回の結果を一つの参考にして、人権意識項目を検討される際、参考にしていただければ幸いです。

＊レーダーチャートの見方

６領域に関して、「学級平均値」と「標準的な得点の範囲」を対比対照特徴を分析します。「学級平均値」が「標準的な得点の範囲」の平均値にる場合、当該領域について、（認識）又は（行動意図）が標準的な傾向にきます。上限値に近くなれば、当該領域について、（認識）又は（行動意い傾向にあると判断できます。反対に、下限値に近くなれば、当該領域に識）又は（行動意図）がやや低い傾向にあると判断できます。

＊帯グラフの見方

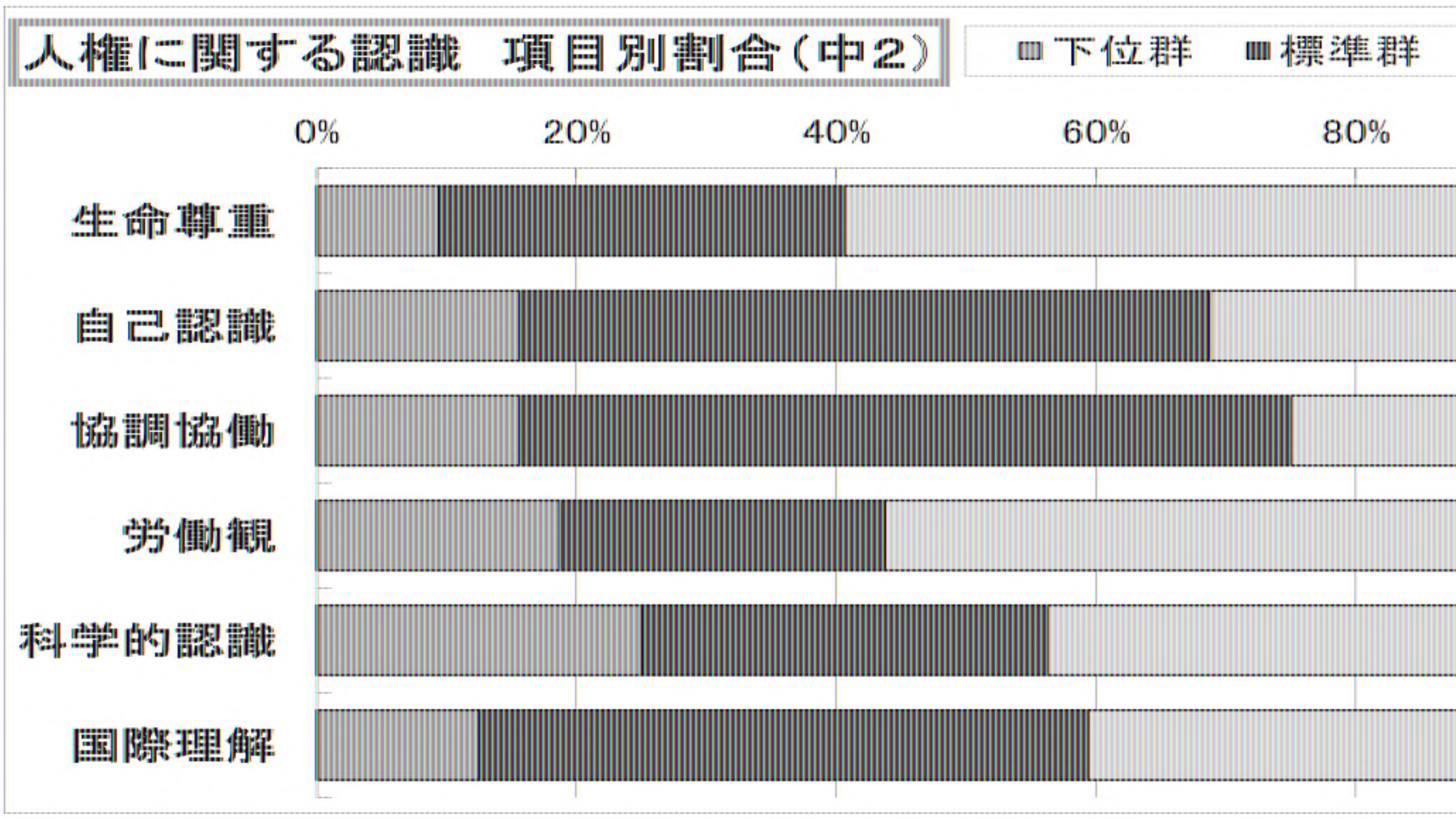
６領域の上位群・標準群・下位群の割合で、当該集団の特徴を詳しく見ます。上位群が 20%以上、下位群が 20%以下であれば、当該領域につい又は（行動意図）が高い傾向にあると判断できます。反対に、上位群が位群が 20%以上であれば、当該領域について、（認識）又は（行動意図にあると判断できます。

岡垣中学校

（川勝陽祐／赤星康大）

【認　識】　　岡垣中学校　　2年　　1組

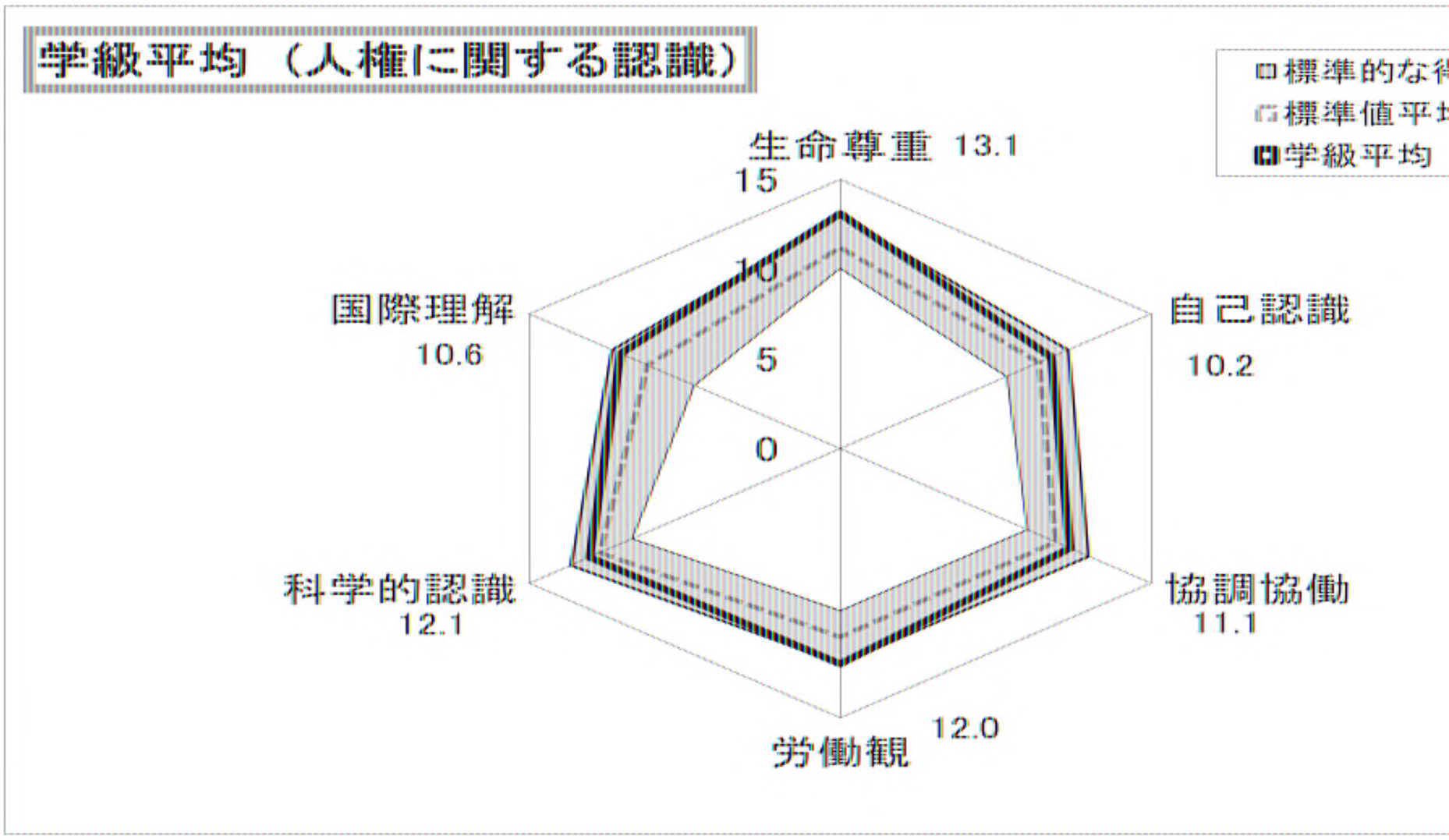
人権に関する認識　項目別割合（中2）



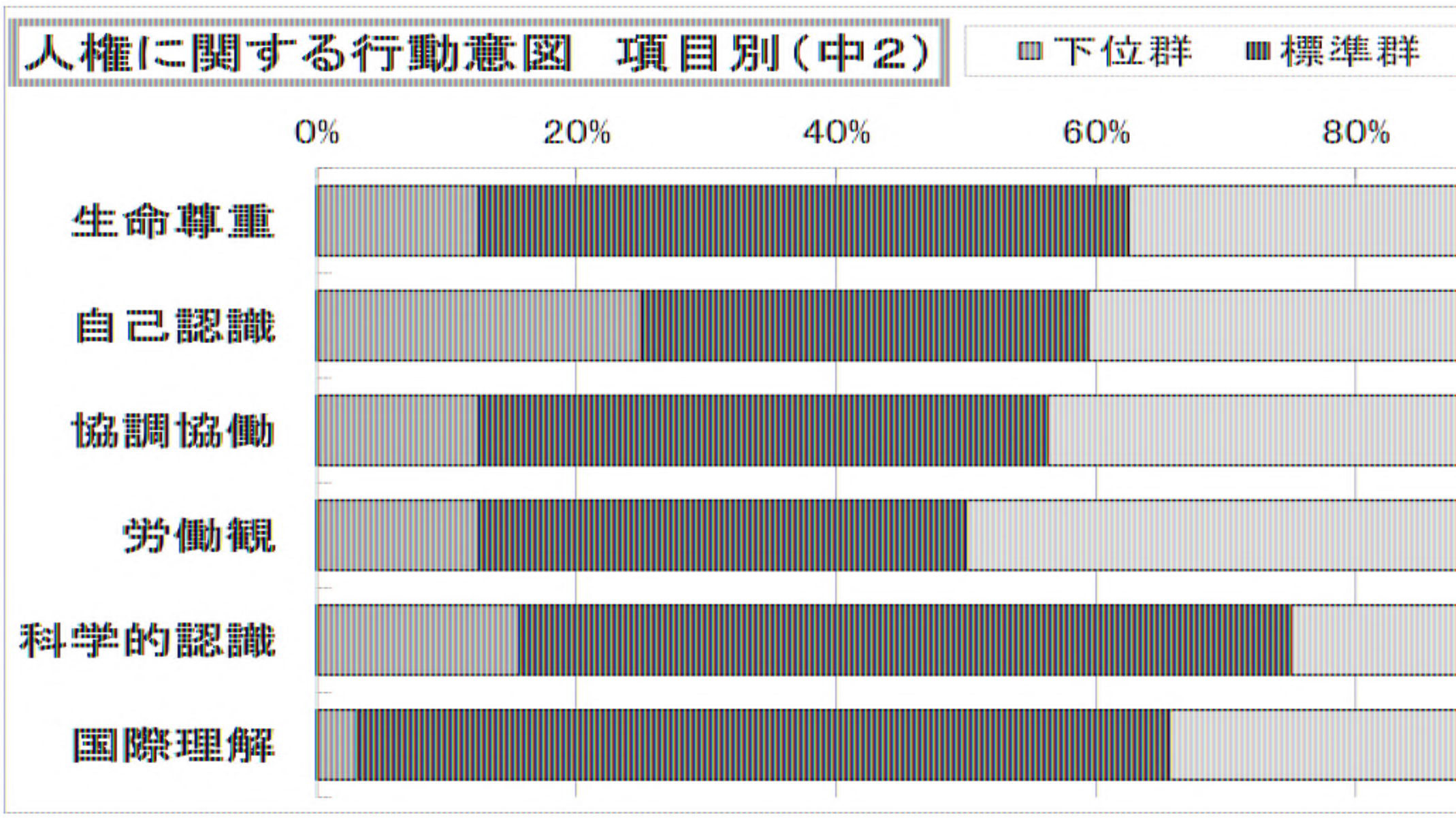
	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準
上位群	59.4	↑	16.5	31.3	↑	18.7	25.0	↑	18.5	56.3	↑	24.3	43.8	↑	21.
標準群	31.3	↓	62.6	53.1	↓	64.5	59.4	↓	61.5	25.0	↓	53.9	31.3	↓	62.
下位群	9.4	↓	20.9	15.6	↓	16.8	15.6	↓	20.0	18.8	↓	21.8	25.0	↑	16.

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	13.1	10.2	11.1	12.0	12.1
上位群	19	10	8	18	14
標準群	10	17	19	8	10
下位群	3	5	5	6	8

学級平均（人権に関する認識）

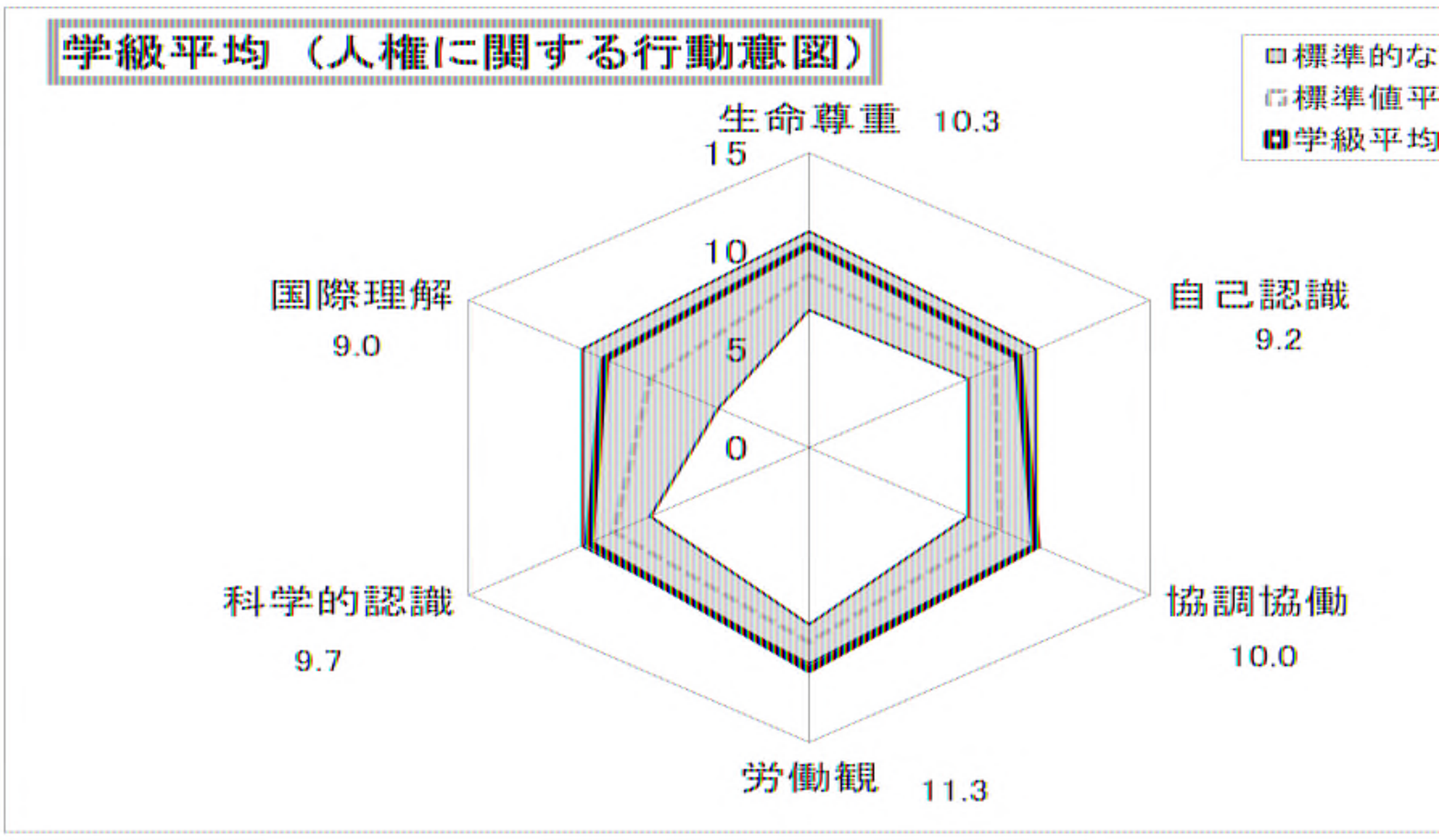


[行動意図]　　岡垣中学校　　2年　　1組



	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準
上位群	37.5	↑	17.2	40.6	↑	17.9	43.8	↑	21.6	50.0	↑	23.1	25.0		24.
標準群	50.0	↓	63.2	34.4	↓	56.8	43.8	↓	53.8	37.5	↓	52.8	59.4	↑	54.
下位群	12.5	↓	19.6	25.0		25.3	12.5	↓	24.6	12.5	↓	24.1	15.6	↓	21.

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	10.3	9.2	10.0	11.3	9.7
上位群	12	13	14	16	8
標準群	16	11	14	12	19
下位群	4	8	4	4	5



【2 年 1 組】

(1) 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

全体的な学級平均は（標準的な得点の範囲）内であり、全領域で高い傾向にある。＜生命
＜労働観＞は、学級の平均値が（標準的な得点の範囲）の上限値、又は近くなっていること
ると判断できる。＜自己認識＞＜科学的認識＞＜協調協働＞は、学級の平均値が（標準的な
に近いことから他の３項目に比べて低いものの標準であると判断できる。

②帯グラフ

＜生命尊重＞＜自己認識＞＜協調協働＞＜労働観＞＜国際理解＞の下位群は 20%以下で
全体的に良好な（「認識」が高い）傾向にある。全領域の上位群は 20%以上で高い傾向があ
＞＜労働観＞は 60%近くが上位群である。＜科学的認識＞は上位群が 40%を超えて高い傾
も 20%を超えているためクラス平均が低くなっている。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（認識）」の特徴の分析

全領域の学級の平均値は高い傾向であると判断できる。＜自己認識＞＜協調協働＞＜国際
準群が多く＜自己認識＞＜協調協働＞＜国際理解＞は平均的であると判断できる。全領域の
＞は 25%が下位群であり、やや低い傾向があると判断できるので、下位群を中心にした対策
られる。

(2) 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

全体的な学級平均は（標準的な得点の範囲）内である。また 6 領域とも（標準的な得点の
いので、＜生命尊重＞＜自己認識＞＜協調協働＞＜労働観＞＜科学的認識＞＜国際理解＞の
高い傾向にあると言える。

②帯グラフ

＜生命尊重＞＜協調協働＞＜労働観＞＜科学的認識＞＜国際理解＞の下位群は 20%以下
図）は全体的に良好な傾向にある。全項目の上位群は 20%以上で高い傾向があり、特に＜自
＞＜労働観＞は 40%以上が上位群である。＜自己認識＞のみ下位群は 20%以上であること
全体的にみれば低い傾向があると判断できる。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（行動意図）」の特徴の分析

全領域の学級の平均値は高い傾向であると判断できる。＜自己認識＞のみ下位群が 20%を
るということがわかる。＜自己認識＞＜協調協働＞＜労働観＞の上位群はクラスの 40%以上
ら全体的に高い傾向がある。

(3)「学級」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

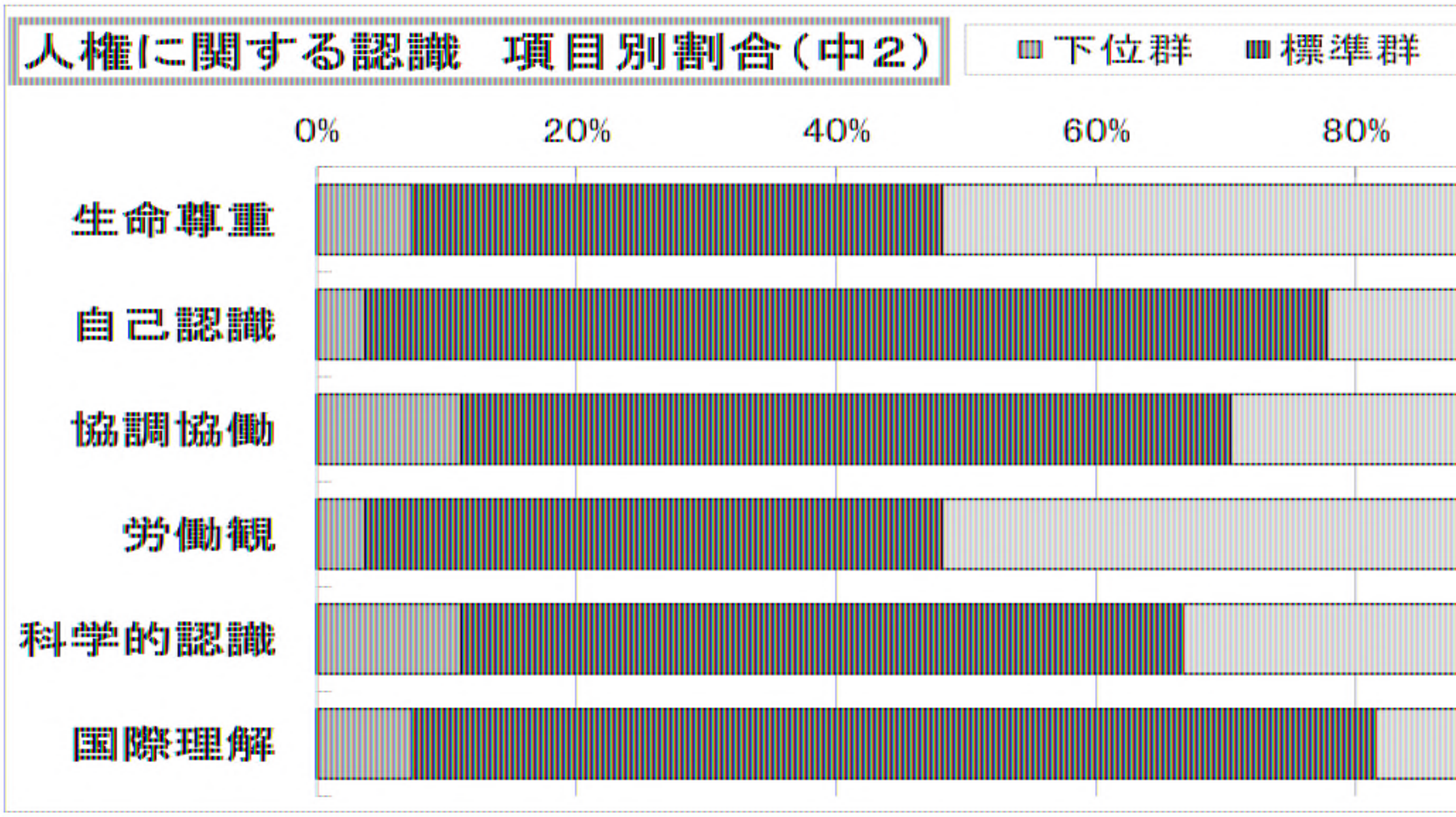
＜生命尊重＞＜科学的認識＞上位群について見ると、（認識）は（行動意図）になると 20
ことがわかる。また＜自己認識＞下位群の（認識）は（行動意図）になると 10%増加してい
自己認識＞＜協調協働＞上位群について見ると、（認識）は（行動意図）になると増加して
識）が低い傾向のある領域でも（行動意図）になると増加することがあり、逆に（認識）が
でも（行動意図）になると減少することもある。クラス全体でみると、（認識）では＜科学的
（行動意図）では＜自己認識＞の下位群を中心とした支援が必要だと考えられる。

(4)「人権意識」改善への提案

２年１組のクラス全体としての人権意識向上について、（認識）では上位群の増加を、（行
の減少に資する工夫が望まれる。生徒各自が自己を評価するとともに、将来への展望を持つ
り開いていこうとする態度を育てるために、例えば、クラス活動などでクラスメイトが友人
といった活動をすることで自己評価の認識が向上すると思われる。先生や友人とのコミュニ
自己を肯定できる雰囲気づくりの構築が期待される。

【認　識】　　岡垣中学校　　2年　　2組

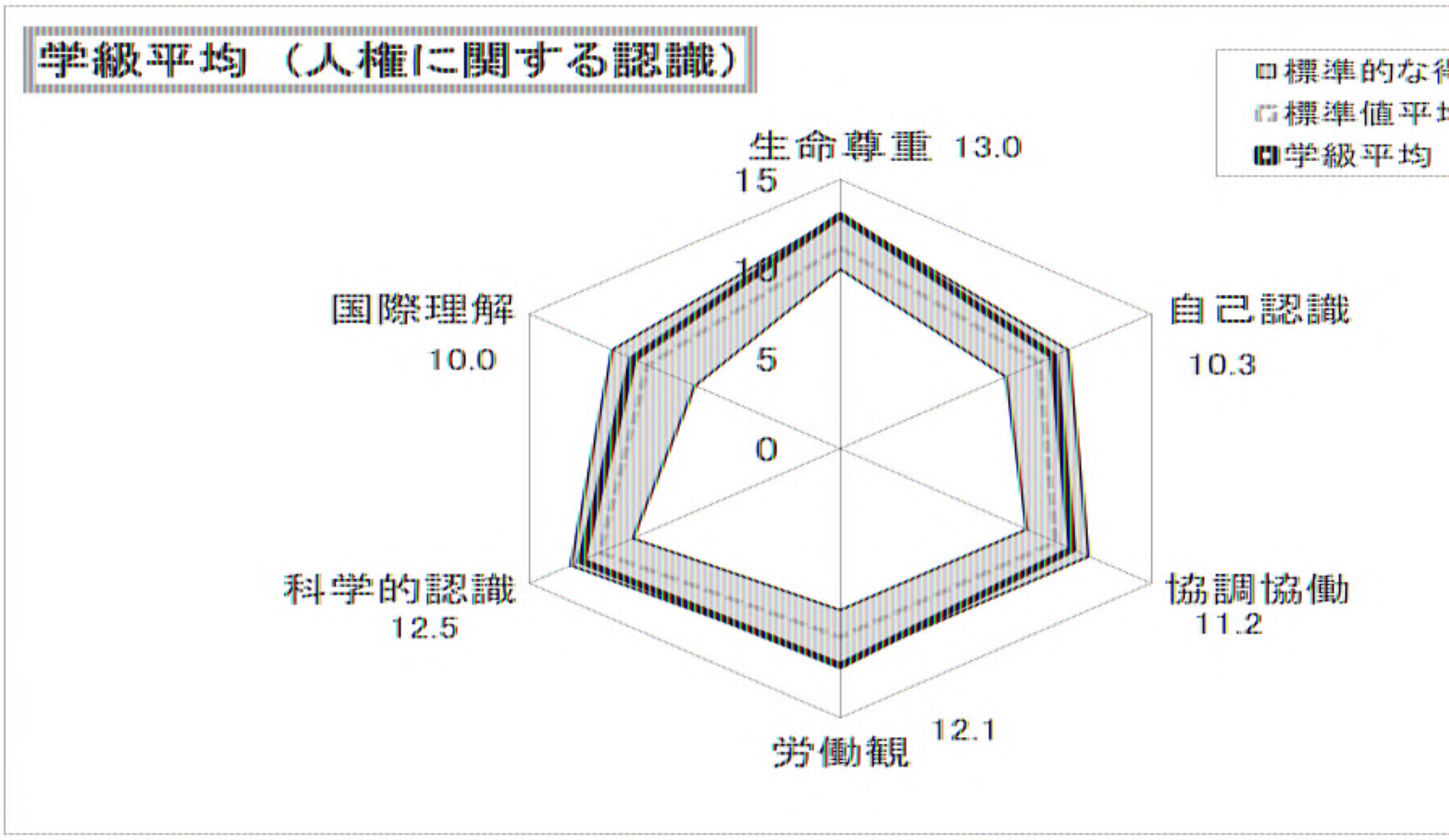
人権に関する認識　項目別割合（中2）



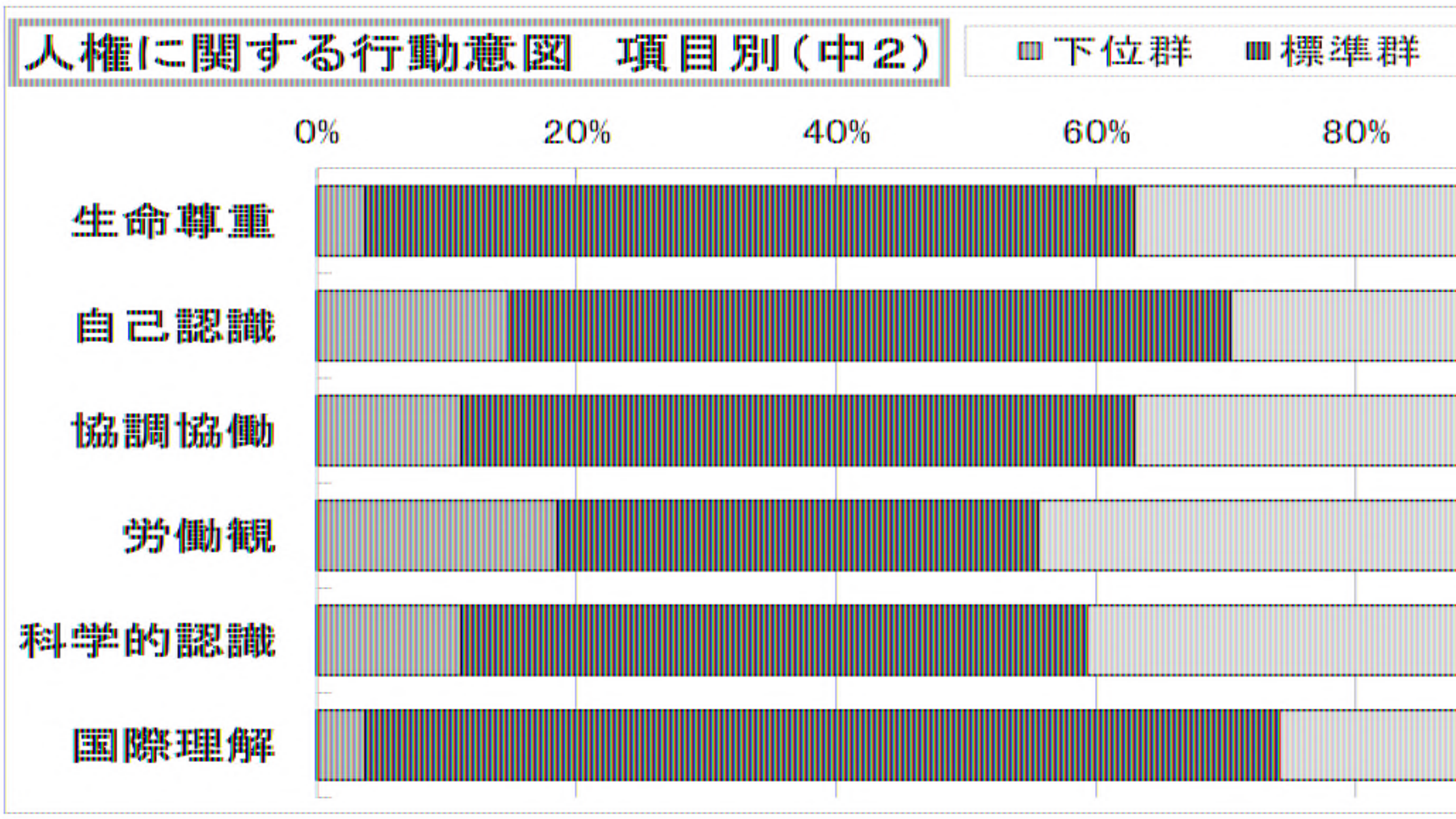
	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準
上位群	51.9	↑	16.5	22.2	↑	18.7	29.6	↑	18.5	51.9	↑	24.3	33.3	↑	21.
標準群	40.7	↓	62.6	74.1	↑	64.5	59.3	↓	61.5	44.4	↓	53.9	55.6	↓	62.
下位群	7.4	↓	20.9	3.7	↓	16.8	11.1	↓	20.0	3.7	↓	21.8	11.1	↓	16.

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	13.0	10.3	11.2	12.1	12.5
上位群	14	6	8	14	9
標準群	11	20	16	12	15
下位群	2	1	3	1	3

学級平均（人権に関する認識）

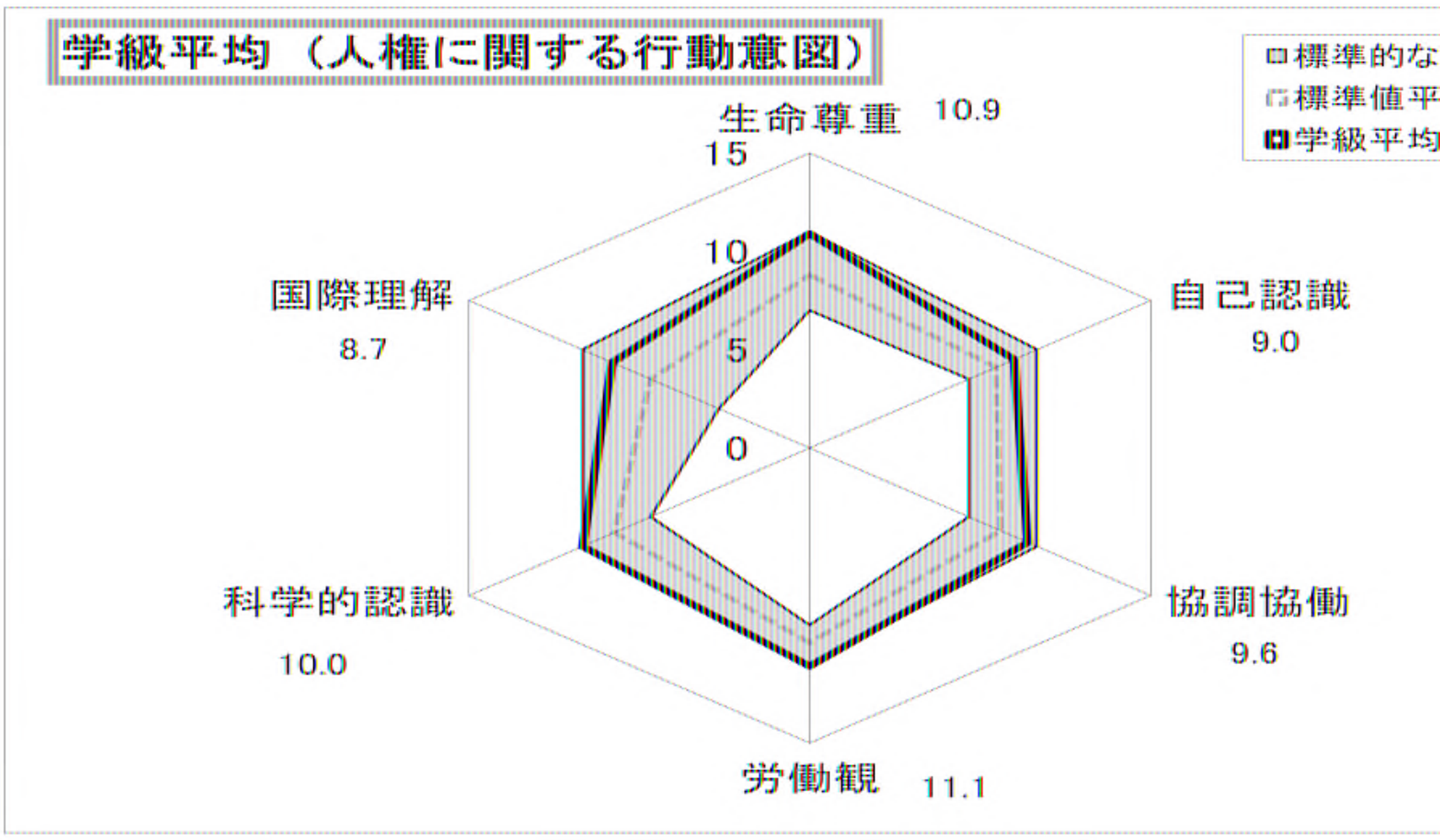


行動意図　　岡垣中学校　　2年　　2組



	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準
上位群	37.0	↑	17.2	29.6	↑	17.9	37.0	↑	21.6	44.4	↑	23.1	40.7	↑	24.
標準群	59.3	↓	63.2	55.6	↓	56.8	51.9	↓	53.8	37.0	↓	52.8	48.1	↓	54.
下位群	3.7	↓	19.6	14.8	↓	25.3	11.1	↓	24.6	18.5	↓	24.1	11.1	↓	21.

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	10.9	9.0	9.6	11.1	10.0
上位群	10	8	10	12	11
標準群	16	15	14	10	13
下位群	1	4	3	5	3



【2 年 2 組】

（1） 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

全体的の学級平均は（標準的な得点の範囲）内である。また 6 領域とも（標準的な得点の
は近くなっているので、＜生命尊重＞＜自己認識＞＜協調協働＞＜労働観＞＜科学的認識＞
識」はやや高い傾向にあると言える。

②帯グラフ

全領域の下位群は 20%以下であるので、（認識）は高い傾向があることが判断できる。＜
識＞＜協調協働＞＜労働観＞＜科学的認識＞の上位群は 20%以上であるので、（認識）が高
できる。＜国際理解＞の上位群は 20%以下なので低い傾向があると判断できる。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（認識）」の特徴の分析

全領域の学級の平均値は高い傾向である。＜国際理解＞＜自己認識＞について見れば、標
り、その影響で上位群及び下位群がそれぞれ少なくなっている。＜生命尊重＞＜労働観＞＜
準的な得点の範囲）の上限値であり、50%以上占めていることでとても高い人権意識傾向か

（2） 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

全体的の学級平均は（標準的な得点の範囲）内であり、全領域で高い傾向にある。＜労働
は（標順的な得点の範囲）の上限値なので高い傾向があると判断できる。＜生命尊重＞＜自
＞＜国際理解＞は（標準的な得点の範囲）の上限に近いので、（行動意図）がやや高いと判

②帯グラフ

全領域の上位群は20%以上であり下位群も20%以下であるので、クラス全体として高い傾
＜国際理解＞は標準群が多い。＜労働観＞は 6 領域の中で上位群が最も多く、下位群でも最

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（行動意図）」の特徴の分析

全領域の人権意識は高い傾向であると判断できる。＜国際理解＞の標準群は多いので対
＜労働観＞の下位群が最も多いので支援する必要がある。

（3）「学級」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

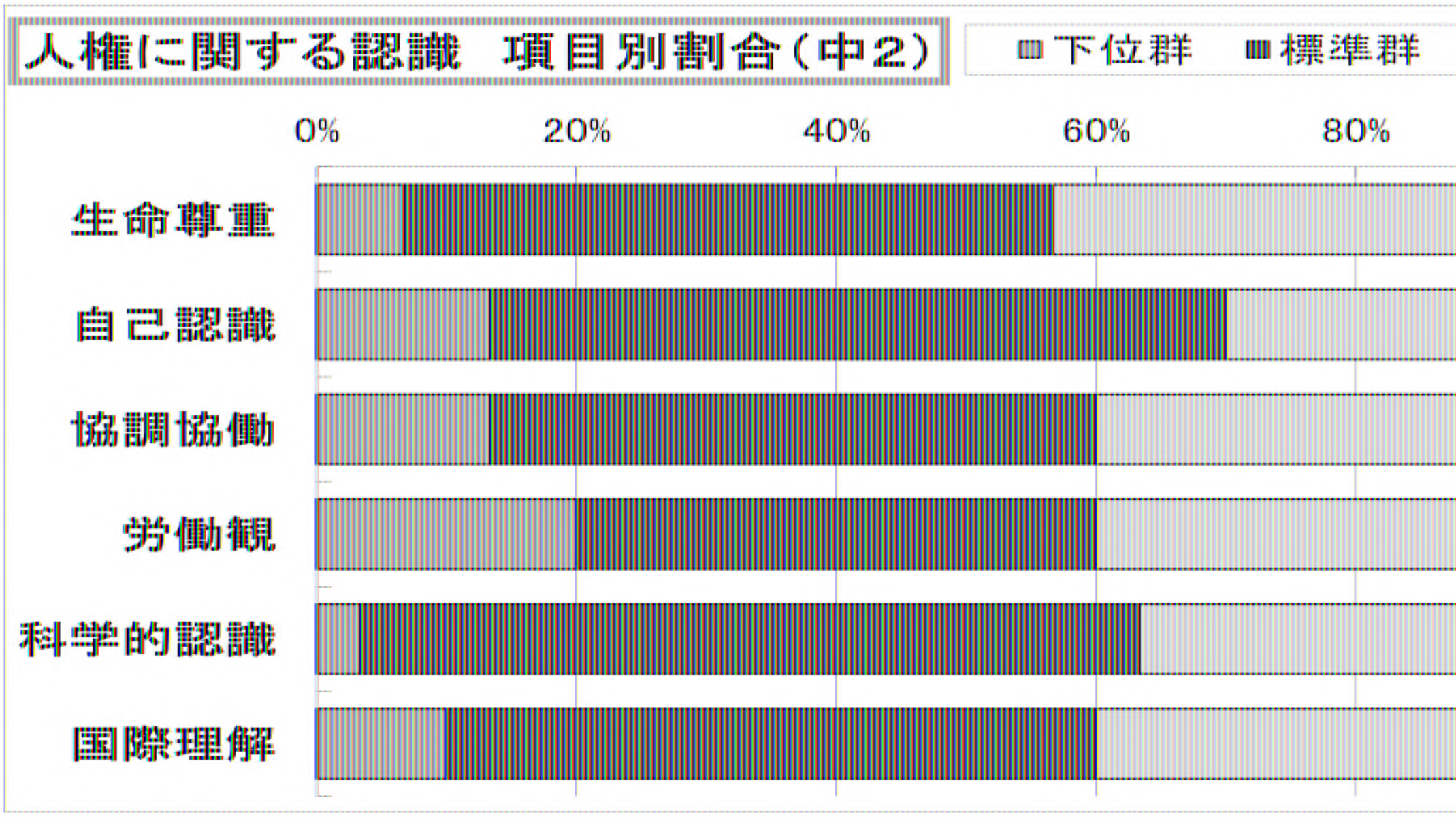
（認識）と（行動意図）は、どちらとも全領域の下位群は 20%以下であり、上位群も 20
らクラス全体として人権に関する（認識）（行動意図）が良好な傾向であると判断できる。
理解＞は、（認識）での下位群は（行動意図）になると減少する傾向にあり、＜労働観＞＜
の（認識）では 50%以上が占めているが（行動意図）では減少している。しかし＜協調協働
学的認識＞＜国際理解＞は、（認識）よりも（行動意図）の方が高い傾向にある。（行動意図）
位群）が減少したことによって＜生命尊重＞（標準群）が増加する傾向がみられた。本クラ
尊重＞を中心とした支援が必要であると考えられる。

（4）「人権意識」改善への提案

２年２組の 6 領域において、「認識」と「行動意図」の＜国際理解＞の標準群が多いこと
が期待される。例えば、過去及び現在の戦争を学び、平和な世界の実現のために必要なこと
て日本の果たすべき役割等について考えさせることが考えられる。そのために社会の授業で
ために必要な資質能力とは何かについて、クラス生徒みんなで討論することなどが有効であ

【認　識】　　岡垣中学校　　2年　　3組

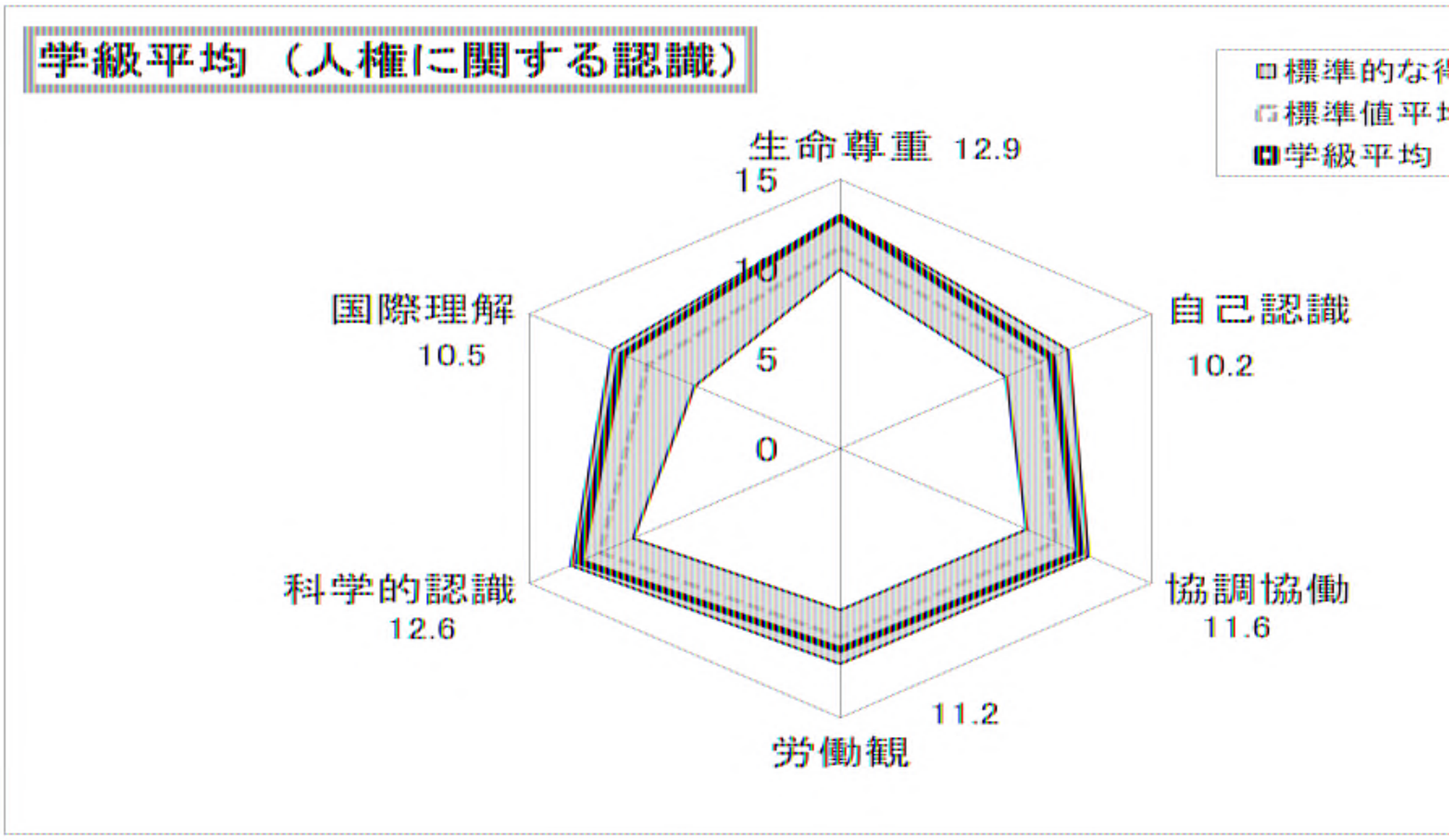
人権に関する認識　項目別割合（中2）



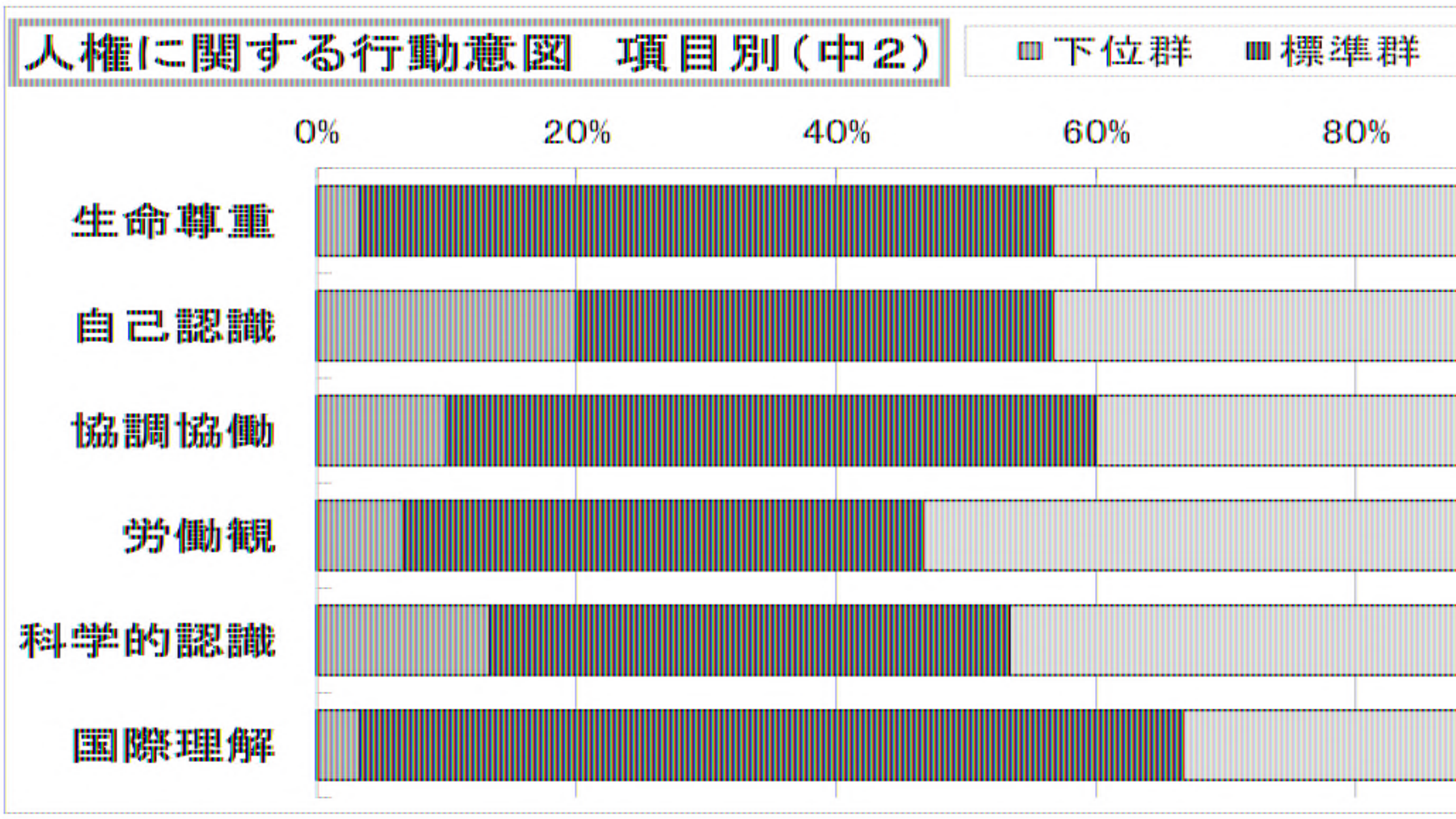
	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準
上位群	43.3	↑	16.5	30.0	↑	18.7	40.0	↑	18.5	40.0	↑	24.3	36.7	↑	21.
標準群	50.0	↓	62.6	56.7	↓	64.5	46.7	↓	61.5	40.0	↓	53.9	60.0	↓	62.
下位群	6.7	↓	20.9	13.3	↓	16.8	13.3	↓	20.0	20.0	↓	21.8	3.3	↓	16.

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	12.9	10.2	11.6	11.2	12.6
上位群	13	9	12	12	11
標準群	15	17	14	12	18
下位群	2	4	4	6	1

学級平均（人権に関する認識）

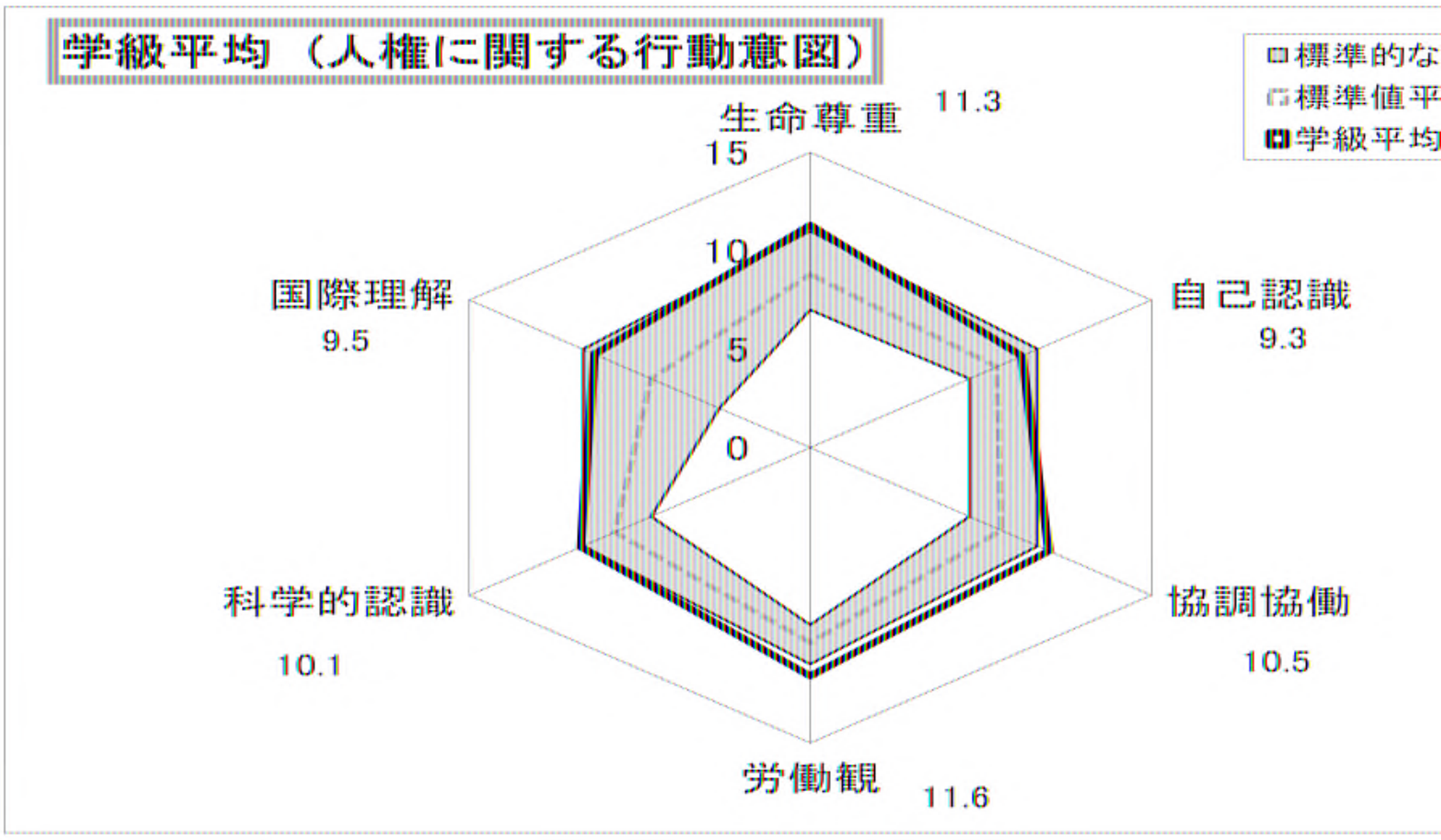


[行動意図]　　岡垣中学校　　2年　　3組



	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準
上位群	43.3	↑	17.2	43.3	↑	17.9	40.0	↑	21.6	53.3	↑	23.1	46.7	↑	24.
標準群	53.3	↓	63.2	36.7	↓	56.8	50.0	↓	53.8	40.0	↓	52.8	40.0	↓	54.
下位群	3.3	↓	19.6	20.0	↓	25.3	10.0	↓	24.6	6.7	↓	24.1	13.3	↓	21.

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	11.3	9.3	10.5	11.6	10.1
上位群	13	13	12	16	14
標準群	16	11	15	12	12
下位群	1	6	3	2	4



【2 年 3 組】

（1） 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

全体的の学級平均は（標準的な得点の範囲）内であり、全領域で高い傾向にある。＜生命
＜科学的認識＞＜協調協働＞は（標準的な得点の範囲）の上限値、又は近いことからやや高
己認識＞＜労働観＞は（標準値平均）に近いことから平均的であると判断できる。

②帯グラフ

全領域の上位群は 35%以上にあることから非常に高い傾向にあると判断できる。下位群
＜労働観＞でありクラス全体の中では他の領域と比較して、低い傾向にあると判断できる。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（認識）」の特徴の分析

全領域の学級の平均値は高い傾向であると判断できる。また全領域の上位群は、30%以上
ら、非常に高い傾向にあると判断できる。＜労働観＞の下位群は約 20%であることから、
低い傾向にあると判断できるので、クラスにおいては、＜労働観＞の下位群を中心とした支
えられる。

（2） 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

全体的の学級平均は（標準的な得点の範囲）内であり、全領域で高い傾向にある。＜協調
学級平均は、（標準的な得点の範囲）の上限値より高くなっており、非常に高い傾向にある
学的認識＞＜自己認識＞＜国際理解＞の学級平均は、（標準的な得点の範囲）の上限値、又
とから、やや高い傾向にあると判断できる。

②帯グラフ

＜国際理解＞の上位群は、35%近くあり、上位群の割合が高い傾向にあるが、そのほかの
位群を占めていることから非常に高い傾向にある。しかし、＜自己認識＞の下位群は、20%
＜自己認識＞の下位群は、（行動意図）において、やや低い傾向にあると判断できる。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（行動意図）」の特徴の分析

全領域の学級の平均値は高い傾向である。＜協調協働＞＜労働観＞の上位群は、標準値平
非常に高い傾向にある。ほかの項目でも上位群は、高い傾向にある。＜労働観＞＜国際理解
命尊重＞の下位群は、10%以下であるのでクラス全体として意識が良好な傾向にあると判断
自己認識＞の下位群は 20%なので支援が必要であると考えられる。

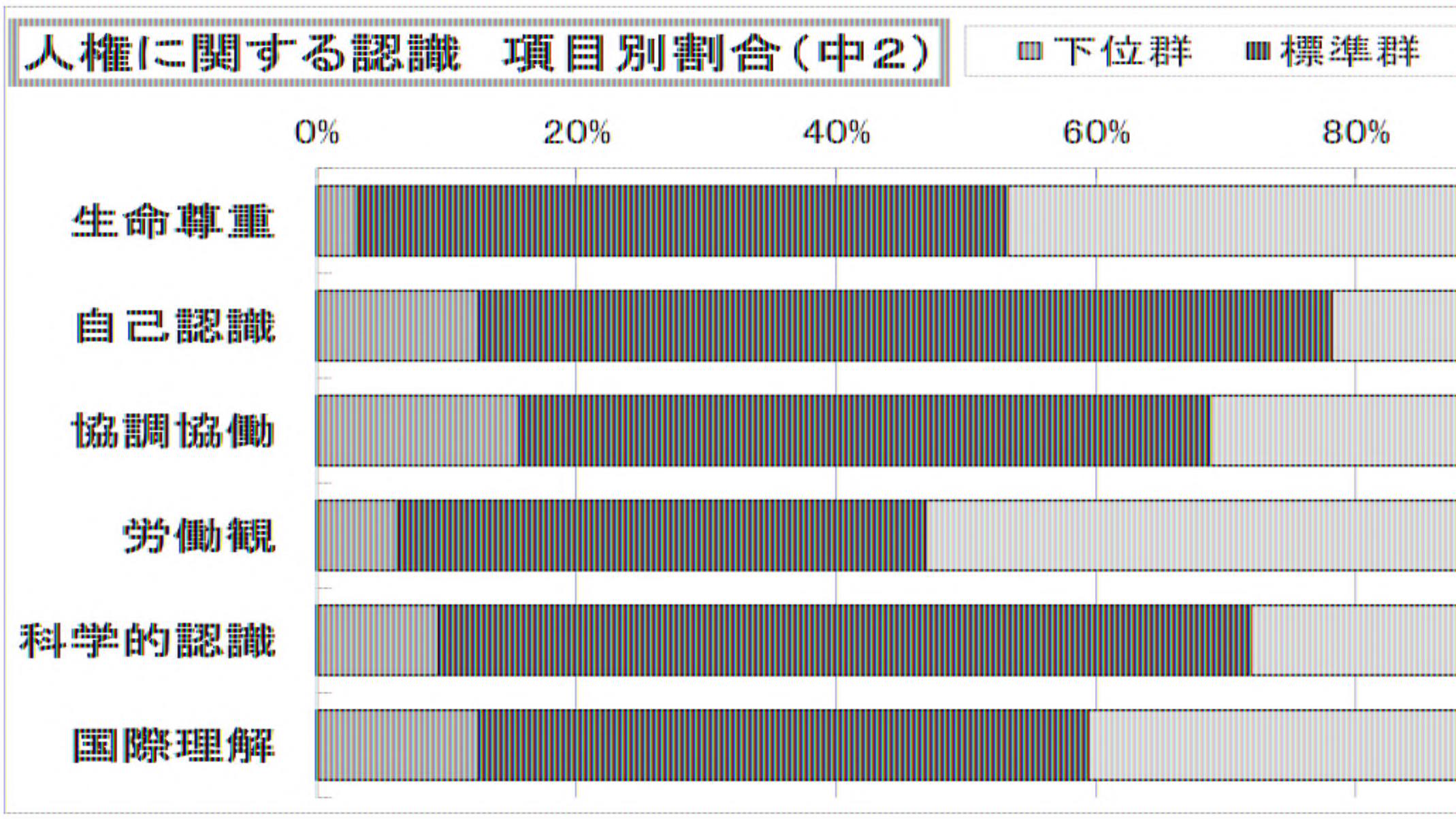
（3）「学級」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

（認識）の上位群が（行動意図）になると増加しているのが＜自己認識＞＜労働観＞＜科
解＞であり、（認識）では 30%であったのが（行動意図）では 10%以上増加していること
（行動意図）の上位群が同じ結果になったのが＜生命尊重＞＜協調協働＞の 2 領域である。
（行動意図）になると増加しているのが＜自己認識＞＜科学的認識＞であり、減少している
労働観＞＜協調協働＞＜国際理解＞である。（認識）と（行動意図）の上位群は、どちらと
識として高い傾向であると判断できるが、本クラスにおける（認識）＜労働観＞と（行動意図
下位群が 20%以上であるのでこの 2 領域を中心とした支援が必要であると考えられる。

（4）「人権意識」改善への提案

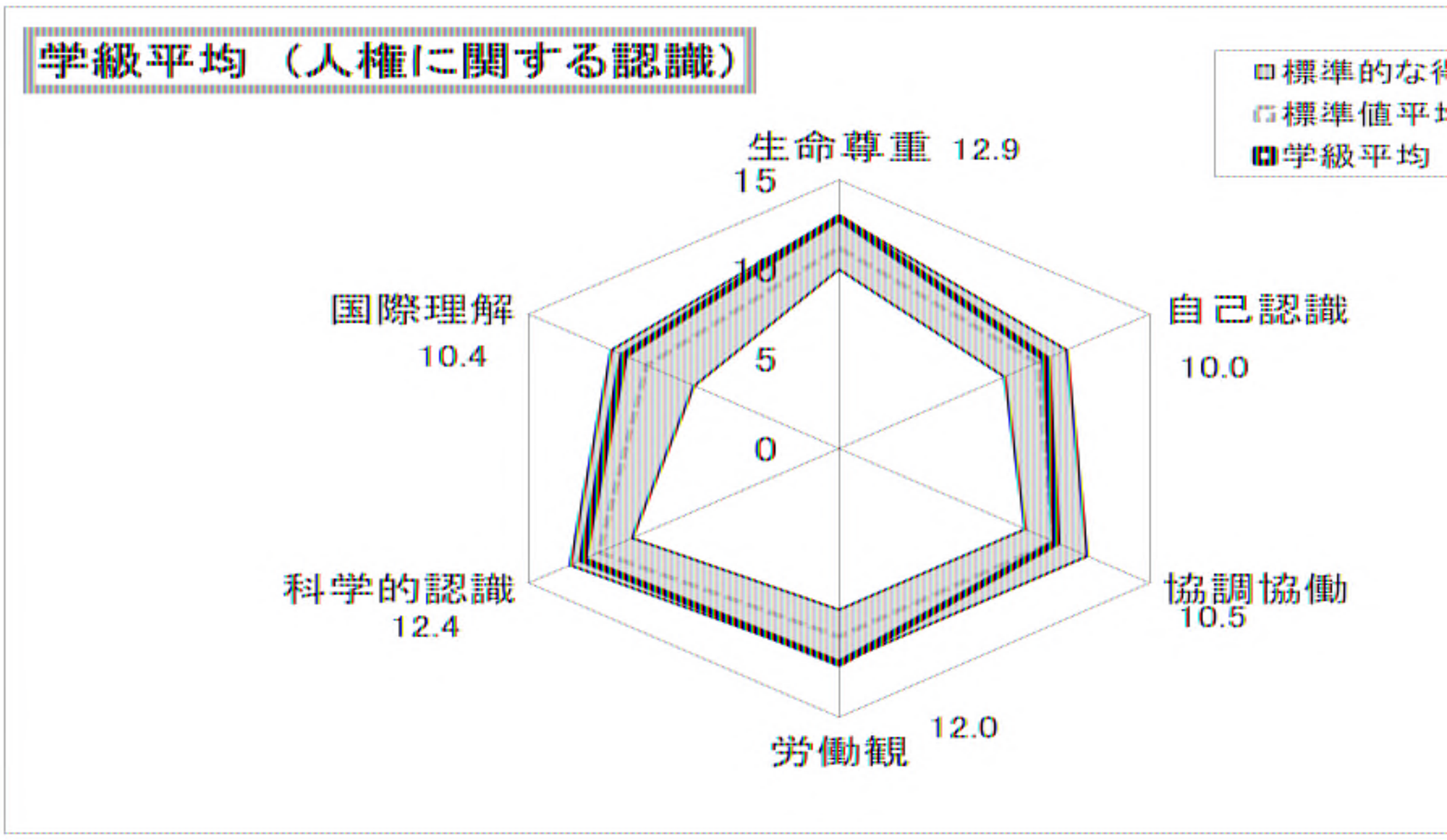
２年３組の（行動意図）の＜労働観＞の上位群は極めて高い傾向にあると判断できる。ク
の領域に関して上位群をさらに増やすために、労働の意義と価値を理解させること、進路選
こと、働く権利と職業の平等などを考えること、具体的には、職場体験といった特別活動な
ことが期待される。

【認　識】　　岡垣中学校　　2年　　4組

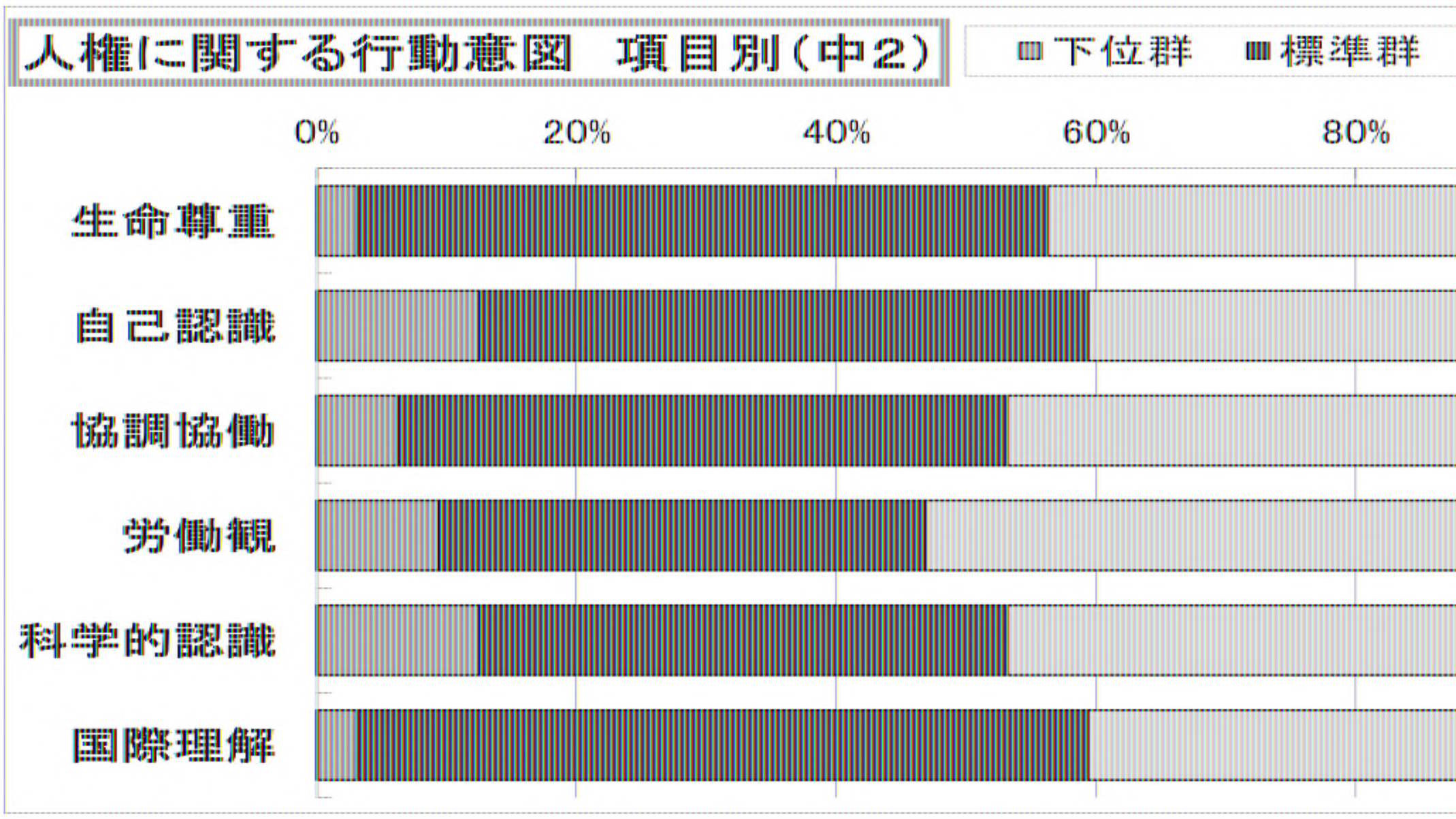


	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準
上位群	46.9	↑	16.5	21.9	↑	18.7	31.3	↑	18.5	53.1	↑	24.3	28.1	↑	21.
標準群	50.0	↓	62.6	65.6	↑	64.5	53.1	↓	61.5	40.6	↓	53.9	62.5		62.
下位群	3.1	↓	20.9	12.5	↓	16.8	15.6	↓	20.0	6.3	↓	21.8	9.4	↓	16.

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	12.9	10.0	10.5	12.0	12.4
上位群	15	7	10	17	9
標準群	16	21	17	13	20
下位群	1	4	5	2	3

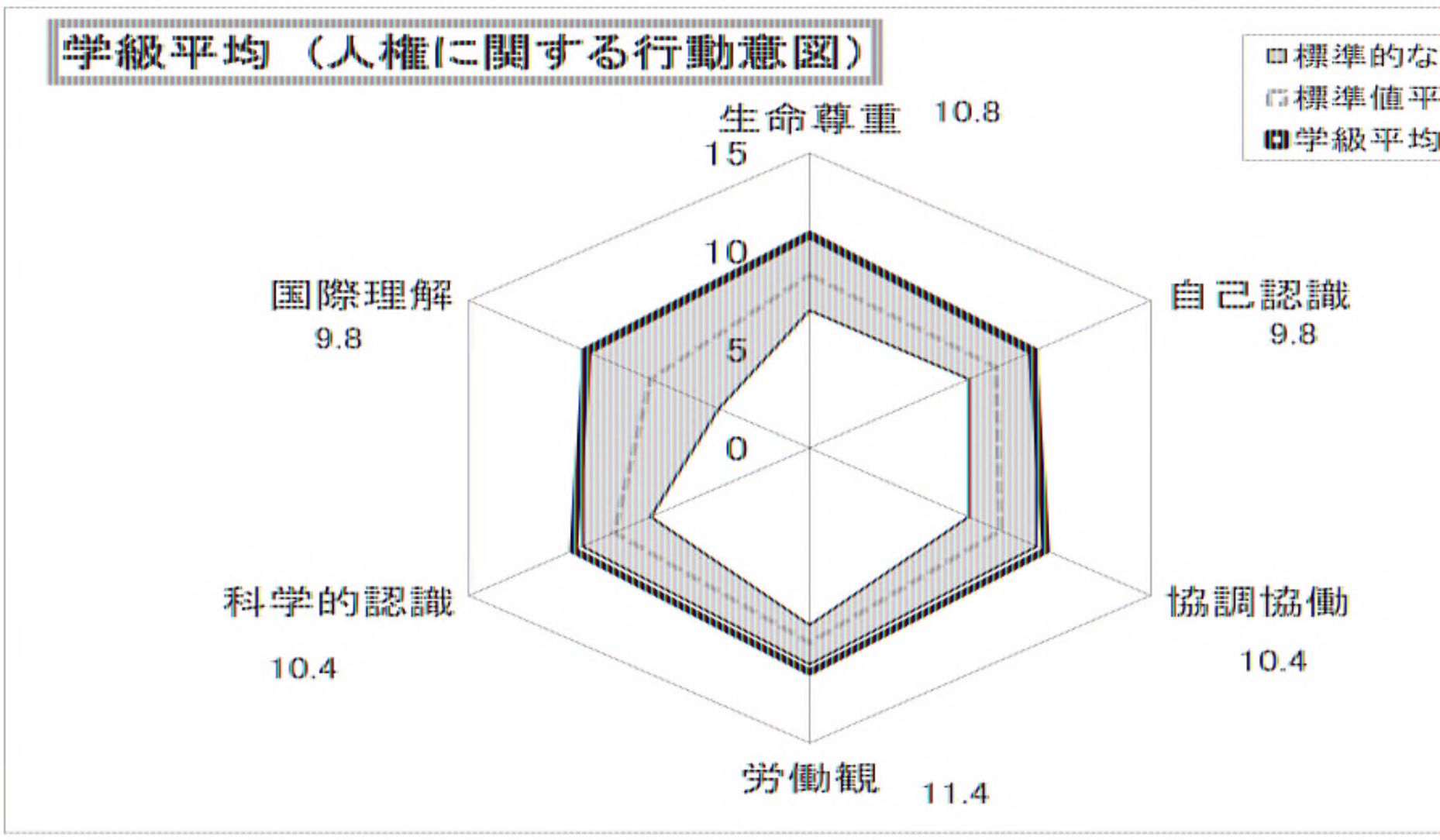


[行動意図]　　岡垣中学校　　2年　　4組



	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準
上位群	43.8	↑	17.2	40.6	↑	17.9	46.9	↑	21.6	53.1	↑	23.1	46.9	↑	24.
標準群	53.1	↓	63.2	46.9	↓	56.8	46.9	↓	53.8	37.5	↓	52.8	40.6	↓	54.
下位群	3.1	↓	19.6	12.5	↓	25.3	6.3	↓	24.6	9.4	↓	24.1	12.5	↓	21.

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	10.8	9.8	10.4	11.4	10.4
上位群	14	13	15	17	15
標準群	17	15	15	12	13
下位群	1	4	2	3	4



【2 年 4 組】

（1） 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

全体的の学級平均は（標準的な得点の範囲）内であり、全領域で高い傾向にある。＜生命
国際理解＞＜科学的認識＞は、（標準的な得点の範囲）の上限値、又は近いことから意識が
断できる。＜自己認識＞＜協調協働＞の学級平均は標準値平均に近いので平均的である。

②帯グラフ

＜生命尊重＞＜労働観＞＜国際理解＞の上位群は 40%以上であることから非常に高い意
できる。＜自己認識＞＜協調協働＞＜科学的認識＞は、20%～30%の間であることから高い
の下位群は 20%以下なので良好な傾向にあると判断できる。＜自己認識＞の標準群は最も多

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（認識）」の特徴の分析

全領域の学級の平均値は高い傾向であると判断できる。＜生命尊重＞＜労働観＞の上位群
いることから非常に高い意識傾向にある。また他の領域の上位群は 20%以上占めていること
高い傾向にあると判断できる。全領域の下位群は 20%以下なので全体として良好な傾向であ
労働観＞＜科学的認識＞は 10%以下なので特に良い傾向にあるが、＜自己認識＞＜協調協働
位群を中心とした支援は改善の余地がある。

（2） 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

全体的の学級平均は（標準的な得点の範囲）内であり、全領域で高い傾向にある。＜自己
＜労働観＞の学級平均は、（標準的な得点の範囲）の上限値、又は超えることから、非常に
生命尊重＞＜国際理解＞の学級平均は上限値に近いので、やや高い傾向にあると判断できる

②帯グラフ

全領域の上位群は 40%以上超えていることから、非常に高い傾向にある。その中でも＜
めているので最も高いことがわかる。＜生命尊重＞＜労働観＞＜協調協働＞＜国際理解＞の
であるのでクラス全体として意識が非常に高い。＜自己認識＞＜科学的認識＞の下位群は約
から、この２領域についてもクラス全体の意識が高い傾向にあると判断できる。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（行動意図）」の特徴の分析

全領域の学級平均値は高い傾向である。全領域の上位群は、レーダーチャートで上限値、
グラフで 40%以上であることから、非常に高い意識傾向にあると判断できる。また下位群
で意識が高い傾向にあると判断できる。

（3）「学級」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

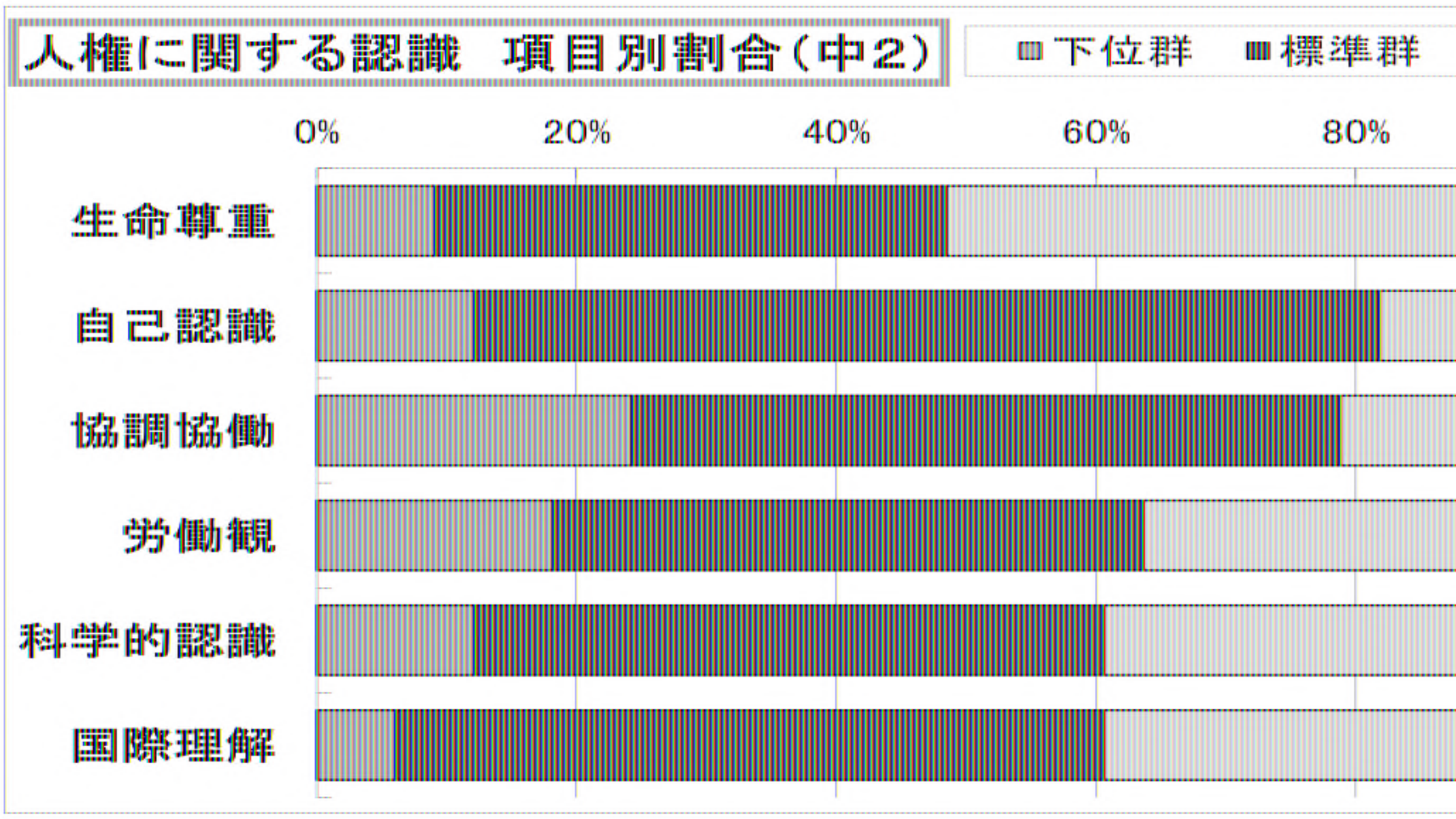
＜自己認識＞＜協調協働＞＜科学的認識＞の上位群は（認識）が（行動意図）になると 20
いることがわかる。また＜労働観＞＜国際理解＞の（認識）と（行動意図）の上位群は同じ
命尊重＞の上位群は、（行動意図）より（認識）の方が高い傾向にある。（行動意図）の上位
以上であるが（認識）の＜自己認識＞＜協調協働＞＜科学的認識＞は 40%を越えず 20%～3
（認識）が（行動意図）によりつながるような学びが必要であると考えられる。（認識）と
群は全項目 15%以下であるので意識傾向として良好な傾向にあると判断できる。改善点とし
（認識）の＜自己認識＞＜協調協働＞＜科学的認識＞を中心とした支援があげられる。

（4）「人権意識」改善への提案

２年４組の「認識」の＜自己認識＞は、上位群が少ない傾向があることが課題であろう。
に将来への展望（自信）を持って進路を切り開いていこうとする態度を育てるために、クラ
士がお互いの長所を見つけあうような特別活動を実践することで自己評価の「認識」が向上

【認　識】　　岡垣中学校　　2年　　5組

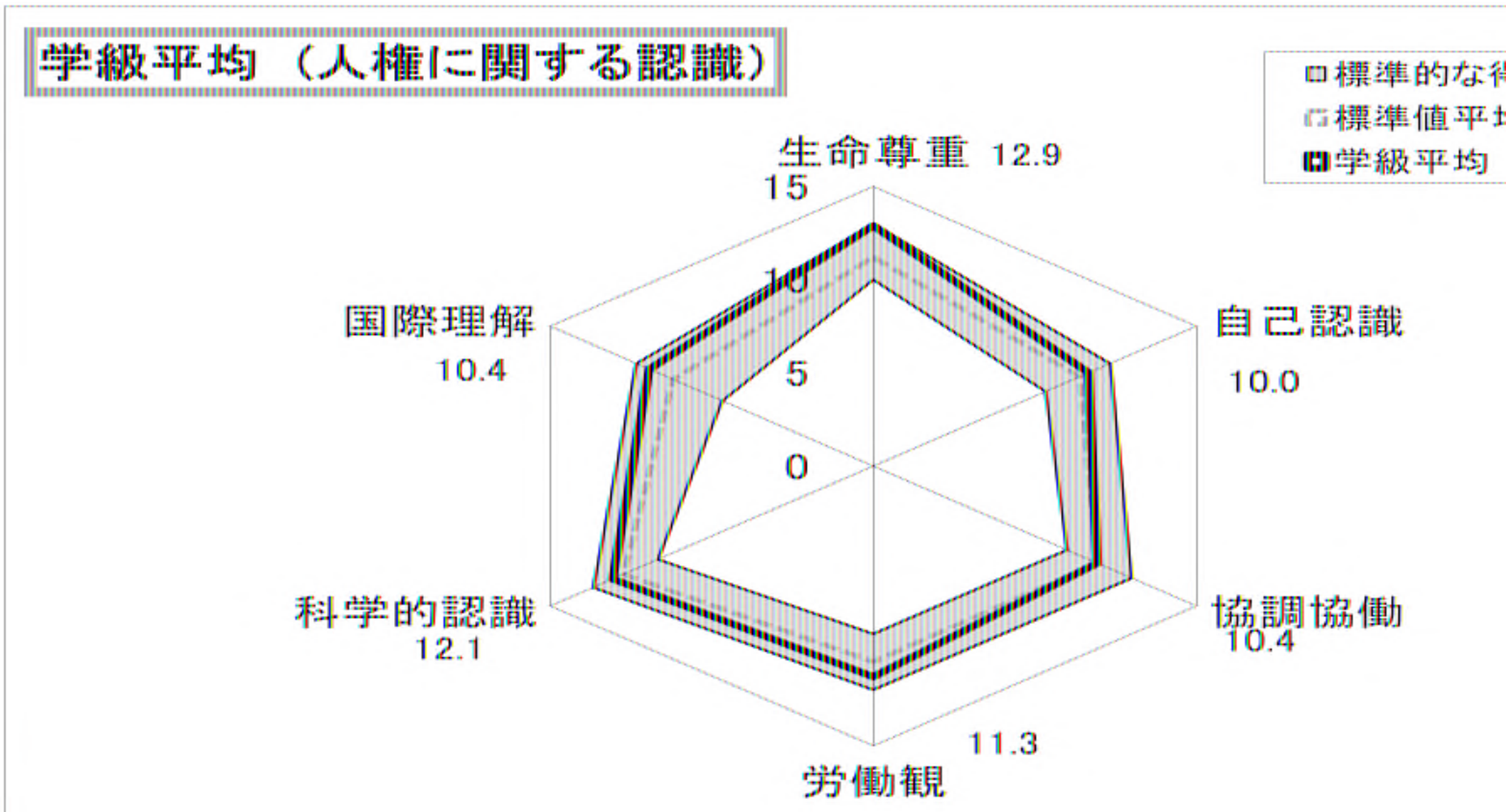
人権に関する認識　項目別割合（中2）



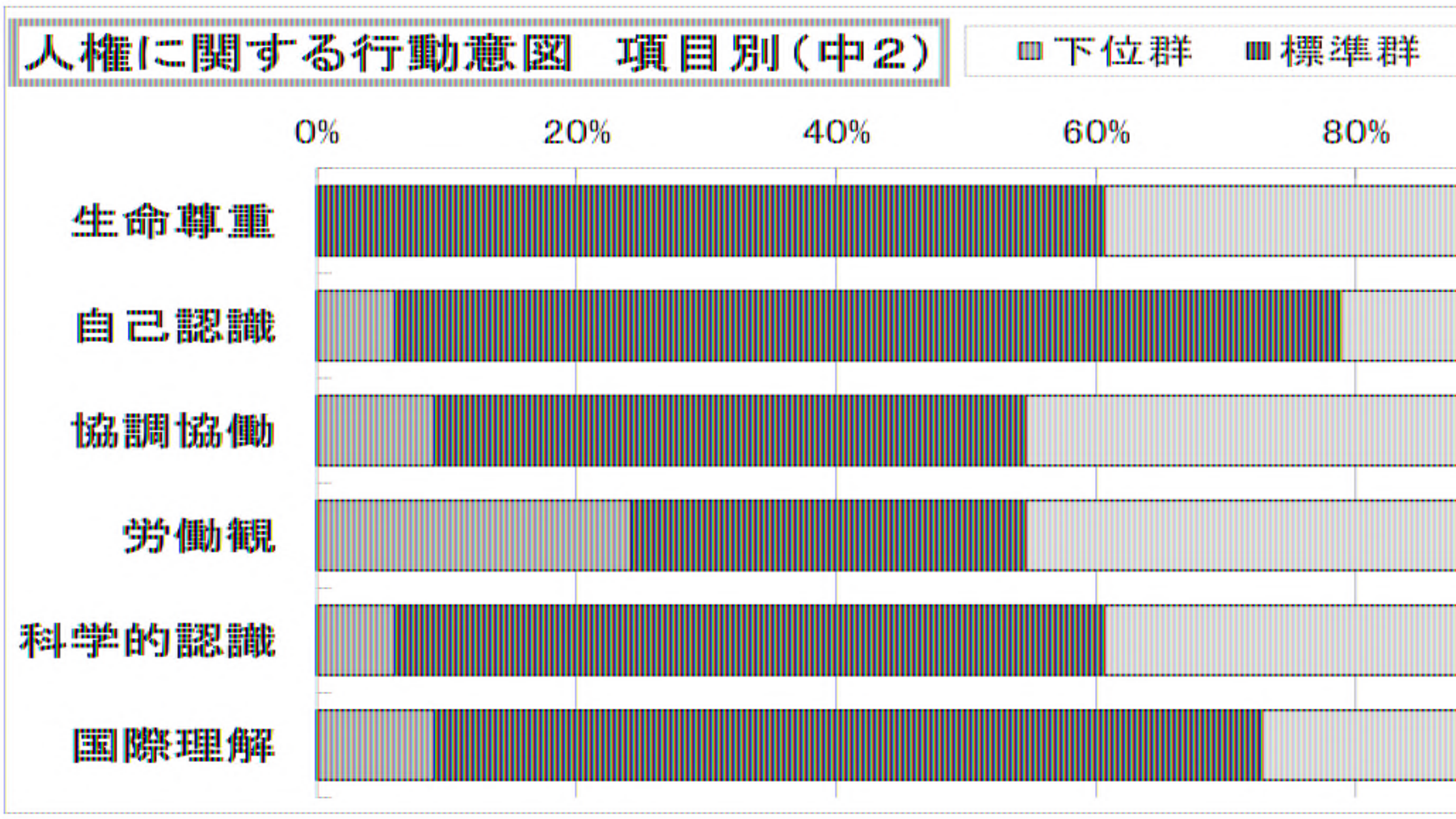
	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準
上位群	51.5	↑	16.5	18.2		18.7	21.2	↑	18.5	36.4	↑	24.3	39.4	↑	21.
標準群	39.4	↓	62.6	69.7	↑	64.5	54.5	↓	61.5	45.5	↓	53.9	48.5	↓	62.
下位群	9.1	↓	20.9	12.1	↓	16.8	24.2	↑	20.0	18.2	↓	21.8	12.1	↓	16.

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	12.9	10.0	10.4	11.3	12.1
上位群	17	6	7	12	13
標準群	13	23	18	15	16
下位群	3	4	8	6	4

学級平均（人権に関する認識）

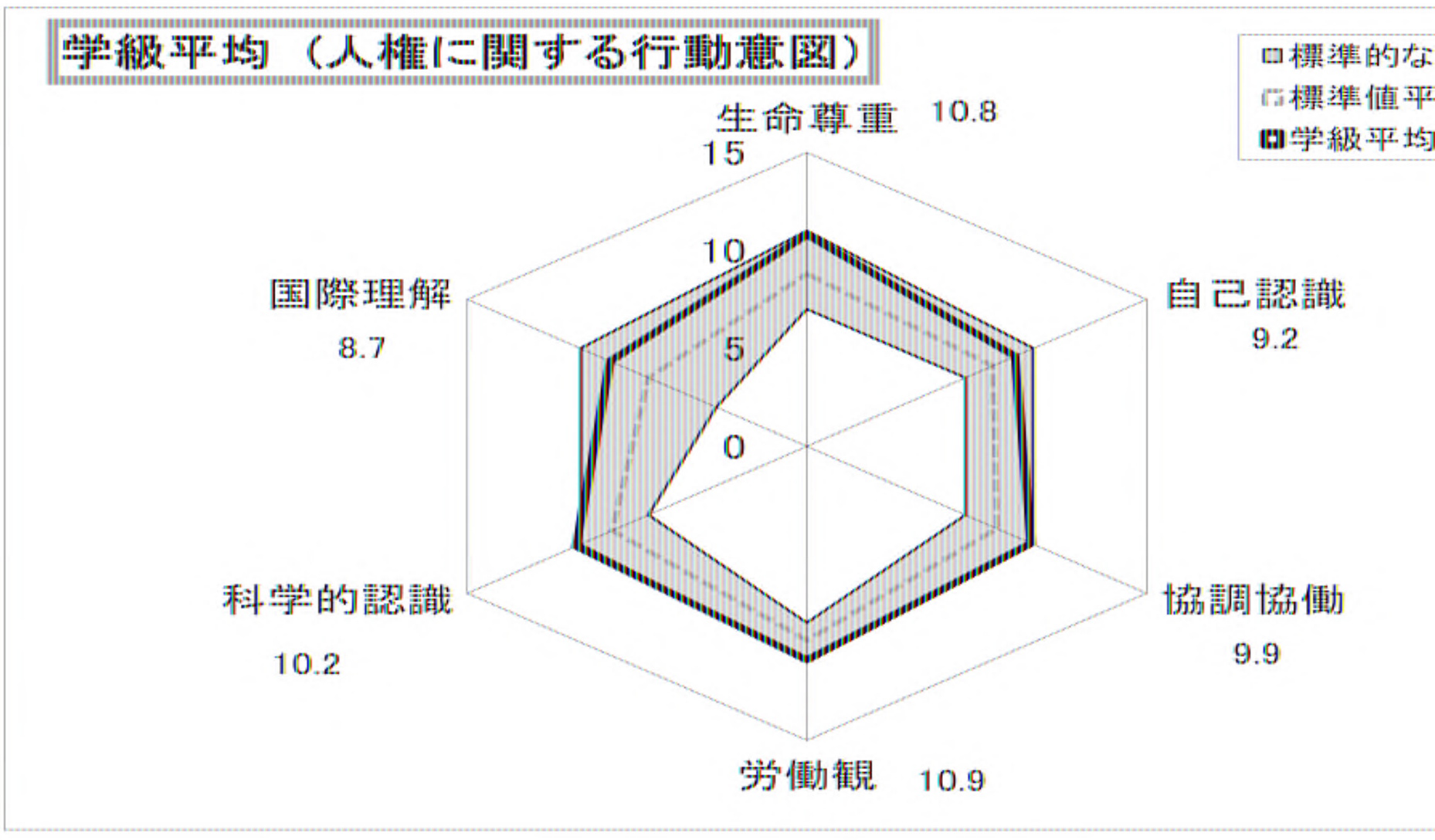


[行動意図]　　岡垣中学校　　2年　　5組



	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準
上位群	39.4	↑	17.2	21.2	↑	17.9	45.5	↑	21.6	45.5	↑	23.1	39.4	↑	24.
標準群	60.6	↓	63.2	72.7	↑	56.8	45.5	↓	53.8	30.3	↓	52.8	54.5		54.
下位群	0.0	↓	19.6	6.1	↓	25.3	9.1	↓	24.6	24.2		24.1	6.1	↓	21.

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	10.8	9.2	9.9	10.9	10.2
上位群	13	7	15	15	13
標準群	20	24	15	10	18
下位群	0	2	3	8	2



【2 年 5 組】

（1） 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

全体的の学級平均は（標準的な得点の範囲）内であり、全領域で高い傾向にある。＜生命
＜労働観＞は（標準的な得点の範囲）の上限値に近いのでやや高い傾向にあると判断できる
自己認識＞＜協調協働＞は、（標準値平近）に近いことから平均的だと判断できる。

②帯グラフ

＜生命尊重＞＜国際理解＞＜科学的認識＞＜労働観＞について、上位群は 35%以上である
意識傾向にあると判断できる。＜協調協働＞は 20%であることからやや高い傾向にあると判
識＞は 20%以下であることからやや意識が低い傾向にある。＜協調協働＞の下位群は 20%
意識が低い傾向にある。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（認識）」の特徴の分析

全領域の学級平均値は高い傾向であると判断できる。＜生命尊重＞＜国際理解＞＜科学的
上位群は 35%以上であることから非常に高い傾向にあると判断できる。＜自己認識＞の上
でクラス全体としてやや低い意識傾向にあると判断できる。ただし＜自己認識＞の標準群の
る。＜協調協働＞の下位群は 20%以上であるので意識が低い傾向にある。＜協調協働＞の下
援が必要である

（2） 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

全体的の学級平均は（標準的な得点の範囲）内であり、全領域で高い傾向にあると判断で
＜科学的認識＞＜労働観＞＜協調協働＞の学級平均は、上限値に近いことから高い傾向にあ
国際理解＞の学級平均は、平均的な傾向にあると判断できる。

②帯グラフ

全領域の上位群は 20%以上であることから、高い傾向にあると判断できる。また＜生命尊
科学的認識＞＜労働観＞は 40%以上であるから非常に高い傾向にあると判断できる。＜生
0%であることから特に低い傾向にあると判断できる。＜労働観＞の下位群は 20%以上であ
向がみられる。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（行動意図）」の特徴の分析

全領域の学級平均値は高い傾向であると判断できる。＜生命尊重＞＜協調協働＞＜科学的
上位群は 40%以上であることから非常に高い意識傾向にあると判断できる。また＜自己認識
～30%であるので意識が高い傾向にある。また＜労働観＞については、下位群が 20%以上で
である。

（3）「学級」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

（認識）の上位群が（行動意図）では低くなる傾向があるのが＜生命尊重＞＜国際理解＞
に（行動意図）の上位群が（認識）より高くなる傾向があるのが、＜自己認識＞＜協調協働
目である。また＜科学的認識＞は（認識）と（行動意図）の上位群の変化が見られないこと
は（認識）の＜協調協働＞と（行動意図）の＜労働観＞が 20%以上であるので、クラス全体
向も見受けられる。（認識）の＜協調協働＞と（行動意図）の＜労働観＞の下位群を中心と
る。

（4）「人権意識」改善への提案

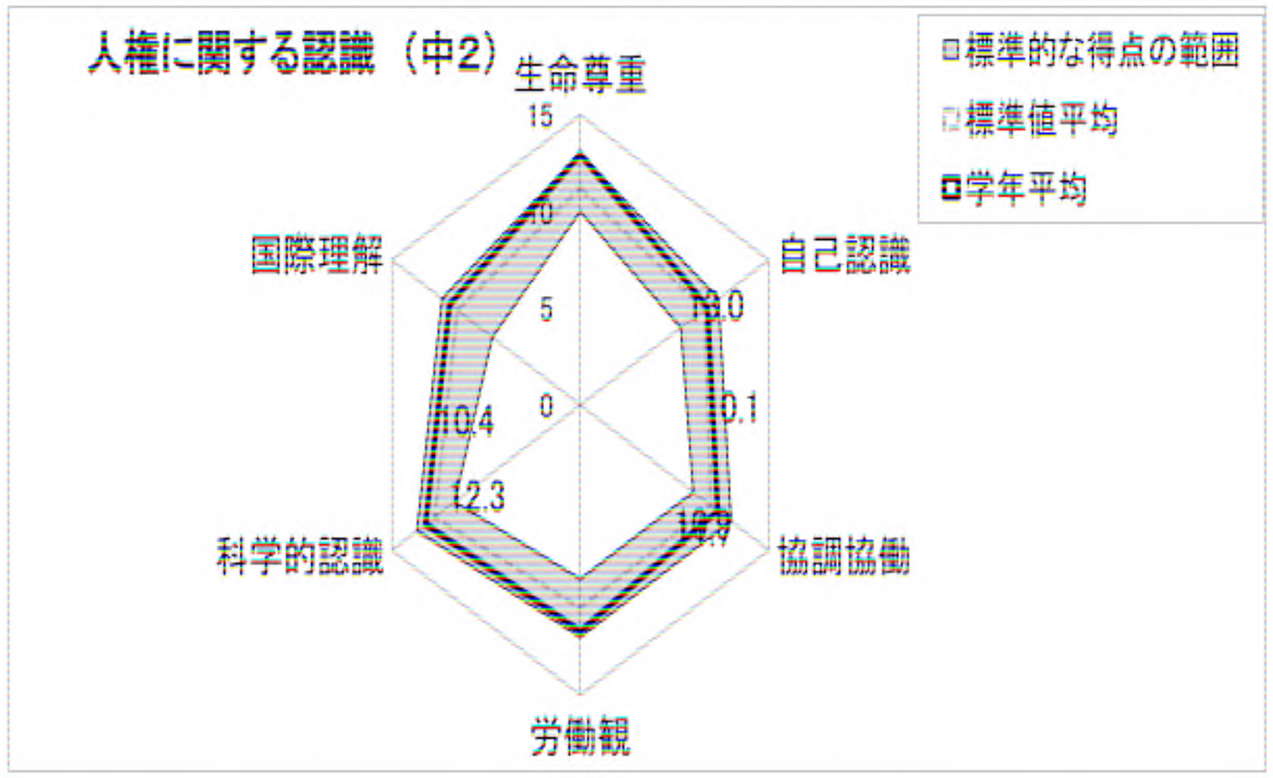
２年５組の「認識」の＜協調協働＞は下位群が多い傾向にある。人間関係を調整しよりよ
とする態度や、お互いの人権を尊重健全な異性観を育てるために、例えば、体育の授業の集
ションなどを活用して仲間と協力する態度を育てるような試みが望まれる。

［岡垣中学校　第２学年］

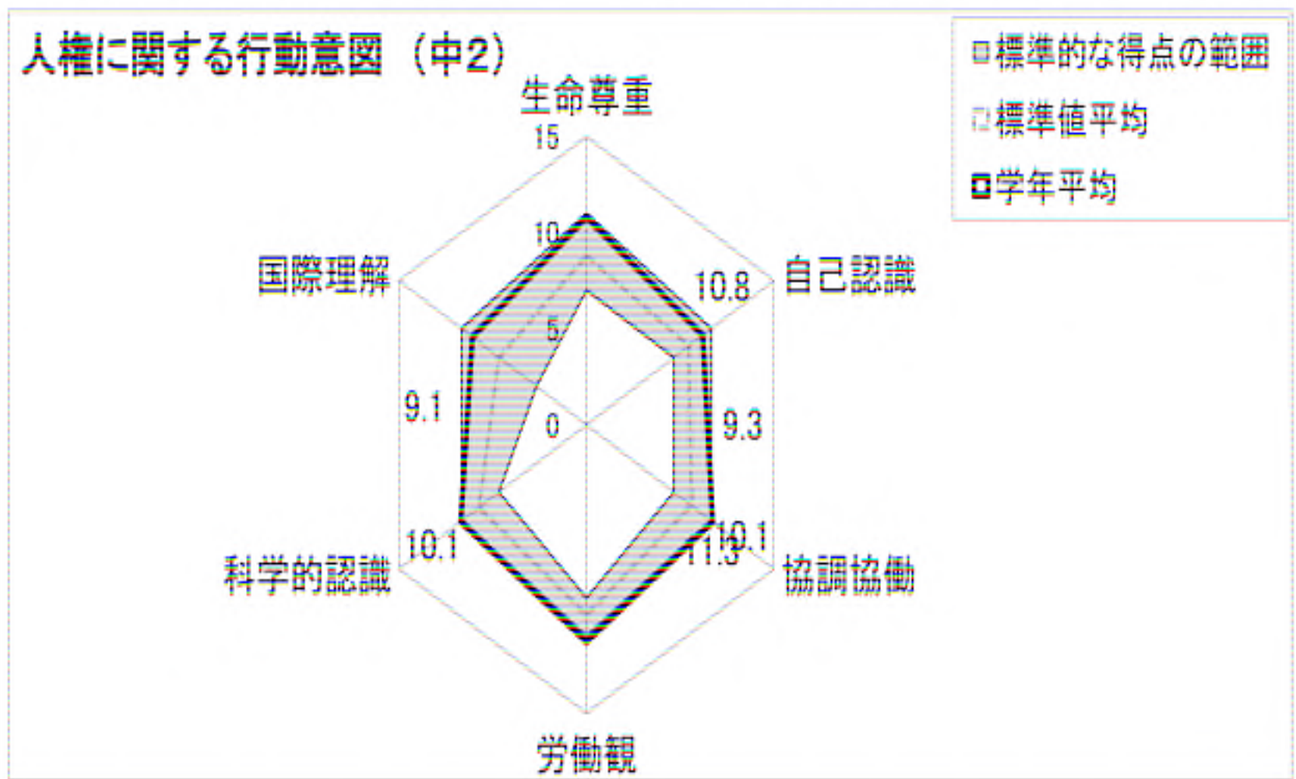
認　識

（中2）
学校名
岡垣中

人権に関する認識	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識	国際理解
学年平均	13.0	10.1	10.9	11.7	12.3	10.4
標準値平均	11.2	9.9	10.4	10.5	11.6	9.8
標準的な得点の範囲	13	11	12	12	13	11
下位群値	10	8	9	9	10	7

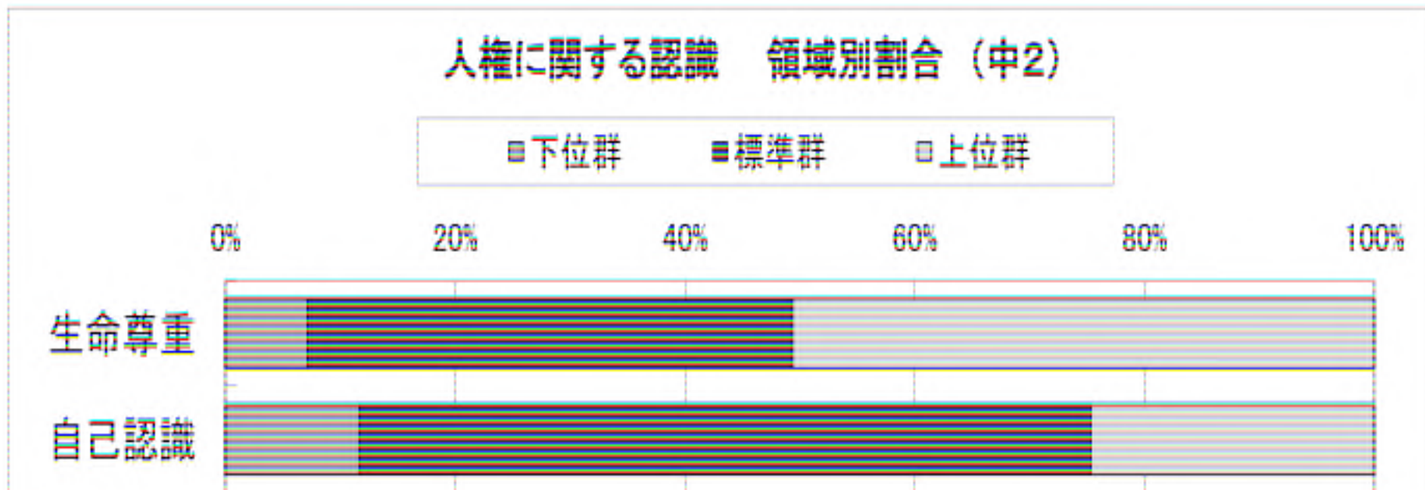


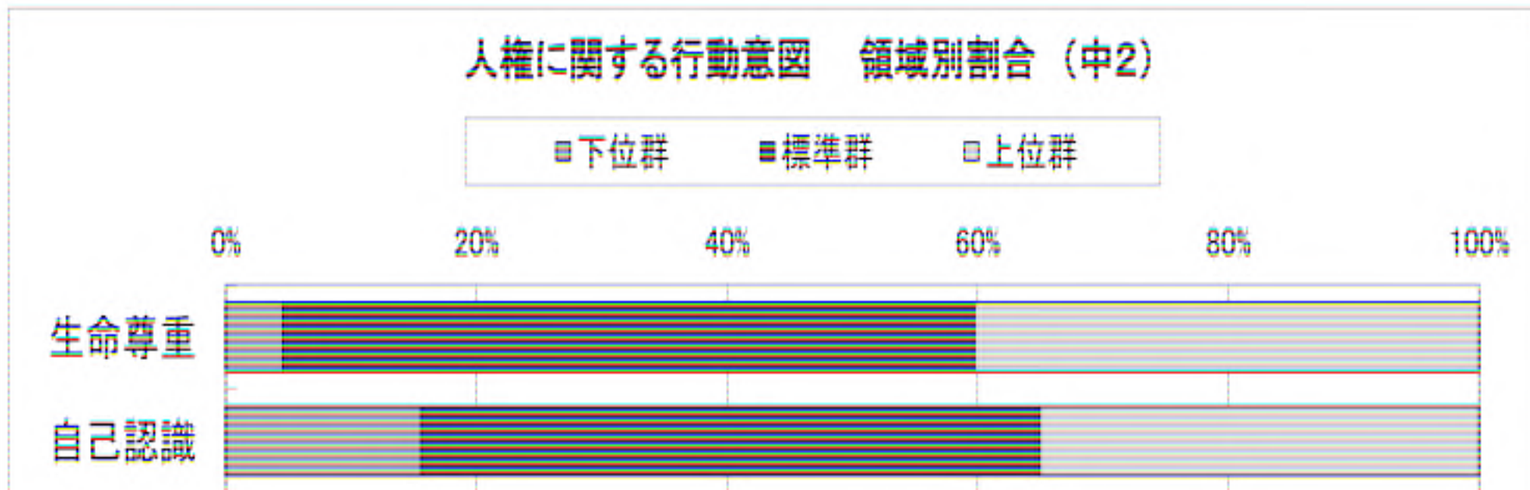
人権に関する行動意図	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識	国際理解
学年平均	10.8	9.3	10.1	11.3	10.1	9.1
標準値平均	8.8	8.2	8.4	9.9	8.6	7.0
標準的な得点の範囲	11	10	10	11	10	10
下位群値	7	7	7	9	7	4



中2(認識)	国際理解	科学的認識	労働観	協調協働	自己認識	生命尊重
上位群	56	56	73	45	38	78
標準群	83	79	60	84	98	65
下位群	15	19	21	25	18	11

中2(行動意図)	国際理解	科学的認識	労働観	協調協働	自己認識	生命尊重
上位群	50	61	76	66	54	62
標準群	97	75	56	73	76	85
下位群	7	18	22	15	24	7





【学年に関する分析】

（1） 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

全体的の学年平均は（標準的な得点の範囲）内であり、全領域で高い傾向にある。＜生命尊
（標準的な得点の範囲）の上限値であり非常に高い傾向にある。＜国際理解＞＜科学的認識
調協働＞の学年平均は（標準的な得点の範囲）の上限値に近いことから（認識）はやや高い傾
る。

②帯グラフ

全領域の上位群は20％以上であるので、人権意識全般に高い傾向にあると判断できる。ま
国際理解＞＜労働観＞＜生命尊重＞は40％以上であることから非常に高い傾向にあると判断
位群は20％以下であるので良好な意識傾向にある。＜自己認識＞＜協調協働＞は、標準群か

③レーダーチャートと帯グラフからわかる『学級（認識）」の特徴の分析

全領域の学級平均値は高い傾向であると判断できる。＜生命尊重＞＜労働観＞の上位群は
から非常に高い傾向にある。＜協調協働＞＜自己認識＞の上位群は20％～30％であり高い傾
下位群は 20％以下であることから意識は高い傾向にある。＜協調協働＞は 20％以下である
多いので支援が望まれる。

（2） 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

全体的の学年平均は（標準的な得点の範囲）内であり、全領域で高い傾向にある。また＜
働＞＜科学的認識＞＜労働観＞は上限値であることから高い傾向にあると判断できる。＜国
＞は上限値に近いことからやや高い傾向にあると判断できる。

②帯グラフ

上位群の＜生命尊重＞＜協働＞＜科学的認識＞＜労働観＞は 40％以上であるので非常に
断できる。他の＜自己認識＞＜国際理解＞は30％～40％であることから高い傾向にあると判
20％以下なので低い傾向低い傾向にあると判断できる。ただし、＜自己認識＞＜労働観＞に
10％～20％であるので、この２項目を中心とした支援が望まれる。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる『学年（行動意図）」の特徴の分析

全領域の学級平均値は高い傾向である。その中でも＜生命尊重＞＜協調協働＞＜科学的認
位群は、非常に高い傾向にあると判断できる。下位群は、＜自己認識＞＜労働観＞が20％以
に比べて数値やや意識の低い傾向にある。

（3）「学年」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

（認識）の上位群が（行動意図）になると増加する傾向にある領域は＜科学的認識＞＜労
＜自己認識＞である。＜国際理解＞＜協調協働＞の（認識）の下位群は、（行動意図）にな
ある。＜国際理解＞＜科学的認識＞＜労働観＞＜協調協働＞＜生命尊重＞の下位群を中心と

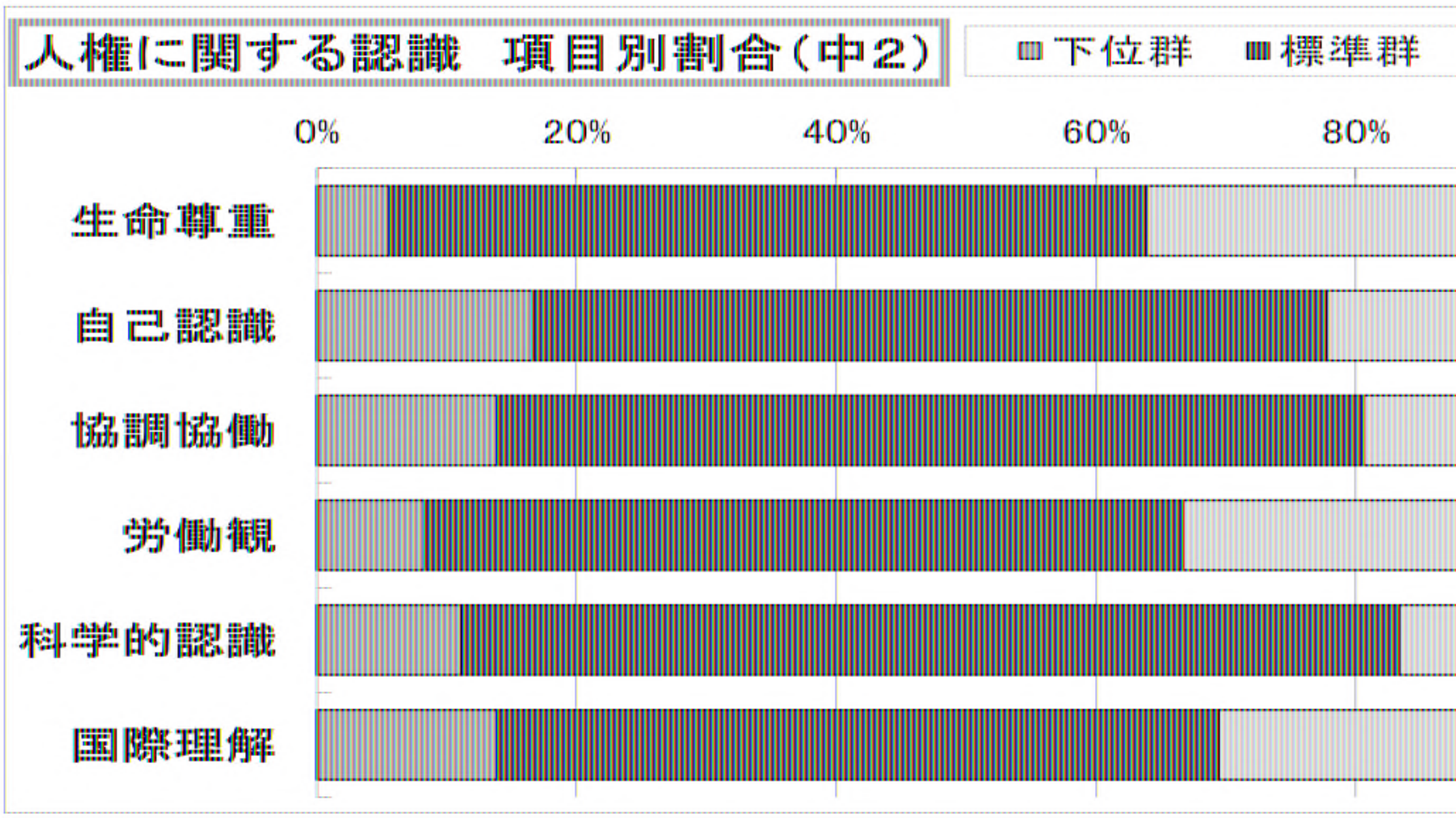
（4）「人権意識」改善への提案

学年の（認識）と（行動意図）の＜生命尊重＞の上位群が高い傾向にあることが特徴的で
群を引き上げるためには、生命の連鎖や環境破壊について理解を深め環境保全に主体的にか
を育てることが必要である。例えば、道徳の授業において人間尊重の精神と生命に対する畏
こと、豊かな心を持ち個性豊かな人格形成のための情操教育の充実、教科を横断した平和を
業などが考えられる。

岡垣東中学校

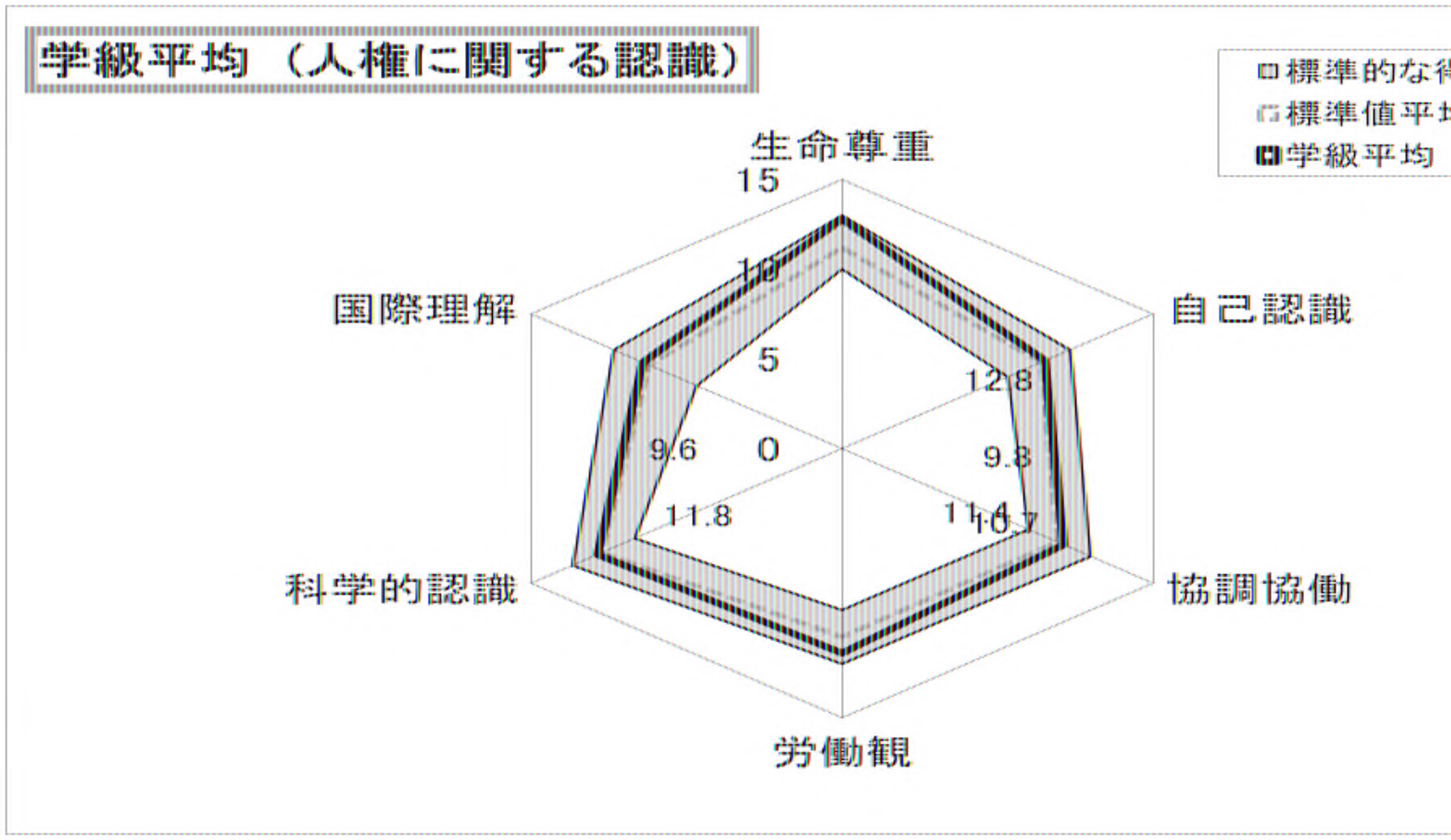
（石原航樹／川上滝盛）

【認　識】　　岡垣東中学校　　2年　1組

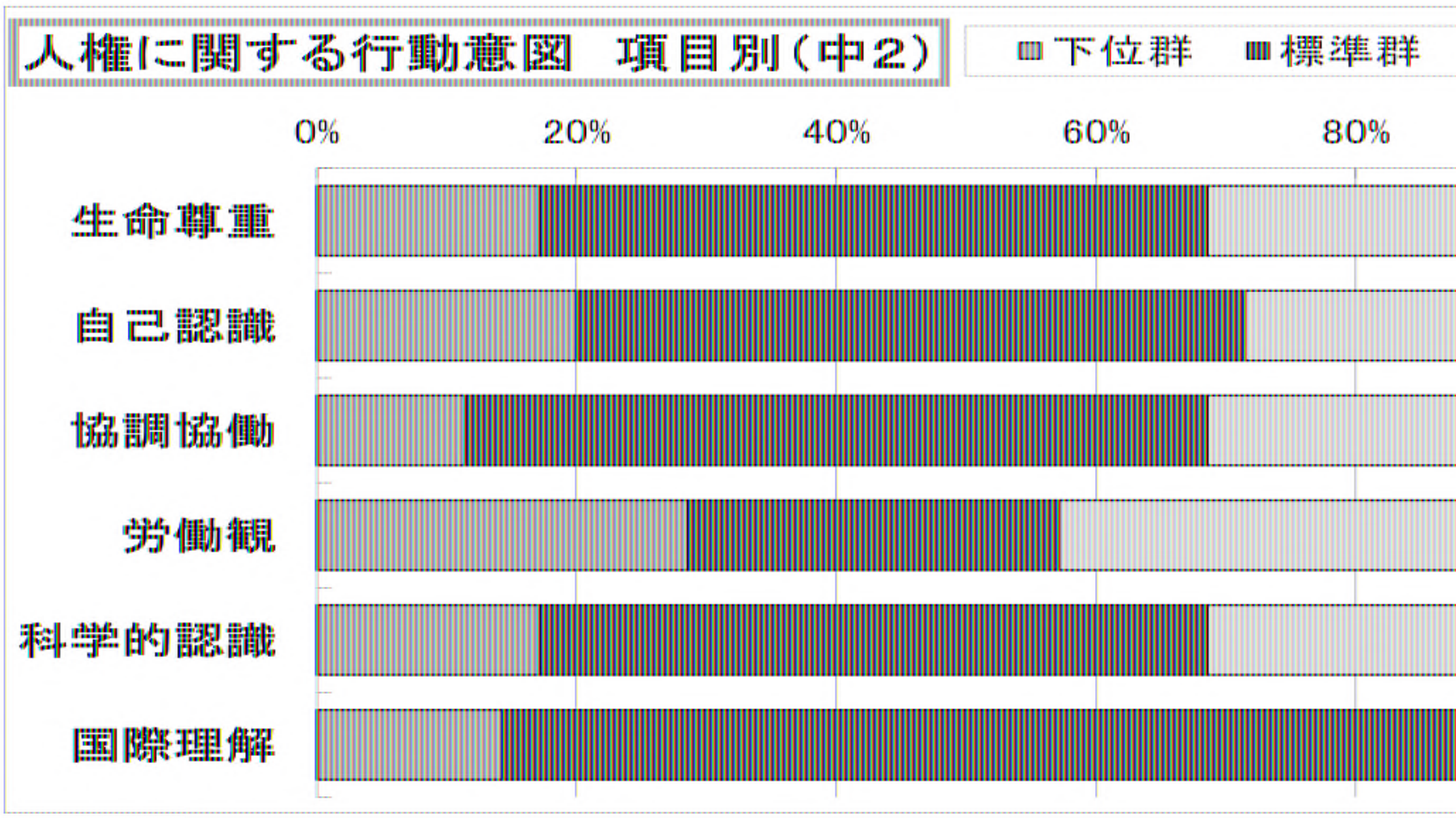


	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準
上位群	36.1	↑	16.5	22.2	↑	18.7	19.4		18.5	33.3	↑	24.3	16.7	↓	21.
標準群	58.3	↓	62.6	61.1	↓	64.5	66.7	↑	61.5	58.3	↑	53.9	72.2	↑	62.
下位群	5.6	↓	20.9	16.7		16.8	13.9	↓	20.0	8.3	↓	21.8	11.1	↓	16.

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	12.8	9.8	10.7	11.4	11.8
上位群	13	8	7	12	6
標準群	21	22	24	21	26
下位群	2	6	5	3	4

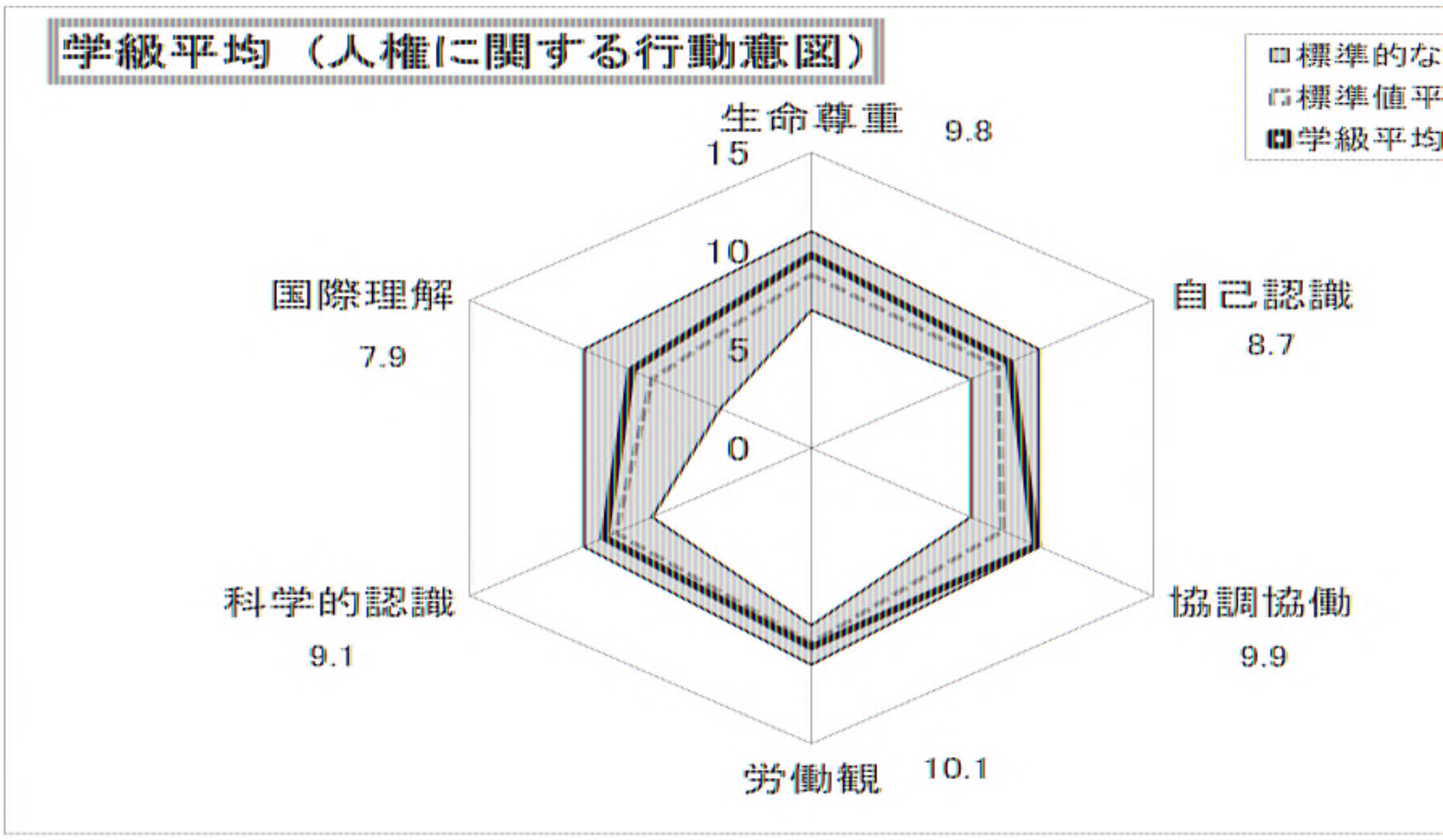


[行動意図]　　岡垣東中学校　　2年　　1組



	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準
上位群	31.4	↑	17.2	28.6	↑	17.9	31.4	↑	21.6	42.9	↑	23.1	31.4	↑	24.
標準群	51.4	↓	63.2	51.4	↓	56.8	57.1	↑	53.8	28.6	↓	52.8	51.4	↓	54.
下位群	17.1	↓	19.6	20.0	↓	25.3	11.4	↓	24.6	28.6	↑	24.1	17.1	↓	21.

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	9.8	8.7	9.9	10.1	9.1
上位群	11	10	11	15	11
標準群	18	18	20	10	18
下位群	6	7	4	10	6



【2 年 1 組】

（1） 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

学級平均値は、（標準的な得点の範囲）内である。＜生命尊重＞は、学級平均値が（標準
上限値であり、（認識）は高い傾向にある。＜労働観＞も（標準的な得点の範囲）の上限値
やや高い傾向にある。他の 4 領域＜自己認識＞＜協調協働＞＜科学的認識＞＜国際理解＞
準平均値に重なっており標準的である。

②帯グラフ

＜生命尊重＞は、上位群が 20%を超え、下位群は 20%を下回っているので、（認識）はや
＜自己認識＞は、上位群が 20%を超え下位群は 20%を下回っているので、（認識）はやや
協調協働＞は、上位群が 20%、下位群は 20%を超えていないので、（認識）はやや高い傾
＞は、上位群が 20%を超え下位群は 20%を下回っており、（認識）はやや高い傾向にある。
下位群は 20%を超えていないものの上位群も 20%を超えておらず課題がある。＜国際理解
を超え下位群は 20%を下回っており、（認識）はやや高い傾向にある。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（認識）」の特徴の分析

学級平均値は（標準的な得点の範囲）内である。レーダーチャート及び帯グラフがとも
域は、＜生命尊重＞＜労働観＞である。レーダーチャートでは標準的であった＜自己認識
際理解＞の領域は、帯グラフではやや高い傾向にある。＜科学的認識＞は、レーダーチャ
ったが、帯グラフではやや低い傾向にあり課題が残った。

（2） 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

学級平均値は（標準的な得点の範囲）内である。＜協調協働＞は、（標準的な得点の範囲
（行動意図）は高い傾向にある。他の 5 領域＜生命尊重＞＜自己認識＞＜労働観＞＜科学
＞は、学級平均値が標準平均値の上限値に近くなっておりやや高い傾向にある。

②帯グラフ

＜生命尊重＞＜協調協働＞＜国際理解＞の 3 領域については、上位群が 20%を超え下位
おり（行動意図）がやや高い傾向がある。＜自己認識＞＜労働観＞＜科学的認識＞は、上
下位群が 20%を下回ったものの（行動意図）には課題がある。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（行動意図）」の特徴の分析

学級平均値が（標準的な得点の範囲）内である。レーダーチャート及び帯グラフともに
傾向の領域は＜生命尊重＞＜協調協働＞＜国際理解＞の 3 領域である。＜自己認識＞＜労
＞はレーダーチャートではやや高い傾向を示したものの帯グラフでは課題が残る（上位群
い）。

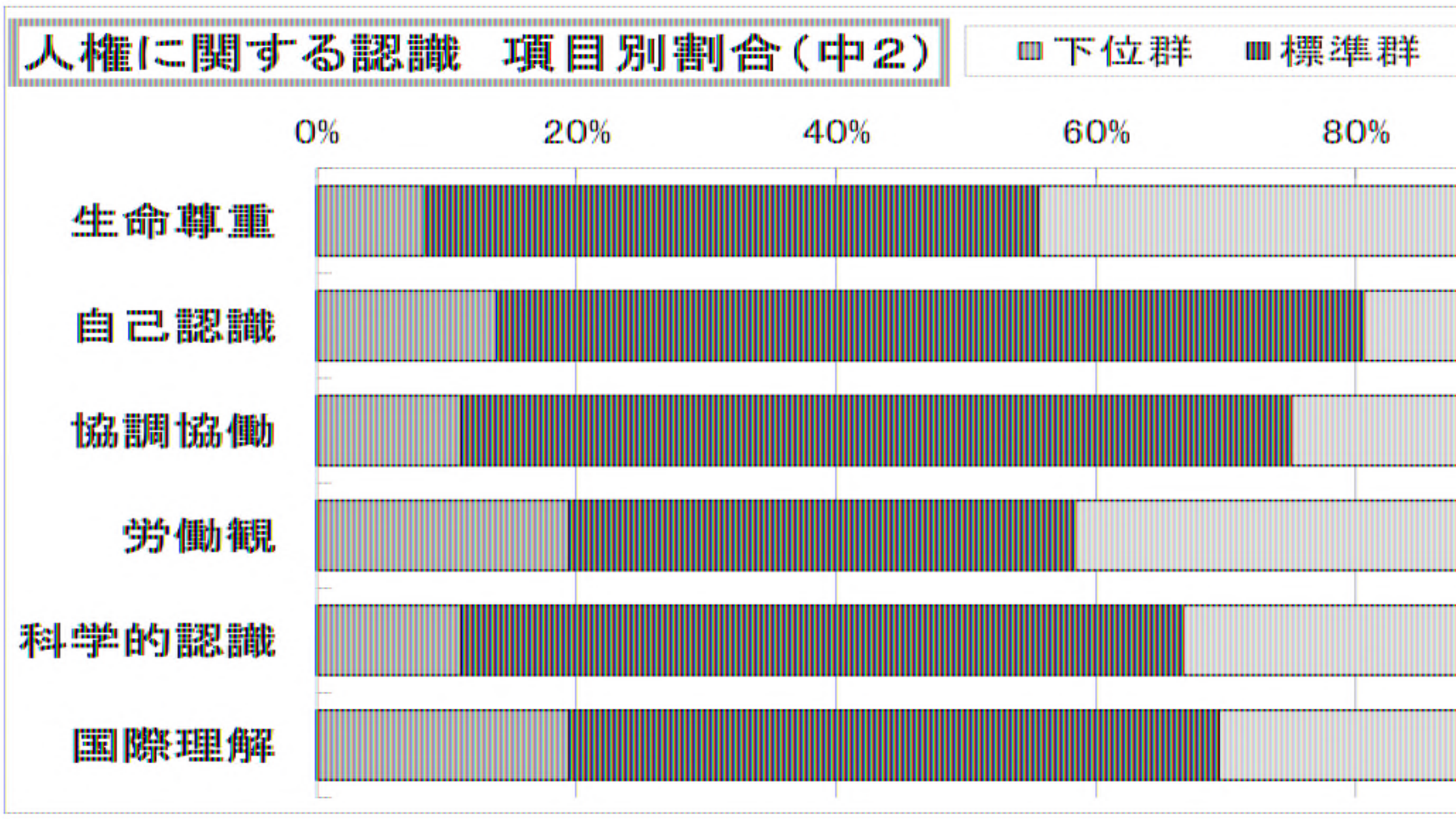
（3）「学級」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

学級平均値は（標準的な得点の範囲）内である。総じて（認識）より（行動意図）の方
傾向にある。（認識）（行動意図）共通にレーダーチャート及び帯グラフがともに高い、や
域は、＜生命尊重＞である。（認識）についての課題は＜科学的認識＞であり、（行動意図
＜自己認識＞＜労働観＞＜科学的認識＞の上位群である。

（4）「人権意識」改善への提案

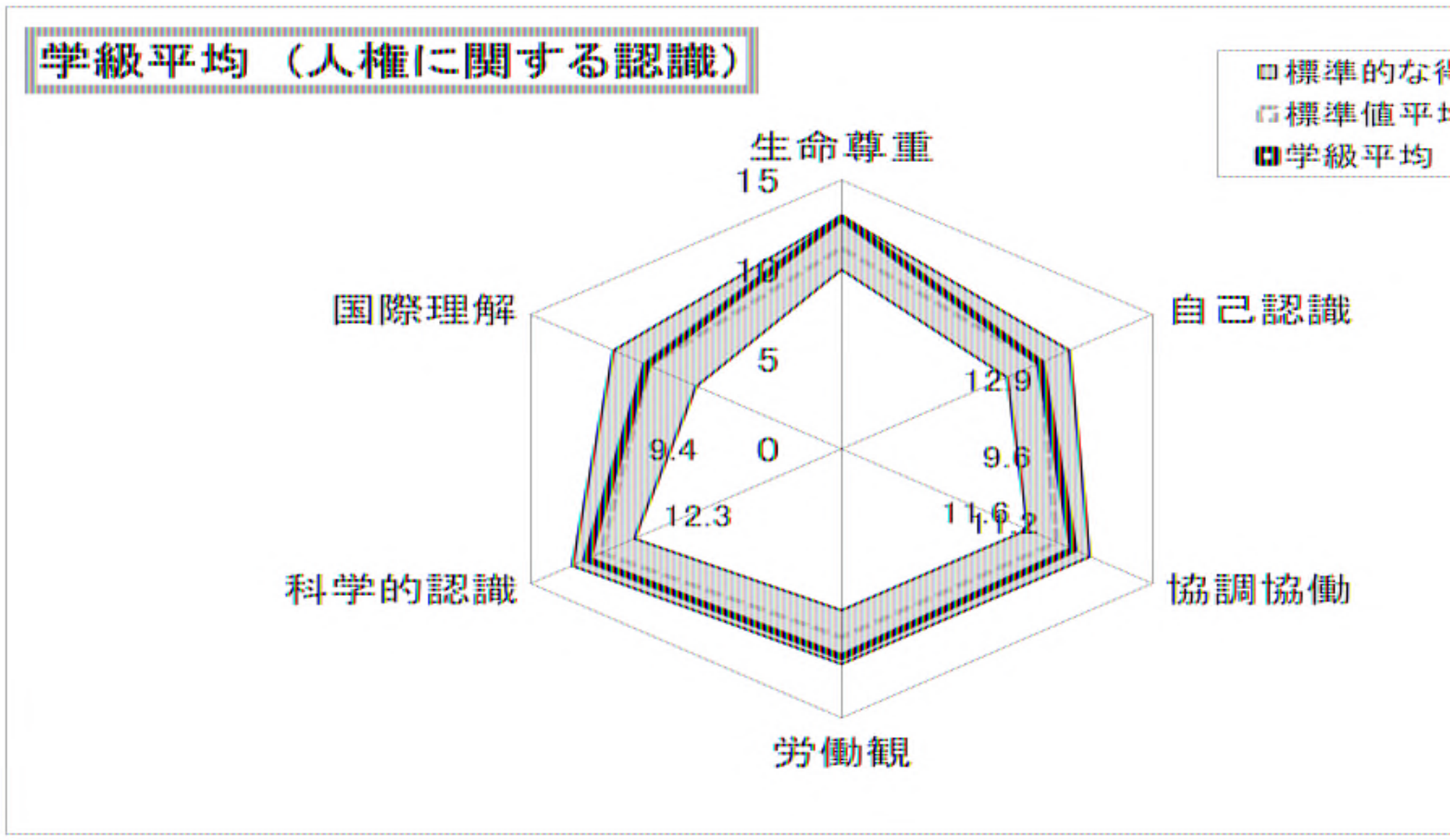
さらに伸ばしたい領域は＜国際理解＞である。（認識）のレーダーチャートこそ標準であ
グラフ、（行動意図）のレーダーチャート及び帯グラフで高い傾向にある。例えば、国際社
聞やニュースを題材に記事をスクラップし、プレゼンテーションするなどのアクティブ・
あろう。

【認　識】　　岡垣東中学校　　2年　2組

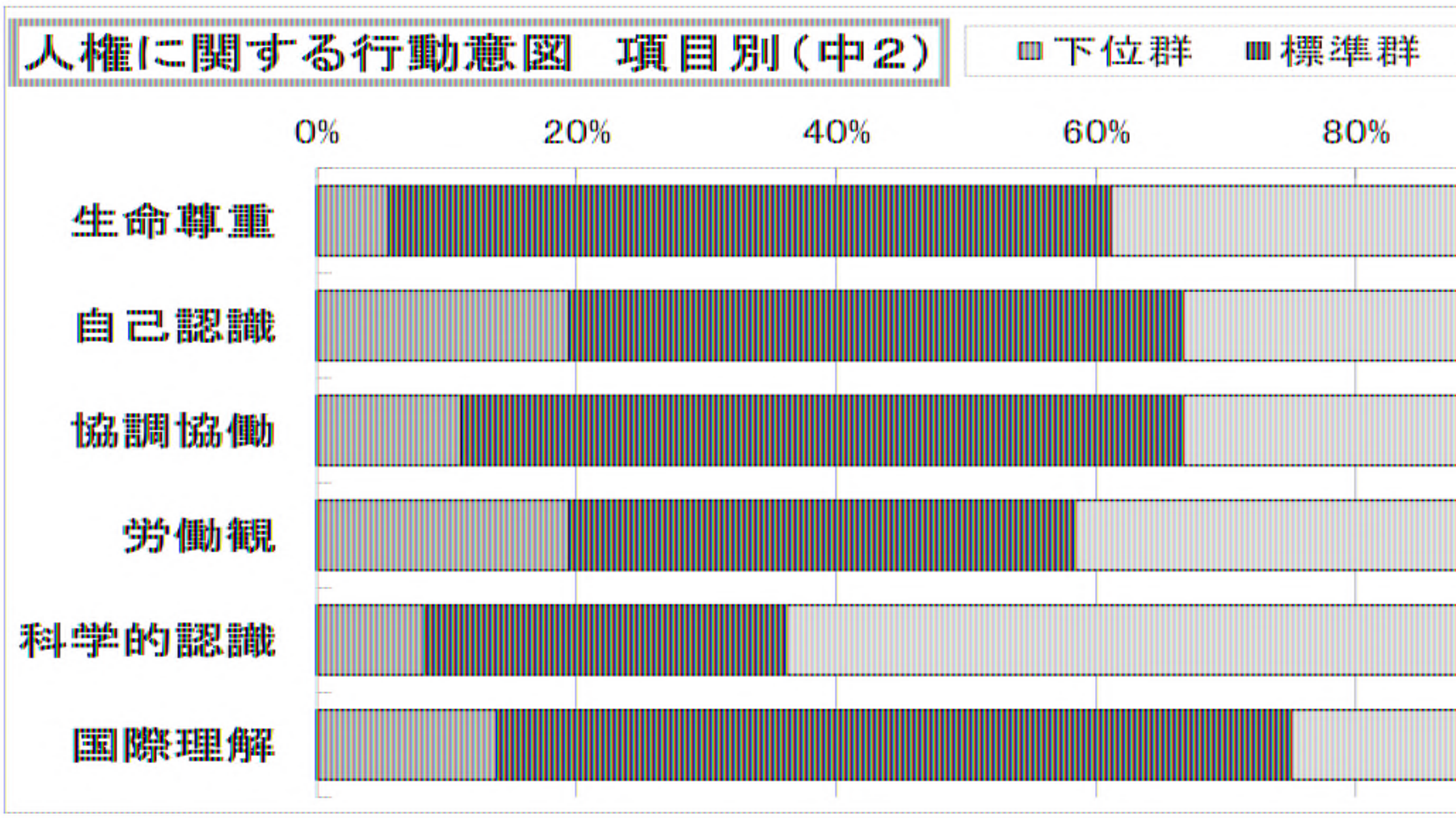


	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準
上位群	44.4	↑	16.5	19.4		18.7	25.0	↑	18.5	41.7	↑	24.3	33.3	↑	21.
標準群	47.2	↓	62.6	66.7	↑	64.5	63.9	↑	61.5	38.9	↓	53.9	55.6	↓	62.
下位群	8.3	↓	20.9	13.9	↓	16.8	11.1	↓	20.0	19.4	↓	21.8	11.1	↓	16.

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	12.9	9.6	11.2	11.6	12.3
上位群	16	7	9	15	12
標準群	17	24	23	14	20
下位群	3	5	4	7	4

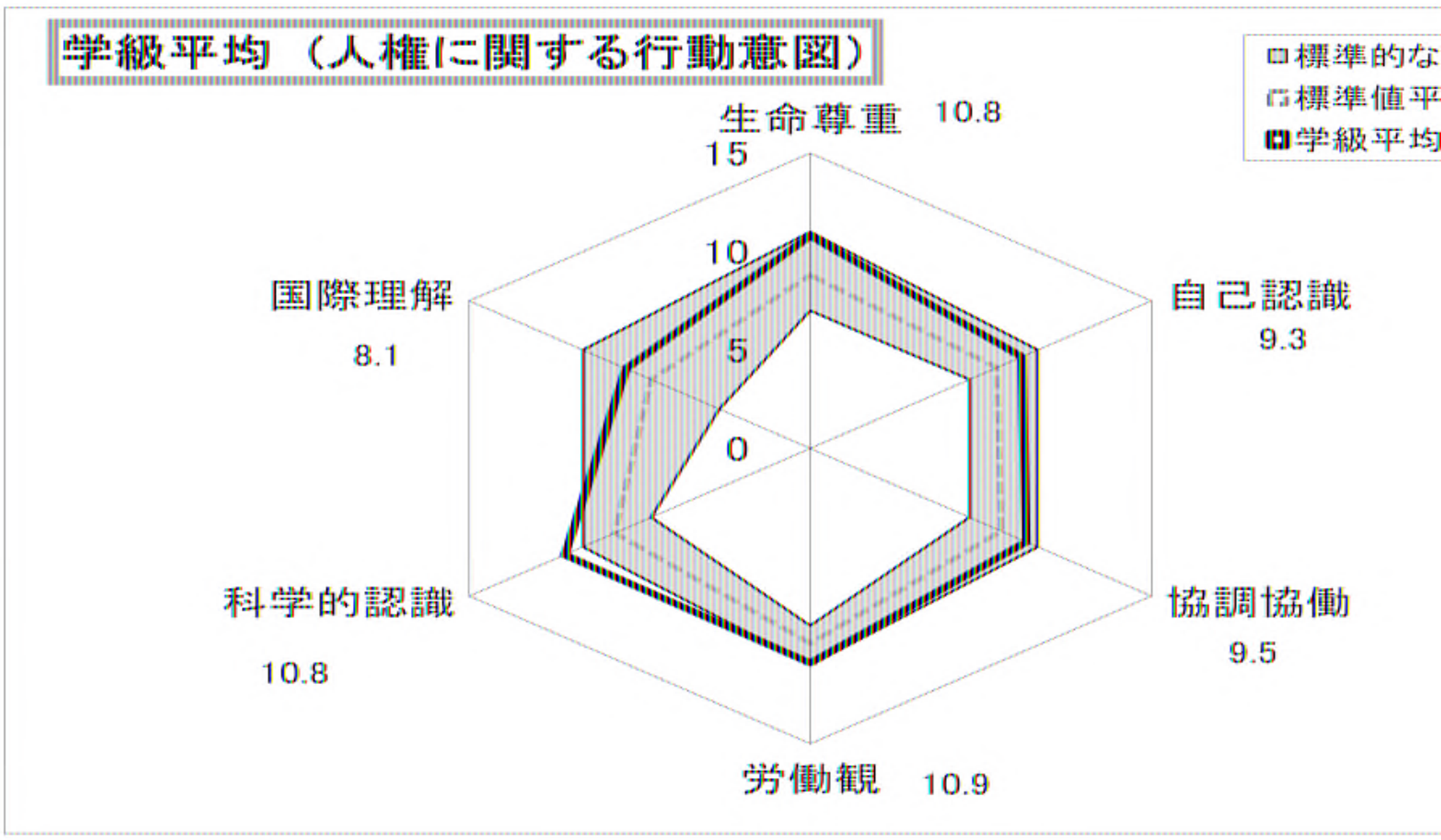


[行動意図]　　岡垣東中学校　　2年　2組



	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準
上位群	38.9	↑	17.2	33.3	↑	17.9	33.3	↑	21.6	41.7	↑	23.1	63.9	↑	24.
標準群	55.6	↓	63.2	47.2	↓	56.8	55.6	↑	53.8	38.9	↓	52.8	27.8	↓	54.
下位群	5.6	↓	19.6	19.4	↓	25.3	11.1	↓	24.6	19.4	↓	24.1	8.3	↓	21.

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	10.8	9.3	9.5	10.9	10.8
上位群	14	12	12	15	23
標準群	20	17	20	14	10
下位群	2	7	4	7	3



【2 年 2 組】

（1） 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

学級平均値は、（標準的な得点の範囲）内である。＜生命尊重＞＜労働観＞は、学級平均
の範囲）の上限値であり、（認識）は高い傾向にある。＜協調協働＞＜科学的認識＞も（標
の上限値に近く、（認識）はやや高い傾向にある。他の 2 領域＜自己認識＞＜国際理解＞は
平均値に重なっており標準的である。

②帯グラフ

＜生命尊重＞は、上位群が 20%を超え、下位群は 20%を下回っているので、（認識）はや
＜自己認識＞は、下位群は 20%を下回っているものの上位群が 20%を超えておらず課題が
は、上位群が 20%を超え、下位群は 20%を下回っているので、（認識）はやや高い傾向にあ
上位群が 20%を超え下位群は 20%を下回っており、（認識）はやや高い傾向にある。＜科
解＞は、上位群が 20%を超え下位群は 20%を下回っており、（認識）はやや高い傾向にあ

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（認識）」の特徴の分析

学級平均値は（標準的な得点の範囲）内である。レーダーチャート及び帯グラフがとも
域は、＜生命尊重＞＜労働観＞＜協調協働＞＜科学的認識＞である。＜国際理解＞の領域
トでは標準的であったが、帯グラフではやや高い傾向にある。＜自己認識＞は、レーダー
であったが帯グラフでは上位群に課題が残った。

（2） 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

学級平均値は（標準的な得点の範囲）内である。＜生命尊重＞＜協調協働＞＜労働観＞は
範囲）の上限値であり、（行動意図）は高い傾向にある。他の 3 領域＜自己認識＞＜科学的
は、学級平均値が標準平均値の上限値に近くなっており（行動意図）がやや高い傾向にあ

②帯グラフ

＜生命尊重＞＜自己認識＞＜協調協働＞＜労働観＞＜科学的認識＞＜国際理解＞の 6 領
を超え下位群が 20%を下回っており（行動意図）がやや高い傾向がある。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（行動意図）」の特徴の分析

学級平均値が（標準的な得点の範囲）内である。レーダーチャート及び帯グラフともに
傾向にある領域は、＜生命尊重＞＜協調協働＞＜国際理解＞の 3 領域である。＜自己認識
的認識＞は、レーダーチャートではやや高い傾向を示したものの、帯グラフでは課題が残
超えていない）結果となっている。

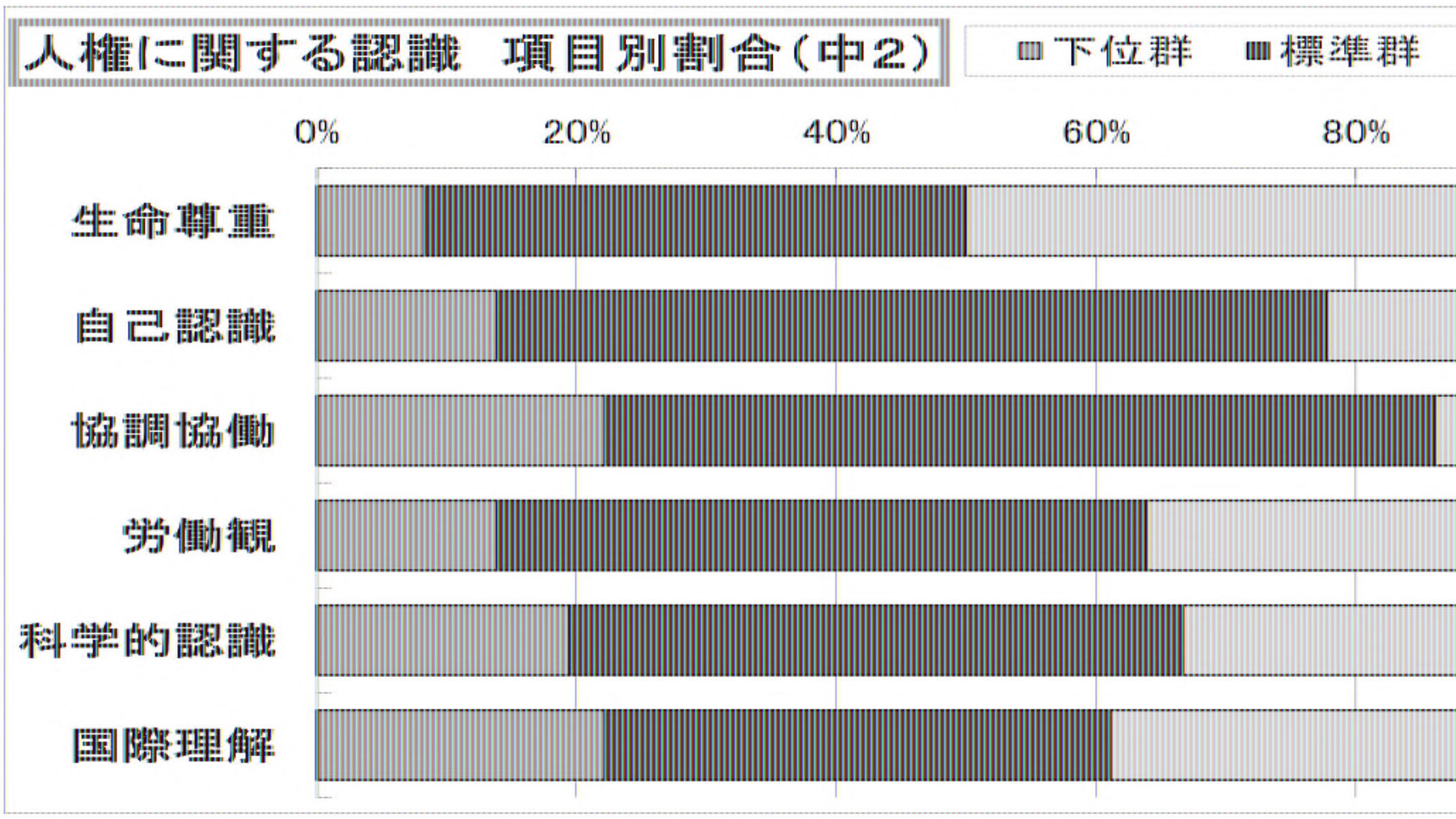
（3）「学級」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

学級平均値は（標準的な得点の範囲）内である。総じて（認識）より（行動意図）の方
傾向にある。（認識）（行動意図）共通にレーダーチャート及び帯グラフがともに高い、や
域は、＜生命尊重＞＜協調協働＞である。（認識）についての課題は＜自己認識＞であり、
ての課題は＜自己認識＞＜労働観＞＜科学的認識＞の上位群である。

（4）「人権意識」改善への提案

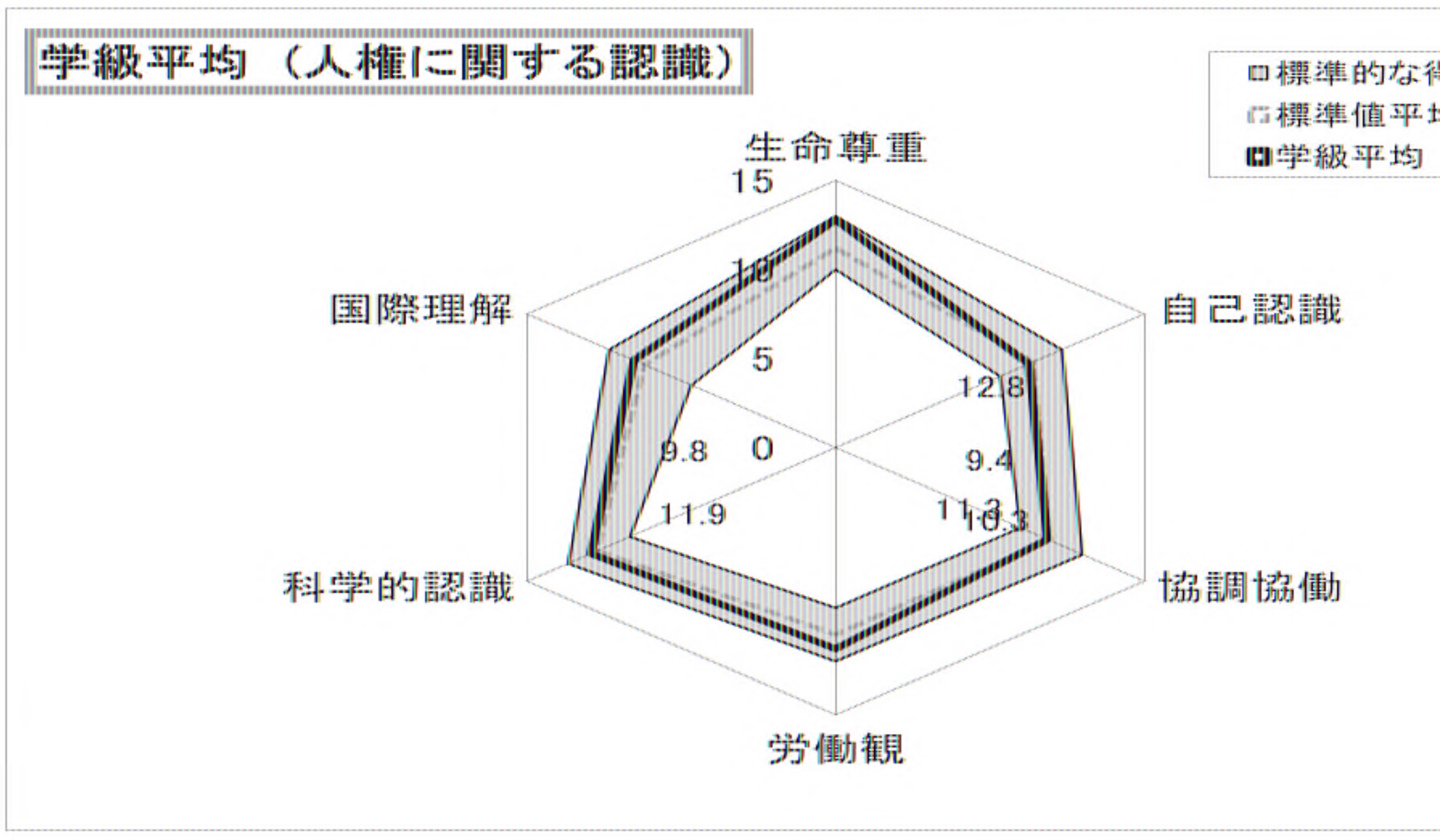
＜生命尊重＞は（認識）（行動意図）共に高くさらに伸ばしたい。例えば、生命の連鎖や
解を深め、環境保全について理解を深め、環境保全に主体的にかかわろうとする態度を育
ボランティアや、ゴミ拾い活動に積極的に参加するのも良いと思われる。

【認　識】　　岡垣東中学校　　2年　3組

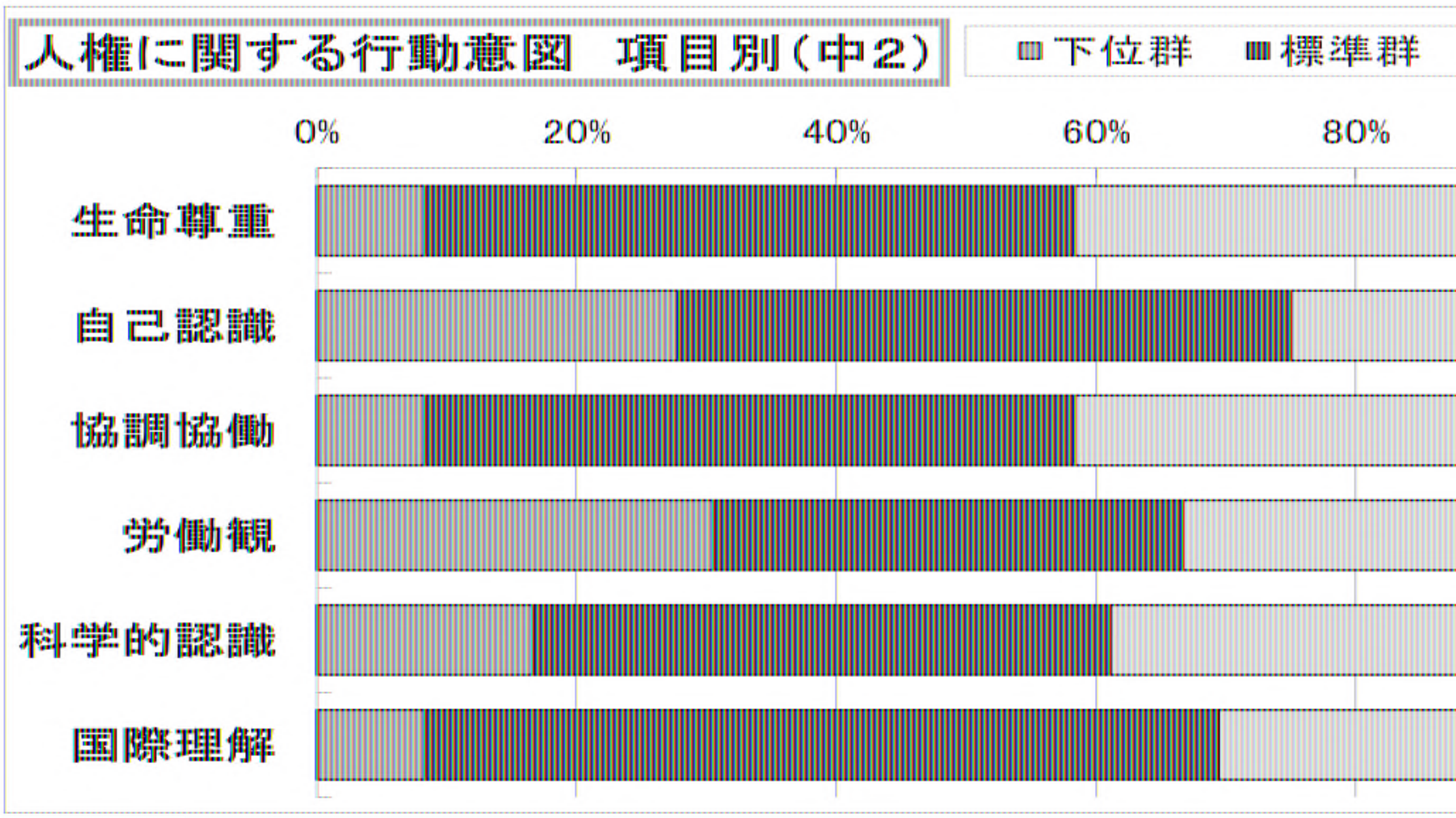


	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準
上位群	50.0	↑	16.5	22.2	↑	18.7	13.9	↓	18.5	36.1	↑	24.3	33.3	↑	21.
標準群	41.7	↓	62.6	63.9		64.5	63.9	↑	61.5	50.0	↓	53.9	47.2	↓	62.
下位群	8.3	↓	20.9	13.9	↓	16.8	22.2	↑	20.0	13.9	↓	21.8	19.4	↑	16.

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	12.8	9.4	10.3	11.3	11.9
上位群	18	8	5	13	12
標準群	15	23	23	18	17
下位群	3	5	8	5	7

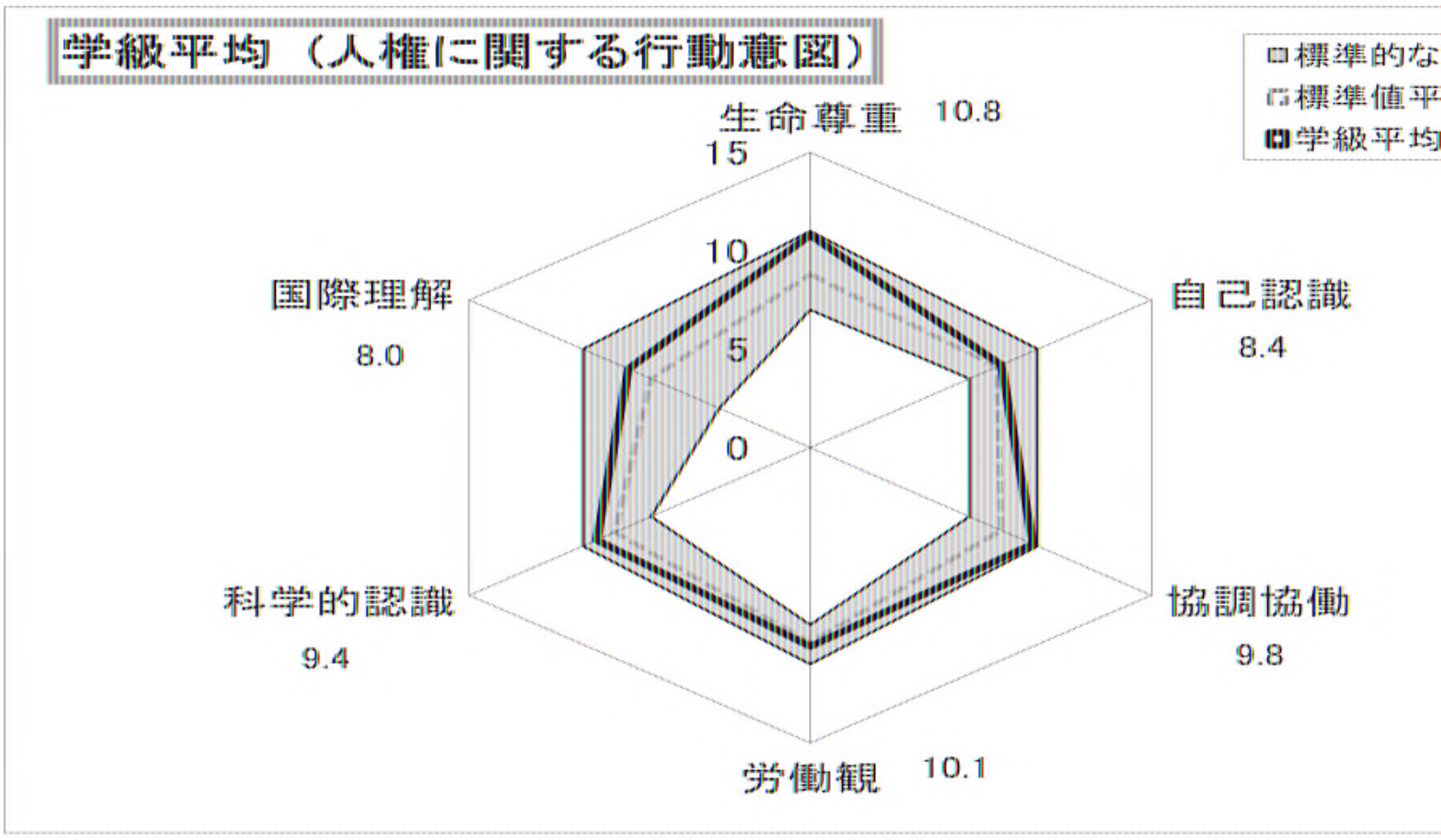


[行動意図]　　岡垣東中学校　　2年　3組



	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準
上位群	41.7	↑	17.2	25.0	↑	17.9	41.7	↑	21.6	33.3	↑	23.1	38.9	↑	24.
標準群	50.0	↓	63.2	47.2	↓	56.8	50.0	↓	53.8	36.1	↓	52.8	44.4	↓	54.
下位群	8.3	↓	19.6	27.8	↑	25.3	8.3	↓	24.6	30.6	↑	24.1	16.7	↓	21.

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	10.8	8.4	9.8	10.1	9.4
上位群	15	9	15	12	14
標準群	18	17	18	13	16
下位群	3	10	3	11	6



【2 年 3 組】

（1） 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

学級平均値は、（標準的な得点の範囲）内である。＜生命尊重＞は、学級平均値が（標準的
上限値であり、（認識）は高い傾向にある。＜労働観＞も（標準的な得点の範囲）の上限値
やや高い傾向にある。他の 4 領域＜自己認識＞＜協調協働＞＜科学的認識＞＜国際理解＞は
準平均値に重なっており標準的である。

②帯グラフ

＜生命尊重＞は、上位群が 20%を超え、下位群は 20%を下回っているので、（認識）はやや
＜自己認識＞は、上位群が 20%を超えておらず、下位群は 20%を超えているので、（認識）
ある。＜協調協働＞は、上位群が 20%、下位群は 20%を超えていないので、（認識）はやや
＜労働観＞は、上位群が 20%を超え下位群は 20%を下回っており、（認識）はやや高い傾向
認識＞は、下位群は 20%を下回り、上位群は 20%を超えており（認識）はやや高い傾向に
は、上位群が 20%を超え下位群は 20%を下回っており、（認識）はやや高い傾向にある。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（認識）」の特徴の分析

学級平均値は（標準的な得点の範囲）内である。レーダーチャート及び帯グラフがともに
域は、＜生命尊重＞＜労働観＞である。レーダーチャートでは標準的であった＜協調協働
国際理解＞の領域は、帯グラフではやや高い傾向にある。＜自己認識＞は、レーダーチャー
ったが、帯グラフではやや低い傾向にあり課題が残った。

（2） 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

学級平均値は（標準的な得点の範囲）内である。＜生命尊重＞＜協調協働＞は、（標準的
限値であり、（行動意図）は高い傾向にある。他の 4 領域＜自己認識＞＜労働観＞＜科学的
は、学級平均値が標準平均値の上限値に近くなっておりやや高い傾向にある。

②帯グラフ

＜生命尊重＞＜協調協働＞＜国際理解＞＜科学的認識＞の 4 領域については、上位群が 2
20%を下回っており（行動意図）がやや高い傾向がある。＜自己認識＞＜労働観＞は、上位
いるが下位群も 20%を超えているので（行動意図）には課題がある。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（行動意図）」の特徴の分析

学級平均値が（標準的な得点の範囲）内である。レーダーチャート及び帯グラフともに
傾向にある領域は＜生命尊重＞＜協調協働＞＜国際理解＞の 3 領域である。＜自己認識＞
認識＞はレーダーチャートではやや高い傾向を示したものの帯グラフでは課題が残る（上位
いない）。

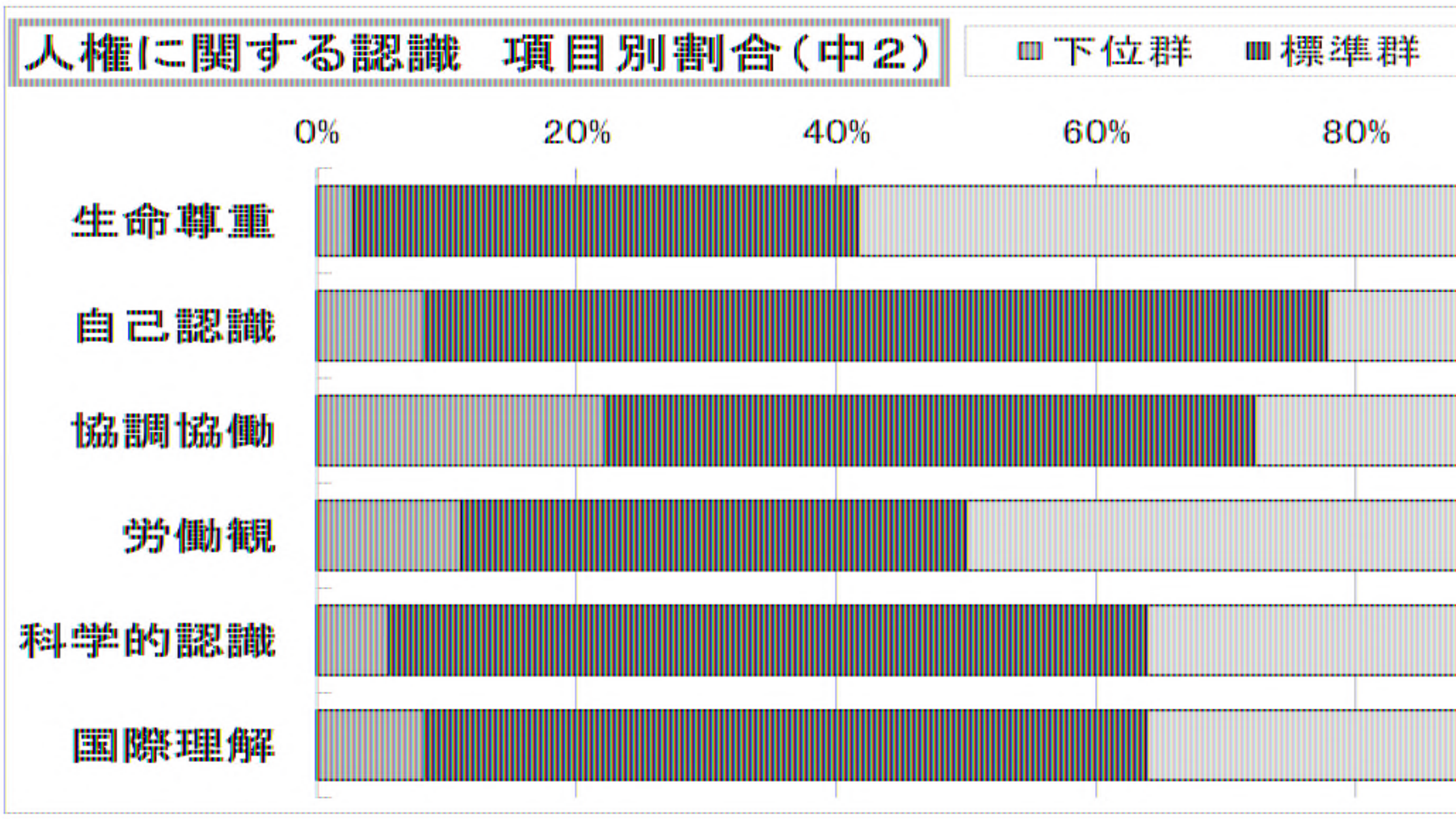
（3）「学級」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

学級平均値は（標準的な得点の範囲）内である。総じて（認識）より（行動意図）の方が
傾向にある。（認識）（行動意図）共通にレーダーチャート及び帯グラフがともに高い、やや
域は、＜生命尊重＞＜協調協働＞＜国際理解＞＜科学的認識＞の領域である。（認識）につい
認識＞であり、（行動意図）についての課題は＜自己認識＞＜労働観＞＜科学的認識＞の上

（4）「人権意識」改善への提案

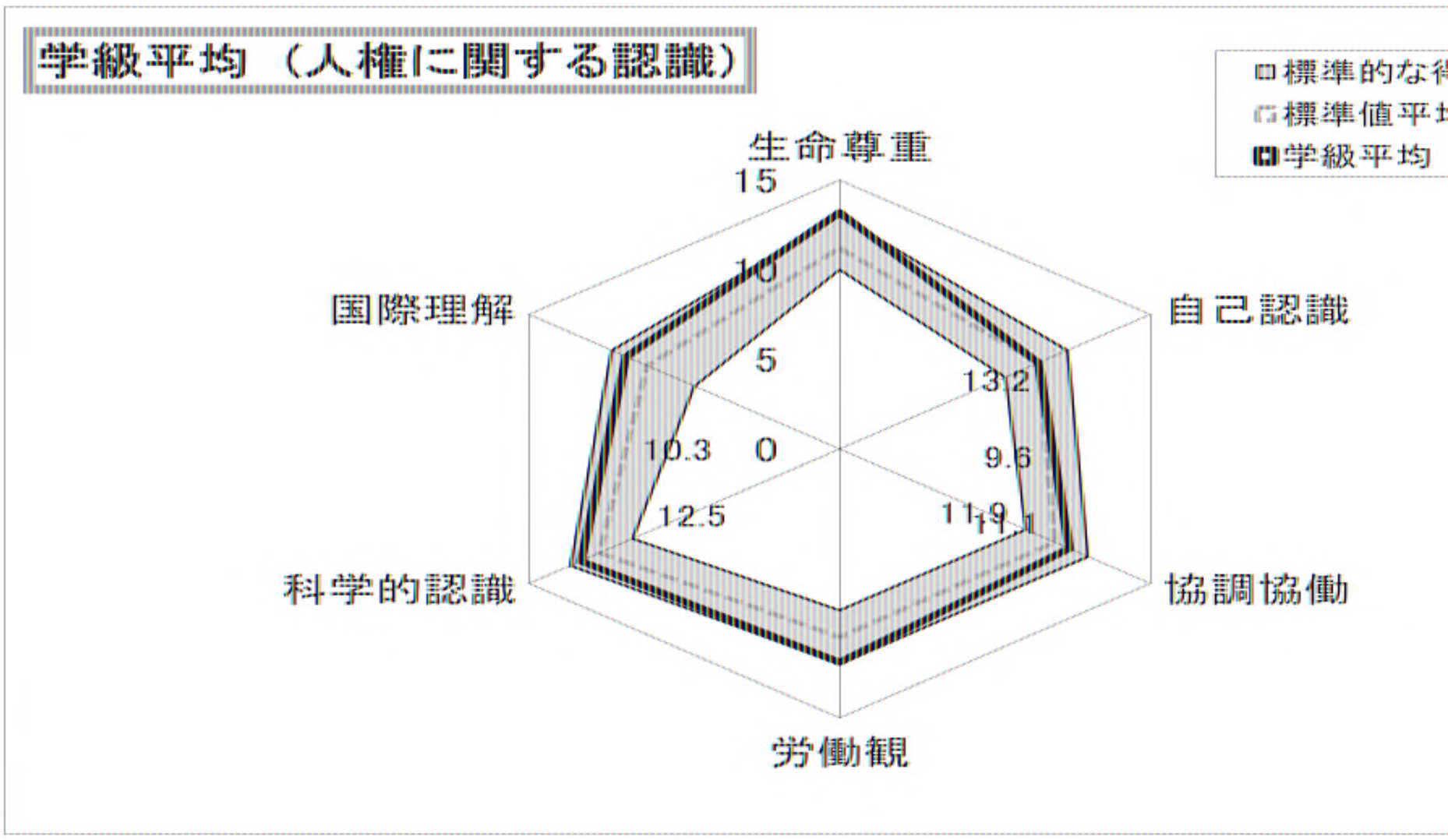
（認識）における＜自己認識＞が低い傾向にある。的確に自己評価するとともに、将来
路を主体的に切り拓いていこうとする態度を育てるため、将来の夢を実現させるにはどの
いいのかなどの流れを調べたりするのが良いと思われる。

【認　識】　　岡垣東中学校　　2年　　4組

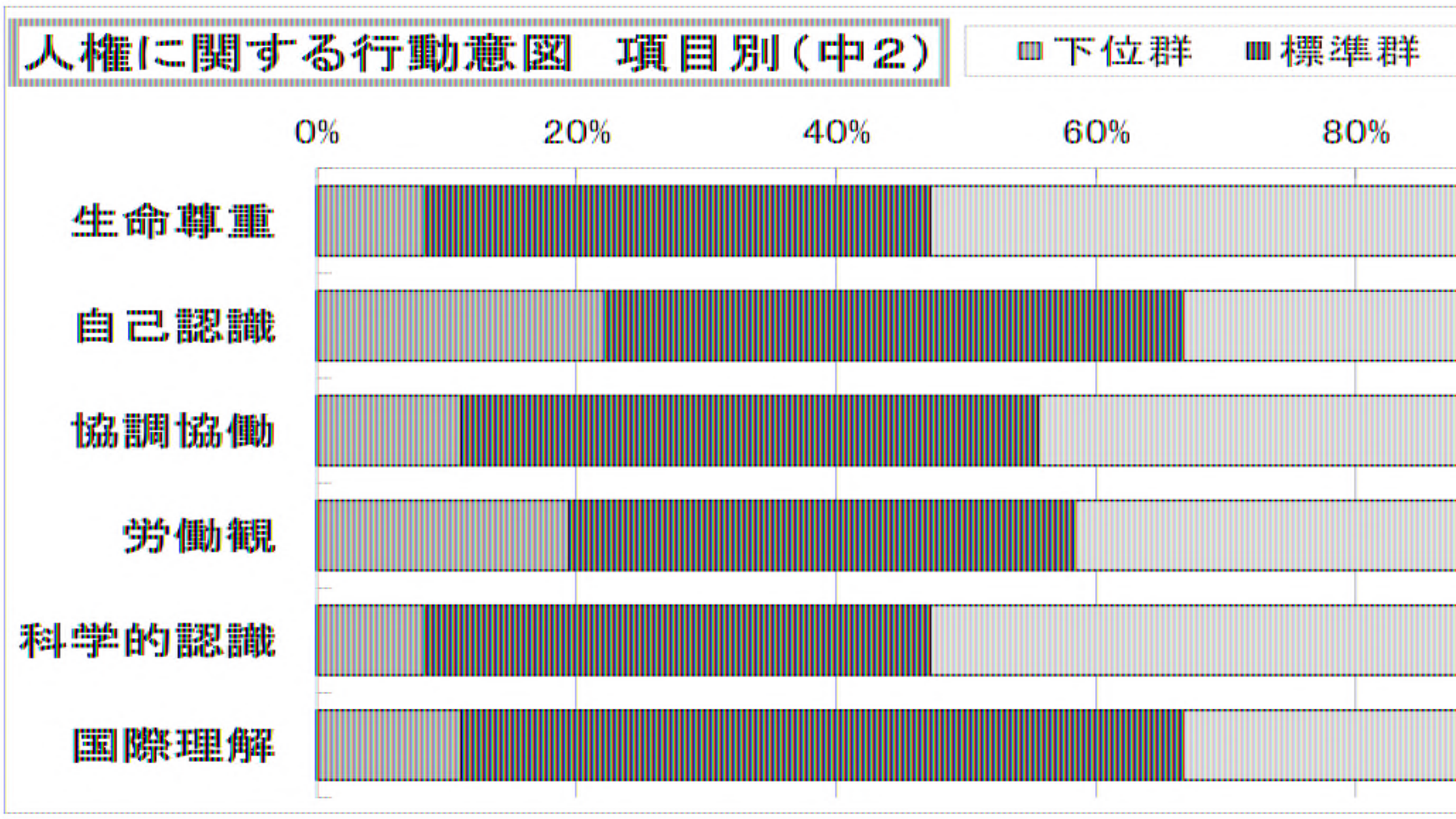


	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準
上位群	58.3	↑	16.5	22.2	↑	18.7	27.8	↑	18.5	50.0	↑	24.3	36.1	↑	21.
標準群	38.9	↓	62.6	69.4	↑	64.5	50.0	↓	61.5	38.9	↓	53.9	58.3	↓	62.
下位群	2.8	↓	20.9	8.3	↓	16.8	22.2	↑	20.0	11.1	↓	21.8	5.6	↓	16.

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	13.2	9.6	11.1	11.9	12.5
上位群	21	8	10	18	13
標準群	14	25	18	14	21
下位群	1	3	8	4	2

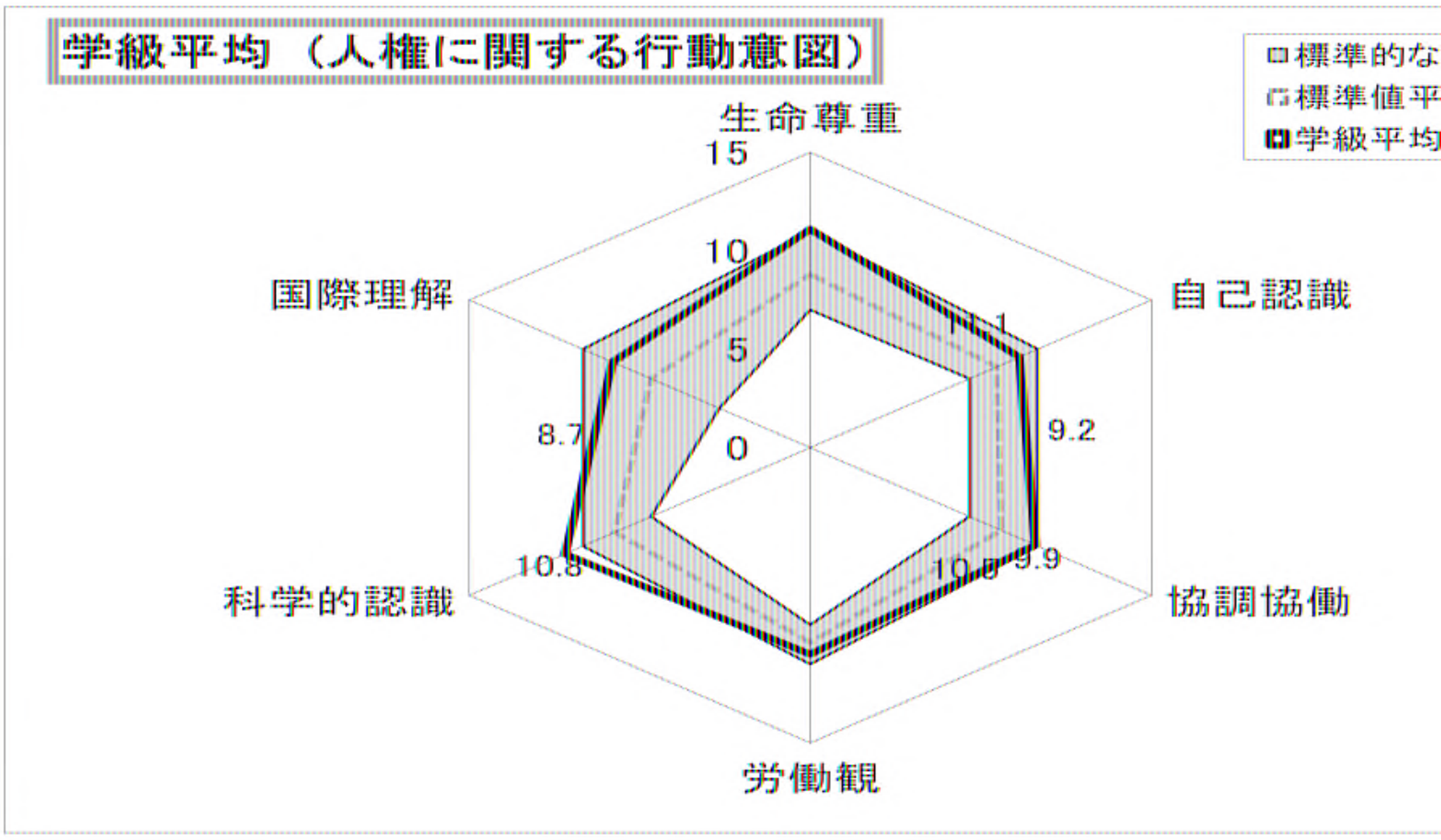


[行動意図]　　岡垣東中学校　　2年　4組



	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準
上位群	52.8	↑	17.2	33.3	↑	17.9	44.4	↑	21.6	41.7	↑	23.1	52.8	↑	24.
標準群	38.9	↓	63.2	44.4	↓	56.8	44.4	↓	53.8	38.9	↓	52.8	38.9	↓	54.
下位群	8.3	↓	19.6	22.2	↓	25.3	11.1	↓	24.6	19.4	↓	24.1	8.3	↓	21.

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	11.1	9.2	9.9	10.5	10.8
上位群	19	12	16	15	19
標準群	14	16	16	14	14
下位群	3	8	4	7	3



【2 年 4 組】

（1） 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

学級平均値は、（標準的な得点の範囲）内である。＜生命尊重＞＜労働観＞は、学級平均
の範囲）の上限値であり、（認識）は高い傾向にある。＜科学的認識＞＜国際理解＞も（標
の上限値に近く、（認識）はやや高い傾向にある。他の 2 領域＜自己認識＞＜協調協働＞は
平均値に重なっており標準的である。

②帯グラフ

＜生命尊重＞は、上位群が 20％を超え、下位群は 20％を下回っているので、（認識）はや
＜自己認識＞は、上位群が 20％を超え下位群は 20％を下回っているので、（認識）はやや
協調協働＞は、上位群が 20％を超え下位群も 20％を超えているので、（認識）はやや低い
観＞は、上位群が 20％を超え下位群は 20％を下回っており、（認識）はやや高い傾向にあ
は、上位群が 20％を超え下位群は 20％を下回っており、（認識）はやや高い傾向にある。
位群が 20％を超え下位群は 20％を下回っており、（認識）はやや高い傾向にある。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（認識）」の特徴の分析

学級平均値は（標準的な得点の範囲）内である。レーダーチャート及び帯グラフがとも
域は、＜生命尊重＞＜労働観＞＜科学的認識＞＜国際理解＞である。レーダーチャートで
自己認識＞の領域は、帯グラフではやや高い傾向にある。

（2） 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

＜科学的認識＞を除き他の 5 領域の学級平均値は（標準的な得点の範囲）内である。＜科
準的な得点の範囲）の上限値を超えている。＜生命尊重＞＜協調協働＞＜労働観＞は、（標
の上限値であり、（行動意図）は高い傾向にある。他の 2 領域＜自己認識＞＜国際理解＞は
平均値の上限値に近くなっておりやや高い傾向にある。

②帯グラフ

＜生命尊重＞＜協調協働＞＜労働観＞＜科学的認識＞＜国際理解＞の 5 領域については
え下位群が 20％を下回っており、（行動意図）がやや高い傾向がある。＜自己認識＞は、
ているが、下位群も 20％を超えているので、（行動意図）には課題がある。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（行動意図）」の特徴の分析

特に高い傾向のある＜科学的認識＞を除き、他の 5 領域の学級平均値は（標準的な得点
レーダーチャート及び帯グラフともに高い、又はやや高い傾向にある領域は、＜生命尊重
際理解＞の 3 領域である。＜自己認識＞＜労働観＞＜科学的認識＞は、レーダーチャート
示したものの帯グラフでは課題が残る（上位群が 20％を超えていない）結果となっている

（3）「学級」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

学級平均値は（標準的な得点の範囲）内である。総じて（認識）（行動意図）ともに人権
る。（認識）（行動意図）共通にレーダーチャート及び帯グラフがともに高い、やや高い傾
自己認識＞以外の 5 領域である。

（4）「人権意識」改善への提案

＜自己認識＞の改善のため、例えば、進路を主体的に切り拓いていくようなテーマを設
どを調べ、自分のなりたい職業を実際に就いている人の話を聞くこと、職場体験に参加す
あろう。

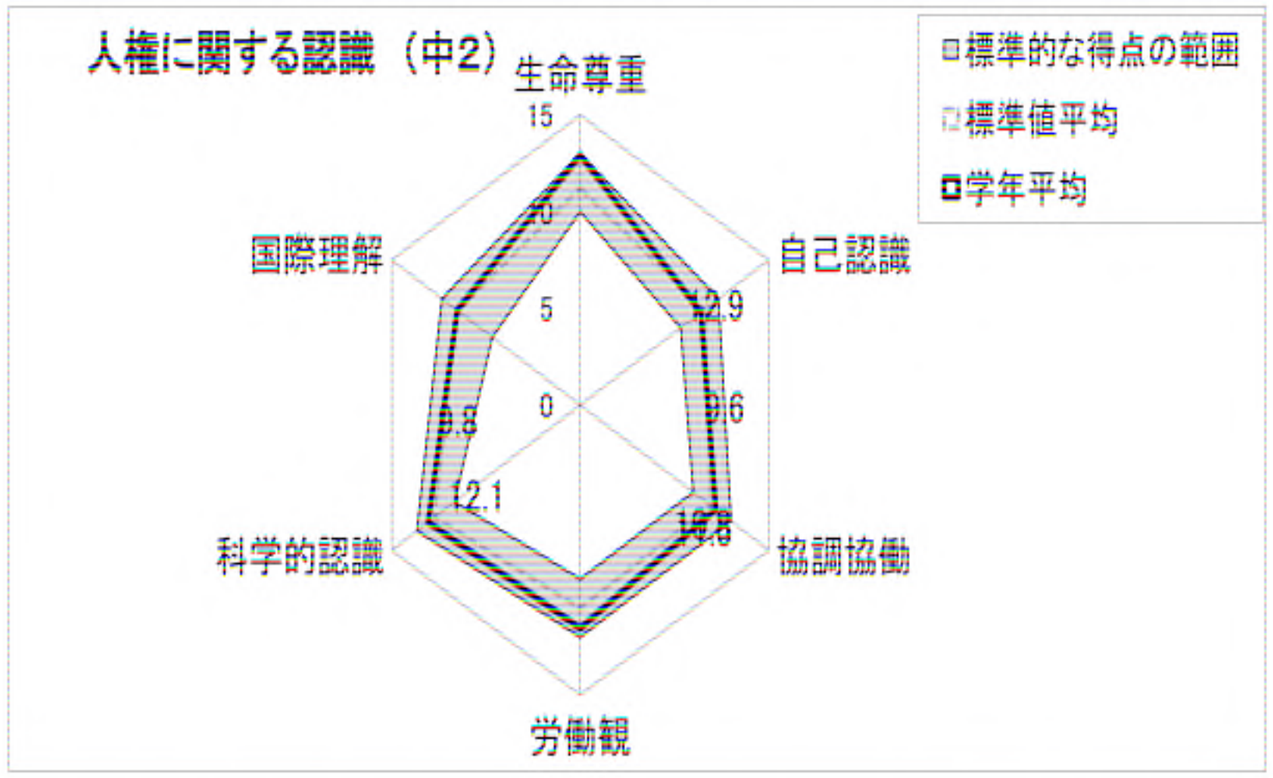
［岡垣東中学校　第２学年］

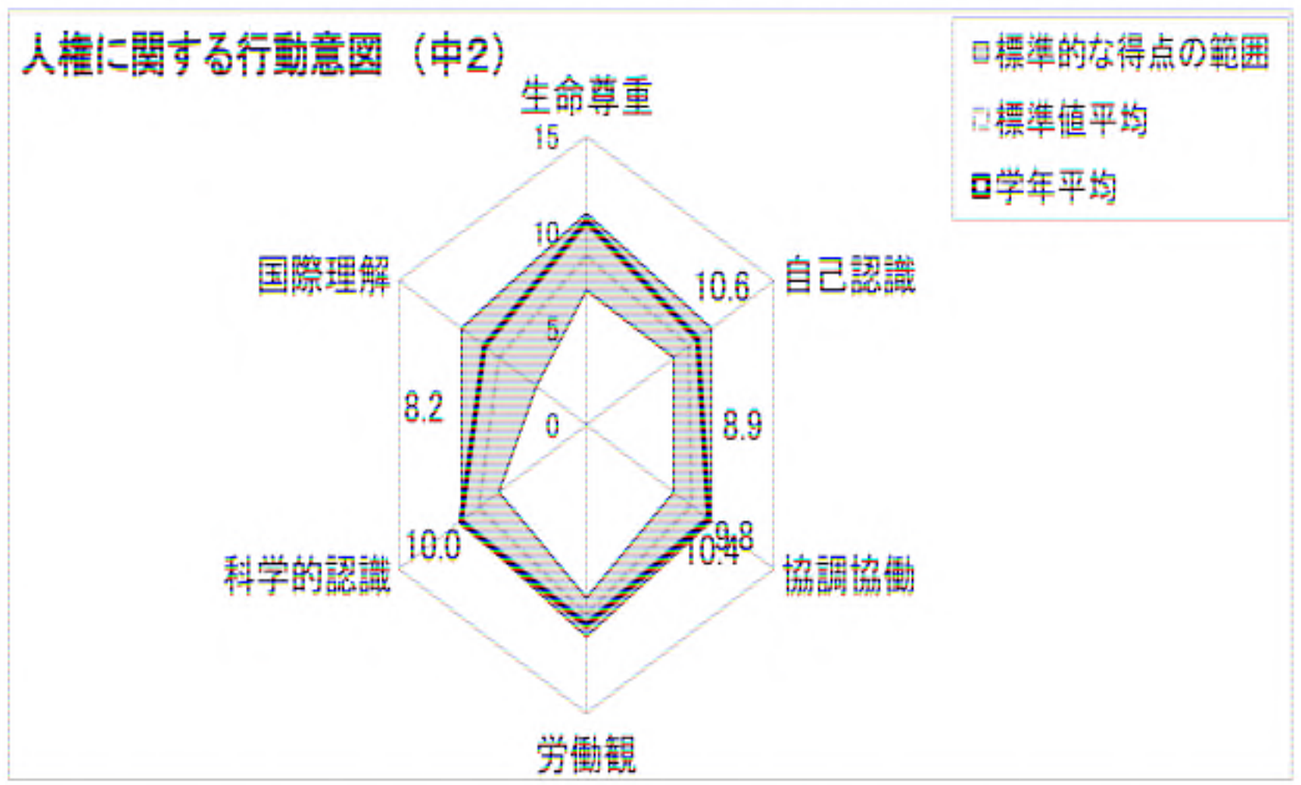
認　識

（中2）
学校名
岡垣東中

人権に関する認識	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識	国際理解
学年平均	12.9	9.6	10.8	11.5	12.1	9.8
標準値平均	11.2	9.9	10.4	10.5	11.6	9.8
標準的な得点の範囲	13	11	12	12	13	11
下位群値	10	8	9	9	10	7

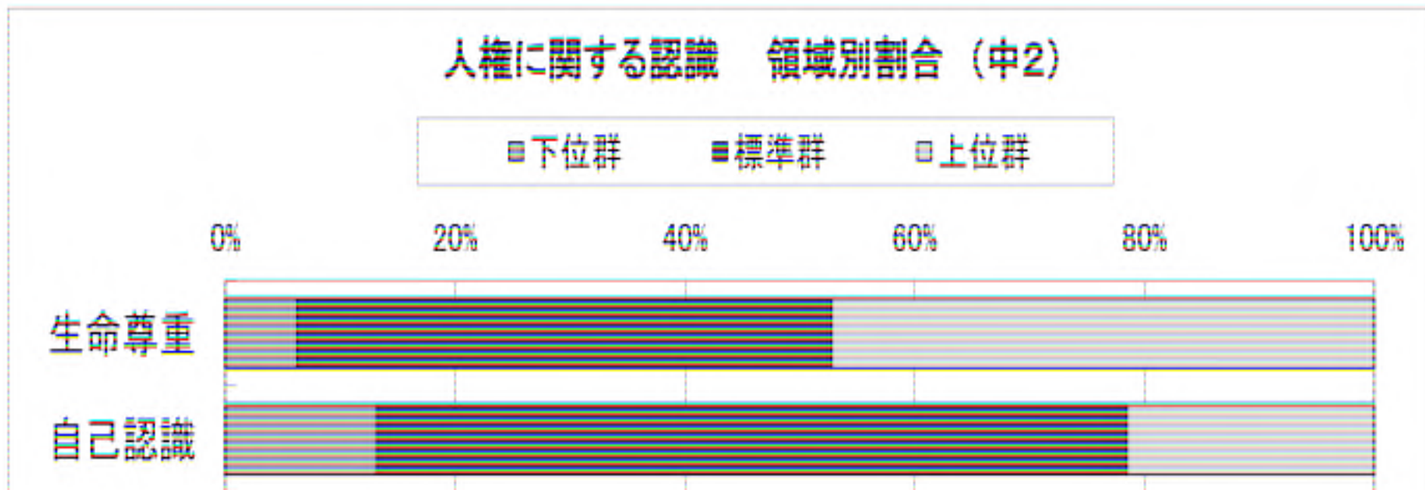
人権に関する行動意図	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識	国際理解
学年平均	10.6	8.9	9.8	10.4	10.0	8.2
標準値平均	8.8	8.2	8.4	9.9	8.6	7.0
標準的な得点の範囲	11	10	10	11	10	10
下位群値	7	7	7	9	7	4

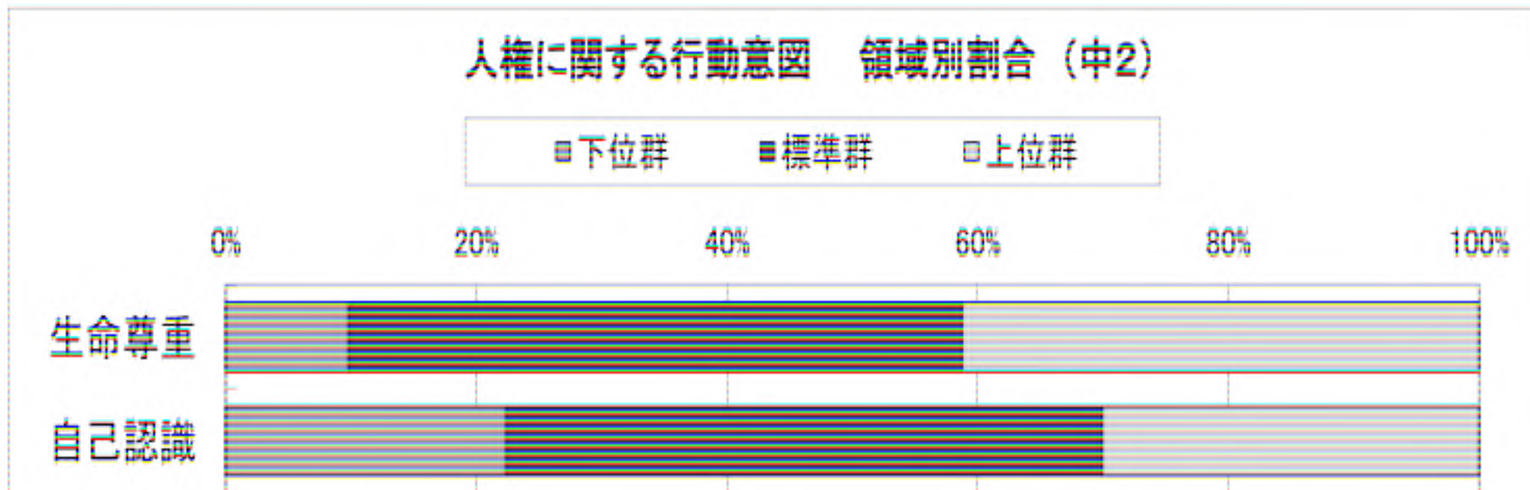




中2(認識)	国際理解	科学的認識	労働観	協調協働	自己認識	生命尊重
上位群	49	43	58	31	31	68
標準群	72	84	67	88	94	67
下位群	23	17	19	25	19	9

中2(行動意図)	国際理解	科学的認識	労働観	協調協働	自己認識	生命尊重
上位群	36	67	57	54	43	59
標準群	90	58	51	74	68	70
下位群	17	18	35	15	32	14





【学年に関する分析】

(1) 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

学年平均値は、(標準的な得点の範囲) 内である。<生命尊重><労働観>は、学年平均の範囲) の上限値であり、(認識) は高い傾向にある。<科学的認識><国際理解>も (標の上限値に近く、(認識) はやや高い傾向にある。他の 2 領域<自己認識><協調協働>は平均値に重なっており標準的である。

②帯グラフ

6 領域<生命尊重><自己認識><協調協働><労働観><科学的認識><国際理解>位群が 20%を超え下位群は 20%を下回っており、(認識) はやや高い傾向にある。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級 (認識)」の特徴の分析

学年平均値は (標準的な得点の範囲) 内である。レーダーチャート及び帯グラフがとも域は、<生命尊重><労働観><科学的認識><国際理解>である。レーダーチャートで自己認識><協調協働>の領域は、帯グラフではやや高い傾向にある。

(2) 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

6 領域の学年平均値は (標準的な得点の範囲) 内である。<生命尊重><協調協働><識>は、(標準的な得点の範囲) の上限値であり、(行動意図) は高い傾向にある。他の 2 国際理解>は、学年平均値が標準平均値の上限値に近くなっておりやや高い傾向にある。

②帯グラフ

<生命尊重><協調協働><科学的認識><国際理解>の 4 領域については、上位群が 20%を下回っており、(行動意図) がやや高い傾向がある。<自己認識><労働観>は、上ているが、下位群も 20%を超えているので、(行動意図) には課題がある。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級 (行動意図)」の特徴の分析

6 領域の学年平均値は (標準的な得点の範囲) 内である。レーダーチャート及び帯グラやや高い傾向にある領域は、<生命尊重><協調協働><科学的認識><国際理解>の 4

(3)「学年」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

学年平均値は (標準的な得点の範囲) 内である。総じて (認識) (行動意図) ともに人権る。(認識) (行動意図) 共通にレーダーチャート及び帯グラフがともに高い、やや高い傾生命尊重><科学的認識><国際理解>の 3 領域である。<自己認識>は、(認識) (行動ャートでは標準的であり (認識) の帯グラフでもやや高い傾向にあるが、(行動意図) の帯とともに下位群に課題 (20%を超える) があることがわかった。

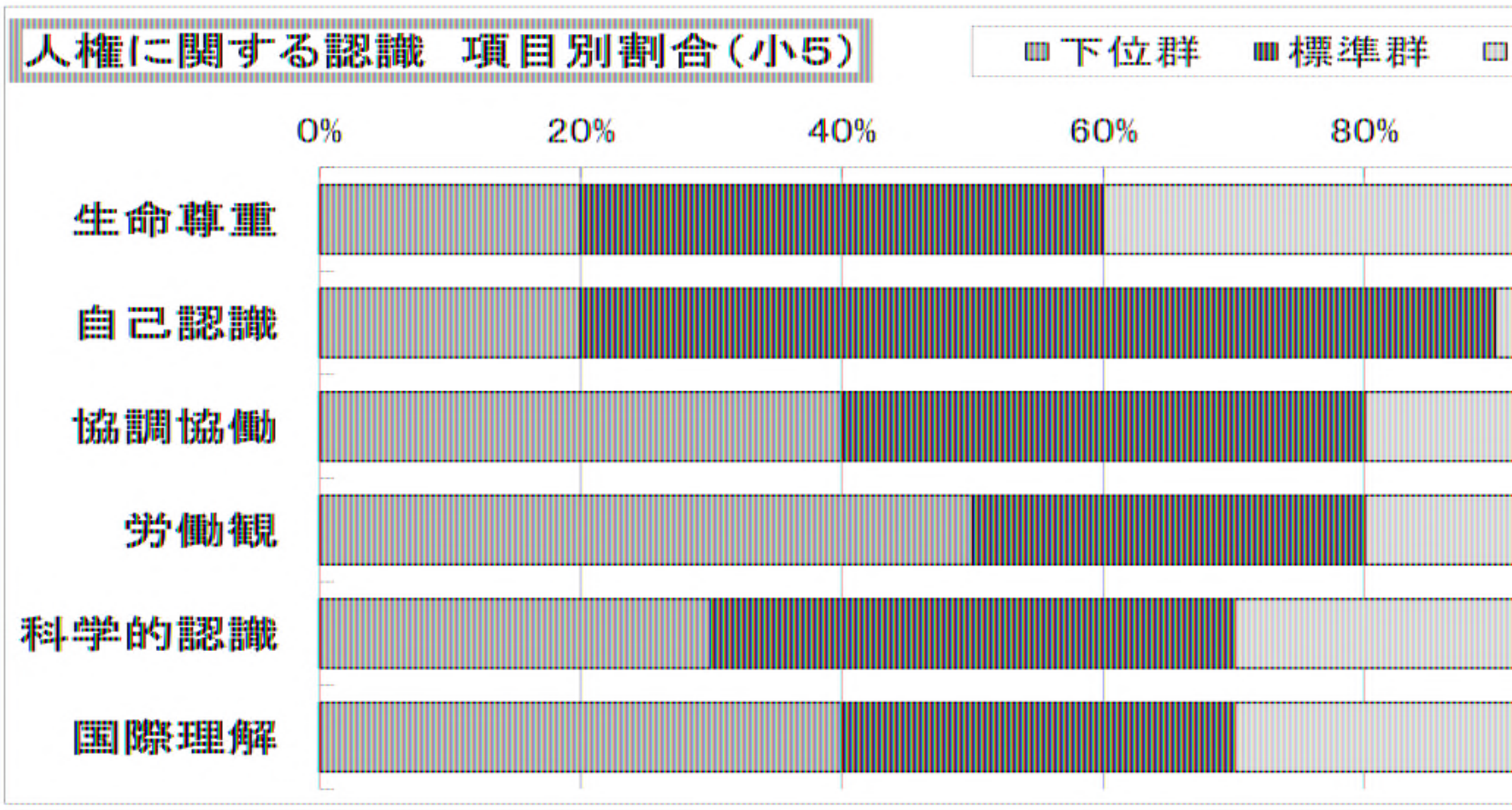
(4)「人権意識」改善への提案

学年の課題である<自己認識>への対応である。進路に関して、なりたい職業や夢などら始め、詳しく調べたり、他者の話を聞くなどして、キャリアを積んでいくことが大切に

内浦小学校

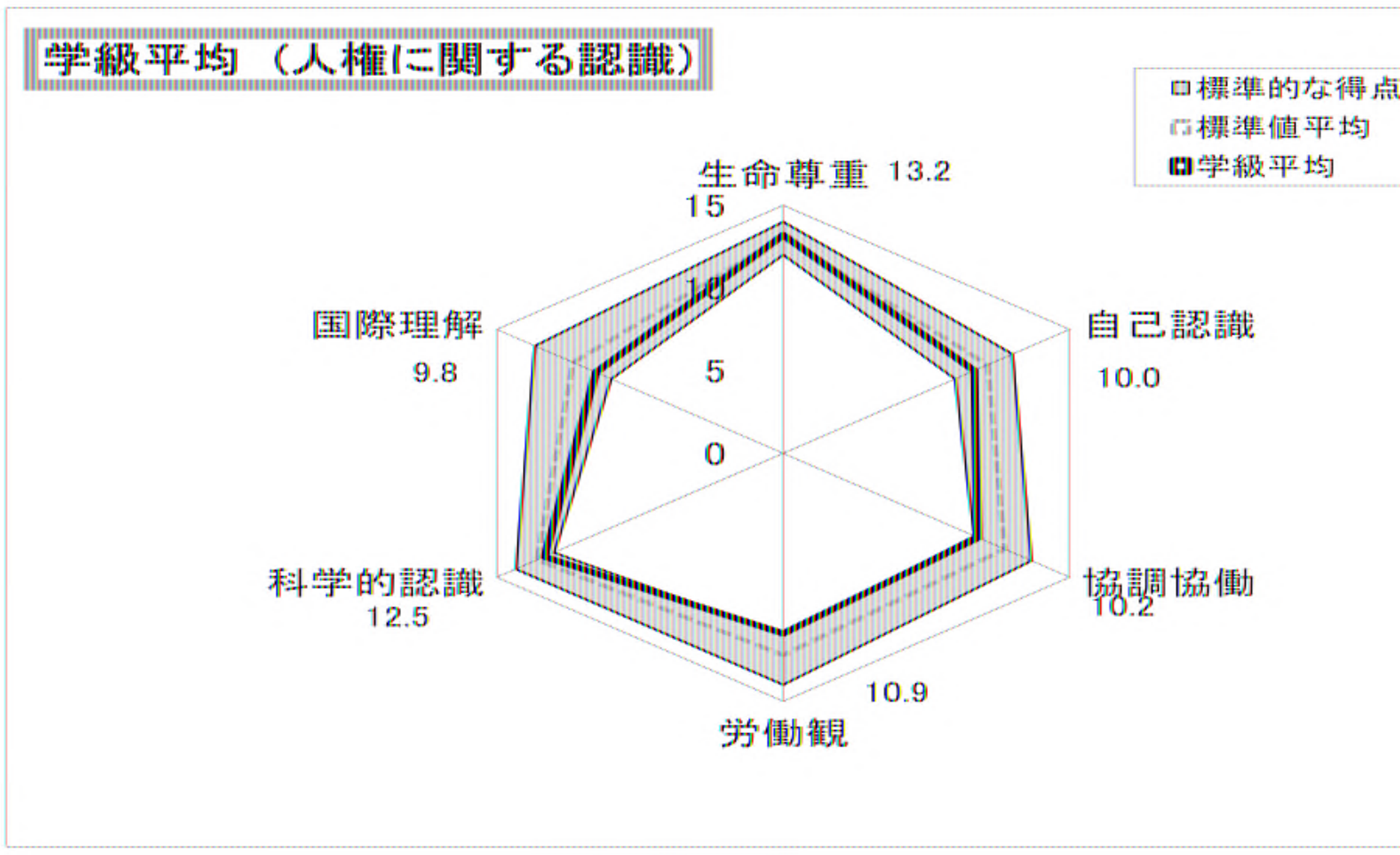
（石原航樹／川上滝盛）

認　識　　内浦小学校　　5年　1組

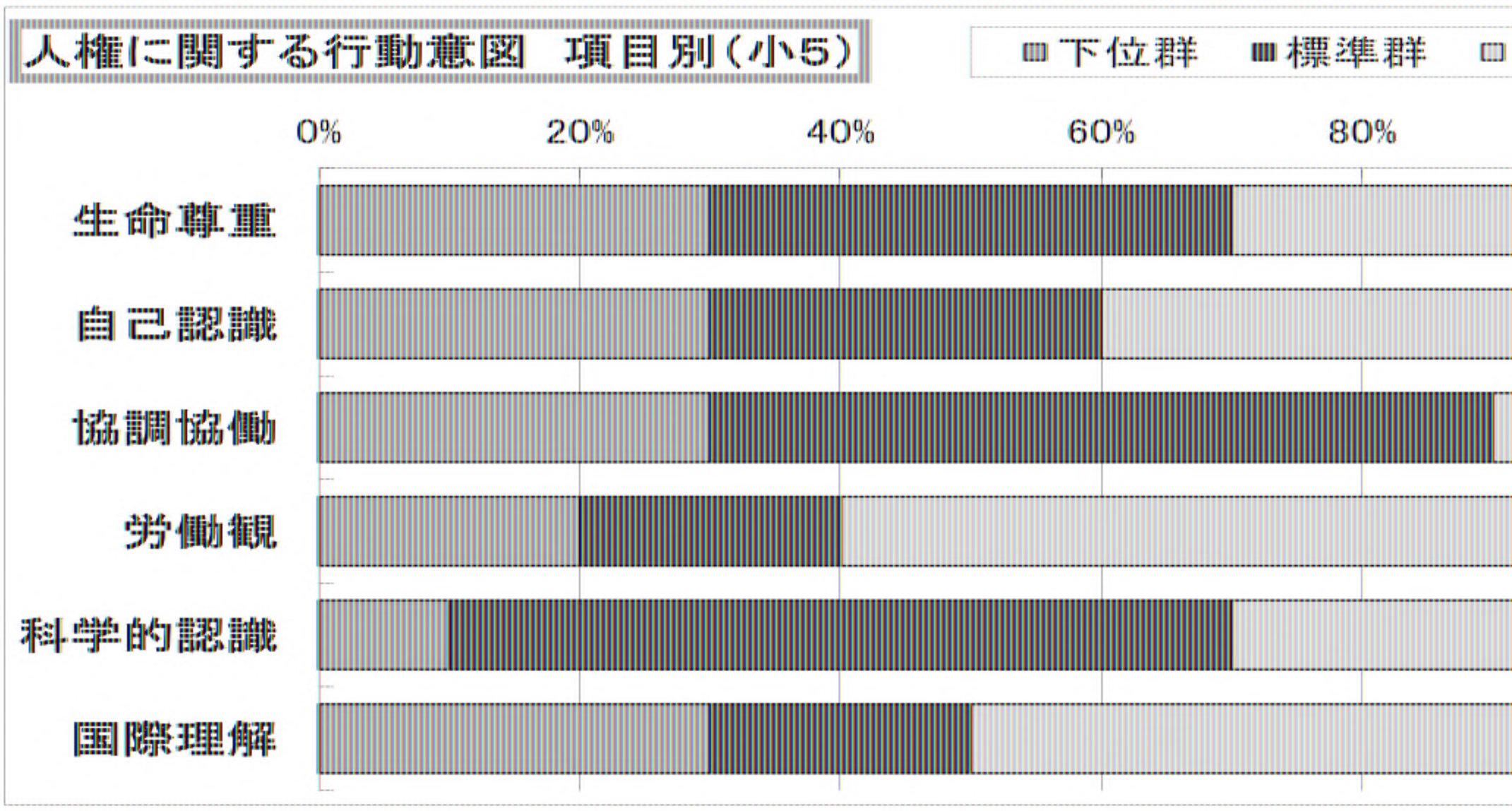


	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
上位群	40.0	↑	25.1	10.0	↓	21.9	20.0	↓	23.8	20.0	↑	17.0	30.0	↑	20.9
標準群	40.0	↓	58.0	70.0	↑	60.6	40.0	↓	59.0	30.0	↓	63.9	40.0	↓	59.0
下位群	20.0	↑	16.9	20.0	↑	17.5	40.0	↑	17.2	50.0	↑	19.1	30.0	↑	20.1

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	13.2	10.0	10.2	10.9	12.5
上位群	4	1	2	2	3
標準群	4	7	4	3	4
下位群	2	2	4	5	3

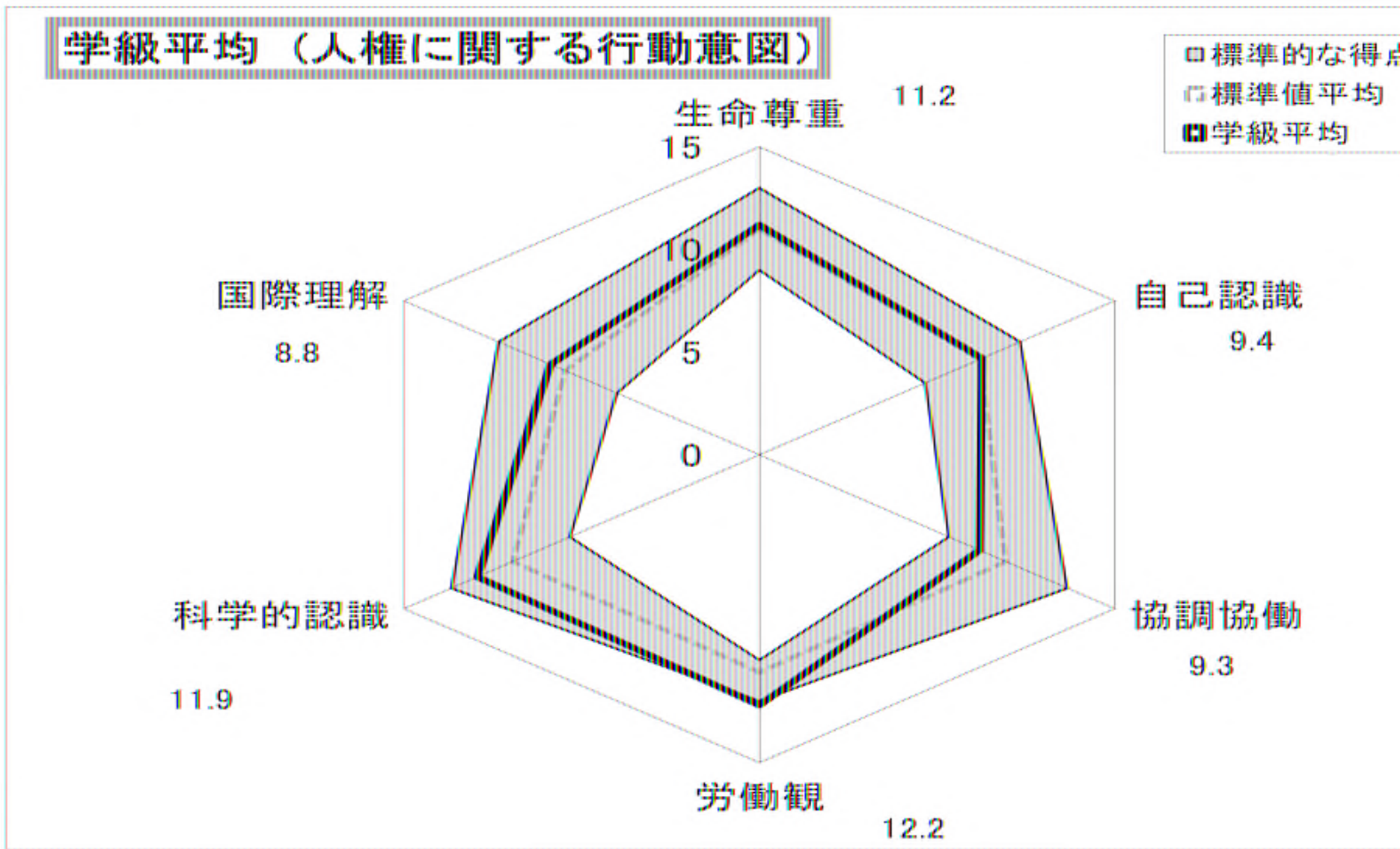


行動意図　　内浦小学校　　5年　　1組



	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
高群	30.0	↑	16.6	40.0	↑	22.7	10.0	↓	17.1	60.0	↑	8.8	30.0	↑	15.8
中群	40.0	↓	66.1	30.0	↓	59.6	60.0	↓	65.8	20.0	↓	69.1	60.0	↓	68.8
低群	30.0	↑	17.3	30.0	↑	17.7	30.0	↑	17.1	20.0	↓	22.1	10.0	↓	15.4

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	11.2	9.4	9.3	12.2	11.9
高群	3	4	1	6	3
中群	4	3	6	2	6
低群	3	3	3	2	1



【5 年 1 組】

(1) 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

全体をみると、6 領域はすべて（標準的な得点の範囲）内にある。学級の平均値が（標準
中心近くにある領域は＜生命尊重＞＜科学的認識＞で（認識）は標準レベルだが、他の 4 領
調協働＞＜労働観＞＜国際理解＞に対する（認識）は下限値に近くなっているのでやや低い

②帯グラフ

下位群の割合が最も高かった領域は＜労働観＞（50%）であり、ついで＜協調協働＞＜国
割合が多かった（40%）。しかし＜国際理解＞（30%）は上位群の割合も多かった。上位群
は＜生命尊重＞（40%）であり、＜科学認識＞（30%）も高かった。＜自己認識＞は上位群
が少なく標準群が 70%ともっとも多い割合を示した。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（認識）」の特徴の分析

（認識）が低い傾向にある＜自己認識＞＜協調協働＞＜労働観＞＜国際理解＞については
合が高くなっている標準群から上位群に引き上げる工夫をすることが期待される。＜協調協
際理解＞は割合が高い下位群に支援をすることで（認識）の傾向をより高い傾向に向上させる
られる。

(2) 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

全体をみると、6 領域はすべて（標準的な得点の範囲）内にある。学級の平均値が（標準
中心近くにある領域は＜生命尊重＞＜自己認識＞＜国際理解＞で（認識）は標準レベル、＜
識＞に対する（認識）は上限値に近くなっているのでやや高い傾向、＜協調協働＞は下限値
でやや低い傾向にあると言える。

②帯グラフ

下位群の割合が 20%以上の領域、いわゆる（行動意図）が低い傾向は＜生命尊重＞＜自己
＜国際理解＞＜労働観＞の 5 領域であり、＜科学的認識＞のみ 10%と（行動意図）に高い割
でみると、20%以上の領域、いわゆる（行動意図）が高い傾向は＜協調協働＞以外の 5 領域
最も多い割合を示した領域は＜協調協働＞＜科学的認識＞であった。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（行動意図）」の特徴の分析

クラス全体として、各領域で上位群と下位群の両方の割合がともに高い傾向にあり、特に
6 領域のうち、＜科学的認識＞を除く 5 領域の下位群への支援で全体的な（行動意図）の向
ーダーチャートで唯一（行動意図）がやや低い傾向にあった＜協調協働＞は、帯グラフで見る
上位群が少なく下位群が多いことが影響していると考えられる。

(3)「学級」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

＜生命尊重＞は（認識）及び（行動意図）がともに標準レベル、＜自己認識＞は（認識）
動意図）は標準レベル、＜協調協働＞は（認識）及び（行動意図）ともにやや低い傾向、＜
はやや低い傾向にあるが（行動意図）はやや高い傾向、＜科学的認識＞の（認識）は標準、
高い傾向、＜国際理解＞は（認識）はやや低い傾向にあるが（行動意図）は標準レベルであ

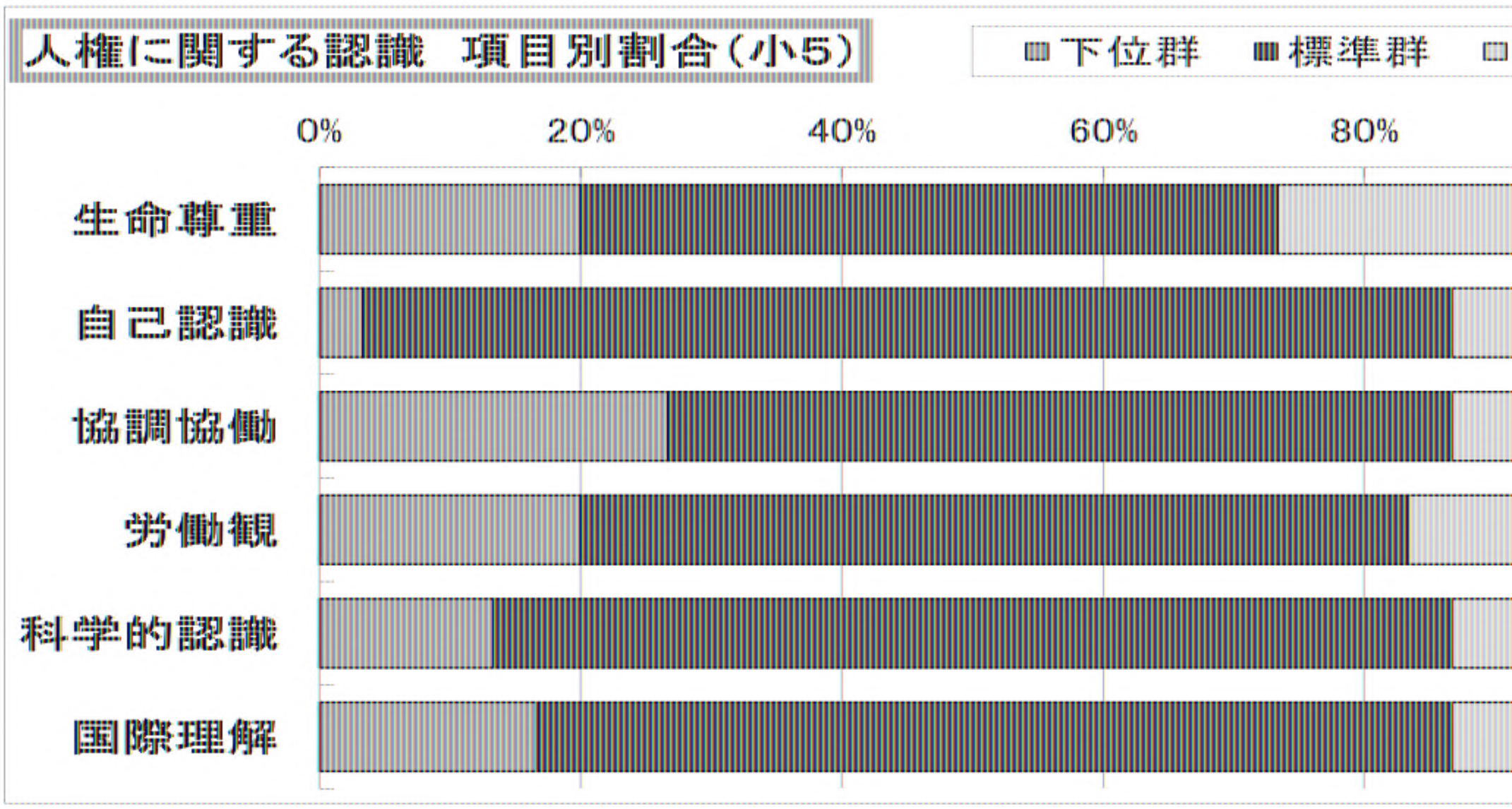
(4)「人権意識」改善への提案

クラスの特徴として、＜労働観＞と＜国際理解＞の（認識）が低い傾向にあった。＜労働
動意図）が高い傾向にあったので、将来的に（認識）の向上も期待する。ここでは、（認識）
（行動意図）が標準であった＜国際理解＞の（認識）を支援する提案をしたい。日本と他国
文化を尊重する態度を育てるために、岡垣在住の外国人との交流機会を増やすこと、DVD（
音楽 CD 等を活用して外国の文化やスポーツなどを身近に感じさせることはいかがだろうか

海老津小学校

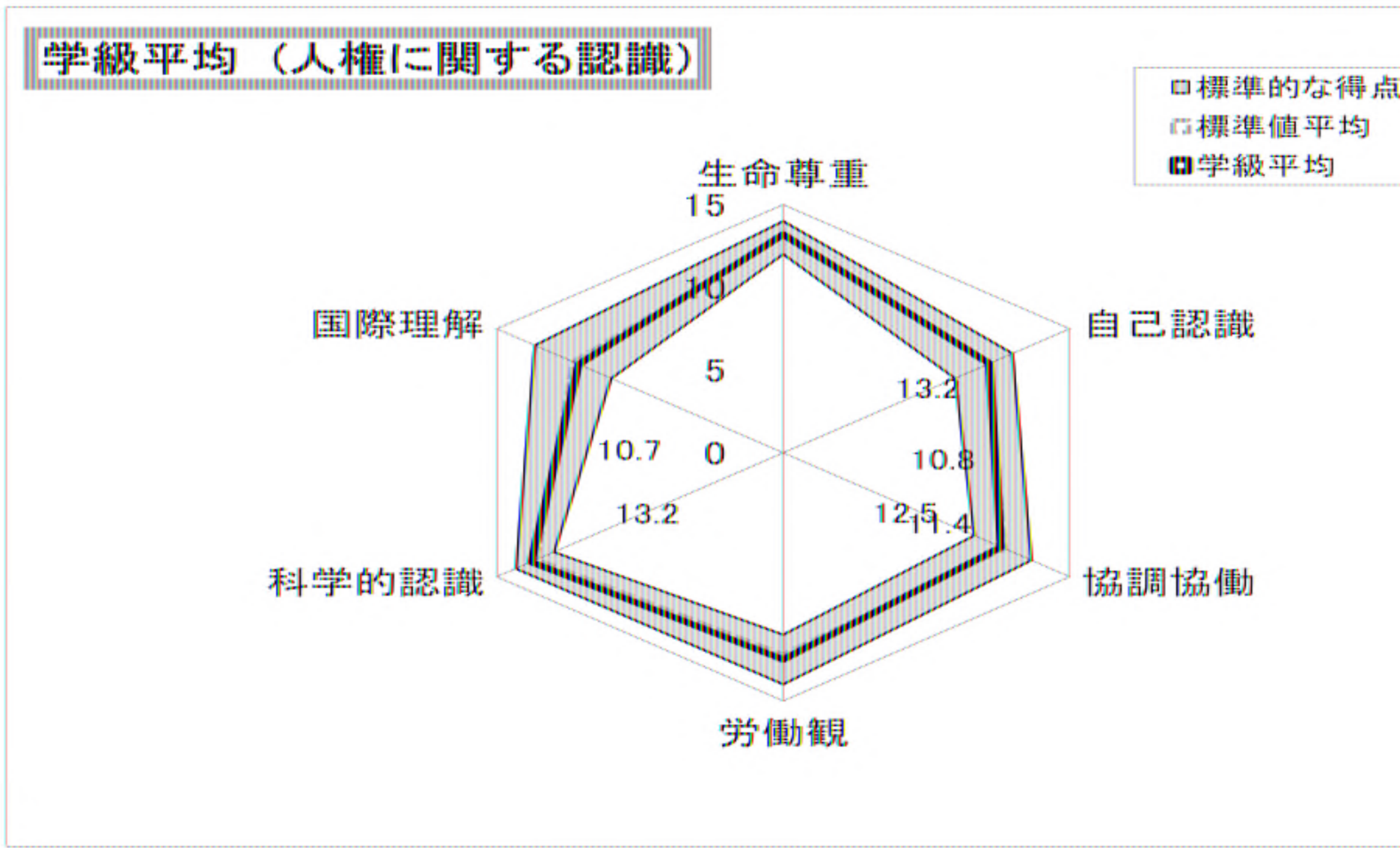
（大賀康平／今井智紀）

認　識　　海老津小学校　　5年　　1組

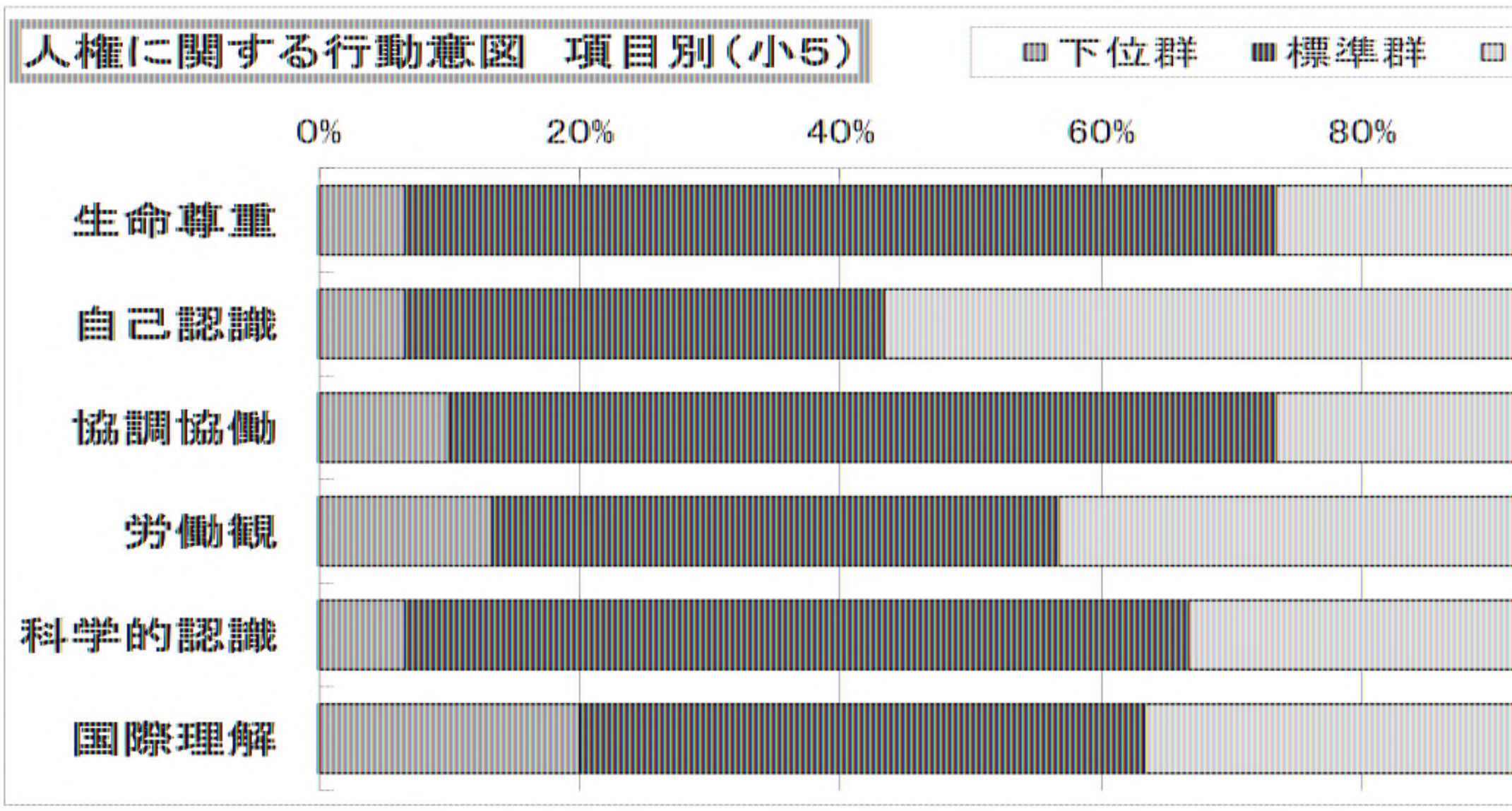


	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
上位群	26.7	↑	25.1	13.3	↓	21.9	13.3	↓	23.8	16.7		17.0	13.3	↓	20.9
標準群	53.3	↓	58.0	83.3	↑	60.6	60.0		59.0	63.3		63.9	73.3	↑	59.0
下位群	20.0	↑	16.9	3.3	↓	17.5	26.7	↑	17.2	20.0		19.1	13.3	↓	20.1

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	13.2	10.8	11.4	12.5	13.2
上位群	8	4	4	5	4
標準群	16	25	18	19	22
下位群	6	1	8	6	4

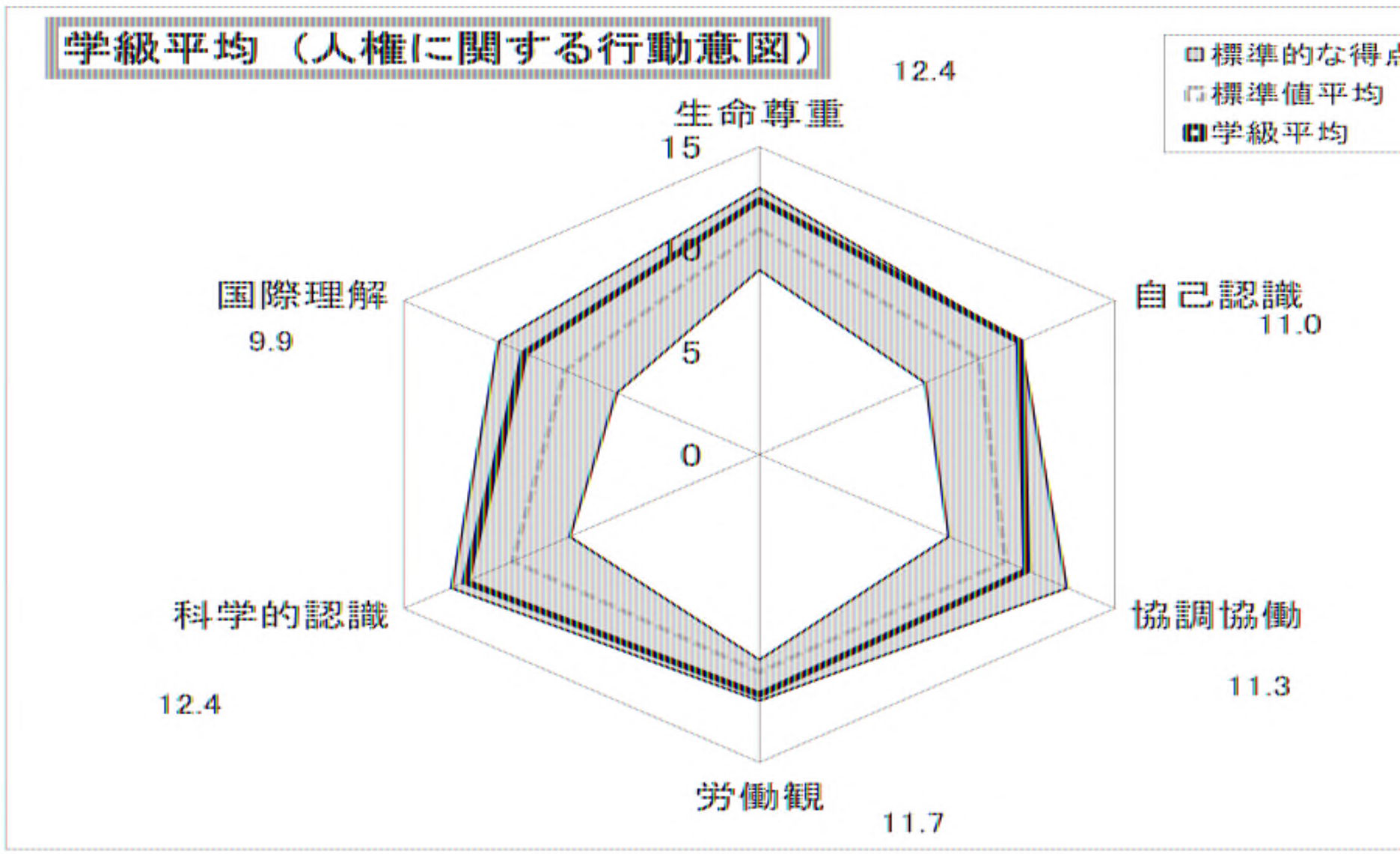


行動意図　　海老津小学校　　5年　　1組



	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
高群	26.7	↑	16.6	56.7	↑	22.7	26.7	↑	17.1	43.3	↑	8.8	33.3	↑	15.8
中群	66.7		66.1	36.7	↓	59.6	63.3	↓	65.8	43.3	↓	69.1	60.0	↓	68.8
低群	6.7	↓	17.3	6.7	↓	17.7	10.0	↓	17.1	13.3	↓	22.1	6.7	↓	15.4

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	12.4	11.0	11.3	11.7	12.4
高群	8	17	8	13	10
中群	20	11	19	13	18
低群	2	2	3	4	2



【5 年 1 組】

（1） 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

学級平均値は、（標準的な得点の範囲）内であり、6 領域すべてにおいて標準値平均に重な
は標準的だと判断できる。

②帯グラフ

＜生命尊重＞は、上位群が 20％を超え（認識）はやや高い傾向にあるが、下位群は 20％を
はやや低い傾向にある。＜自己認識＞は、標準群が上位群及び下位群を圧倒している。＜
群が 20％を超えておらず、下位群も 20％を超えており（認識）はやや低い傾向にある。＜
が 20％を超えておらず、下位群は 20％となっており（認識）は総じてやや低い傾向にある
国際理解＞は、下位群は 20％を下回っており（認識）はやや高い傾向にあるが、上位群はと
おらず（認識）には課題が残る。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（認識）」の特徴の分析

概ね、学級平均値は（標準的な得点の範囲）内であるが、＜生命尊重＞以外の 5 領域の
あり、これらの領域を改善することで、クラス全体の人権意識における（認識）が高まって

（2） 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

概ね、学級平均値は（標準的な得点の範囲）内である。さらに、すべての領域で標準値
ので、（行動意図）はやや高い傾向にあると判断できる。特に＜労働観＞は、（標準的な得
であり、（行動意図）は高い傾向にある。

②帯グラフ

＜生命尊重＞＜自己認識＞＜協調協働＞＜労働観＞＜科学的認識＞の 5 領域については、
え下位群が 20％を下回っており（行動意図）がやや高い傾向がある。＜国際理解＞は、上位
いるものの下位群が 20％あり（行動意図）はやや低い傾向にある。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（行動意図）」の特徴の分析

学級平均値が（標準的な得点の範囲）内で、すべての領域で標準値平均を上まわってい
はやや高い傾向にある。課題は＜国際理解＞の下位群への対応であろう。

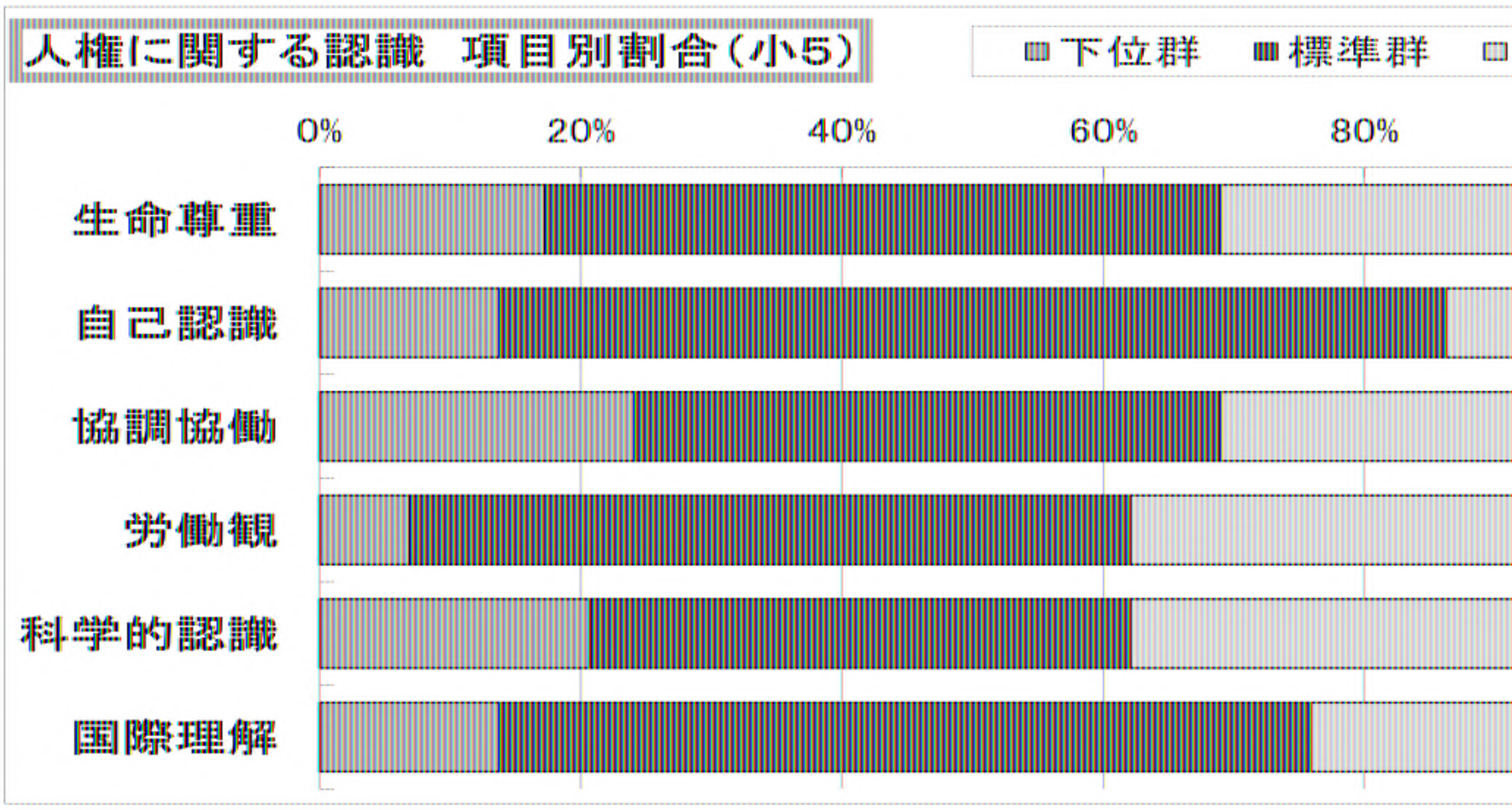
（3）「学級」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

上位群に着目すると、（行動意図）については、6 領域すべてにおいて上位群が 20％を超
向にあるが、（認識）については、＜生命尊重＞以外の上位群の（認識）低い傾向にあるの
群を増やす支援をすることが課題であろう。また、下位群に着目すると＜協調協働＞に課

（4）「人権意識」改善への提案

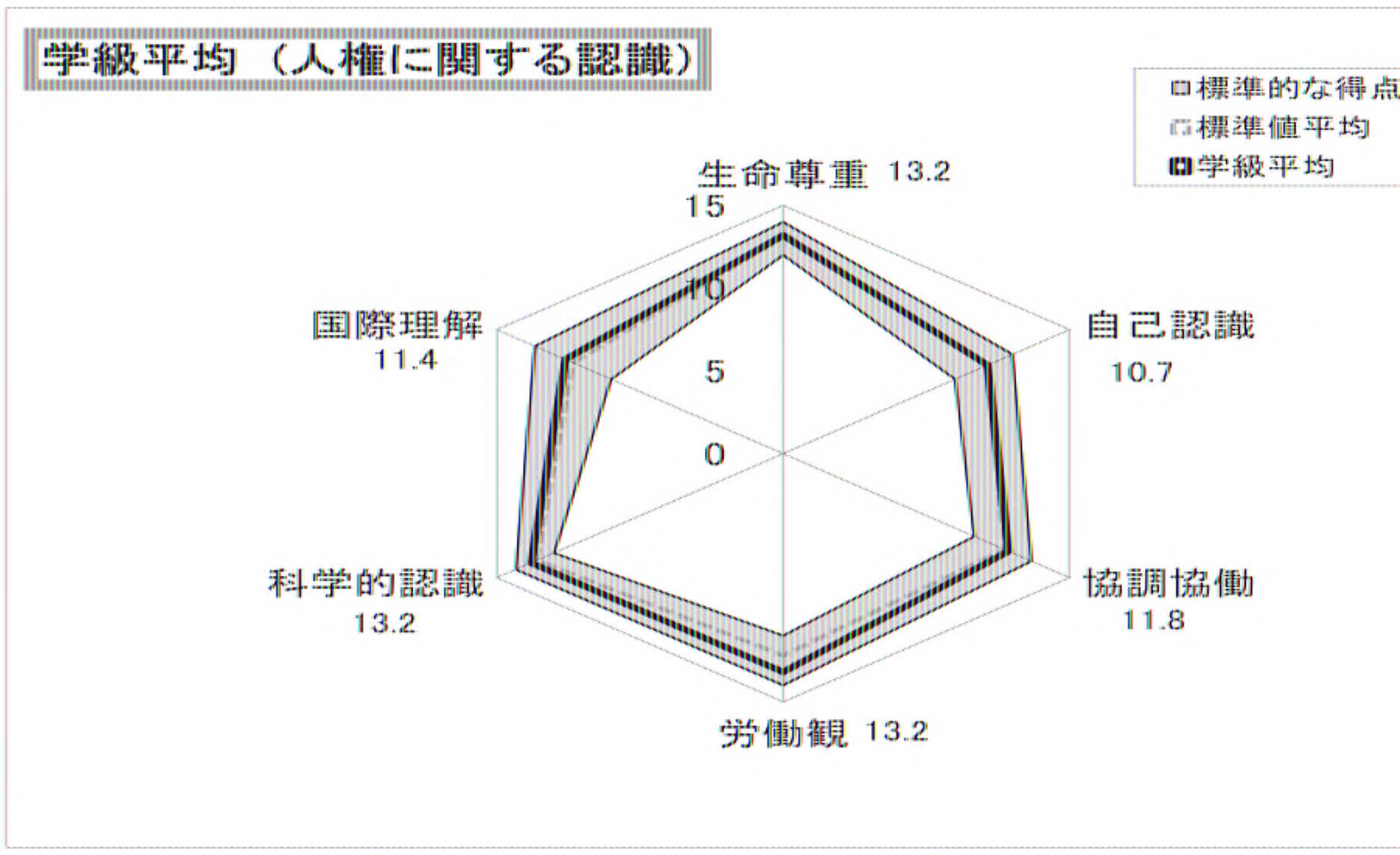
人権に関する（認識）における＜協調協働＞の領域の上位群を増やす対応について、多
とを理解し、相手を尊重し、協力して集団を高めようとする態度を育てることを実践する
育で行う集団競技で、チーム内で出た意見をみんなで捉え受け入れるような授業をするこ

認　識　　海老津小学校　　5年　2組

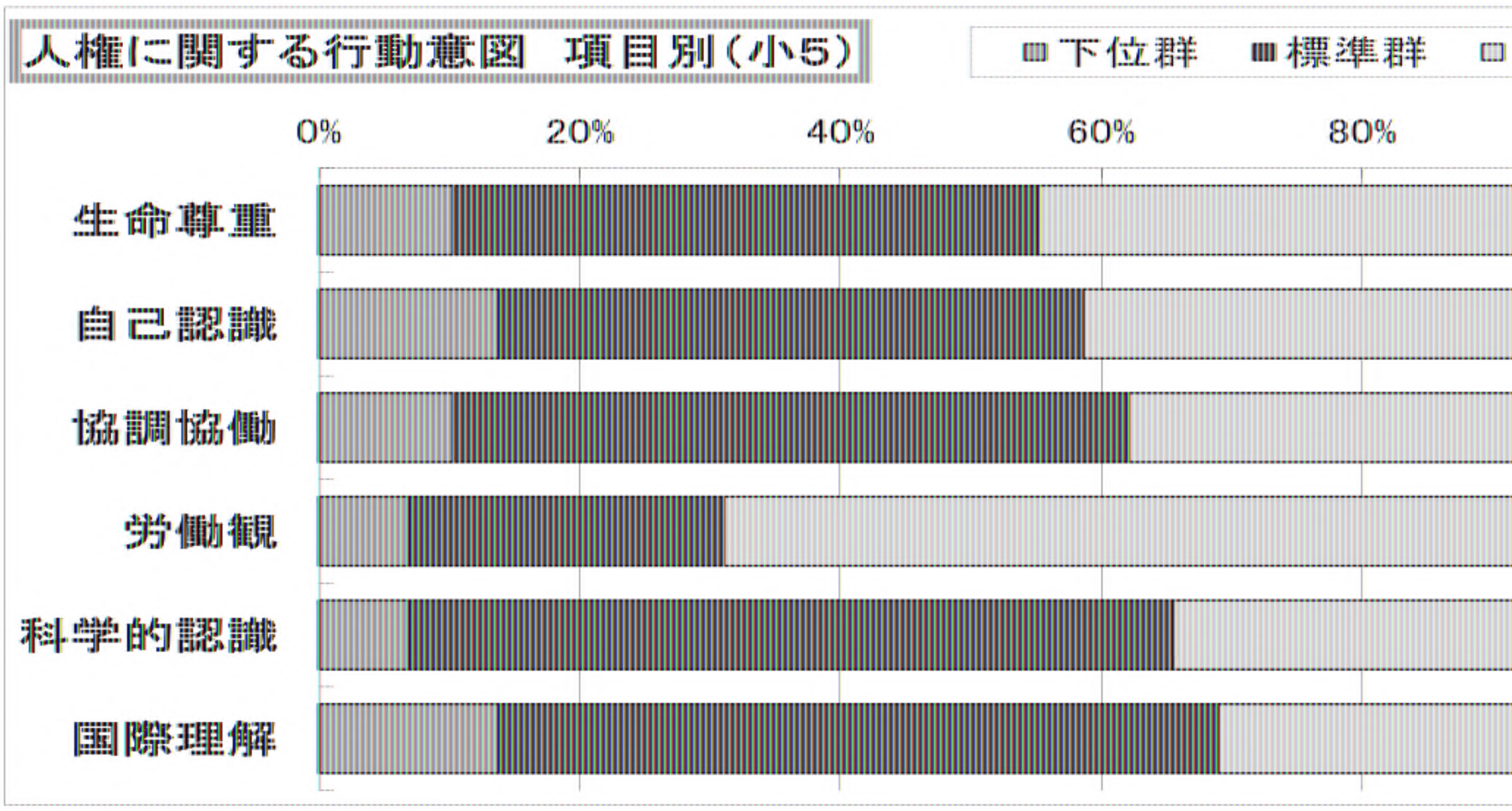


	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
上位群	31.0	↑	25.1	13.8	↓	21.9	31.0	↑	23.8	37.9	↑	17.0	37.9	↑	20.9
標準群	51.7	↓	58.0	72.4	↑	60.6	44.8	↓	59.0	55.2	↓	63.9	41.4	↓	59.0
下位群	17.2		16.9	13.8	↓	17.5	24.1	↑	17.2	6.9	↓	19.1	20.7		20.1

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	13.2	10.7	11.8	13.2	13.2
上位群	9	4	9	11	11
標準群	15	21	13	16	12
下位群	5	4	7	2	6

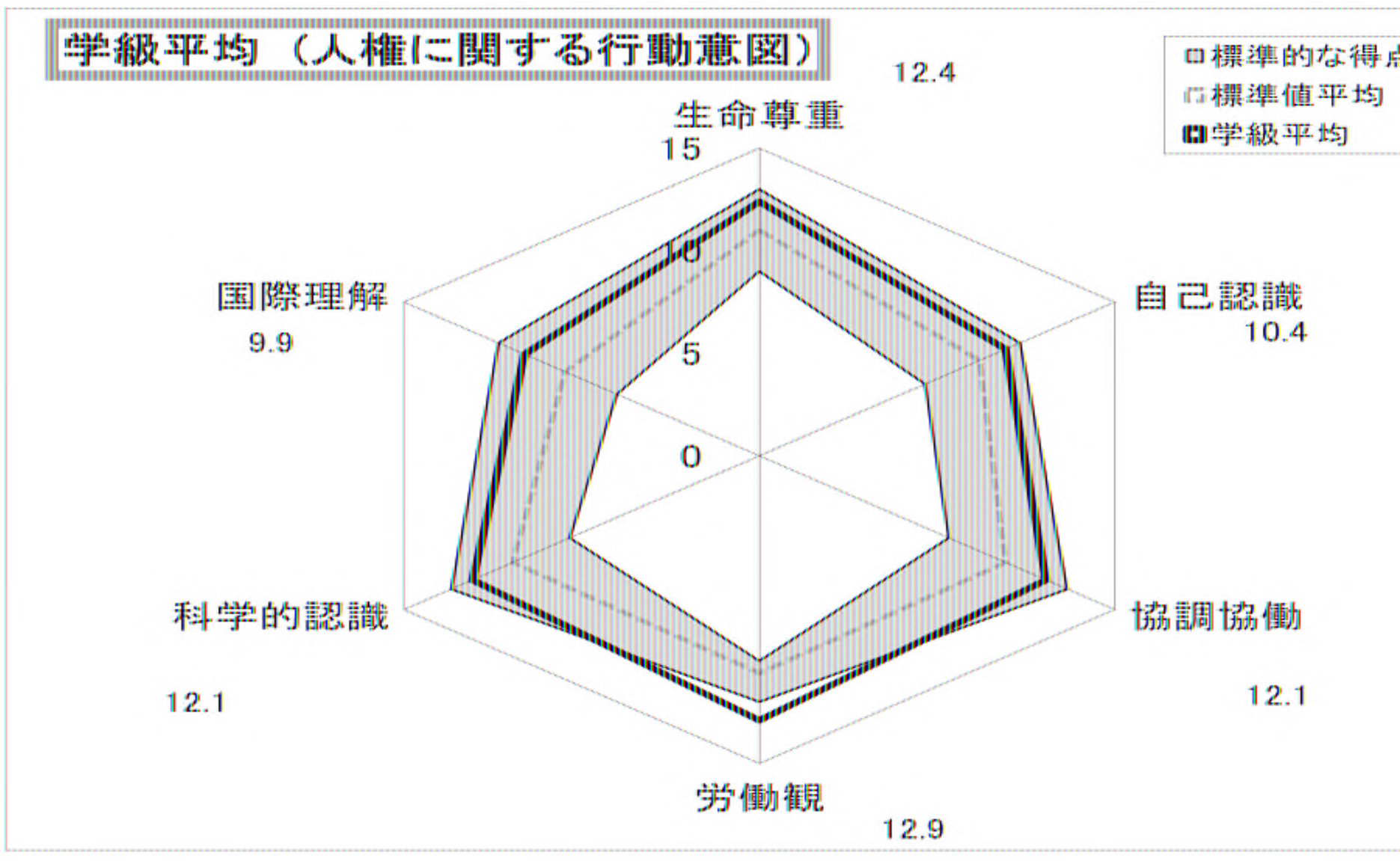


行動意図　　海老津小学校　　5年　2 組



	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
高群	44.8	↑	16.6	41.4	↑	22.7	37.9	↑	17.1	69.0	↑	8.8	34.5	↑	15.8
中群	44.8	↓	66.1	44.8	↓	59.6	51.7	↓	65.8	24.1	↓	69.1	58.6	↓	68.8
低群	10.3	↓	17.3	13.8	↓	17.7	10.3	↓	17.1	6.9	↓	22.1	6.9	↓	15.4

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	12.4	10.4	12.1	12.9	12.1
高群	13	12	11	20	10
中群	13	13	15	7	17
低群	3	4	3	2	2



【5 年 2 組】

(1) 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

学級平均値は、(標準的な得点の範囲) 内である。<労働観>は、(標準的な得点の範囲)
っているので、(認識) はやや高い傾向にある。他の 5 領域については、標準値平均に重な
標準的だと判断できる。

②帯グラフ

<生命尊重>は上位群が 20%を超え下位群は 20%を下回っており、(認識) はやや高い
認識>の上位群は 20%を超えていないが下位群は 20%を下回っているので (認識) はやや
協調協働>は上位群が 20%を超えているが下位群も 20%を超えており (認識) はやや低い
観>は上位群が 20%を超え、下位群は 20%を下回っているので (認識) は総じてやや高い
的認識>は上位群が 20%を超えているが、下位群も 20%を超えているので、(認識) はや
<国際理解>は上位群が 20%を超え、下位群は 20%を下回っているので(認識)は総じてや

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級 (認識)」の特徴の分析

概ね、学級平均値は (標準的な得点の範囲) 内である。レーダーチャートでは標準的で
<国際理解>は帯グラフではやや高い (認識) 傾向を示した。<労働観>は、レーダーチ
両方で高い (認識) 傾向にある。

(2) 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

概ね、学級平均値は (標準的な得点の範囲) 内である。さらに、すべての領域で標準値
か、(標準的な得点の範囲) の上限値に近く (行動意図) はやや高い傾向にあると判断でき
は、(標準的な得点の範囲) を超えており (行動意図) は高い傾向にある。

②帯グラフ

<生命尊重><自己認識><協調協働><労働観><科学的認識><国際理解>のすべ
は、上位群が 20%を超え下位群が 20%を下回っており (行動意図) がやや高い傾向がある

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級 (行動意図)」の特徴の分析

学級平均値が (標準的な得点の範囲) 内で、すべての領域で標準値平均を上まわってい
(行動意図) はやや高い傾向にある。特に<労働観>は特に (行動意図) が高い傾向があ

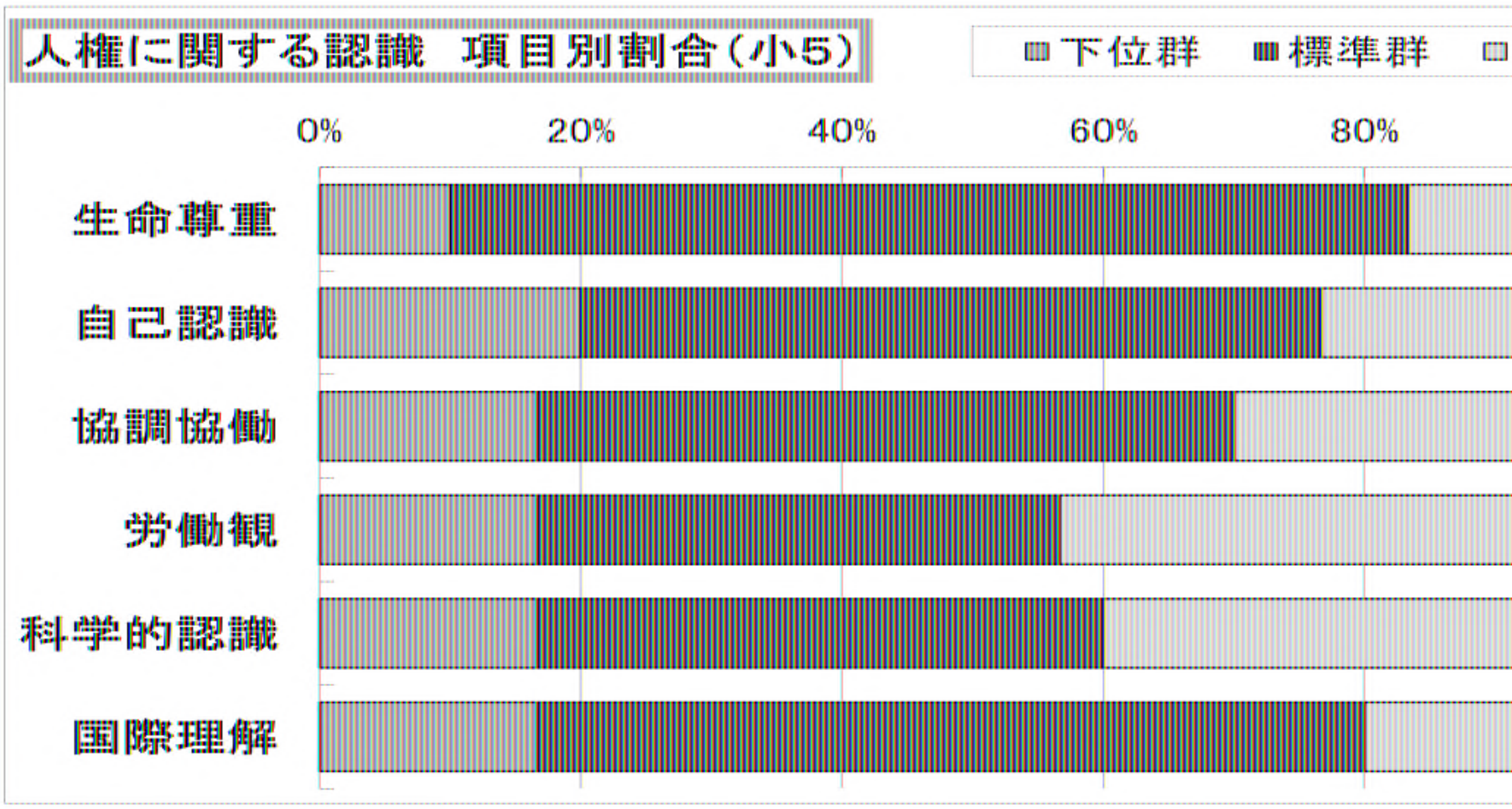
(3)「学級」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

(認識) (行動意図) に関する学級平均値は、概ね (標準的な得点の範囲) 内であり、す
平均か、又は超えており人権意識はやや高い傾向にある。(認識) においてレーダーチャー
た。<生命尊重><国際理解>は帯グラフではやや高い傾向を示した。(認識) (行動意図)
は、レーダーチャート及び帯グラフ両方で高い傾向にある。課題としては、(認識) (行動
が多い<自己認識>領域の改善であろう。

(4)「人権意識」改善への提案

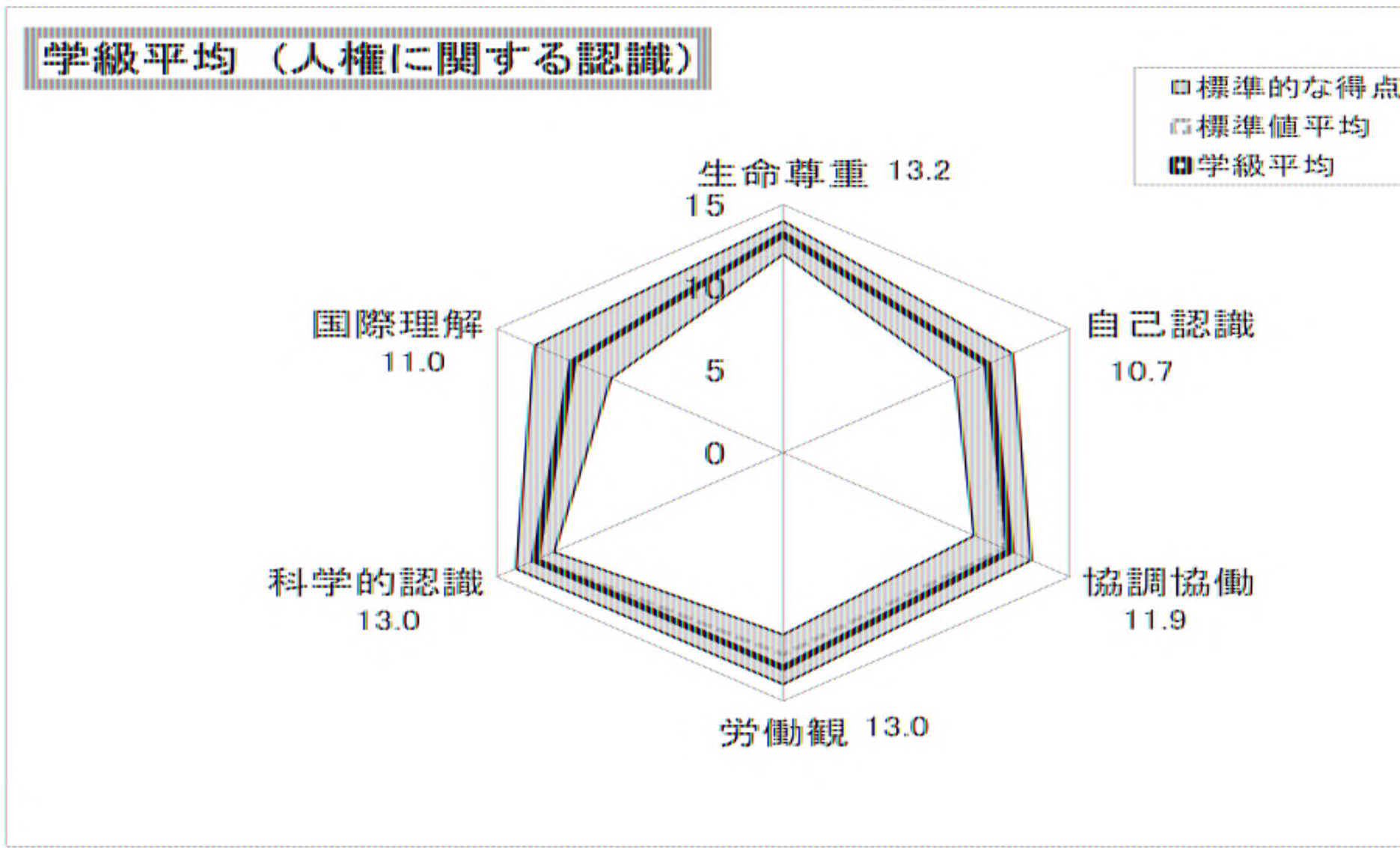
(認識) (行動意図) ともに標準群が多いことが課題と考えられる<自己認識>の支援と
に自信と誇りを持ち、理想の自己像に向かって努力しようとする態度を育てるため、例え
時間で、自分史を作り、1 年後、10 年後等、目標を立てることでそれに向かって努力する
導も考えられる。

認　識　　海老津小学校　　5年　3組

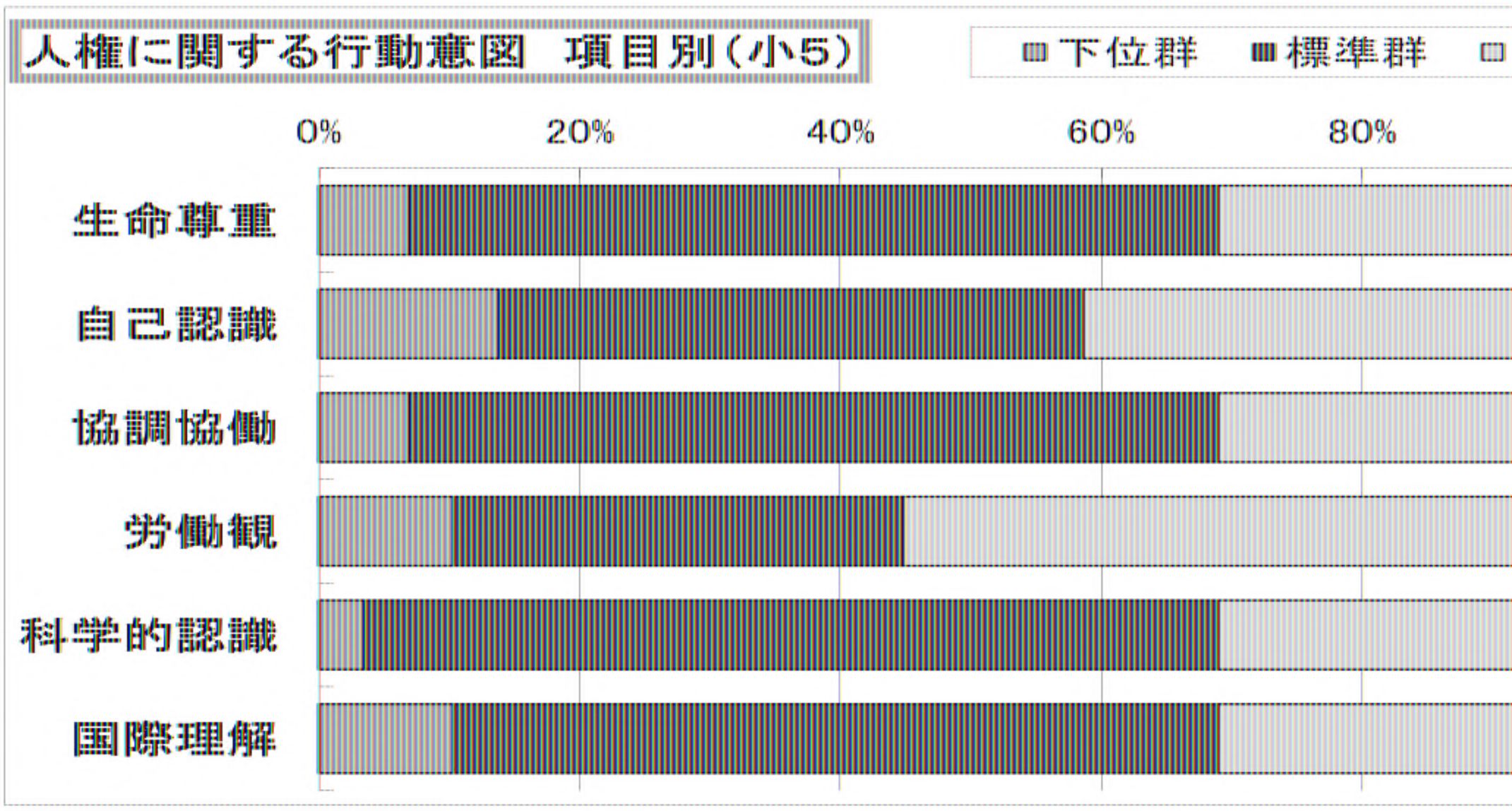


	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
上位群	16.7	↓	25.1	23.3	↑	21.9	30.0	↑	23.8	43.3	↑	17.0	40.0	↑	20.9
標準群	73.3	↑	58.0	56.7	↓	60.6	53.3	↓	59.0	40.0	↓	63.9	43.3	↓	59.0
下位群	10.0	↓	16.9	20.0	↑	17.5	16.7		17.2	16.7	↓	19.1	16.7	↓	20.1

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	13.2	10.7	11.9	13.0	13.0
上位群	5	7	9	13	12
標準群	22	17	16	12	13
下位群	3	6	5	5	5

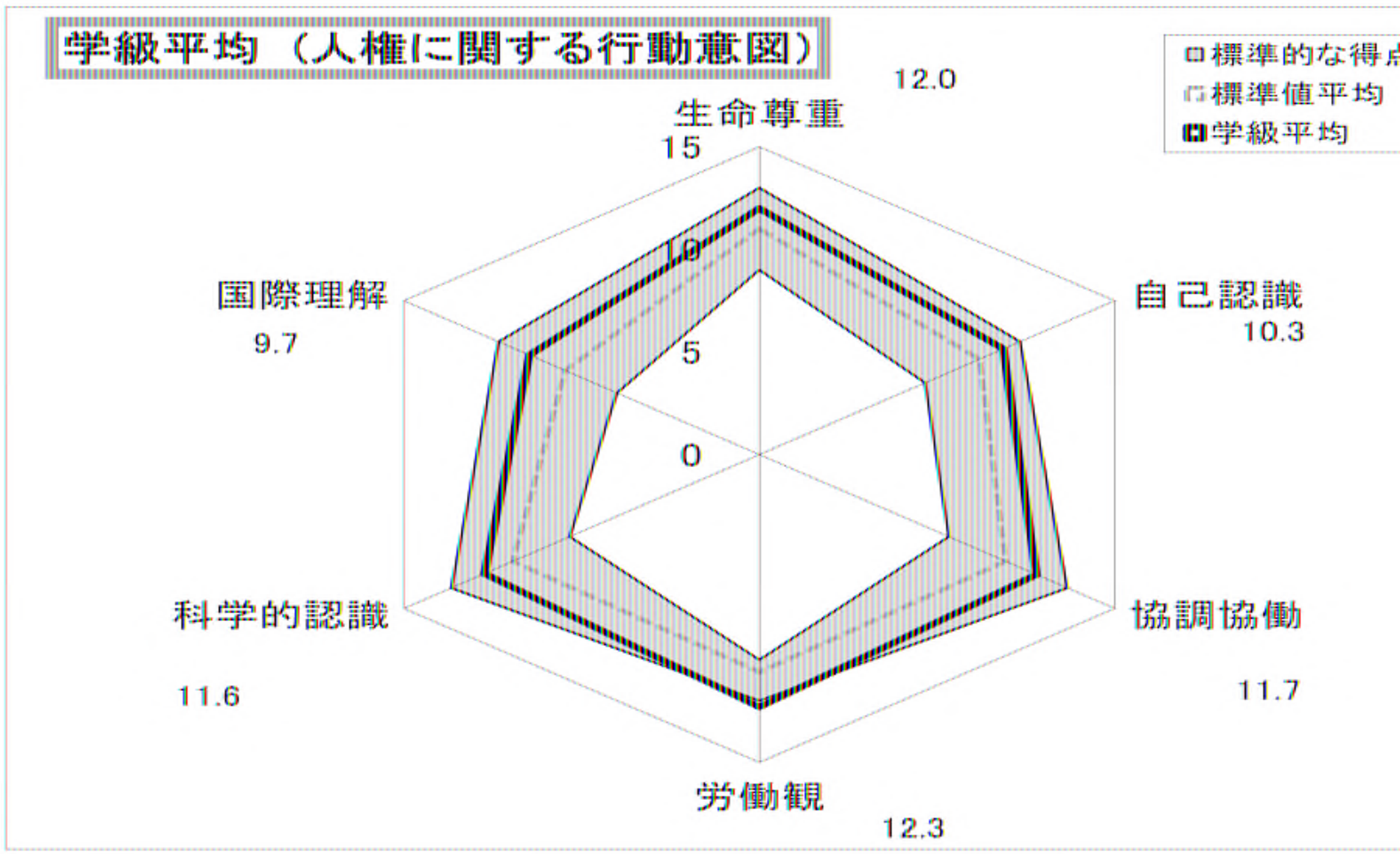


行動意図　　海老津小学校　　5年　　3組



	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
高群	31.0	↑	16.6	41.4	↑	22.7	31.0	↑	17.1	55.2	↑	8.8	31.0	↑	15.8
中群	62.1	↓	66.1	44.8	↓	59.6	62.1	↓	65.8	34.5	↓	69.1	65.5	↓	68.8
低群	6.9	↓	17.3	13.8	↓	17.7	6.9	↓	17.1	10.3	↓	22.1	3.4	↓	15.4

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	12.0	10.3	11.7	12.3	11.6
高群	9	12	9	16	9
中群	18	13	18	10	19
低群	2	4	2	3	1



【5 年 3 組】

(1) 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

学級平均値は、(標準的な得点の範囲) 内である。<労働観>は (標準的な得点の範囲) ○
ておりやや高い傾向にある。その他の 5 領域すべてにおいて標準値平均に重なっており、(
判断できる。

②帯グラフ

<生命尊重>は、上位群が 20%を下回り (認識) はやや低い傾向にあるが、下位群は 20%
識) はやや高い傾向にある。<自己認識>は、上位群が 20%を超え (認識) はやや高い傾
は 20%であり (認識) はやや低い傾向にある。<協調協働>は、上位群が 20%を超え、下
ておらず (認識) はやや高い傾向にある。<労働観>は、上位群が 20%を超え、下位群は 20
は総じてやや高い傾向にある。<科学的認識><国際理解>は、下位群は 20%を下回ってお
を超え認識は高い傾向にある。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級 (認識)」の特徴の分析

概ね、学級平均値は (標準的な得点の範囲) 内である。レーダーチャートでは<労働観>
特徴的であり、帯グラフでは<協調協働><労働観><科学的認識><国際理解>の 5 領域
傾向がみられる。

(2) 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

概ね、学級平均値は (標準的な得点の範囲) 内である。さらに、すべての領域で標準値平
ので、(行動意図) はやや高い傾向にあると判断できる。特に<労働観>は、(標準的な得
であり、(行動意図) は高い傾向にある。

②帯グラフ

<生命尊重><自己認識><協調協働><労働観><科学的認識>の 5 領域については、
え下位群が 20%を下回っており (行動意図) がやや高い傾向がある。<国際理解>は、上位
いるものの下位群が 20%あり (行動意図) はやや低い傾向にある。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級 (行動意図)」の特徴の分析

学級平均値が (標準的な得点の範囲) 内で、すべての領域で標準値平均を上まわってい
はやや高い傾向にある。特に<労働観>の (行動意図) は高い傾向にある。課題は<国際理
の下位群への対応であろう。

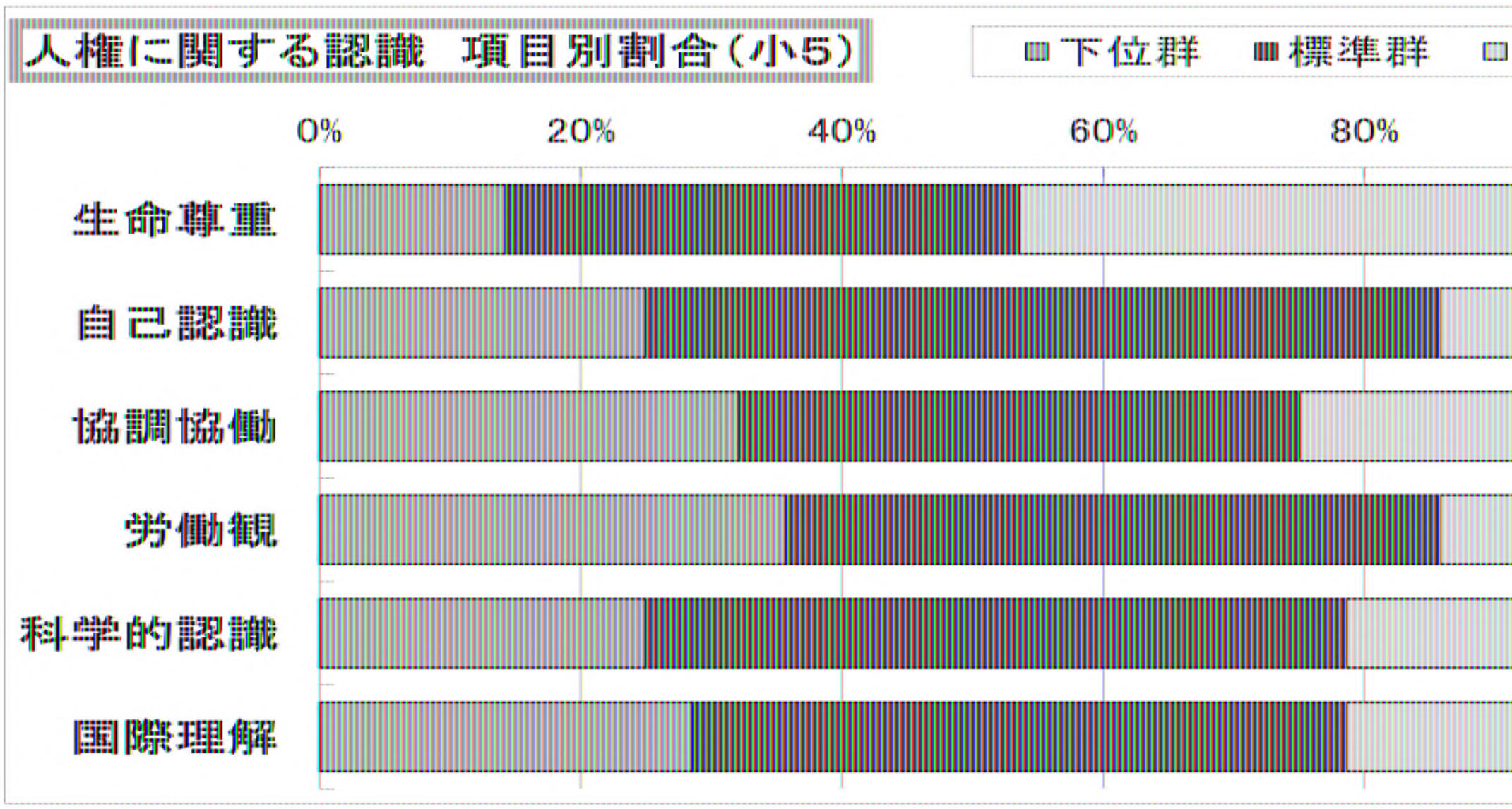
(3)「学級」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

(認識) (行動意図) ともに学級平均値は (標準的な得点の範囲) 内である。(認識) に
チャートでは<労働観>の高い傾向が特徴的であり、帯グラフでは<協調協働><労働観
国際理解>の 5 領域がやや高い (認識) 傾向がみられた。課題は<生命尊重>の標準群が
である。(行動意図) については、特に<労働観>は高い傾向にあった。課題は<国際理解
であろう。

(4)「人権意識」改善への提案

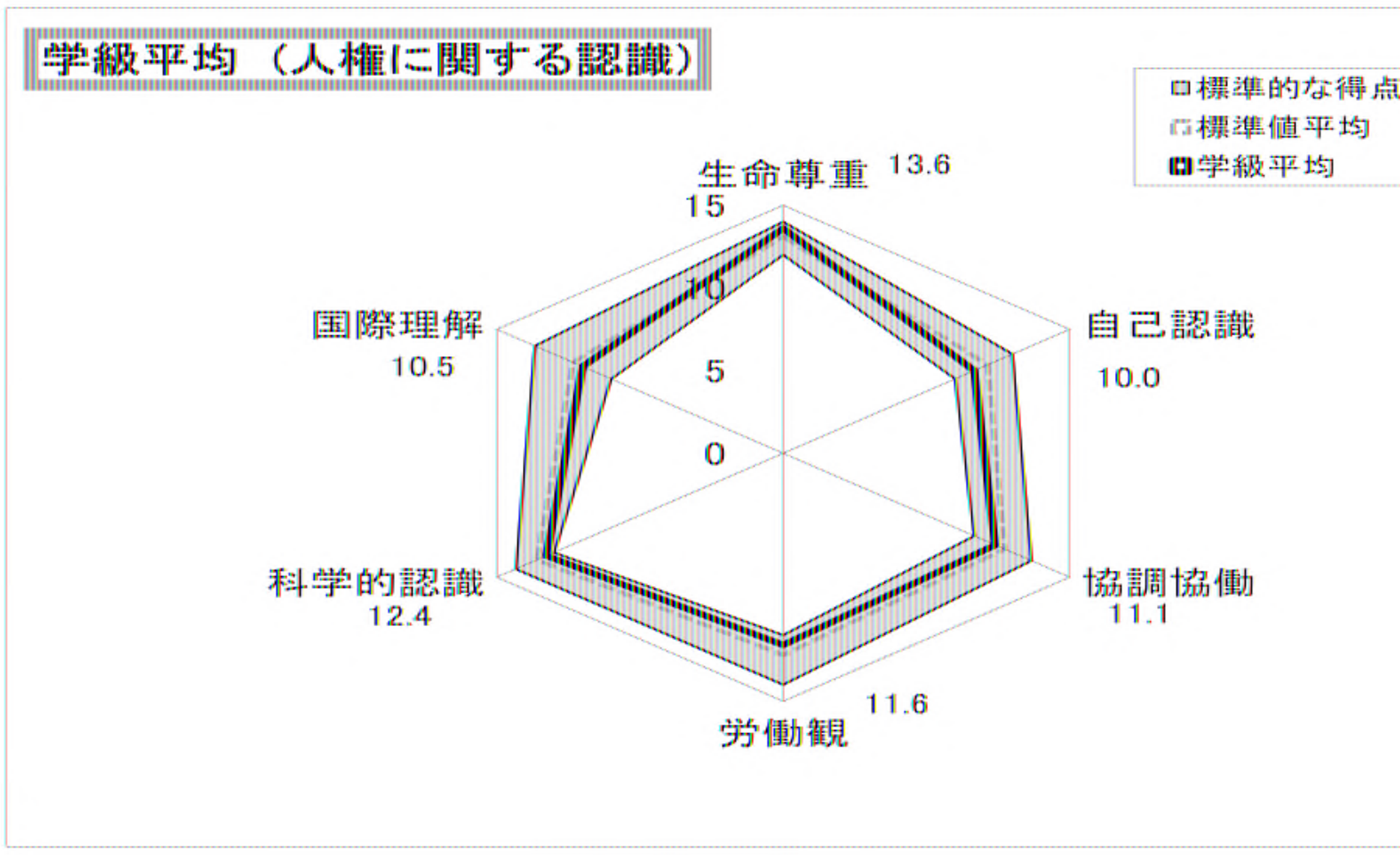
(認識) における<生命尊重>への支援として、人間の生活と自然との関係を理解させ
を大切にしようとする意欲や態度を育てるため、例えば、植物を育てる時に、降水量等を
を変えたり、夏の日差しが強い時期には朝、夕に水をあげたり、自然との関係を考えて植
る授業が考えられる。

認　識　　海老津小学校　　5年　　4組

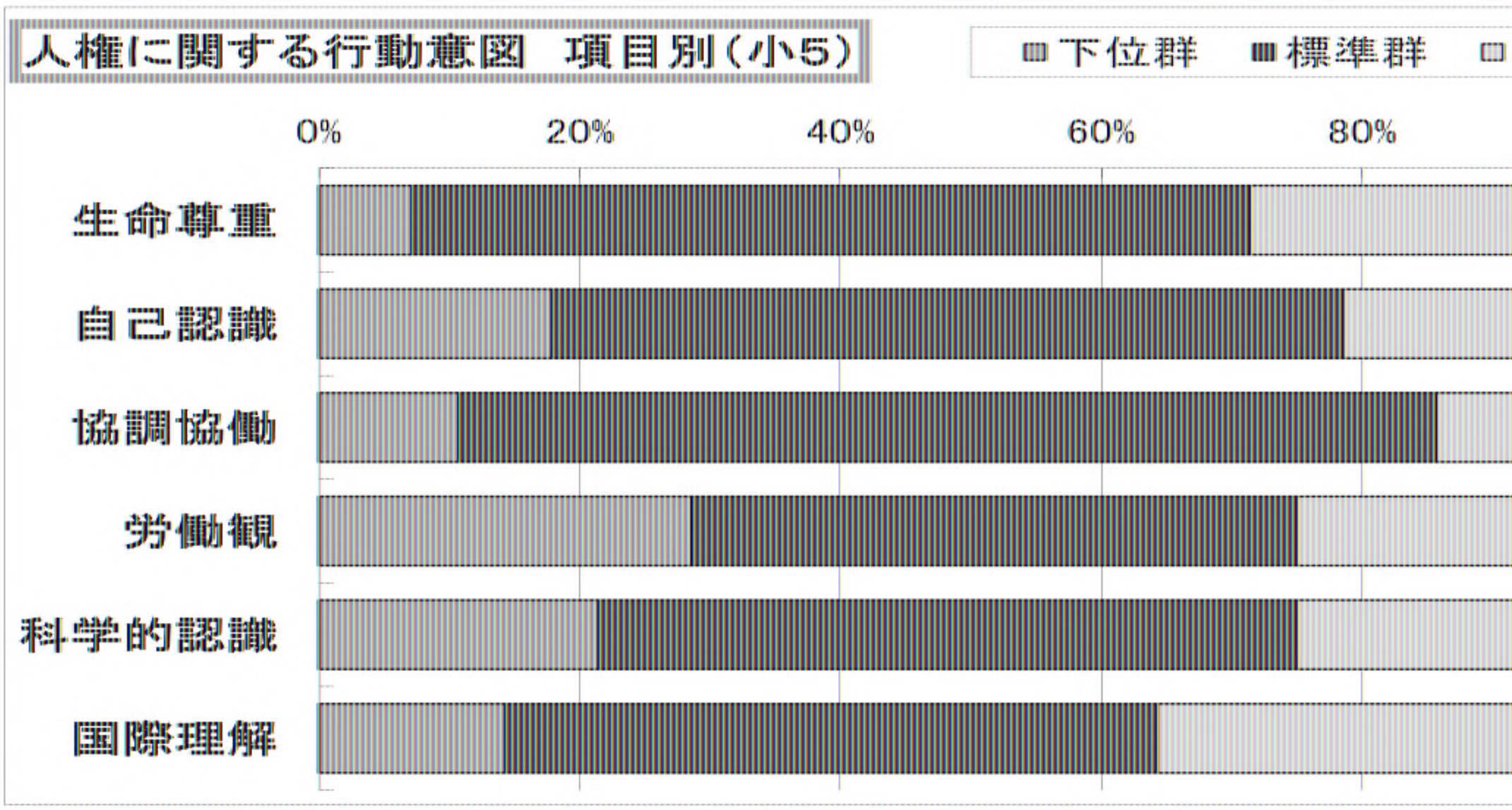


	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
上位群	46.4	↑	25.1	14.3	↓	21.9	25.0	↑	23.8	14.3	↓	17.0	21.4		20.9
標準群	39.3	↓	58.0	60.7		60.6	42.9	↓	59.0	50.0	↓	63.9	53.6	↓	59.0
下位群	14.3	↓	16.9	25.0	↑	17.5	32.1	↑	17.2	35.7	↑	19.1	25.0	↑	20.1

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	13.6	10.0	11.1	11.6	12.4
上位群	13	4	7	4	6
標準群	11	17	12	14	15
下位群	4	7	9	10	7

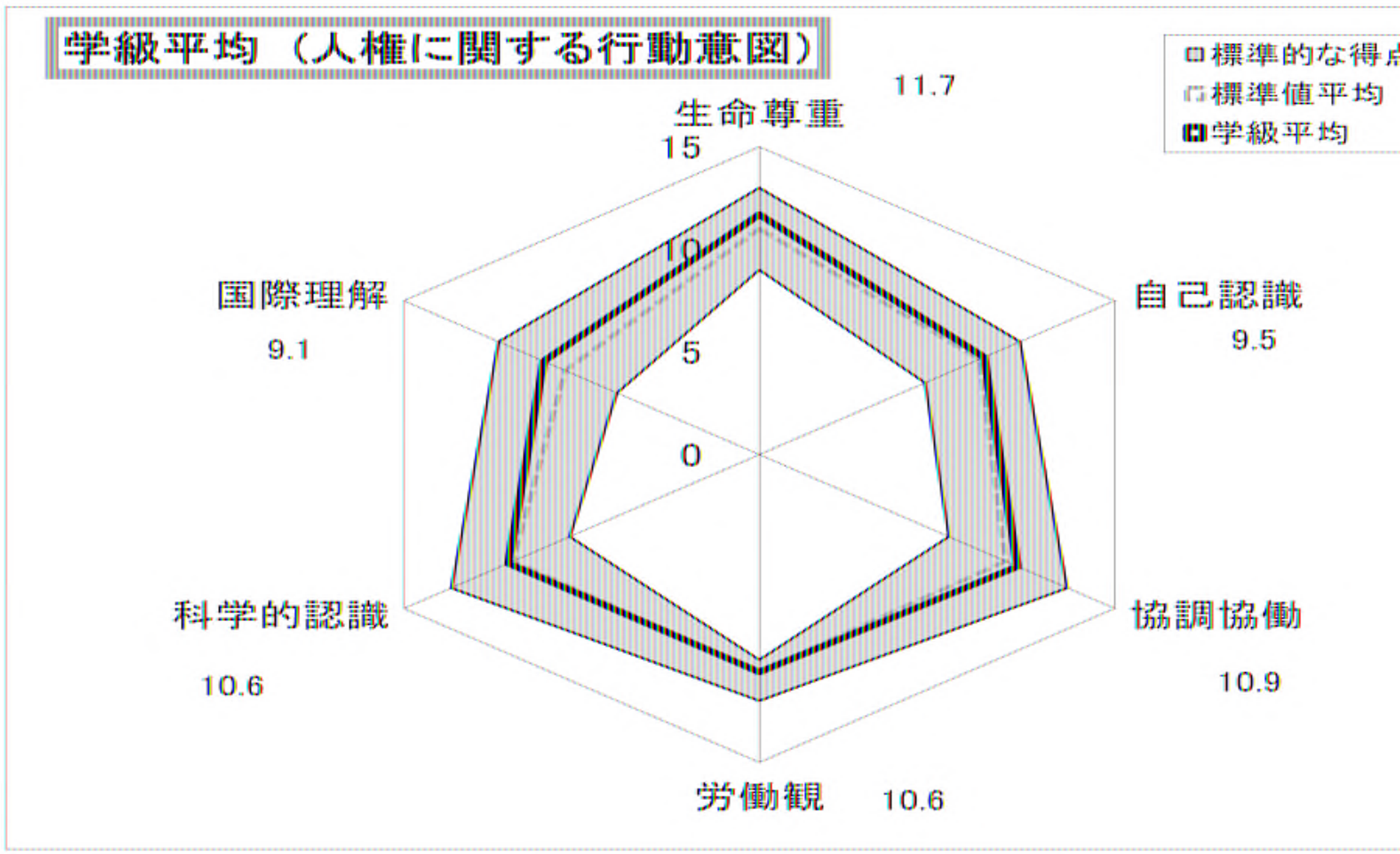


行動意図　　海老津小学校　　5年　　4組



	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
高群	28.6	↑	16.6	21.4	↓	22.7	14.3	↓	17.1	25.0	↑	8.8	25.0	↑	15.8
中群	64.3	↓	66.1	60.7	↑	59.6	75.0	↑	65.8	46.4	↓	69.1	53.6	↓	68.8
低群	7.1	↓	17.3	17.9		17.7	10.7	↓	17.1	28.6	↑	22.1	21.4	↑	15.4

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	11.7	9.5	10.9	10.6	10.6
高群	8	6	4	7	7
中群	18	17	21	13	15
低群	2	5	3	8	6



【5 年 4 組】

（1） 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

学級平均値は、（標準的な得点の範囲）内である。＜生命尊重＞は（標準的な得点の範囲）識）が高い傾向にある。他の 5 領域においては（標準的な得点の範囲）の下限値に近くな
やや低い傾向にある。

②帯グラフ

＜生命尊重＞は上位群が 20%を超え下位群は 20%を下回っているので（認識）はやや高
己認識＞は上位群が 20%を超えておらず下位群が 20%を超えているので（認識）はやや低
調協働＞は上位群が 20%を超えておらず下位群は 20%を超えているので（認識）はやや低
働観＞は上位群が 20%を超えておらず下位群は 35%となっており（認識）はやや低い傾向
識＞＜国際理解＞の上位群はともに 20%を超えているが下位群は 20%を超えておりやや低

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（認識）」の特徴の分析

学級平均値は（標準的な得点の範囲）内である。レーダーチャート及び帯グラフの両方
外の 5 領域がやや低い傾向にある。＜科学的認識＞＜国際理解＞は上位群はともに 20%を超
（認識）傾向を示しているので、この点を切り口に人権意識全般を改善したい。また＜労働観
となっており改善の余地が大いにある。

（2） 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

学級平均値は（標準的な得点の範囲）内である。すべての領域で標準値平均を上回ってい
はやや高い傾向にあると判断できる。

②帯グラフ

＜生命尊重＞＜自己認識＞＜国際理解＞の 3 領域については、上位群が 20%を超え下位群
おり（行動意図）がやや高い傾向がある。＜労働観＞＜科学的認識＞＜協調協働＞は上位群
ないものの下位群が 20%を下回っているので改善したい。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（行動意図）」の特徴の分析

学級平均値が（標準的な得点の範囲）内である。すべての領域で標準値平均を上まわって
図）はやや高い傾向にある。課題は＜労働観＞＜科学的認識＞＜協調協働＞の上位群への

（3）「学級」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

（認識）（行動意図）とともに学級平均値は（標準的な得点の範囲）内である。（認識）
以外の 5 領域が低い傾向にあるが、＜科学的認識＞＜国際理解＞の上位群はともに 20%を
切り口にしたい。＜労働観＞の下位群は 35%となっており改善の余地が大いにある。（行
ての領域で標準値平均を上まわっているのでやや高い傾向にある。（認識）よりも（行動意
向にある。課題は＜労働観＞＜科学的認識＞＜協調協働＞の上位群への対応であり、特に
たい。

（4）「人権意識」改善への提案

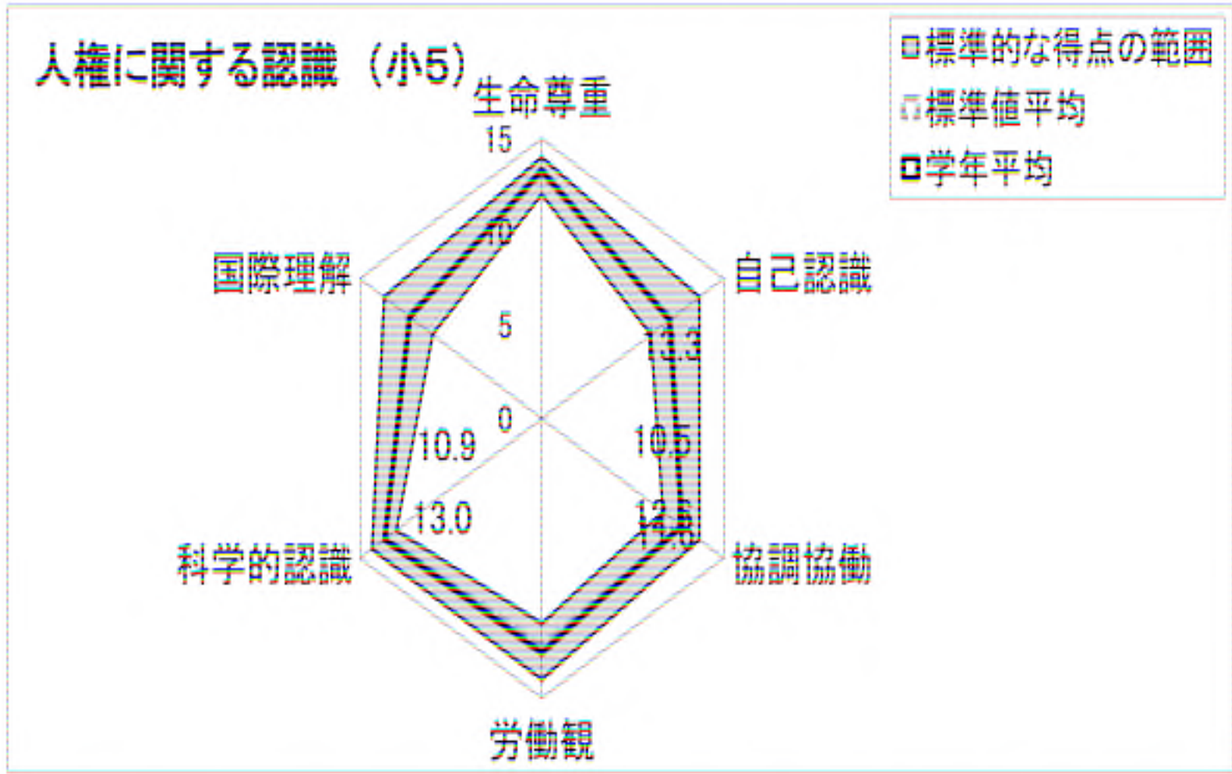
＜労働観＞の支援として、労働と生活との関係について理解を深めさせ労働によって生
意欲を養い身近な職業差別や性別役割分担について考えさせることを目標に、例えば、工
興味のある仕事を見つけ、職場での問題点などを見つけ出す等の学びが考えられる。

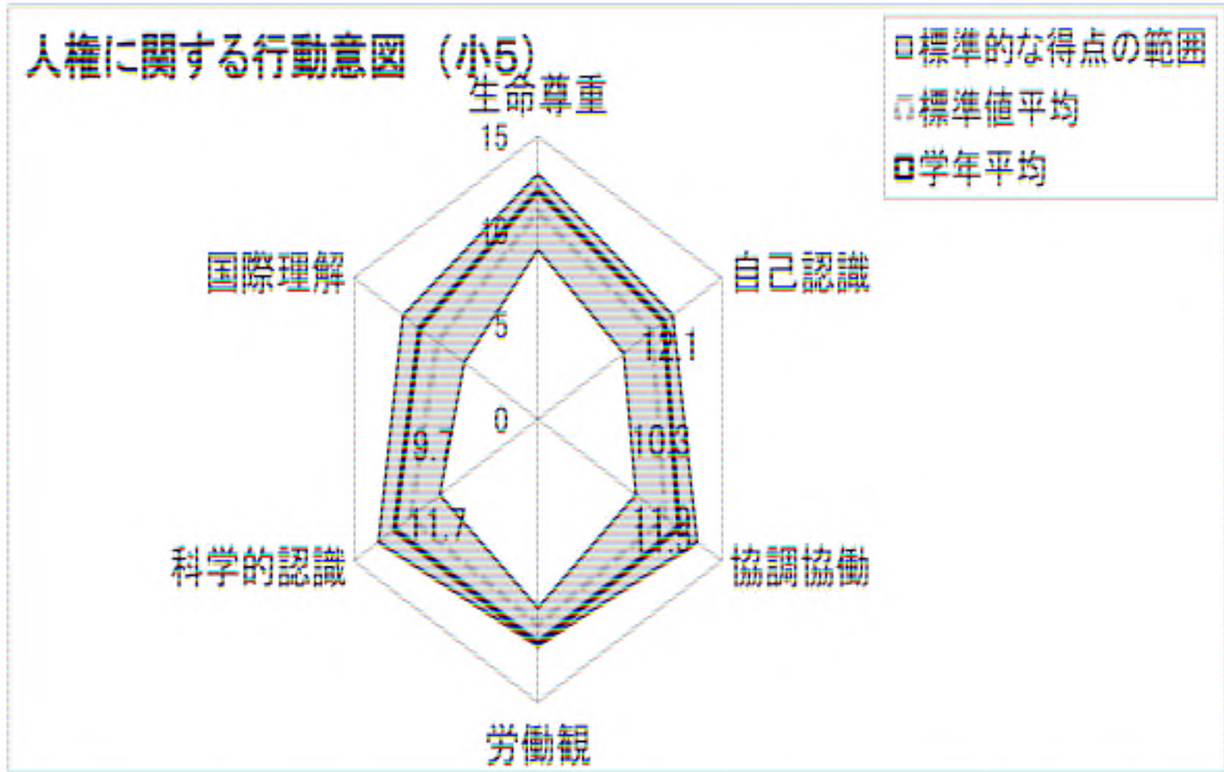
［海老津小学校　第５学年］

認識
学校名
海老津小学校

人権に関する認識	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識	国際理解
学年平均	13.3	10.5	11.6	12.6	13.0	10.9
標準値平均	13.1	10.7	11.6	12.2	12.9	11.0
標準的な得点の範囲	14	13	13	14	14	13
下位群値	12	9	10	11	12	9

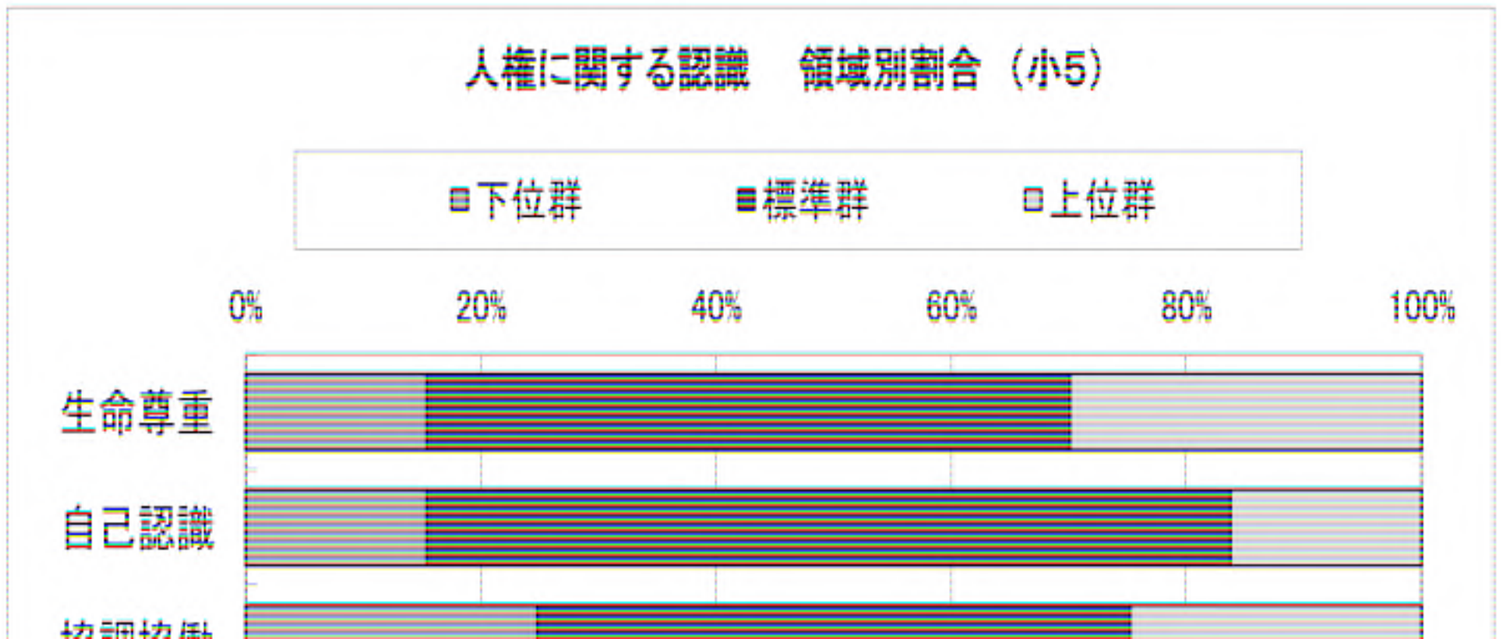
人権に関する行動意図	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識	国際理解
学年平均	12.1	10.3	11.5	11.9	11.7	9.7
標準値平均	11.0	9.3	10.4	10.9	10.4	8.2
標準的な得点の範囲	13	11	13	12	13	11
下位群値	9	7	8	10	8	6

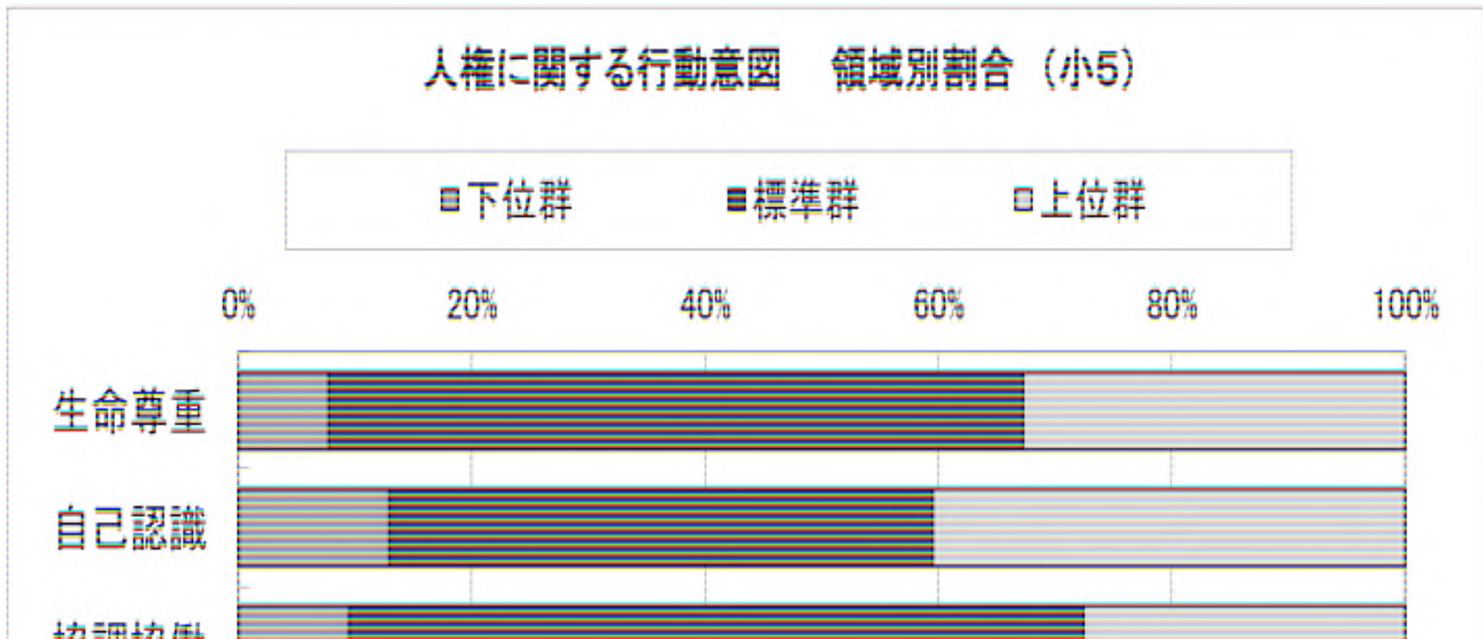




人権に関する認識		国際理解	科学的認識	労働観	協調協働	自己認識	生命尊重
5年	上位群	23	33	33	29	19	35
	標準群	72	62	61	59	80	64
	下位群	22	22	23	29	18	18

人権に関する行動意図		国際理解	科学的認識	労働観	協調協働	自己認識	生命尊重
5年	上位群	39	36	56	32	47	38
	標準群	60	69	43	73	54	69
	下位群	17	11	17	11	15	9





【学年に関する分析】

(1) 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

学年平均値は、(標準的な得点の範囲) 内であり、6 領域すべてにおいて標準値平均に重
は標準的だと判断できる。

②帯グラフ

＜生命尊重＞は、上位群が 20%を超え、下位群は 20%を下回っており (認識) はやや高
己認識＞は、下位群は 20%を下回っているが、上位群が 20%を超えていないので改善したい
上位群が 20%を超えているが、下位群も 20%を超えており改善の余地がある。＜労働観＞
を超えているものの、下位群は 20%近くであるので課題がある。＜科学的認識＞＜国際理解
を下回り、上位群も 20%を超えており (認識) はやや高い傾向にある。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級 (認識)」の特徴の分析

学年平均値は (標準的な得点の範囲) 内であり、6 領域すべてにおいて (認識) は標準
で見ると、(認識) 傾向が高い領域は＜生命尊重＞である。

(2) 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

学年平均値は (標準的な得点の範囲) 内である。さらに、すべての領域で標準値平均を
(行動意図) はやや高い傾向にあると判断できる。特に＜労働観＞は、(標準的な得点の範囲
(行動意図) は高い傾向にある。

②帯グラフ

＜生命尊重＞＜自己認識＞＜協調協働＞＜労働観＞＜科学的認識＞＜国際理解＞の 6 領
群が 20%を超え下位群が 20%を下回っており (行動意図) がやや高い傾向がある。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級 (行動意図)」の特徴の分析

学年平均値が (標準的な得点の範囲) 内で、すべての領域で標準値平均を上まわってい
はやや高い傾向にある。＜生命尊重＞＜協調行動＞＜科学的認識＞における標準群の割合
で、この点を改善したい。＜労働観＞の (行動意図) は高い傾向にあるので、さらに伸ばす

(3)「学年」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

(認識) (行動意図) ともに、学年平均値は (標準的な得点の範囲) 内である。(認識)
において標準的であったが (帯グラフでは＜生命尊重＞がやや高かった)、(行動意図) で
標準値平均を上まわっていた。つまり (認識) よりも (行動意図) の意識傾向が高いとい
としては、(認識) における 6 領域の総合的な向上、(行動意図) における＜生命尊重＞＜
認識＞の標準群への対応である。

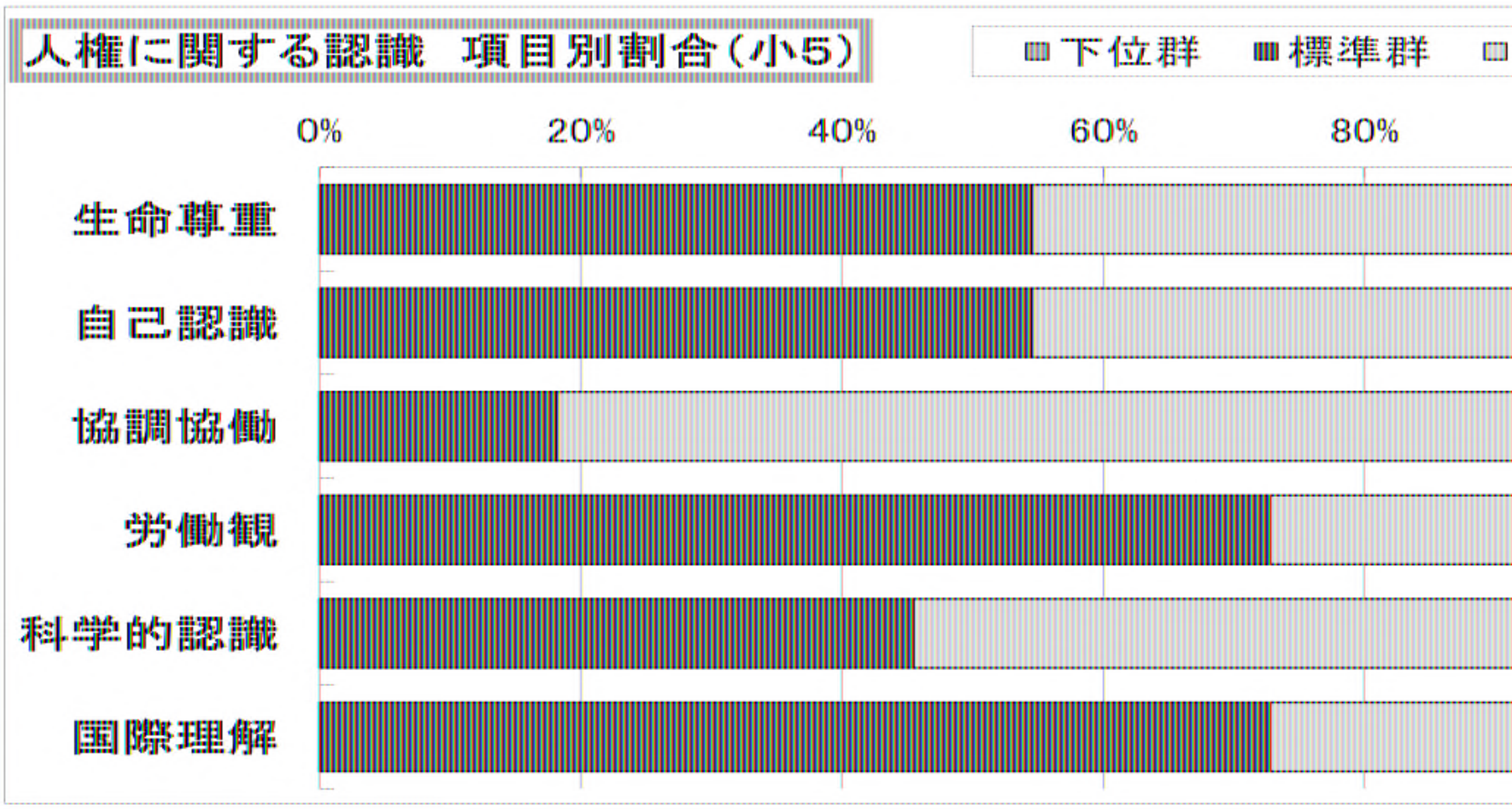
(4)「人権意識」改善への提案

(認識) における全体を底上げするための支援のため、多様な価値観があることを理解
協力して集団を高めようとする態度を育てること、自分の生き方に自信と誇りを持ち、理
て努力しようとする態度を育てることを目標にした学年全体での取り組みが期待される。

戸切小学校

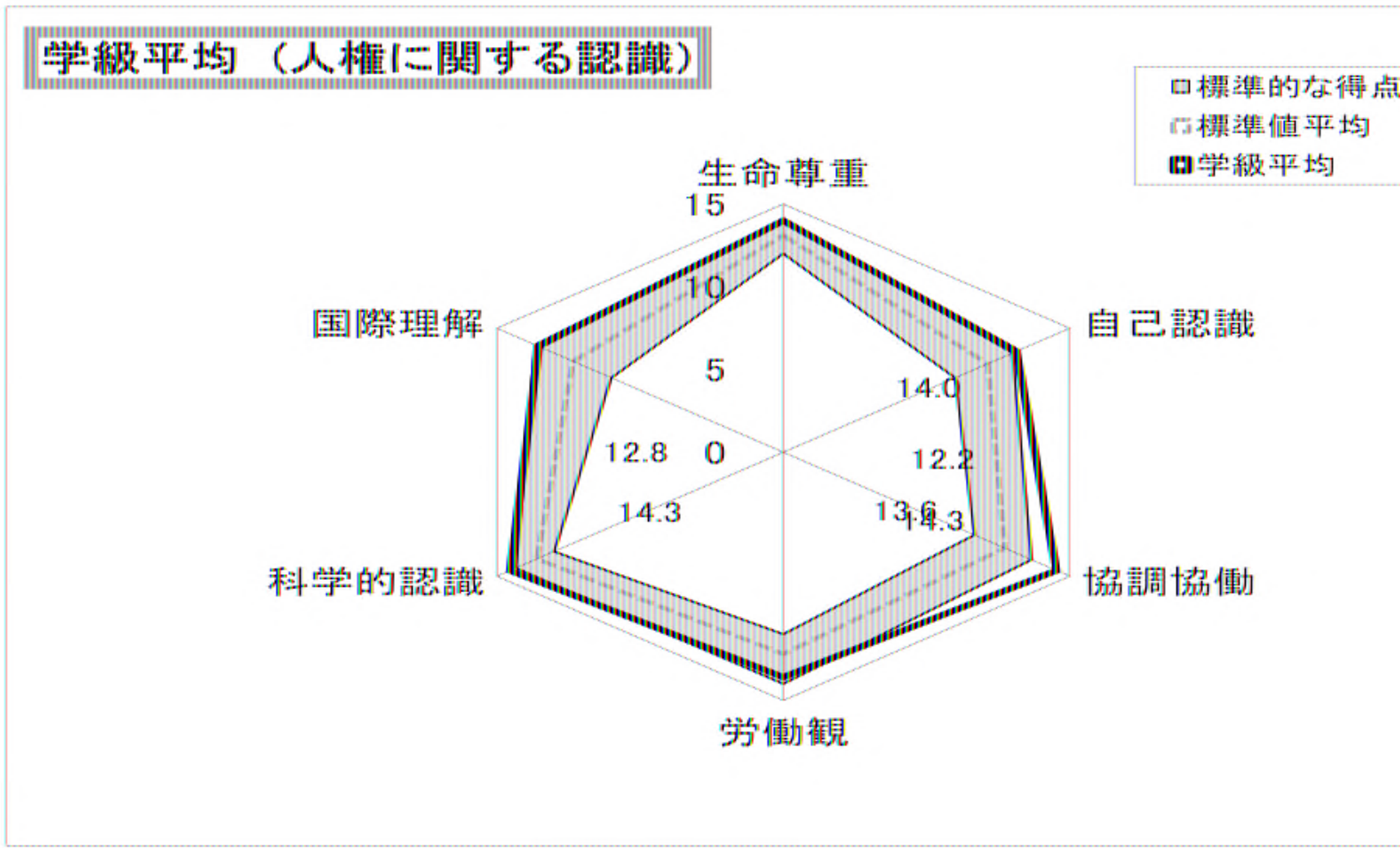
（石原航樹／川上滝盛）

認　識　　戸切小学校　　5年　1組

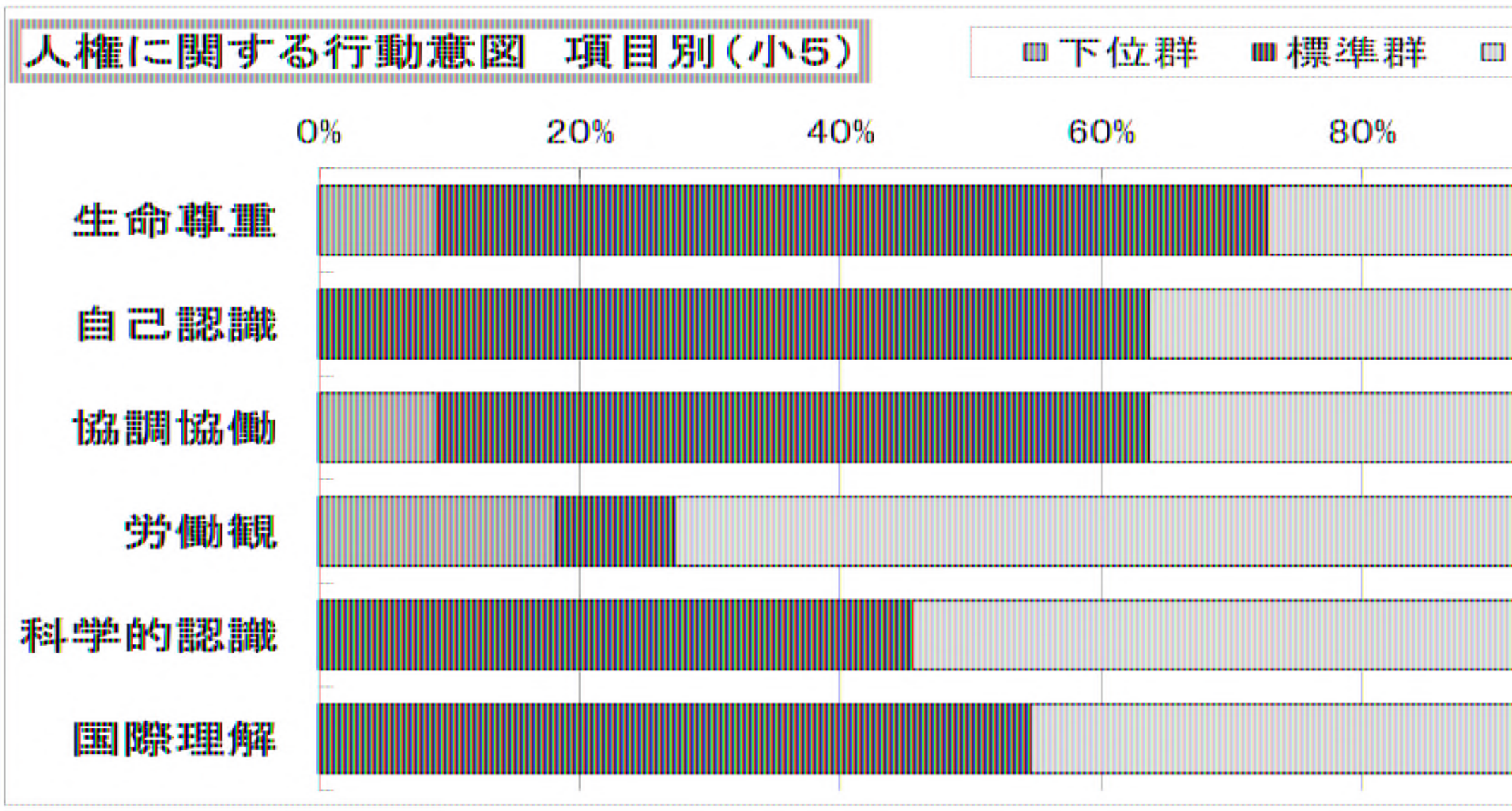


	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
上位群	45.5	↑	25.1	45.5	↑	21.9	81.8	↑	23.8	27.3	↑	17.0	54.5	↑	20.9
標準群	54.5	↓	58.0	54.5	↓	60.6	18.2	↓	59.0	72.7	↑	63.9	45.5	↓	59.0
下位群	0.0	↓	16.9	0.0	↓	17.5	0.0	↓	17.2	0.0	↓	19.1	0.0	↓	20.1

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	14.0	12.2	14.3	13.6	14.3
上位群	5	5	9	3	6
標準群	6	6	2	8	5
下位群	0	0	0	0	0

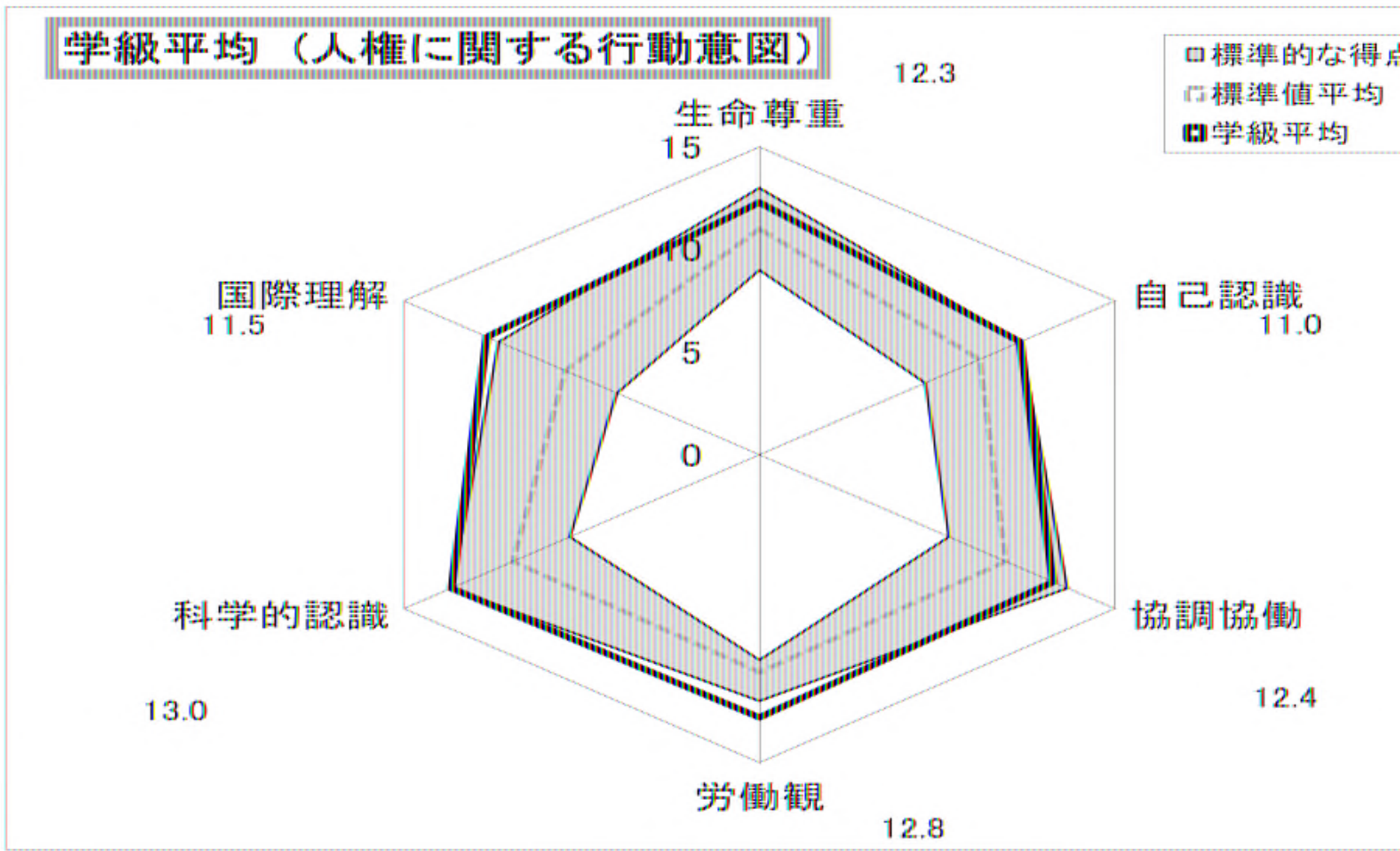


行動意図　　戸切小学校　　5年　　1組



	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
高群	27.3	↑	16.6	36.4	↑	22.7	36.4	↑	17.1	72.7	↑	8.8	54.5	↑	15.8
中群	63.6	↓	66.1	63.6	↑	59.6	54.5	↓	65.8	9.1	↓	69.1	45.5	↓	68.8
低群	9.1	↓	17.3	0.0	↓	17.7	9.1	↓	17.1	18.2	↓	22.1	0.0	↓	15.4

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	12.3	11.0	12.4	12.8	13.0
高群	3	4	4	8	6
中群	7	7	6	1	5
低群	1	0	1	2	0



【5 年 1 組】

（1） 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

＜生命尊重＞＜国際理解＞＜科学的認識＞＜労働観＞＜自己認識＞の 5 領域については
囲）内にあり、かつ標準値平均の上限値にあって（認識）の傾向が高い。＜協調協働＞につ
得点の範囲）を超え非常に高い（認識）傾向にある。

②帯グラフ

下位群がなく、上位群については、6 領域のすべてが集団での意識が高い傾向とされる
標準群としては、＜生命尊重＞＜自己認識＞＜労働観＞＜国際理解＞の割合が高い。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（認識）」の特徴の分析

レーダーチャートを見ると、すべての領域が標準値平均の上限値、又は超えており、ど
深く（認識）していると読み取ることが出来る。帯グラフを見ると、＜協調協働＞以外の
分または半分以上を標準群が占めており、＜協調協働＞が特に多くの上位群がいる。

（2） 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

＜生命尊重＞＜協調協働＞＜科学的認識＞＜自己認識＞の 4 領域については（標準的な
り、かつ標準値平均の上限値にあって（認識）の傾向が高い。＜国際理解＞＜労働観＞に
得点の範囲）を超え非常に高い（認識）傾向にある。

②帯グラフ

＜自己認識＞＜科学的認識＞＜国際理解＞については下位群が存在していない。下位群で
＜労働観＞18％である。上位群に注目してみると、＜労働観＞が圧倒的に多く 75％が上位
認識＞で 55％、その他の領域は、20％～40％が上位群に属している。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（行動意図）」の特徴の分析

レーダーチャートで（標準的な得点の範囲）を超え非常に高い（認識）傾向にある＜国
について、帯グラフでみると、＜労働観＞は圧倒的に上位群が多く（75％）、＜国際理解＞
多かった。レーダーチャートと帯グラフの相関関係がみられた。

（3）「学級」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

本クラスは、クラス全体として（認識）（行動意図）ともに意識傾向が高かった。すべて
意識をもっていると考えられる。（認識）から（行動意図）への意識移行の関係をみると、
群の大幅な減少、＜労働観＞での下位群の表出と上位群の大幅な増加など、認識から現実
スで、＜協調協働＞の困難さ、労働への積極的姿勢など新たな要素が介入してきたのではな

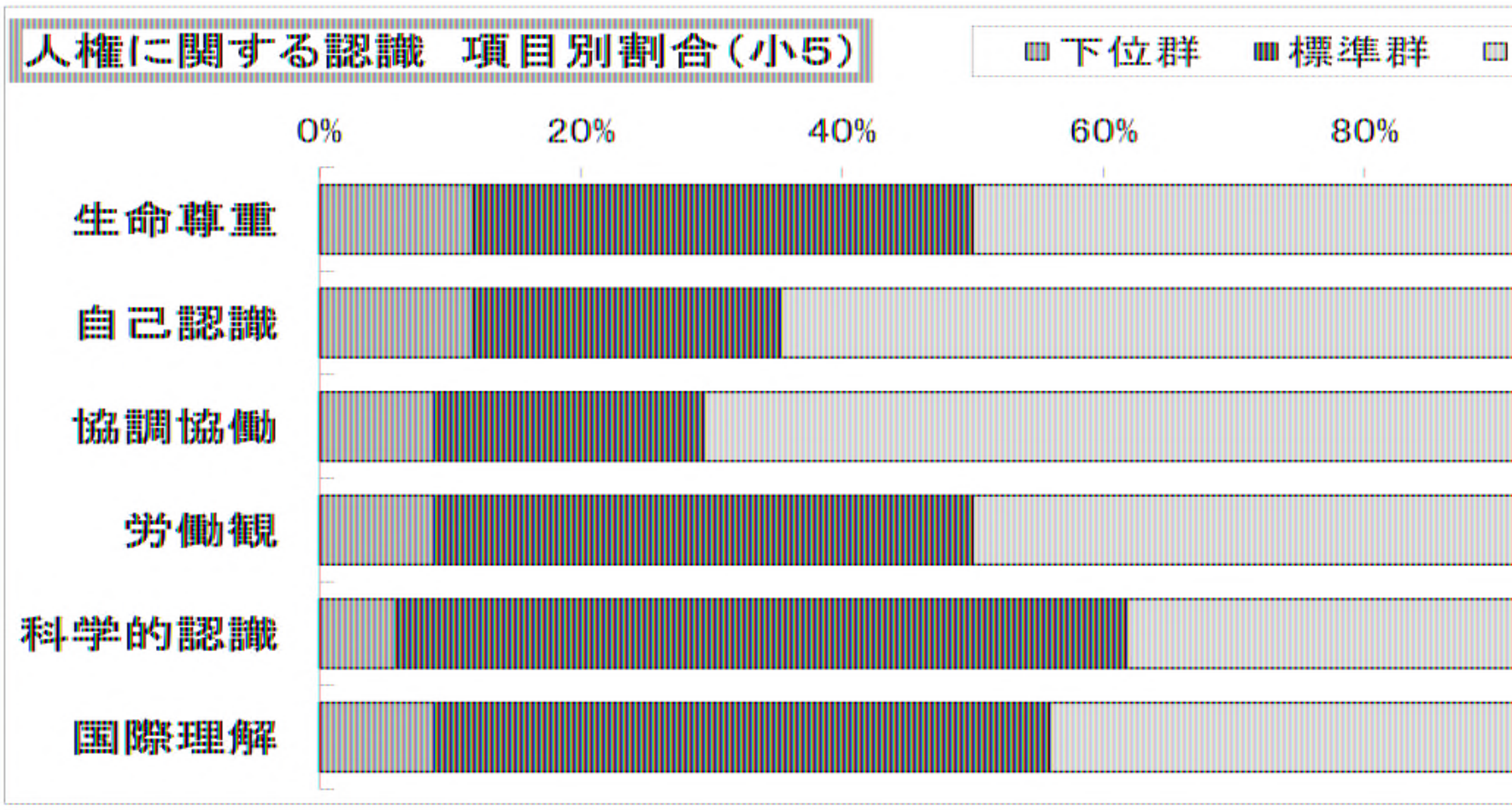
（4）「人権意識」改善への提案

＜自己認識＞を高めることを提案したい。自分の生き方に自信と誇りを持たせるために
る自分のいいところ見つけをしてはどうであろう。また理想の自己像に向かって努力しよ
るために職業調べをすることも有効である。

山田小学校

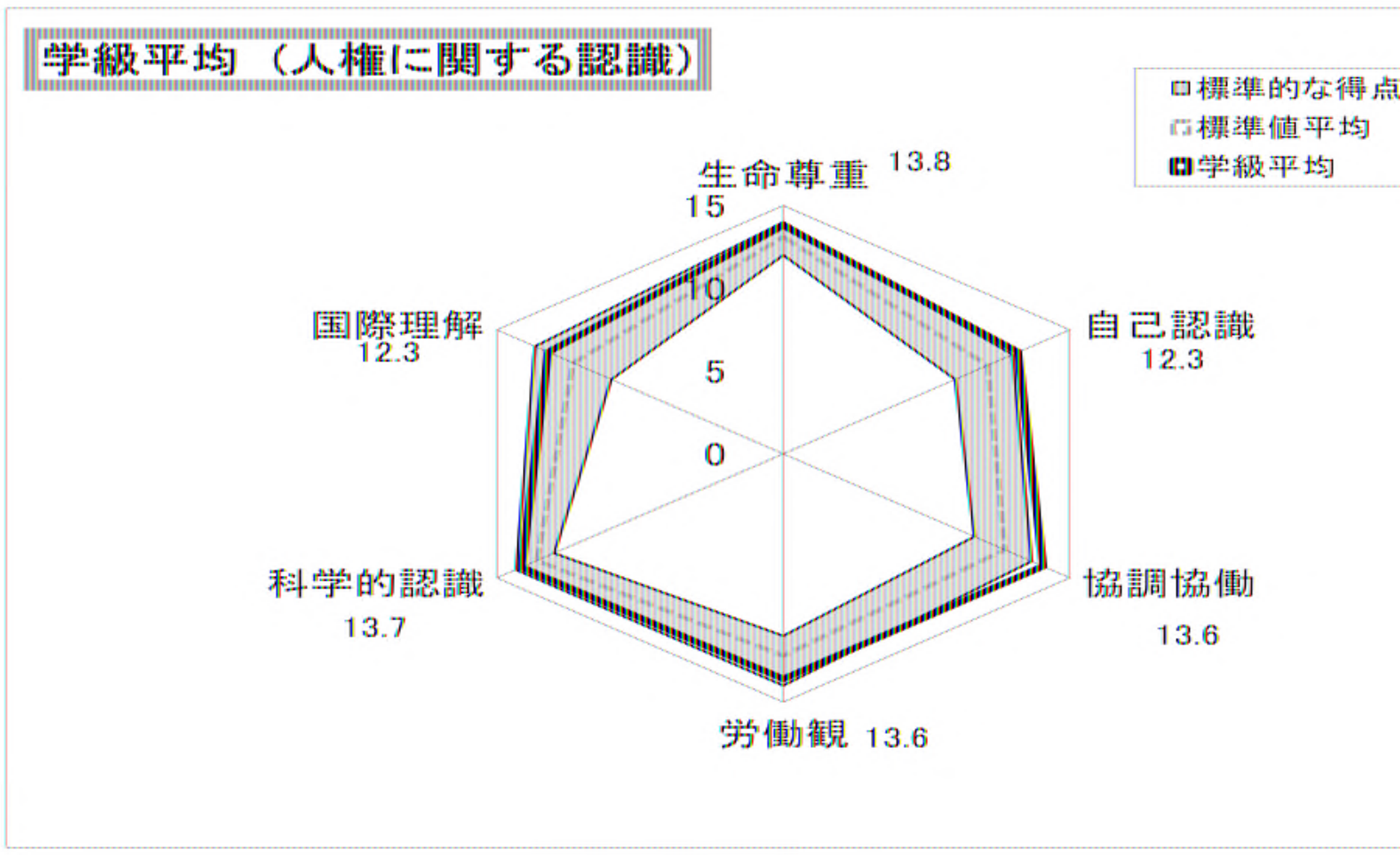
（沖中翔一・福山友彬）

認　識　　山田小学校　　5年　　1組

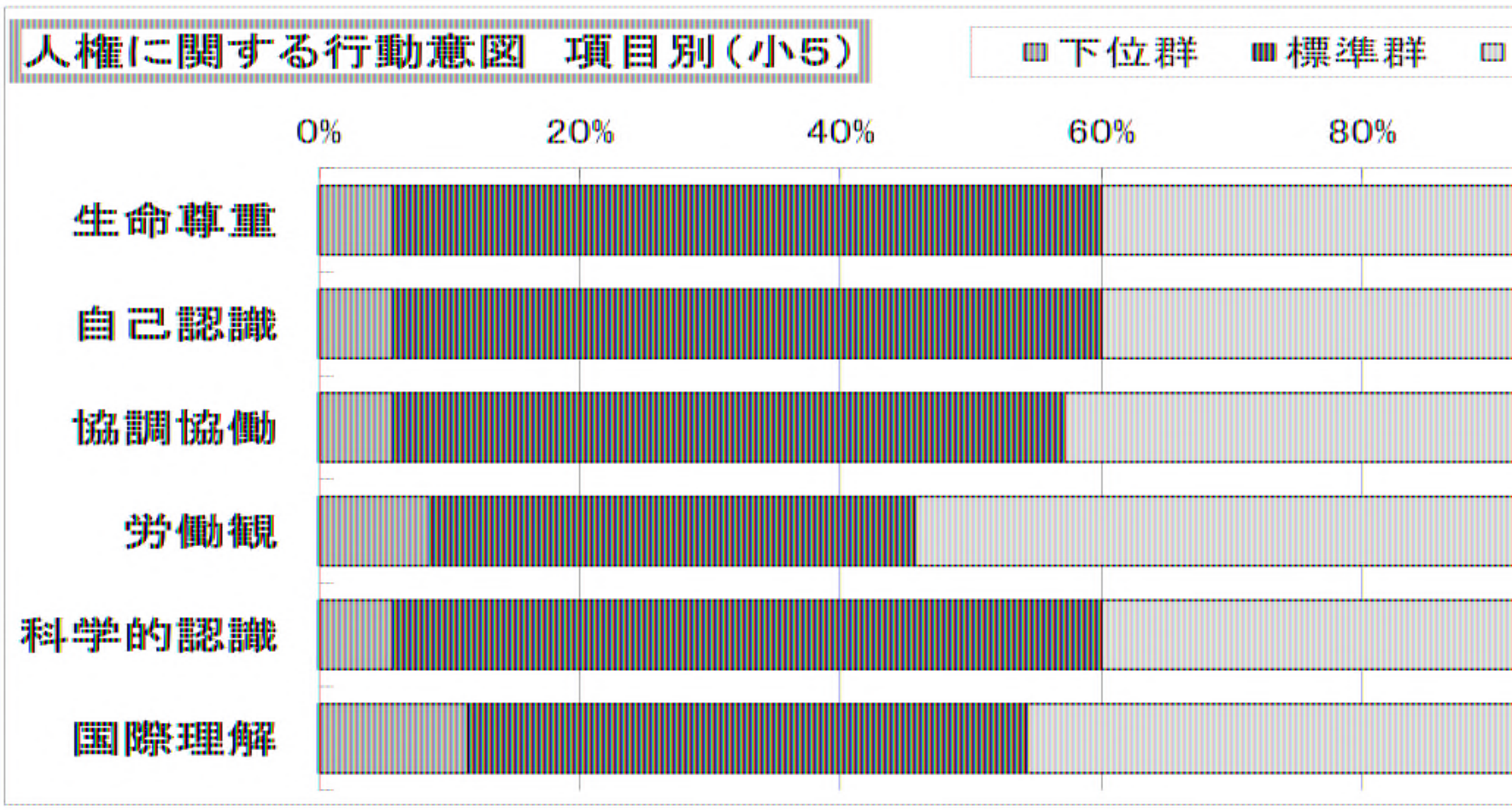


	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
上位群	50.0	↑	25.1	64.7	↑	21.9	70.6	↑	23.8	50.0	↑	17.0	38.2	↑	20.9
標準群	38.2	↓	58.0	23.5	↓	60.6	20.6	↓	59.0	41.2	↓	63.9	55.9	↓	59.0
下位群	11.8	↓	16.9	11.8	↓	17.5	8.8	↓	17.2	8.8	↓	19.1	5.9	↓	20.1

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	13.8	12.3	13.6	13.6	13.7
上位群	17	22	24	17	13
標準群	13	8	7	14	19
下位群	4	4	3	3	2

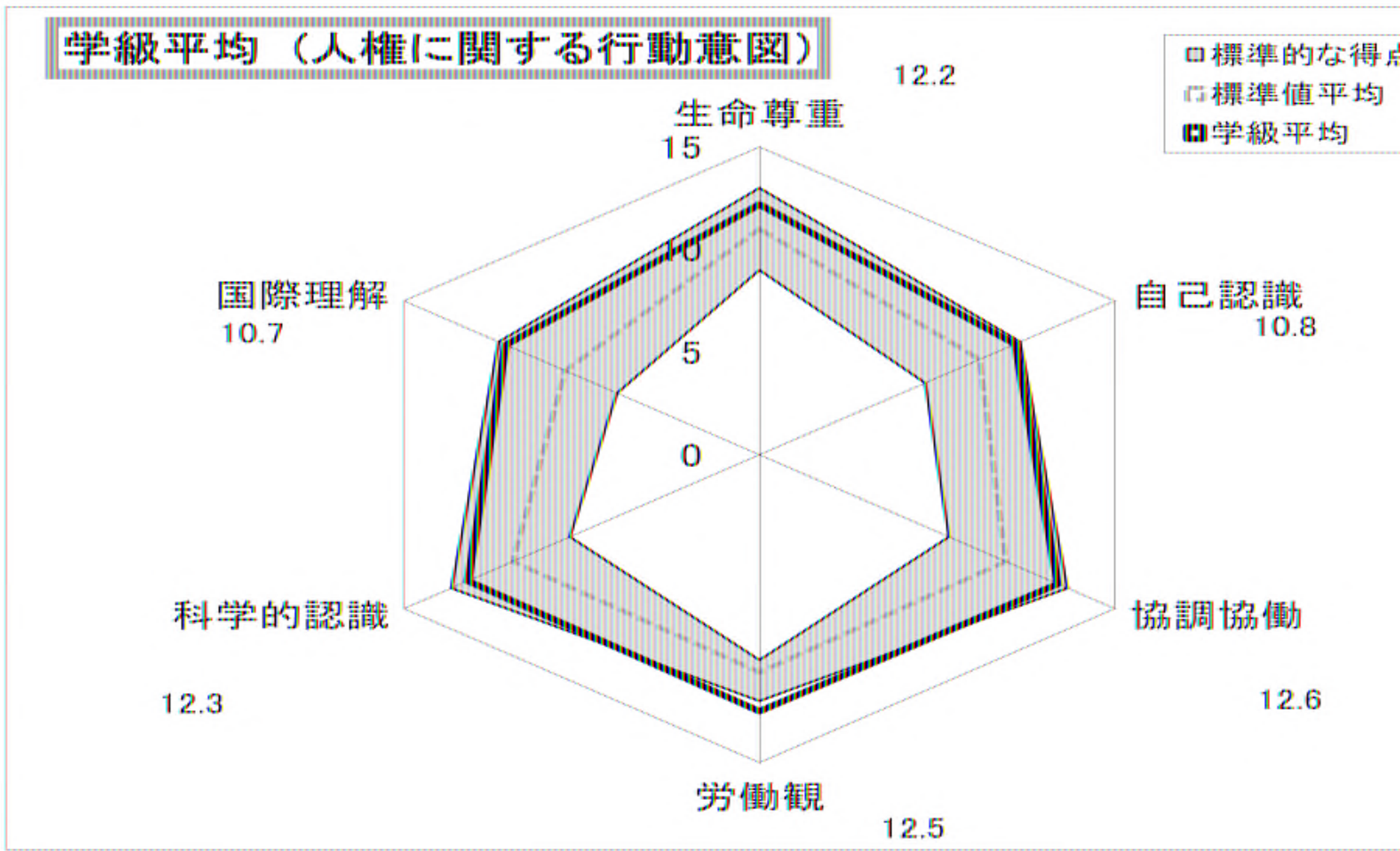


行動意図　　山田小学校　　5年　　1組



	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
高群	40.0	↑	16.6	40.0	↑	22.7	42.9	↑	17.1	54.3	↑	8.8	40.0	↑	15.8
中群	54.3	↓	66.1	54.3	↓	59.6	51.4	↓	65.8	37.1	↓	69.1	54.3	↓	68.8
低群	5.7	↓	17.3	5.7	↓	17.7	5.7	↓	17.1	8.6	↓	22.1	5.7	↓	15.4

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	12.2	10.8	12.6	12.5	12.3
高群	14	14	15	19	14
中群	19	19	18	13	19
低群	2	2	2	3	2



【5 年 1 組】

(1) 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

全領域で学級平均値が（標準的な得点の範囲）内、あるいは超えている。＜生命尊重＞＜自己認識
認識＞＜国際理解＞の領域は、学級平均値が（標準的な得点の範囲）の上限値、又は近くなっている
５領域の（認識）はやや高い傾向、あるいは高いに傾向にある。＜協調協働＞の領域は（標準的な得
り、（認識）はとても高い傾向にあると判断される。

②帯グラフ

＜生命尊重＞は上位群が約 50%、下位群が約 10%なので（認識）が高い傾向にある。＜自己尊重＞は
群が約 10%なので（認識）が高い傾向にある。＜協調協働＞は上位群が約 70%、下位群が約 8%なので
ある。＜労働観＞は上位群が約 50%、下位群が約 8%なので（認識）が高い傾向にある。
＜科学的認識＞は上位群と下位群よりも標準群のほうが多いので標準的な傾向がある。＜国際理解＞
も標準群のほうが多いので標準的な傾向がある。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（認識）」の特徴の分析

＜生命尊重＞は帯グラフでは（認識）が高い傾向にありレーダーチャートでも高い傾向にある。＜
では（認識）が高い傾向にありレーダーチャートでも高い傾向にある。＜協調協働＞は帯グラフでは
ありレーダーチャートでも高い傾向にある。＜労働観＞は帯グラフでは（認識）が高い傾向にありレ
い傾向にある。＜科学的認識＞は帯グラフでは（認識）が標準的な傾向にあるがレーダーチャートで
国際理解＞は帯グラフでは（認識）が高い傾向にありレーダーチャートでも高い傾向にある。

(2) 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

全領域で学級平均値が（標準的な得点の範囲）内、あるいは超えている。＜生命尊重＞＜自己認識
理解＞＜科学的認識＞の領域は（標準的な得点の範囲）の上限値、又は近くになっている。このことか
動意図）はやや高い傾向、あるいは高い傾向にある。＜労働観＞の領域は（標準的な得点の範囲）を
意図）はとても高い傾向にあると判断できる。

②帯グラフ

＜生命尊重＞は上位群が約 40%、下位群が約 5%なので（認識）が高い傾向にある。＜自己認識＞は
群が約 5%なので（認識）が高い傾向にある。＜協調協働＞は上位群が約 40%、下位群が約 5%なので（
る。＜労働観＞は上位群が約 55%、下位群の（認識）が約 10%で高い傾向にある。＜科学的認識＞は上
が約 5%なので（認識）が高い傾向にある。＜国際理解＞は上位群が約 45%、下位群の（認識）約 10%

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（行動意図）」の特徴の分析

＜生命尊重＞＜自己認識＞＜協調協働＞＜労働観＞＜科学的認識＜国際理解＞のすべての領域で帯
が高い傾向にありレーダーチャートでも高い傾向にある。その中でも、＜労働観＞の領域が（行動意
ある。

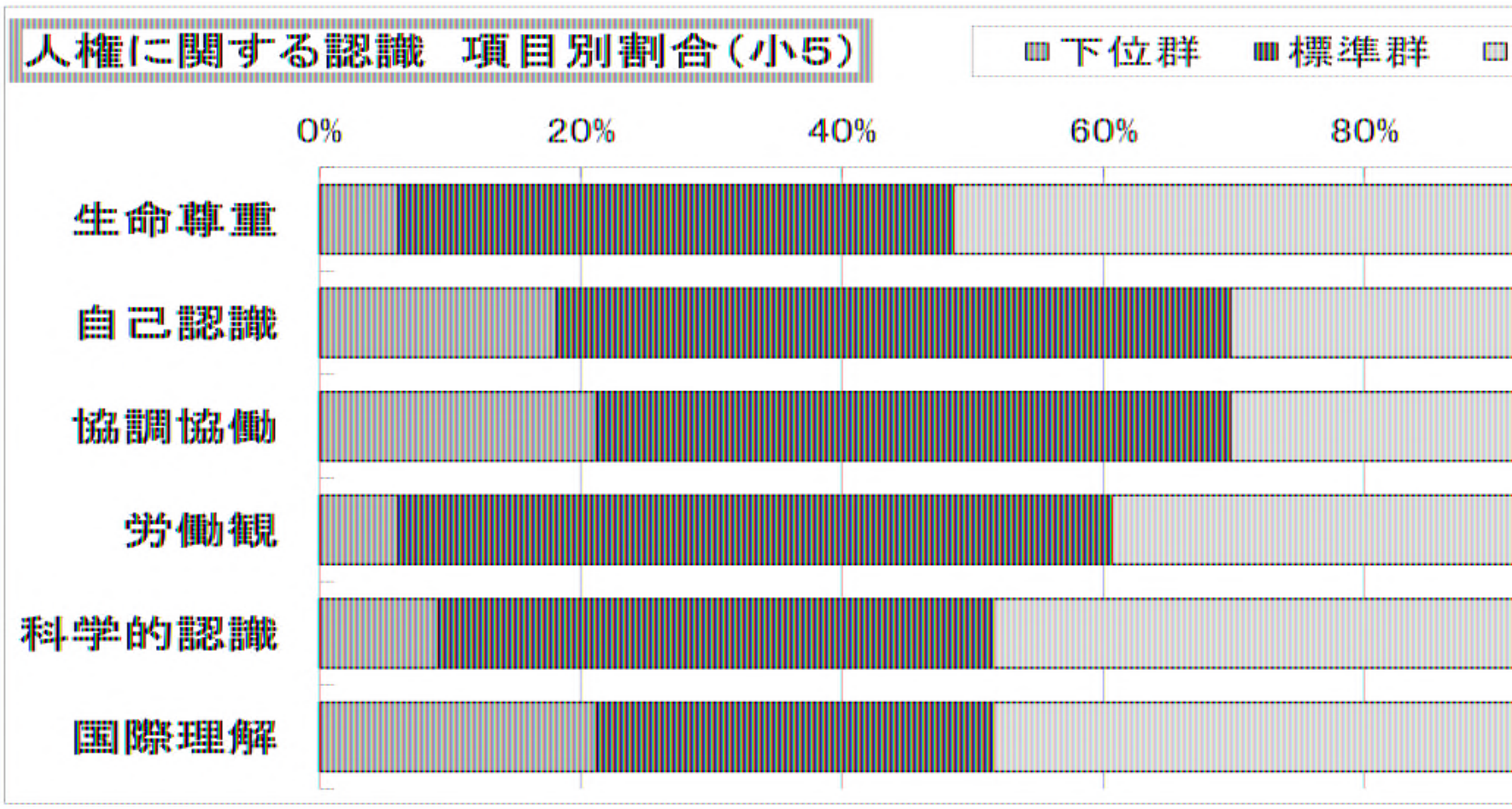
(3)「学級」に関する総合分析　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

本クラスは、（認識）と（行動意図）はすべての領域で（標準的な得点の範囲）内にあり、標準値平
がないので、（認識）と（行動意図）の意識は高い傾向にある。（認識）では＜協調協働＞の領域が最
（行動意図）では＜労働観＞が最も高い傾向にある。人権意識は相対的に高いレベルにあるが、（認識
領域が最も低い傾向にあり、（行動意図）では＜科学的認識＞の領域が最も低い傾向にある。

(4)「人権意識」改善への提案

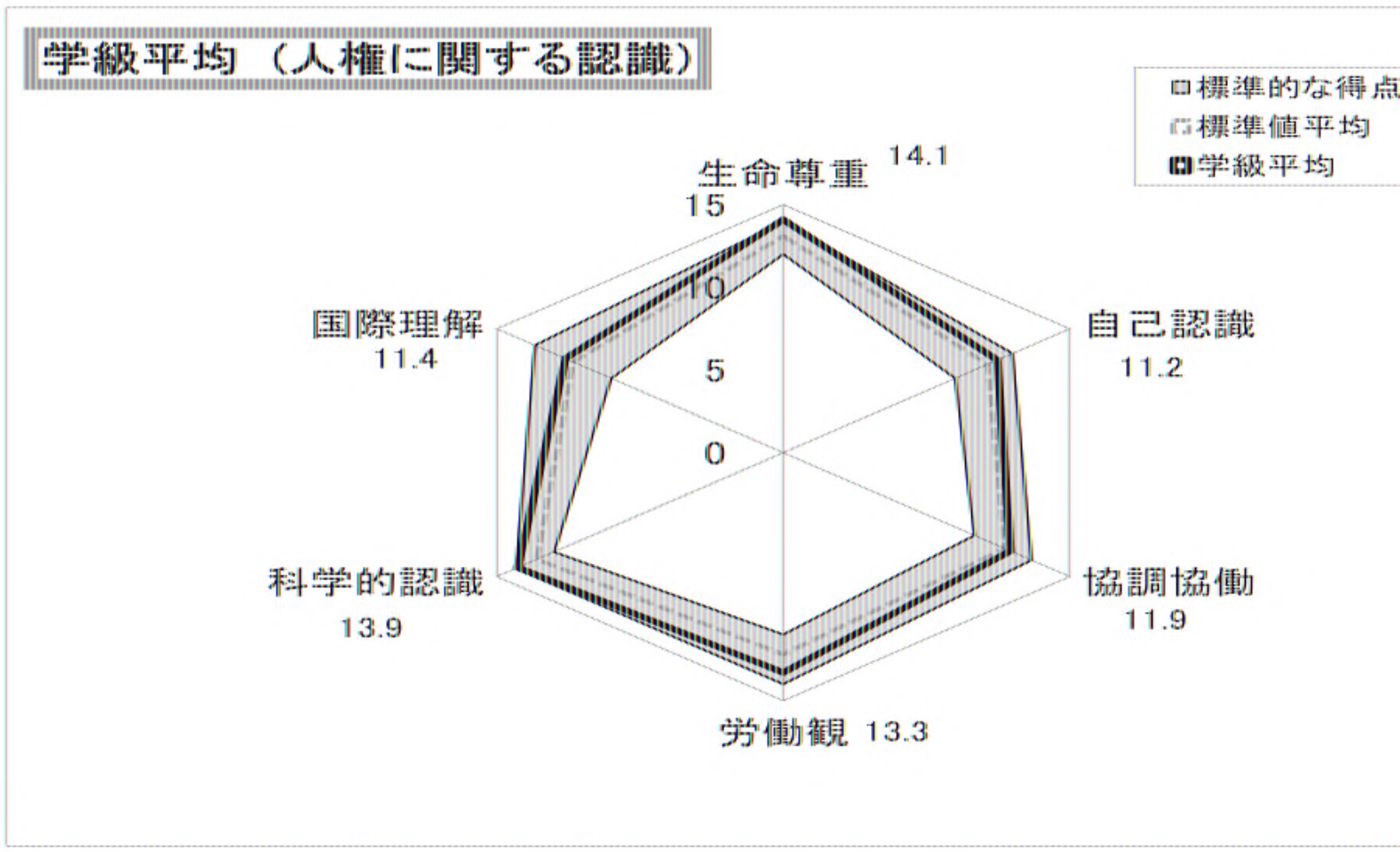
５年１組は、（認識）の領域、（行動意図）の領域の意識は総じて高い意識を持っている。特に＜労働
的な得点の範囲）を上回っている。さらに＜労働観＞をたかめるには、さまざまな価値観があること
重し協力し集団を高めようとする態度を育てること、労働と生活との関係について理解を深めさせ労
ようとする意欲を養うことを目標とした具体的な教育活動が期待される。＜科学的認識＞は他と比べ
いので、身近な差別や部落問題・人権問題について理解を深め、解決に必要な自分の役割や行動の在
態度を育てることが課題となる。

認　識　　山田小学校　　5年　　2組

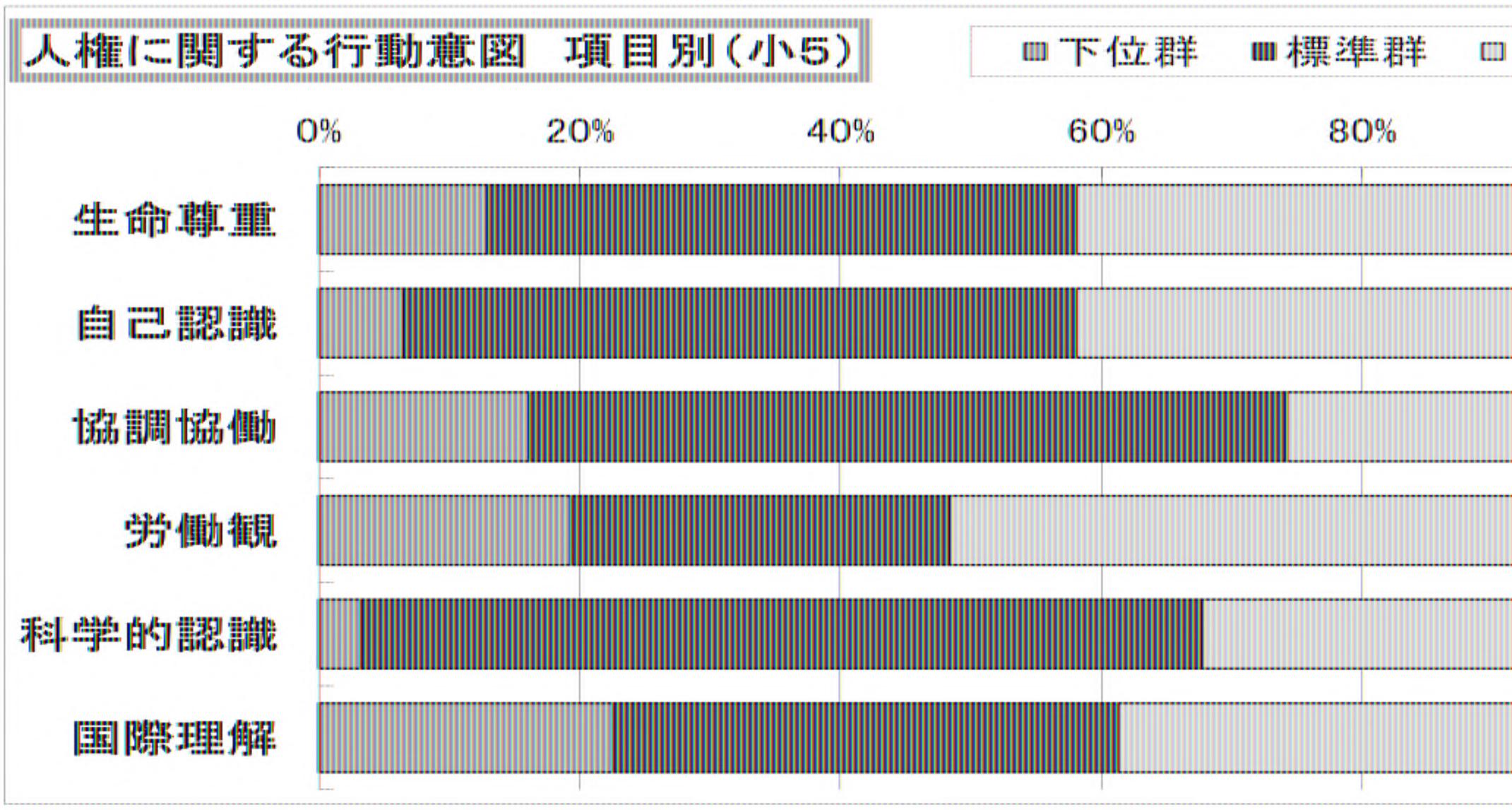


	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
上位群	51.5	↑	25.1	30.3	↑	21.9	30.3	↑	23.8	39.4	↑	17.0	48.5	↑	20.9
標準群	42.4	↓	58.0	51.5	↓	60.6	48.5	↓	59.0	54.5	↓	63.9	42.4	↓	59.0
下位群	6.1	↓	16.9	18.2		17.5	21.2	↑	17.2	6.1	↓	19.1	9.1	↓	20.1

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	14.1	11.2	11.9	13.3	13.9
上位群	17	10	10	13	16
標準群	14	17	16	18	14
下位群	2	6	7	2	3

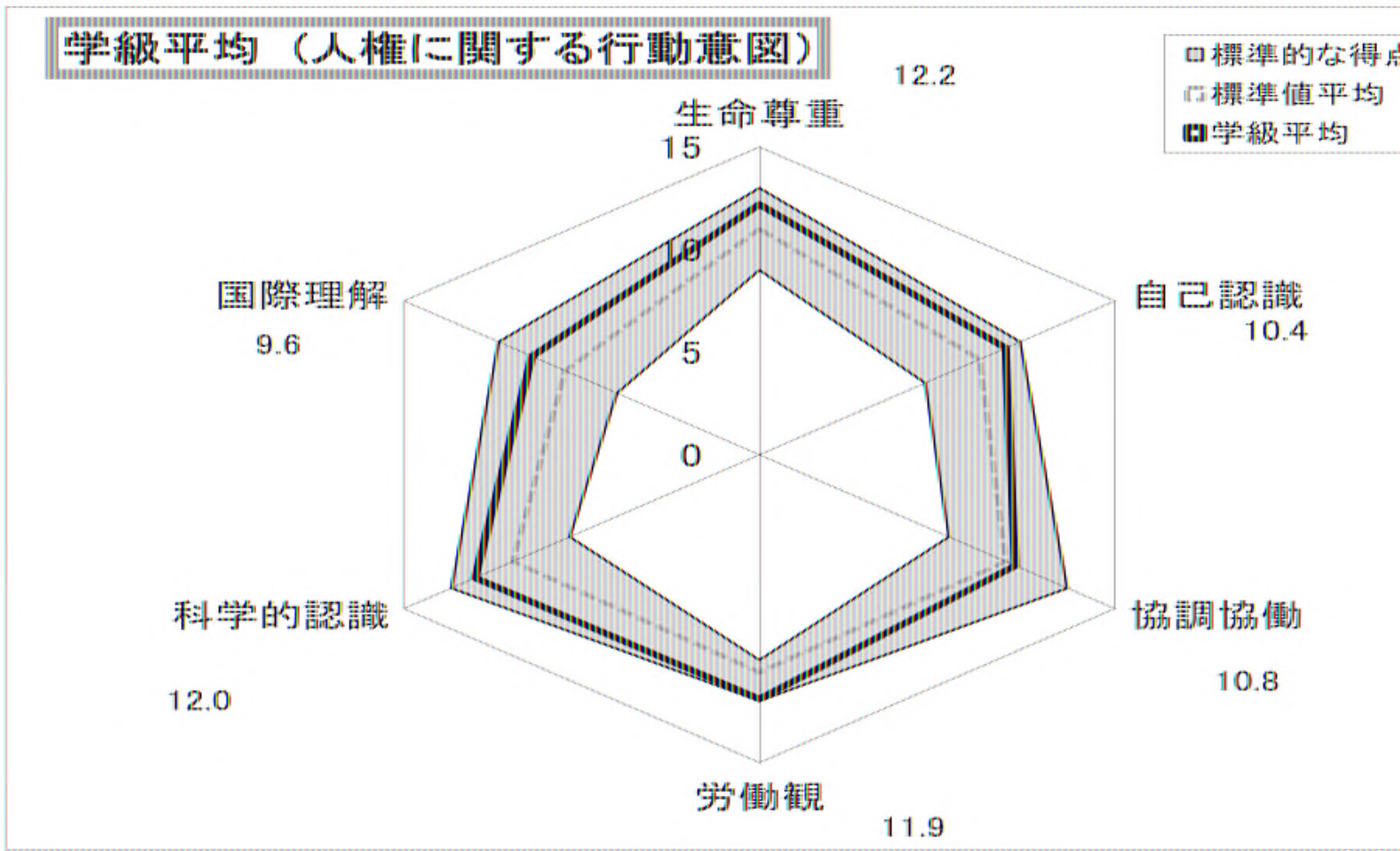


行動意図　　山田小学校　　5年　　2組



	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
高群	41.9	↑	16.6	41.9	↑	22.7	25.8	↑	17.1	51.6	↑	8.8	32.3	↑	15.8
中群	45.2	↓	66.1	51.6	↓	59.6	58.1	↓	65.8	29.0	↓	69.1	64.5	↓	68.8
低群	12.9	↓	17.3	6.5	↓	17.7	16.1		17.1	19.4	↓	22.1	3.2	↓	15.4

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	12.2	10.4	10.8	11.9	12.0
高群	13	13	8	16	10
中群	14	16	18	9	20
低群	4	2	5	6	1



【5 年 2 組】

(1) 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

全領域で学級平均値が（標準的な得点の範囲）内にある。＜生命尊重＞＜科学的認識＞＜労働観＞が（標準的な得点の範囲）の上限値、又は近くになっていることからこれらの領域の（認識）はやや
い傾向にある。＜国際理解＞＜自己認識＞＜協調協働＞の領域は学級の平均値が（標準的な得点の範
っていることからこの３領域の（認識）は標準的であると判断できる。

②帯グラフ

＜生命尊重＞は上位群が約 50%、下位群が約 5%なので高い傾向にある。＜自己認識＞は上位群と下
うが多いので標準的な傾向がある。＜協調協働＞は上位群と下位群よりも標準群のほうが多いので標
労働観＞は上位群が約 40%、下位群が約 5%なので高い傾向にある。＜科学的認識＞は上位群が約 50%、
高い傾向にある。＜国際理解＞は上位群が約 50% で高い傾向にあるが、下位群が約 20% なので課題が

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（認識）」の特徴の分析

＜生命尊重＞はレーダーチャートではやや高い傾向にあり帯グラフでもやや高い傾向にある。＜科
チャートではやや高い傾向にあり帯グラフでもやや高い傾向にある。＜労働観＞はレーダーチャート
り帯グラフでもやや高い傾向にある。＜自己認識＞はレーダーチャートでも帯グラフでも標準的な傾
＞はレーダーチャートでも帯グラフでも標準的な傾向にある。＜国際理解＞はレーダーチャートでは
が帯グラフでは下位群に課題が残った。

(2) 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

全領域で学級平均値が（標準的な得点の範囲）内である。＜生命尊重＞＜自己認識＞＜労働観＞＜
解＞の領域は学級の平均値が（標準的な得点の範囲）の上限値、又は近くになっていることから、この
はやや高い傾向、あるいは高い傾向にある。＜協調協働＞の領域は学級平均値が（標準的な得点の範
っていることから（行動意図）は標準的な傾向にあると判断できる。

②帯グラフ

＜生命尊重＞は上位群が約 40%、下位群が約 10% なので高い傾向にある。＜自己認識＞は上位群が
なので高い傾向にある。＜協調協働＞は上位群と下位群よりも標準群のほうが多いので標準的な傾向
際理解＞は上位群が約 40～50%、下位群が 20% 前後なので課題が残る。＜科学的認識＞は上位群と下
うが多いので標準的な傾向がある。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（行動意図）」の特徴の分析

＜生命尊重＞＜自己認識＞＜科学的認識＞については、帯グラフでもレーダーチャートでも両方高い
＞＜国際理解＞は上位群に意識の高さがみられるが、下位群に課題がある。＜協調協働＞は、帯グラ
トでも標準的な傾向がみられた。

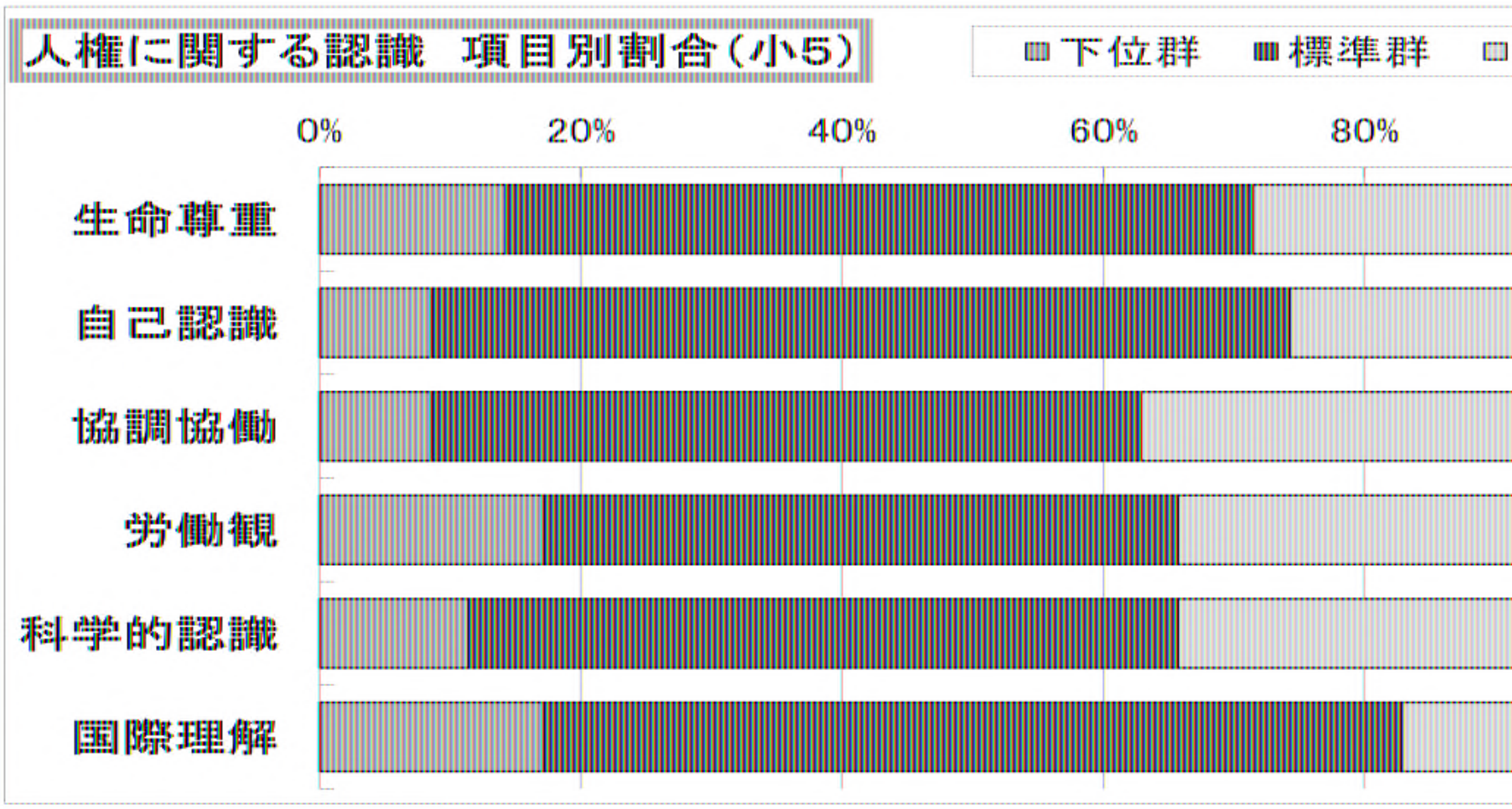
(3)「学級」に関する総合分析　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

本クラスは、（認識）と（行動意図）はすべての領域で（標準的な得点の範囲）内にあり、標準値
がないので、（認識）と（行動意図）の意識は高い傾向にある。（認識）・（行動意図）を結合して＜
高い傾向があり、このクラスは＜生命尊重＞を（認識）しながら（行動意図）ができている。相対的
域が（認識）で最も低い傾向があり＜協調協働＞の領域が（行動意図）で最も低い傾向がある。

(4)「人権意識」改善への提案

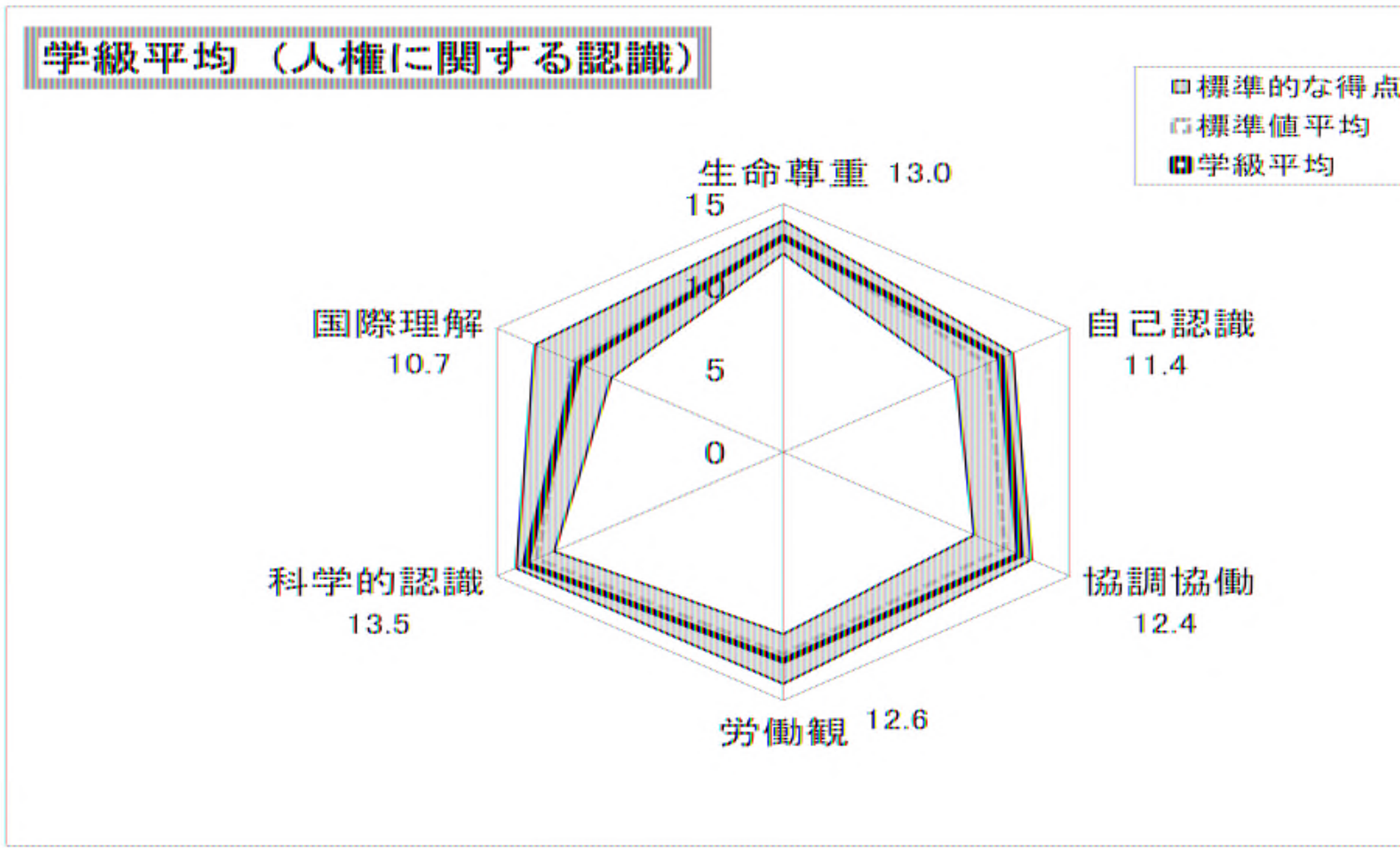
5 年 2 組は、人権意識のレベルは高いと判断できる。例えば、＜科学的認識＞の領域は意識は高い
めに、身近な差別や部落問題・人権問題について理解を深め、解決に必要な自分の役割や行動の在り
度を育てる取り組みの推進が望まれる。また、相対的にみると＜協調協働＞の領域が低くいので、お
互に理解させて、親愛の心情をもって接していこうとする態度を育てつつ、お互いのよさや違いを大
向かって努力する態度を育てる取り組みが期待される。

認　識　　山田小学校　　5年　3組

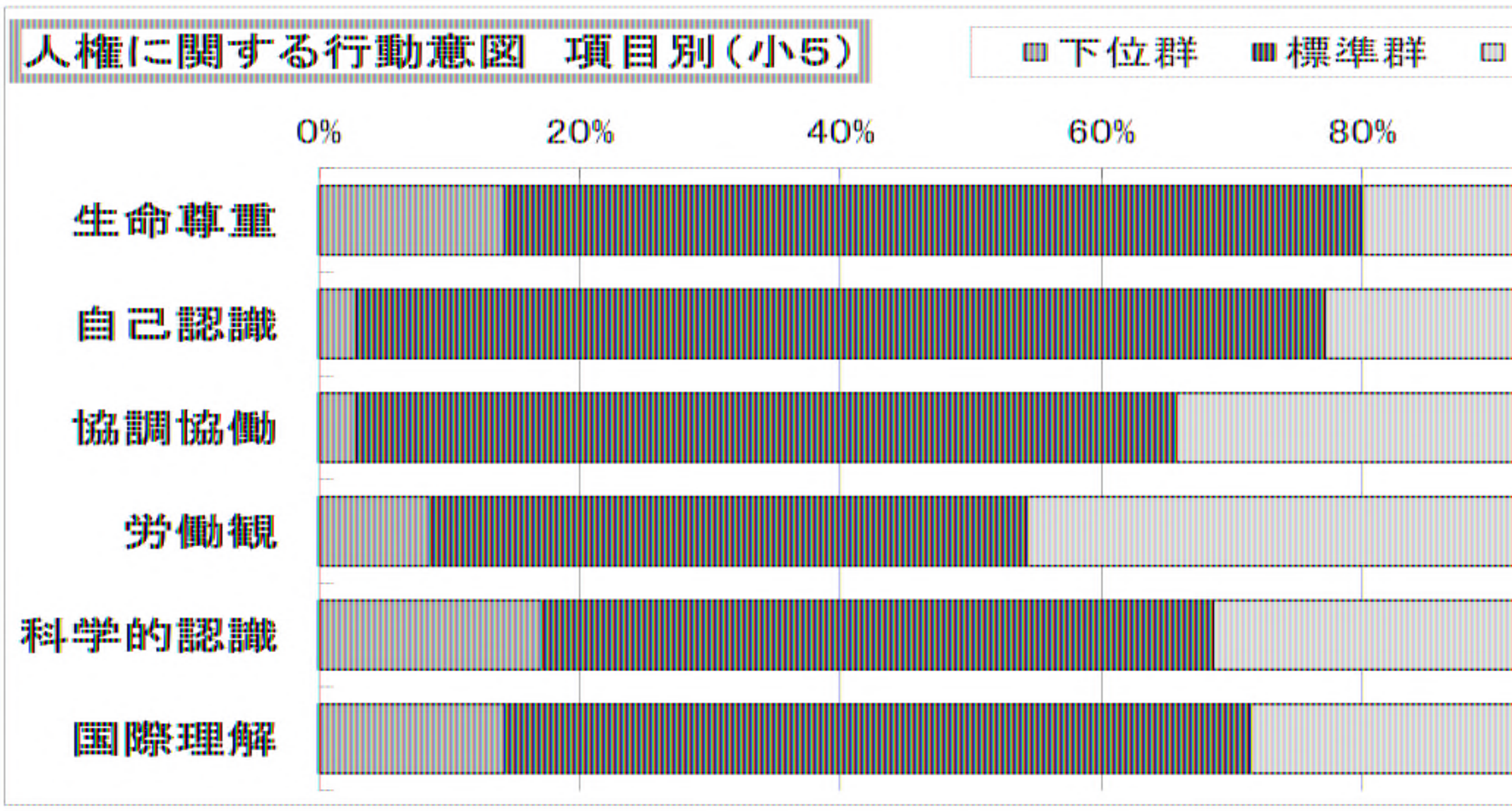


	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
上位群	28.6	↑	25.1	25.7	↑	21.9	37.1	↑	23.8	34.3	↑	17.0	34.3	↑	20.9
標準群	57.1		58.0	65.7	↑	60.6	54.3	↓	59.0	48.6	↓	63.9	54.3	↓	59.0
下位群	14.3	↓	16.9	8.6	↓	17.5	8.6	↓	17.2	17.1	↓	19.1	11.4	↓	20.1

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	13.0	11.4	12.4	12.6	13.5
上位群	10	9	13	12	12
標準群	20	23	19	17	19
下位群	5	3	3	6	4

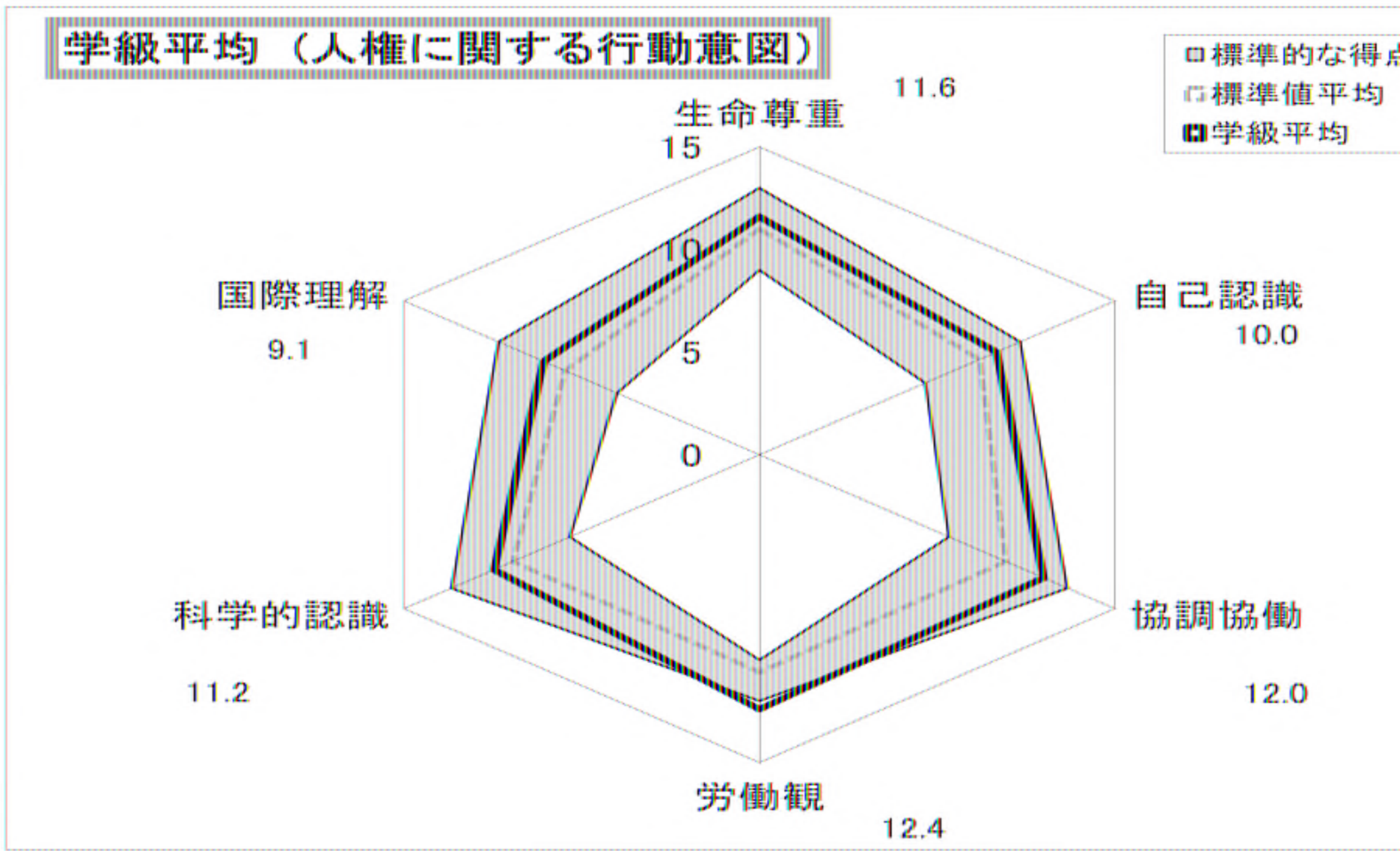


行動意図　　山田小学校　　5年　　3組



	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
高群	20.0	↑	16.6	22.9		22.7	34.3	↑	17.1	45.7	↑	8.8	31.4	↑	15.8
中群	65.7		66.1	74.3	↑	59.6	62.9	↓	65.8	45.7	↓	69.1	51.4	↓	68.8
低群	14.3	↓	17.3	2.9	↓	17.7	2.9	↓	17.1	8.6	↓	22.1	17.1	↑	15.4

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	11.6	10.0	12.0	12.4	11.2
高群	7	8	12	16	11
中群	23	26	22	16	18
低群	5	1	1	3	6



【5 年 3 組】

（1） 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

全領域で学級平均値が（標準的な得点の範囲）内である。＜協調協働＞＜自己認識＞＜科学的認識
が（標準的な得点の範囲）の上限値に近くなっている。このことからこれらの領域の（認識）はやや
できる。＜生命尊重＞＜労働観＞の領域は学級平均値が（標準的な得点の範囲）の平均値に近くなっ
らの領域の（認識）は標準的な傾向にあると判断できる。＜国際理解＞の領域は学級平均値が（標準
準平均値を下回っていることより（認識）はやや低い傾向にあると判断できる。

②帯グラフ

＜国際理解＞以外の 5 領域は、上位群が 20%を超え、下位群が 20%を下回っているので、（認識）
る。＜国際理解＞については、相対的に（認識）の学級平均値が上がらない原因として標準群が多い

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（認識）」の特徴の分析

＜生命尊重＞＜労働観＞はレーダーチャートでは標準的な傾向があるが、帯グラフでは高い傾向に
レーダーチャートでも帯グラフでも高い傾向がある。＜協調協働＞はレーダーチャートでも帯グラフ
向がある。＜科学的認識＞はレーダーチャートでは標準的な傾向が見られるが帯グラフでは高い傾向
は帯グラフとレーダーチャートとも低い傾向にある。

（2） 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

すべての領域で、学級平均値が（標準的な得点の範囲）内にある。全領域で学級平均値が（標準的
るいは超えている。＜生命尊重＞の領域は学級平均値が（標準的な得点の範囲）の平均値に近くなっ
意図）は標準的な傾向にあると判断できる。＜協調協働＞＜自己認識＞＜科学的認識＞＜国際理解＞の
（標準的な得点の範囲）の上限値に近くなっていることから（行動意図）はやや高い傾向にあると判断
領域は学級平均値が（標準的な得点の範囲）を超えていることから高い傾向にあると判断できる。

②帯グラフ

6 領域＜生命尊重＞＜自己認識＞＜科学的認識＞＜国際理解＞＜協調協働＞上＜労働観＞のすべ
20%を超え、下位群が 20%を下回っているので（行動意図）はやや高い傾向にある。特に＜労働観＞
え下位群が約 9%なので高い傾向にある。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（行動意図）」の特徴の分析

＜生命尊重＞は帯グラフでは高い傾向であるがレーダーチャートでは標準的な傾向がある。＜自己
＜国際理解＞＜協調協働＞は、帯グラフでもレーダーチャートでも（行動意図）が高い傾向がある。
フでもレーダーチャートでも（行動意図）がとても高い傾向がある。

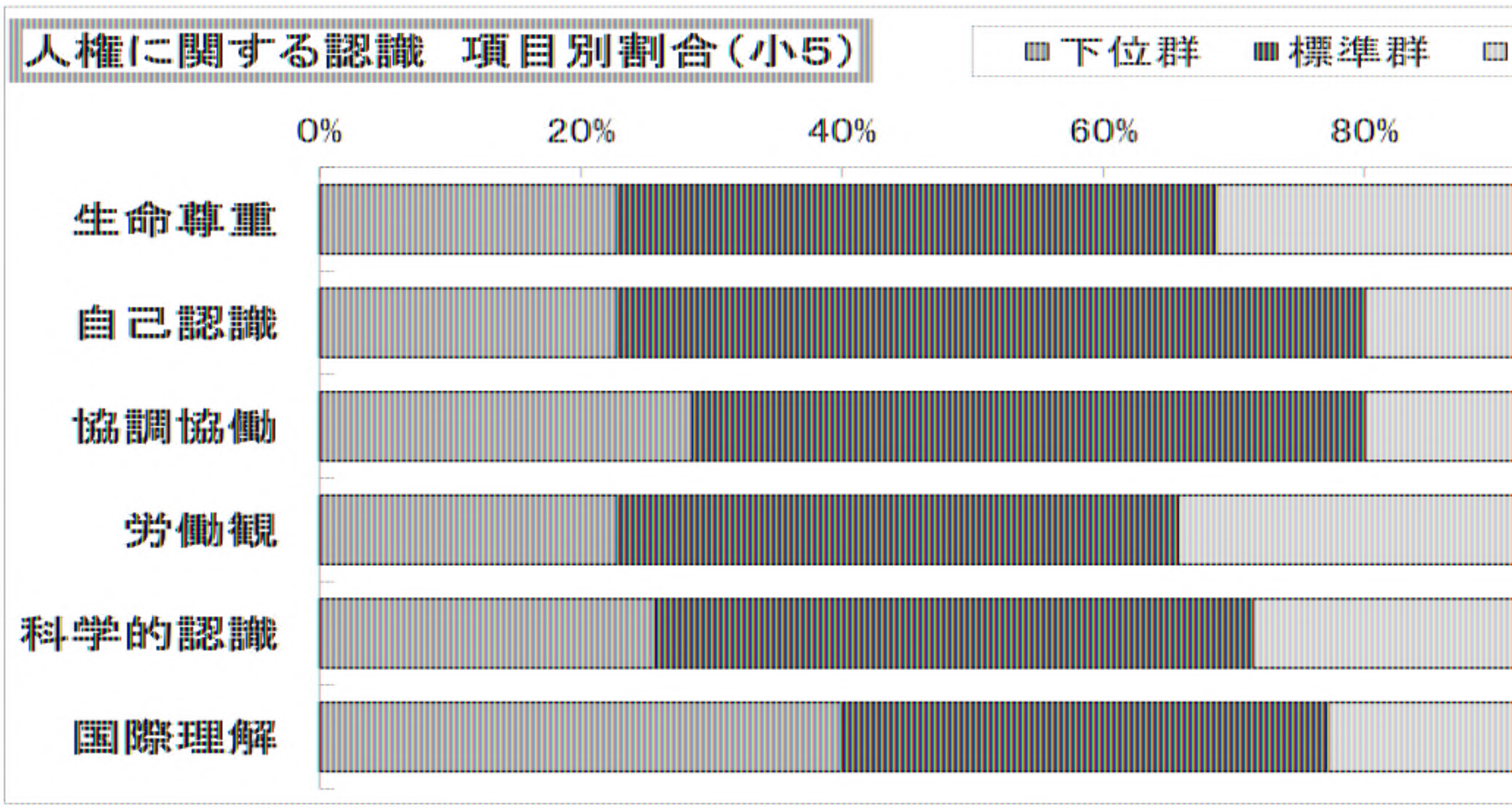
（3）「学級」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

本クラスは、（認識）（行動意図）においてすべての領域で（標準的な得点の範囲）内にあるが、課題
おいてレーダーチャート及び帯グラフともに低い傾向が見られた＜国際理解＞であろう。（行動意図）
領域が最も高い傾向にあるので伸ばしていきたい。

（4）「人権意識」改善への提案

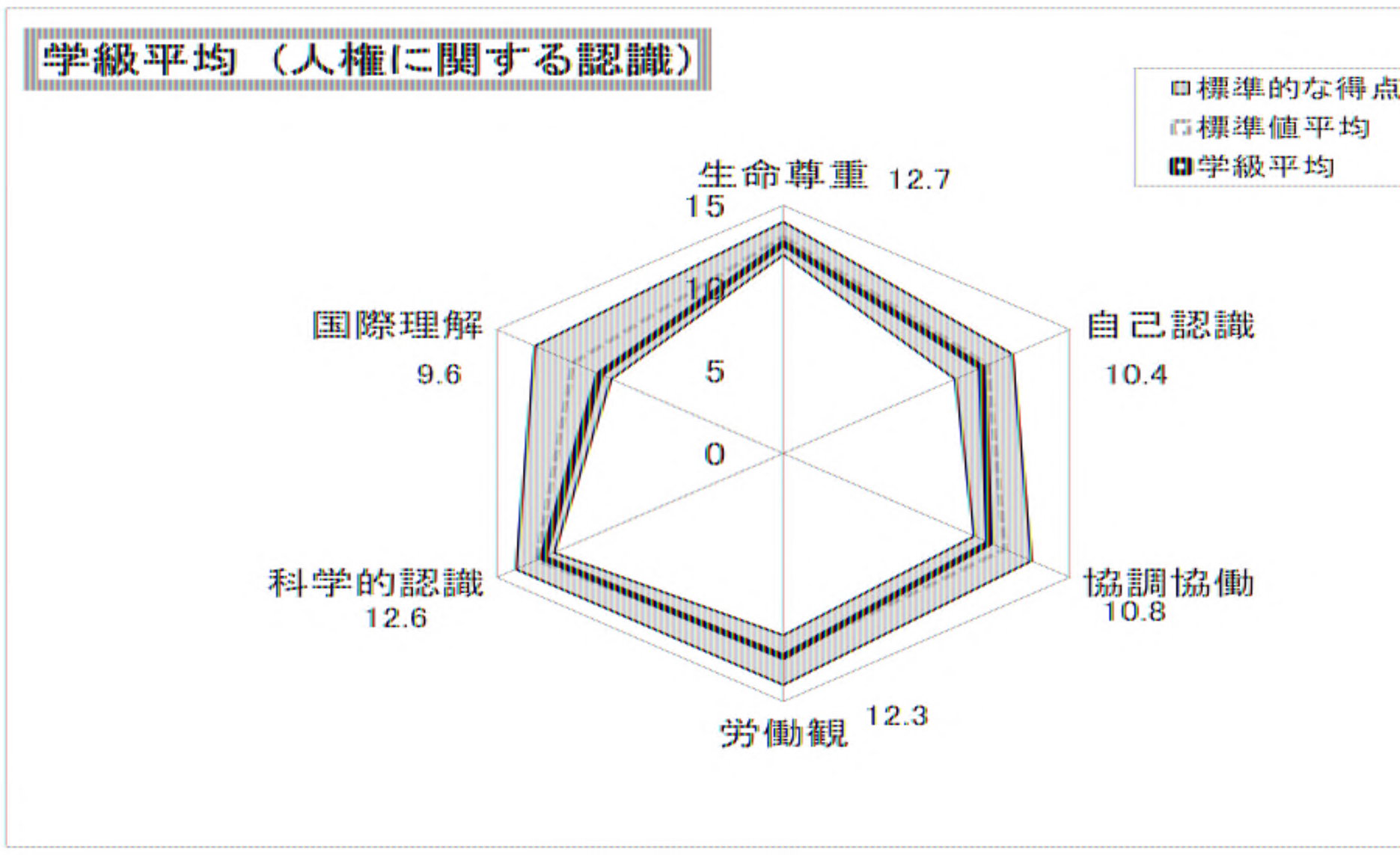
＜国際理解＞の領域の意識がやや低い傾向にあるので、例えば、日本と他国との関係の歴史や国際
社会の仕組みを理解させ、異文化を尊重し、よりよい国際関係をつくろうとする態度を育てるために
会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養っていきたい。
の意識が高い傾向にあるので、労働と生活との関係について理解を深めさせ労働によって生活を高め
に高めるために、「生活科」の授業で自分と身近な人々、社会とのかかわりに関心をもち、自分自身
考えさる取り組みに期待したい。

認　識　　山田小学校　　5年　4組

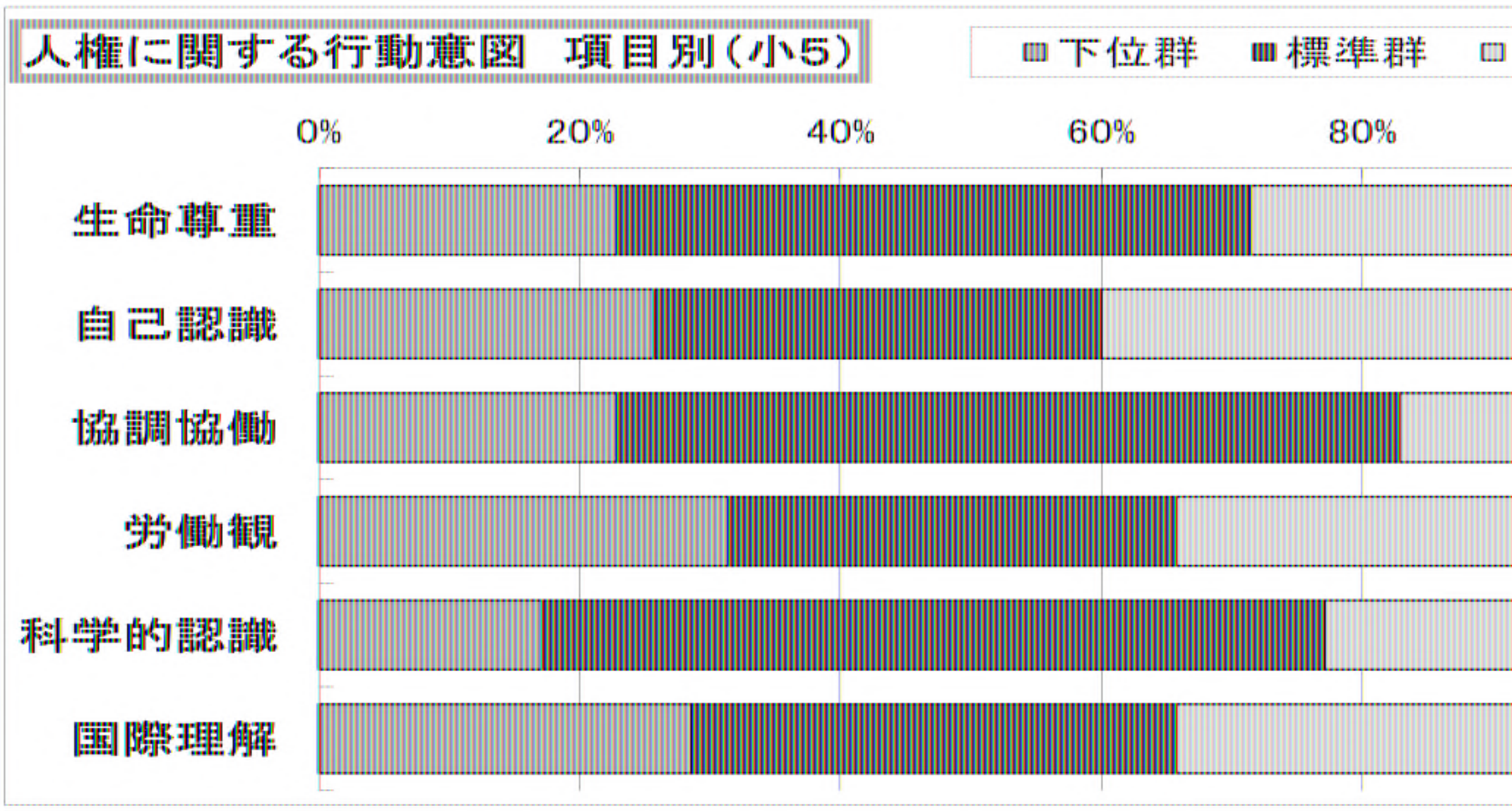


	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
上位群	31.4	↑	25.1	20.0	↓	21.9	20.0	↓	23.8	34.3	↑	17.0	28.6	↑	20.9
標準群	45.7	↓	58.0	57.1	↓	60.6	51.4	↓	59.0	42.9	↓	63.9	45.7	↓	59.0
下位群	22.9	↑	16.9	22.9	↑	17.5	28.6	↑	17.2	22.9	↑	19.1	25.7	↑	20.1

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	12.7	10.4	10.8	12.3	12.6
上位群	11	7	7	12	10
標準群	16	20	18	15	16
下位群	8	8	10	8	9

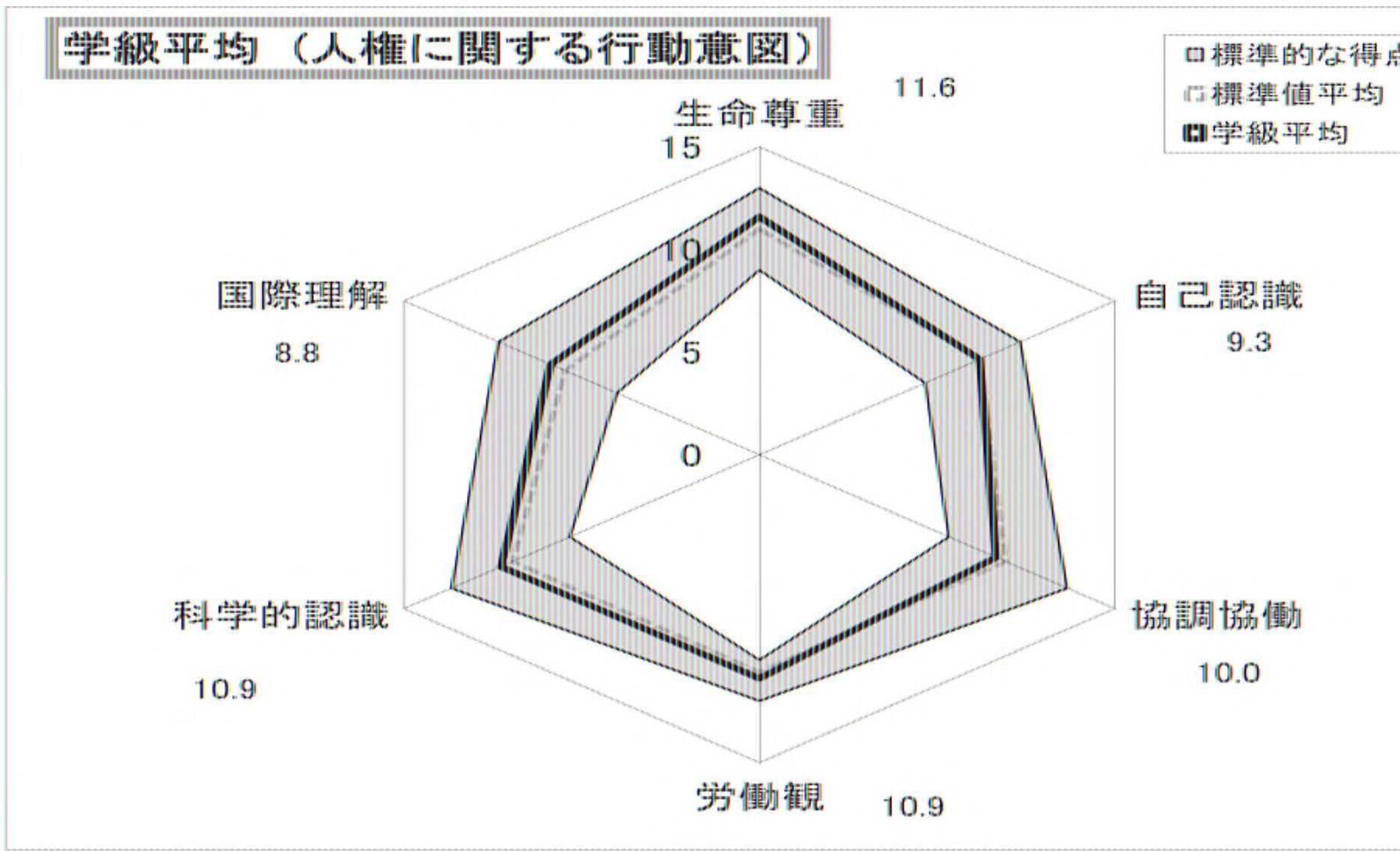


行動意図　　山田小学校　　5年　　4組



	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
高群	28.6	↑	16.6	40.0	↑	22.7	17.1		17.1	34.3	↑	8.8	22.9	↑	15.8
中群	48.6	↓	66.1	34.3	↓	59.6	60.0	↓	65.8	34.3	↓	69.1	60.0	↓	68.8
低群	22.9	↑	17.3	25.7	↑	17.7	22.9	↑	17.1	31.4	↑	22.1	17.1	↑	15.4

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	11.6	9.3	10.0	10.9	10.9
高群	10	14	6	12	8
中群	17	12	21	12	21
低群	8	9	8	11	6



【5 年 4 組】

（1） 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

すべての領域で、学級平均値が（標準的な得点の範囲）内にある。＜労働観＞は標準平均値に近く
るが、他の 5 領域＜生命尊重＞＜自己認識＞＜協調協働＞＜科学的認識＞＜国際理解＞は、標準値平
識）はやや低い傾向にある。

②帯グラフ

すべての領域で、下位群が 20%を超えており（認識）としてはやや低い傾向が見られる。しかし、
が 20%を超えており、この点では意識は高い傾向も見受けられる。特に、＜国際理解＞は上位群が 2
下位群が 40%もあり、この下位群への取り組みが必要と考えられる。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（認識）」の特徴の分析

すべての領域で、学級平均値が（標準的な得点の範囲）にあり、かつ 5 領域＜生命尊重＞＜自己認
学的認識＞＜国際理解＞はが標準値平均を下回っている（認識）ものの標準に近いので改善の余地は
図）において、上位群に意識が高い傾向にあるので、下位群を減らすことで相対的なクラス平均値の

（2） 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

すべての領域で、学級平均値が（標準的な得点の範囲）にある。6 領域＜生命尊重＞＜自己認識＞
識＞＜国際理解＞＜協調協働＞の学級平均値が（標準的な得点の範囲）の平均値に近くなっているこ
標準的な傾向にあると判断できる。

②帯グラフ

＜生命尊重＞は、上位群が 20%を超えているが下位群も 20%を超えているのでやや低い傾向にある。
群が 40%であるが下位群も 25%を超えているので（行動意図）が高いとは言えない。＜協調協働＞は、
下位群は 20%を超えているのでやや低い傾向にある。＜労働観＞は、上位群が 35%であるが下位群も 3
向にある。＜科学的認識＞は、上位群が 20%を超えており下位群が 20%を下回っているので（行動意図
る。＜国際理解＞は、上位群が 34%、下位群が 29%とやや低い傾向にある。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（行動意図）」の特徴の分析

すべての領域で、学級平均値が（標準的な得点の範囲）にある。（認識）のレーダーチャートにおい
準平均値に近く標準的な意識傾向にあるが、他の 5 領域＜生命尊重＞＜自己認識＞＜協調協働＞＜科
＞は、標準値平均を下回っており（認識）はやや低い傾向にある。しかし、（行動意図）のレーダーチ
ての 6 領域＜生命尊重＞＜自己認識＞＜労働観＞＜科学的認識＞＜国際理解＞＜協調協働＞の学級平
の範囲）の平均値に近くなっていることからは標準的な傾向にあると判断できる。つまり（認識）よ
っているということである。

（3）「学級」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

本クラスは、（認識）と（行動意図）のすべての領域で（標準的な得点の範囲）内にある。特徴と
ける＜科学的認識＞の上位群が 20%を超え、下位群が 20%を下回っており、（行動意図）はやや高い傾
いきたい。また課題として、＜国際理解＞（認識）の上位群が 20%を超えているものの下位群が 40%、
が 30%を超えているものの下位群が 30%となっており、この下位群への取り組みを改善することでク
上させたい。

（4）「人権意識」改善への提案

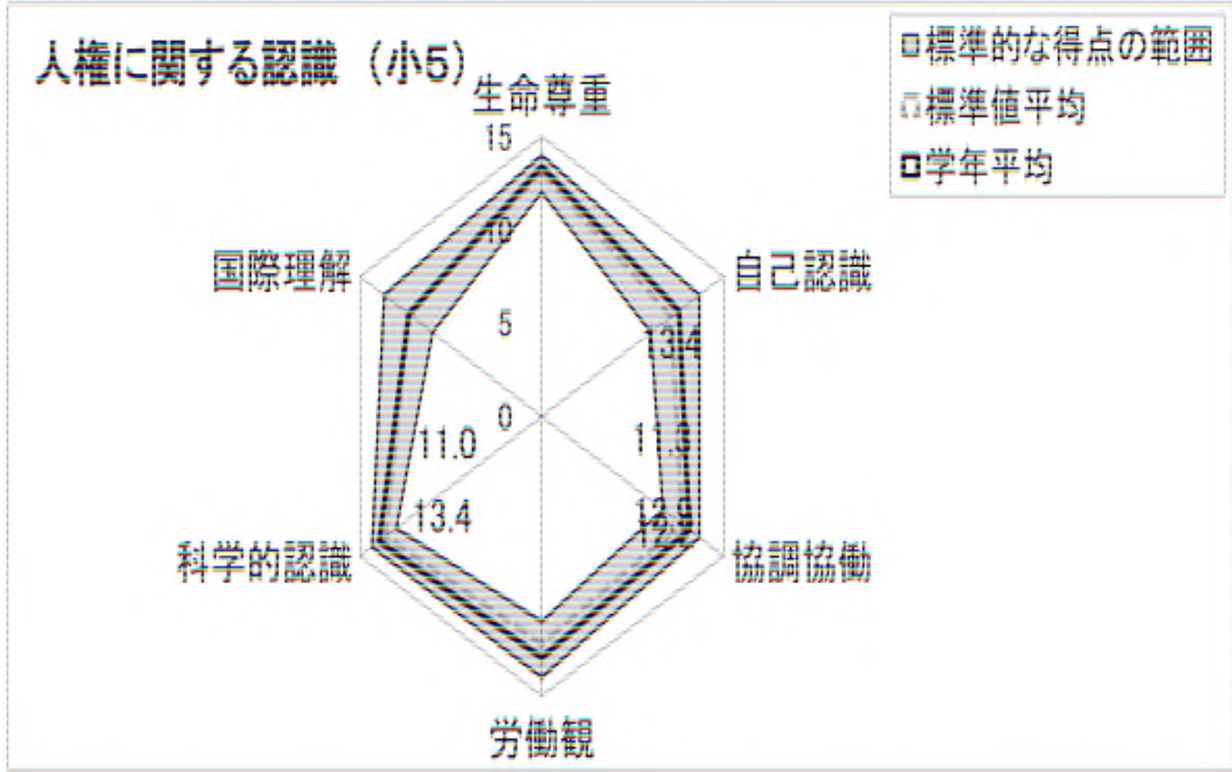
＜国際理解＞の領域がやや低いので、高めるために日本と他国との関係の歴史や国際機関のはたら
を理解させ、異文化を尊重し、よりよい国際関係をつくろうとする態度を育てる取り組みを期待した
己認識＞は、上位群が 40%、下位群 25%であり改善が望まれる。自分の生き方に自信と誇りを持ち、理
努力しようとする態度を育てるため、他者から承認される仕掛けを日々の教育活動での実践でしても
＞とも関連するが、相手を尊重し協力して集団を高めようとする態度も相乗効果として期待される。

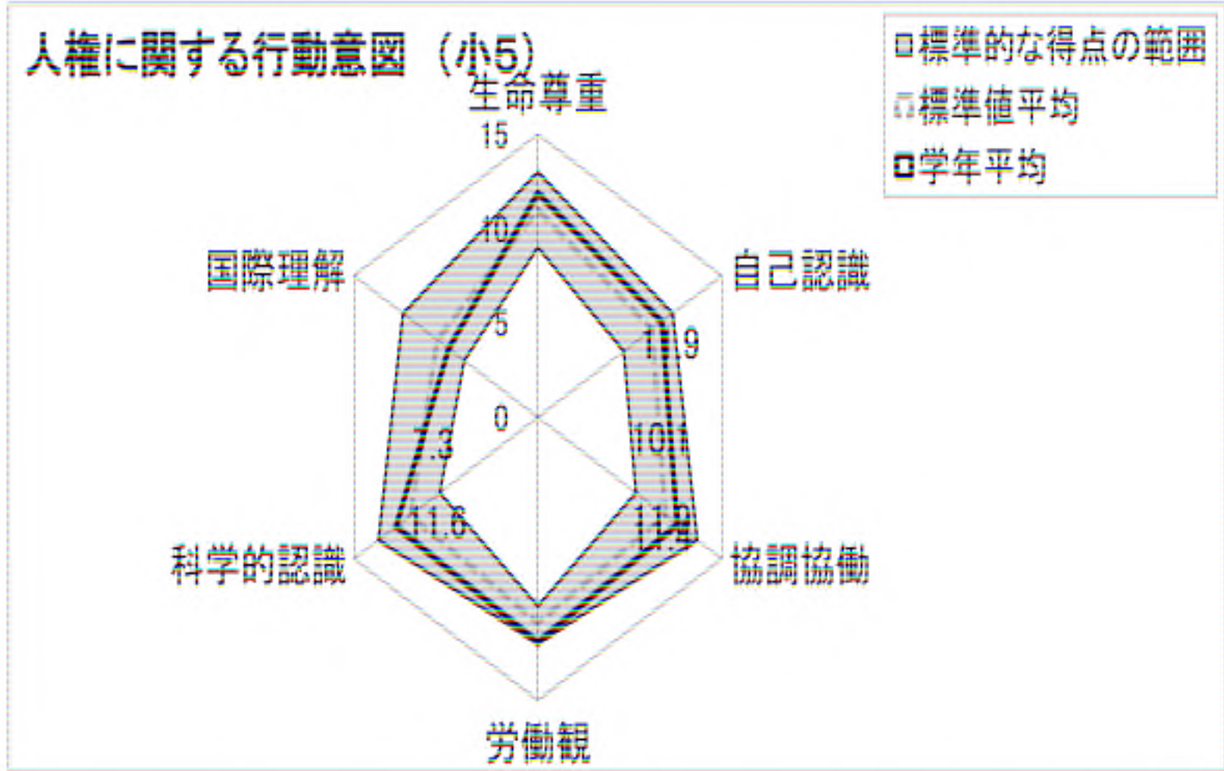
［山田小学校　第５学年］

認識
学校名
山田小学校

人権に関する認識	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識	国際理解
学年平均	13.4	11.3	12.2	12.9	13.4	11.0
標準値平均	13.1	10.7	11.6	12.2	12.9	11.0
標準的な得点の範囲	14	13	13	14	14	13
下位群値	12	9	10	11	12	9

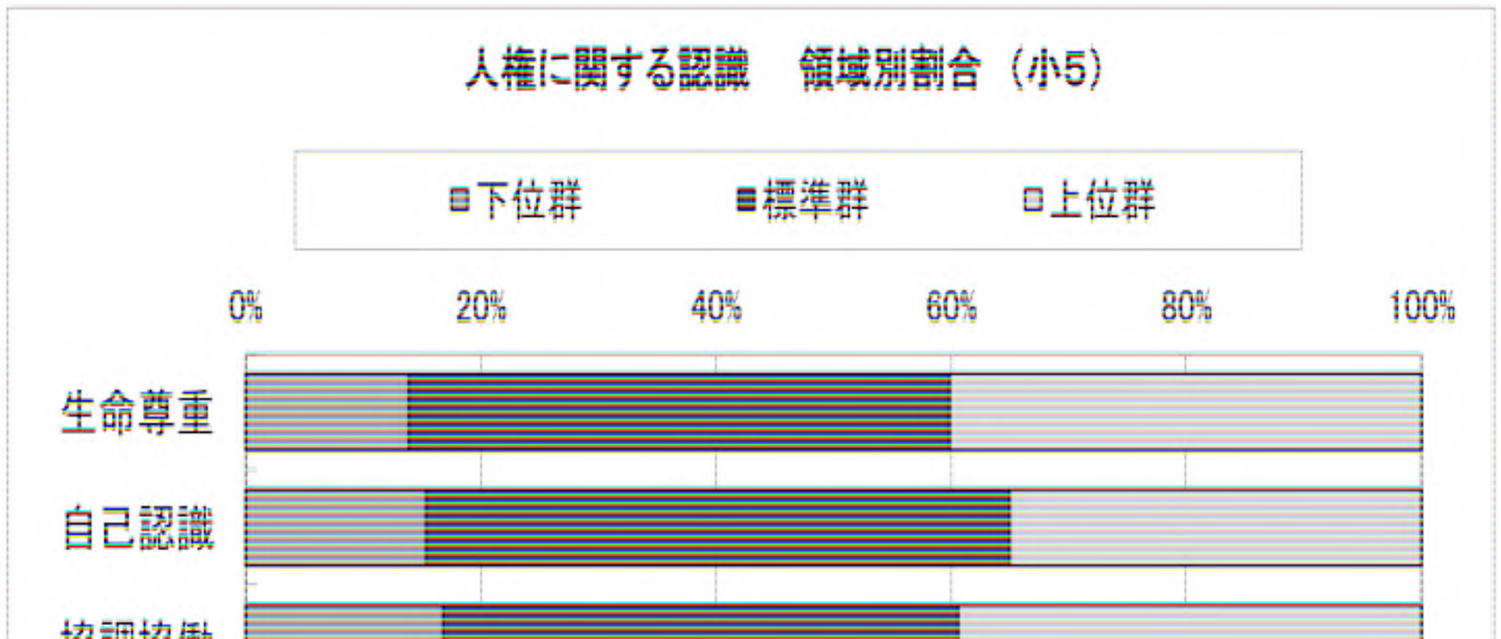
人権に関する行動意図	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識	国際理解
学年平均	11.9	10.1	11.4	11.9	11.6	7.3
標準値平均	11.0	9.3	10.4	10.9	10.4	8.2
標準的な得点の範囲	13	11	13	12	13	11
下位群値	9	7	8	10	8	6

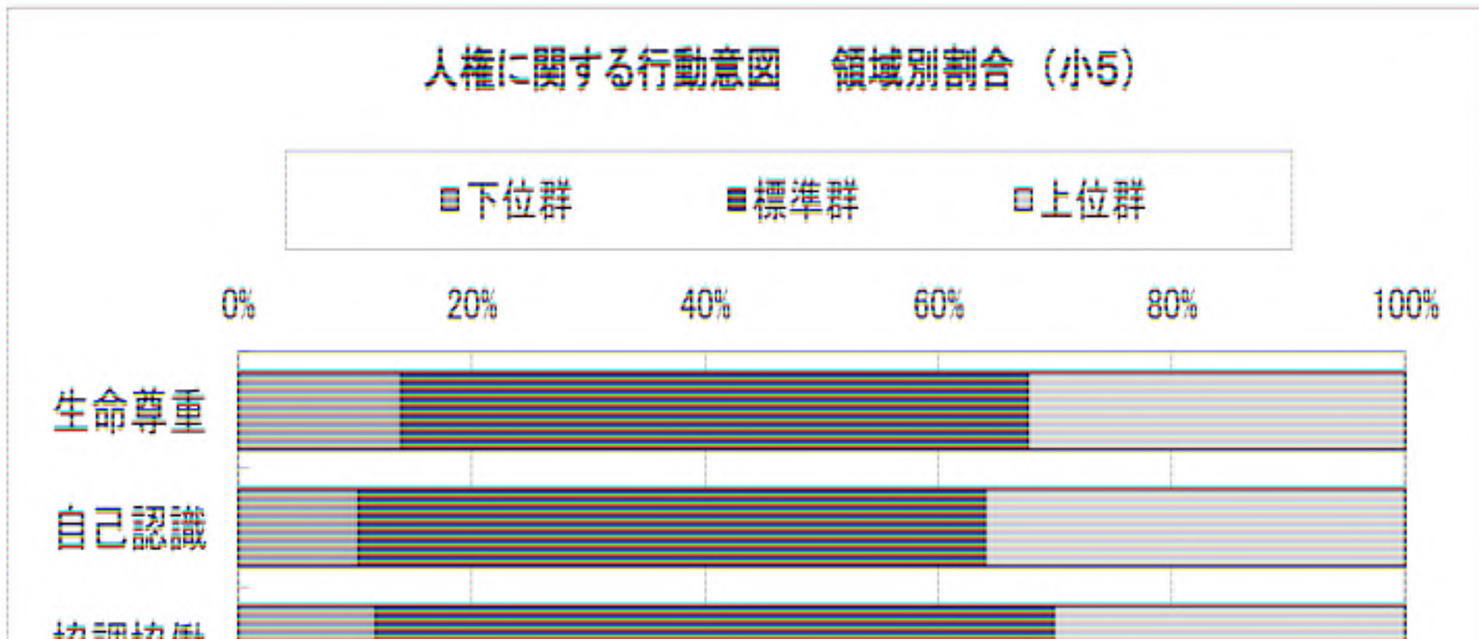




人権に関する認識		国際理解	科学的認識	労働観	協調協働	自己認識	生命尊重
5年	上位群	45	51	54	54	48	55
	標準群	62	68	64	60	68	63
	下位群	30	18	19	23	21	19

人権に関する行動意図		国際理解	科学的認識	労働観	協調協働	自己認識	生命尊重
5年	上位群	50	43	63	41	49	44
	標準群	60	78	50	79	73	73
	下位群	26	15	23	16	14	19





【学年に関する分析】

(1) 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

すべての領域で、学年平均値が（標準的な得点の範囲）内にある。＜生命尊重＞＜国際理解＞の領
(標準的な得点の範囲）の平均値に近くなっていることから、この２領域（認識）は標準的な傾向があ
己認識＞＜協調協働＞＜科学的認識＞＜労働観＞の領域は学年の平均値が（標準的な得点の範囲）の
りやや高い傾向にあると判断できる。

②帯グラフ

６領域＜生命尊重＞＜自己認識＞＜協調協働＞＜労働観＞＜科学的認識＞＜国際理解＞のすべてに
を超えており（認識）レベルが高い傾向にあり、下位群も＜国際理解＞を除いて20%を下回っている
良い傾向にあると判断できる。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（認識）」の特徴の分析

＜生命尊重＞はレーダーチャートでは標準的な傾向、帯グラフでは（認識）が高い傾向にある。＜
＞＜科学的認識＞＜労働観＞はレーダーチャートでも帯グラフでも（認識）が高い傾向がある。＜国
ャートでは標準的な傾向であったが帯グラフでは下位群が20%以上を超えておりやや低い傾向が見ら

(2) 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

すべての領域で、学年平均値が（標準的な得点の範囲）内にある。＜労働観＞の領域は学年の平均
範囲）の上限値に近くなっていることから、（行動意志）はやや高い傾向にあると判断できる。＜生命
協調協働＞＜科学的認識＞の領域は学年の平均値が（標準的な得点の範囲）の平均値に近くなっている
の（行動意志）は標準的な傾向にあると判断できる。＜国際理解＞の領域は学年の平均値が（標準的
値を下回っていることから（行動意志）は低い傾向にあると判断できる。

②帯グラフ

６領域＜生命尊重＞＜自己認識＞＜協調協働＞＜労働観＞＜科学的認識＞＜国際理解＞のすべてに
を超えており（認識）レベルが高い傾向にあり、下位群も20%を下回っているので人権意識としては
できる。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学年（行動意図）」の特徴の分析

＜生命尊重＞＜自己認識＞＜科学的認識＞は帯グラフでもレーダーチャートでも（行動意図）が標
協調協働＞＜労働観＞は帯グラフでもレーダーチャートでも（行動意図）が高い傾向がある。＜国際
ートでは（行動意図）が高い傾向にあるが帯グラフでは低い傾向にある。

(3)「学年」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

５年生全体をみると、（認識）と（行動意図）のすべての領域で（標準的な得点の範囲）内にある。
方において＜労働観＞の領域が最も高い傾向がある。＜自己認識＞の領域は（認識）（行動意図）両方
にあるので伸ばしていきたい。＜国際理解＞の領域については、（認識）の帯グラフと（行動意図）の
いて最も低い傾向にある。異文化理解への取り組みが望まれる。

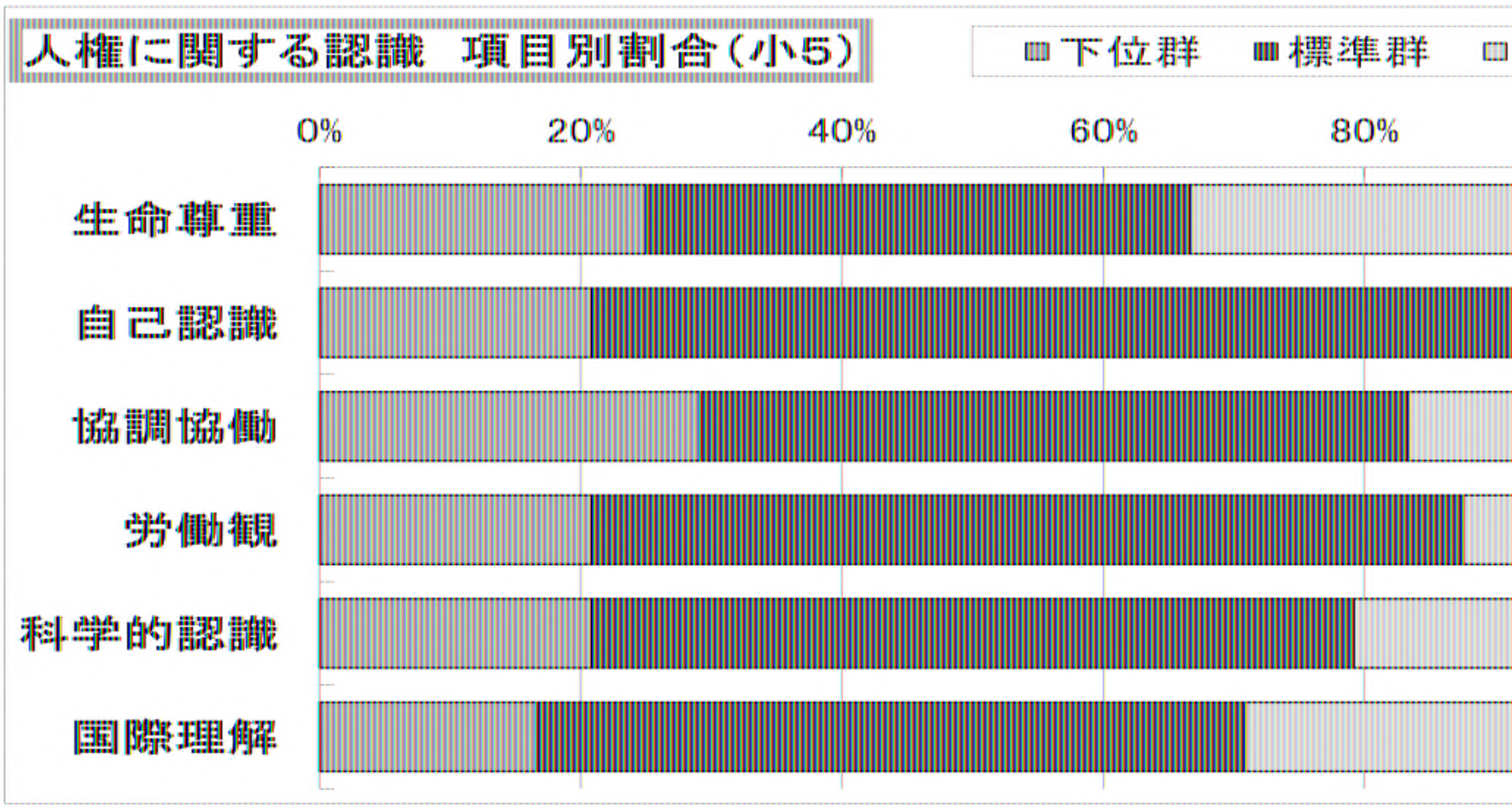
(4)「人権意識」改善への提案

学年全体的にみて（認識）（行動意図）ともに高い意識がある。特に＜労働観＞の領域が高いので、
ついて理解を深めさせ労働によって生活を高めようとする意欲をさらに高めるために、「生活科」の
人々や社会とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせてはいかがだろうか
域と＜国際理解＞の領域がやや低い傾向なので、身近な差別や部落問題や人権問題について理解を深
の役割や行動の在り方を考えようとする態度を育てること、日本と他国との関係の歴史を理解させ異
育てるために「社会科」の授業等で国際社会に生きる民主的、平和的な国家や社会の形成者として必
を養うという目標に対応する取り組みが必要と思われる。

吉木小学校

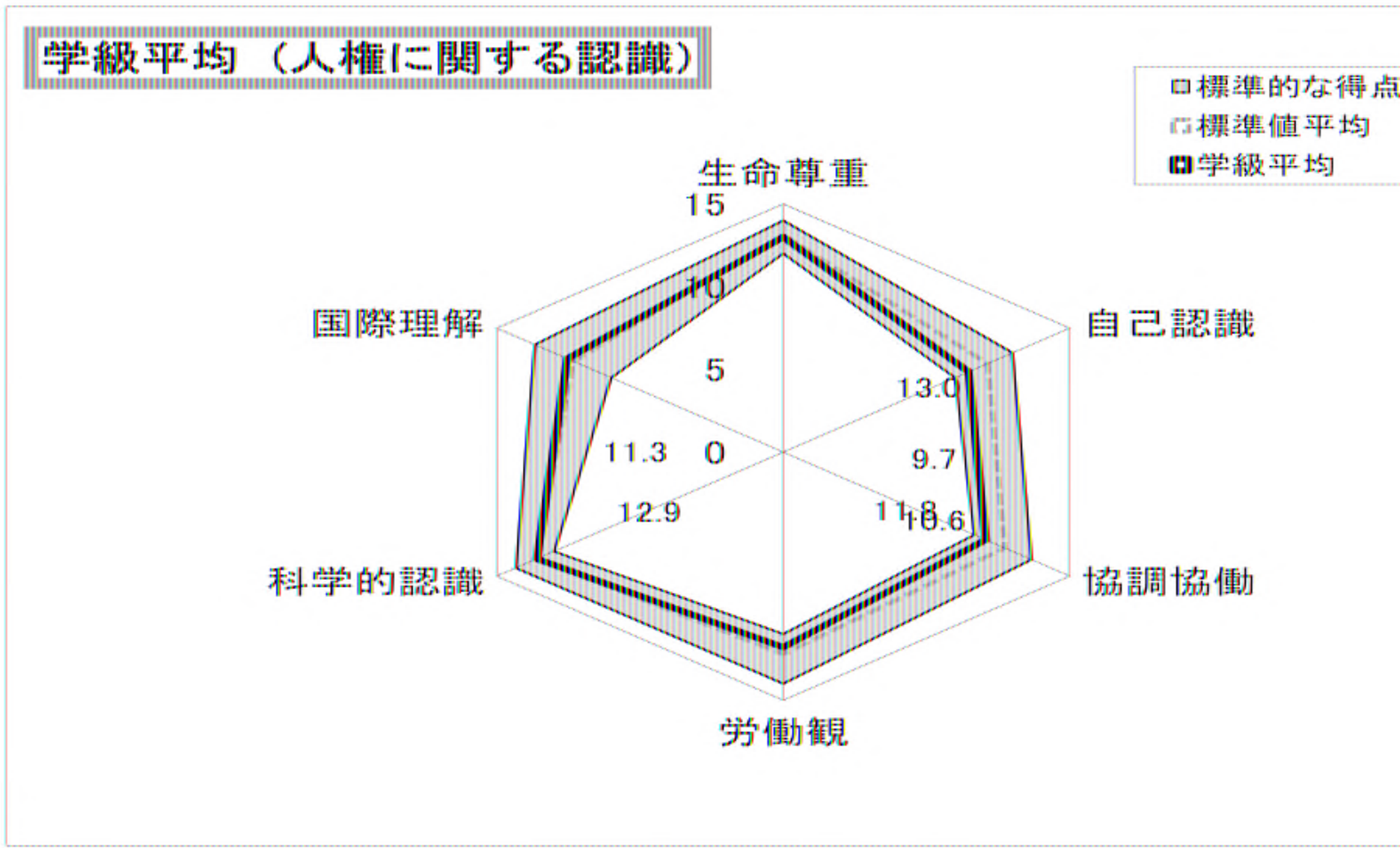
（赤星庸大）

認　識　　吉木小学校　　5年　1組

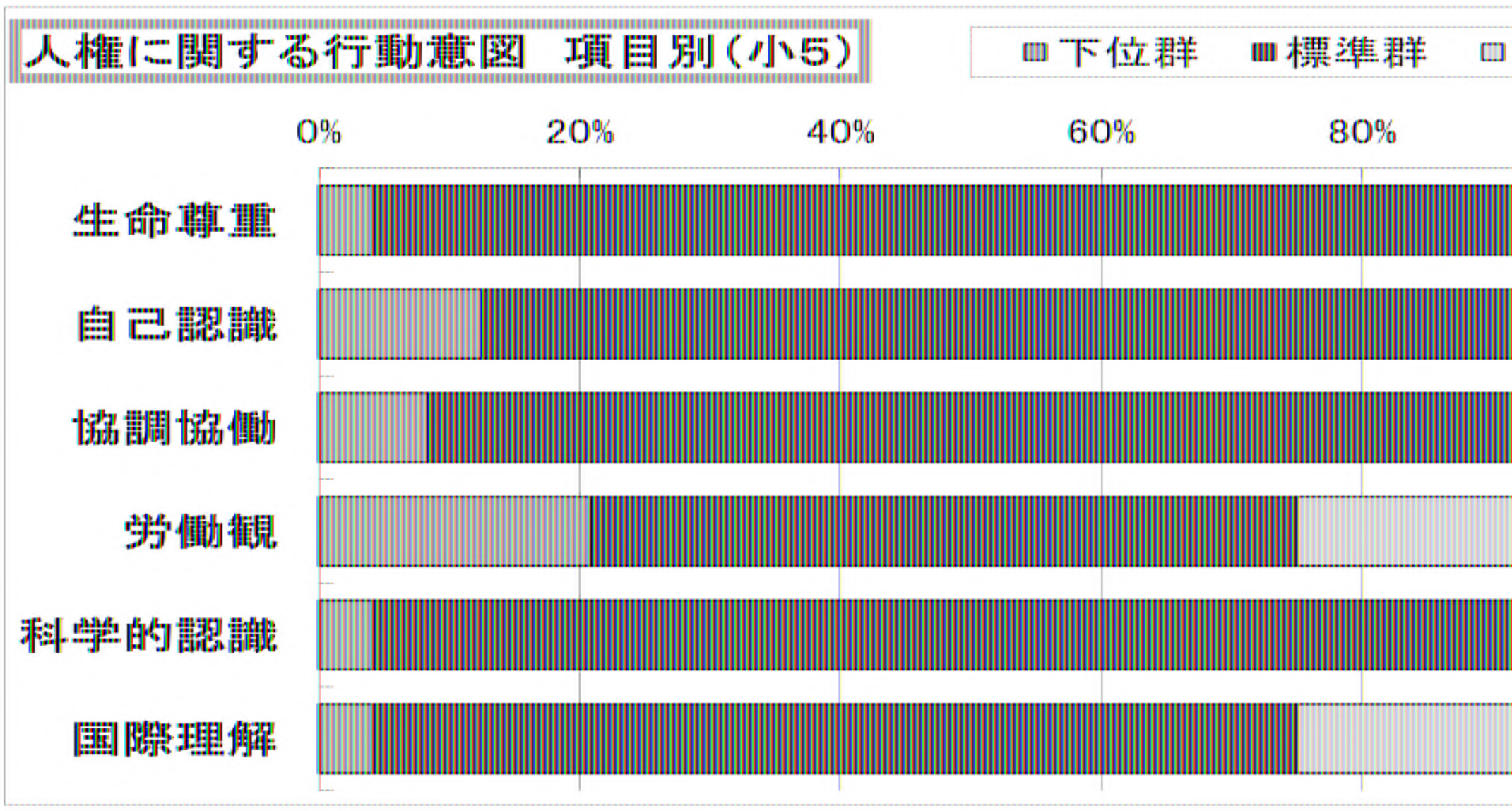


	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
上位群	33.3	↑	25.1	8.3	↓	21.9	16.7	↓	23.8	12.5	↓	17.0	20.8		20.9
標準群	41.7	↓	58.0	70.8	↑	60.6	54.2	↓	59.0	66.7	↑	63.9	58.3		59.0
下位群	25.0	↑	16.9	20.8	↑	17.5	29.2	↑	17.2	20.8	↑	19.1	20.8		20.1

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	13.0	9.7	10.6	11.8	12.9
上位群	8	2	4	3	5
標準群	10	17	13	16	14
下位群	6	5	7	5	5

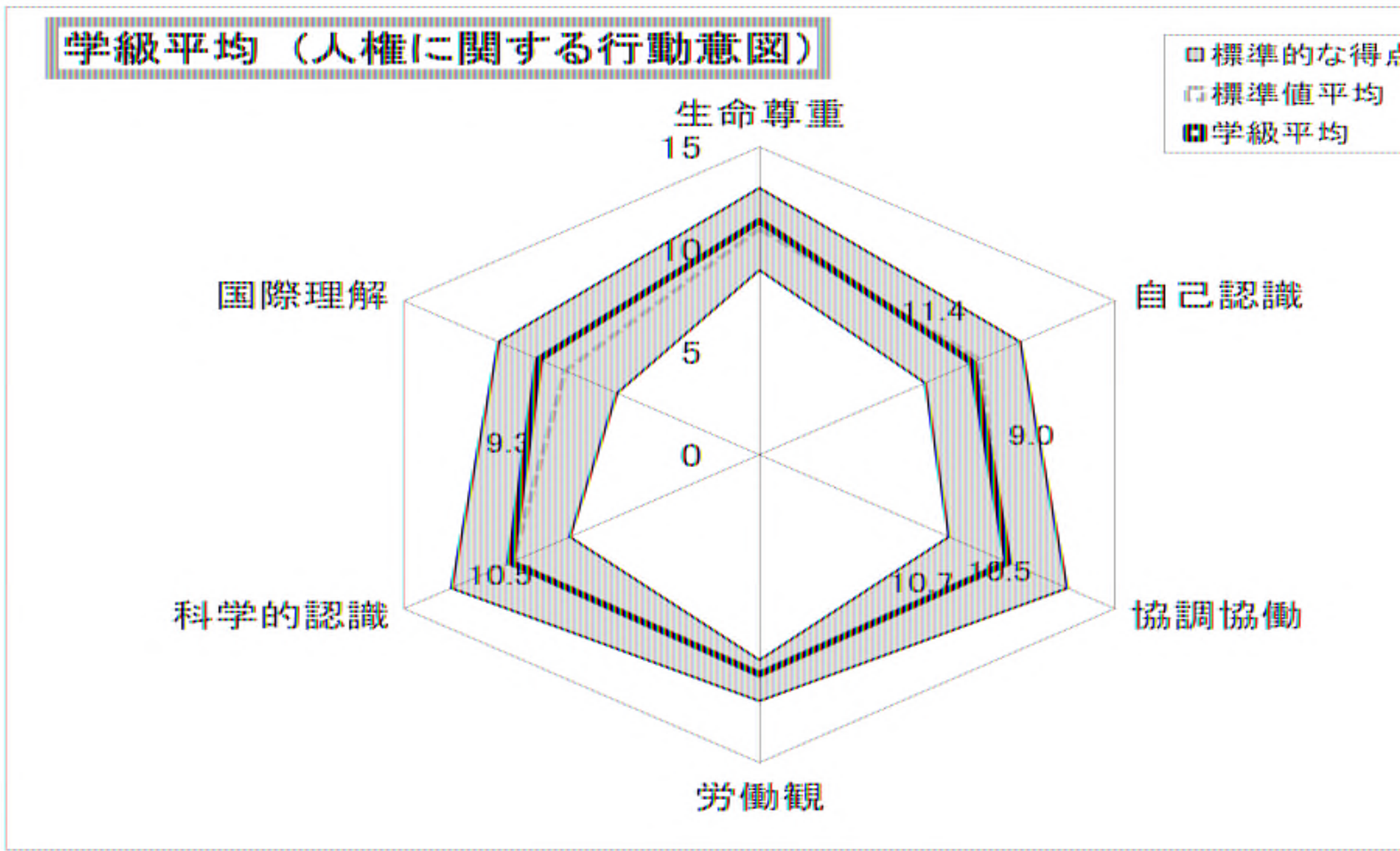


行動意図　　吉木小学校　　5年　　1組



	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
高群	8.3	↓	16.6	4.2	↓	22.7	4.2	↓	17.1	25.0	↑	8.8	8.3	↓	15.8
中群	87.5	↑	66.1	83.3	↑	59.6	87.5	↑	65.8	54.2	↓	69.1	87.5	↑	68.8
低群	4.2	↓	17.3	12.5	↓	17.7	8.3	↓	17.1	20.8	↓	22.1	4.2	↓	15.4

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	11.4	9.0	10.5	10.7	10.5
高群	2	1	1	6	2
中群	21	20	21	13	21
低群	1	3	2	5	1



【5 年 1 組】

（1） 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

学級平均は、（標準的な得点の範囲）内にある。＜生命尊重＞＜科学的認識＞＜国際理解＞＜労働観
く、＜自己認識＞＜協調協働＞は標準平均値から下限値に近いので、（認識）はやや低い傾向にある。

②帯グラフ

＜労働観＞＜科学認識＞には標準群が多く見られ、＜生命尊重＞＜科学的認識＞＜国際理解＞には上
れたが、＜協調協働＞には下位群が多い傾向が見られた。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（認識）」の特徴の分析

全体的には平均的だが、＜自己認識＞と＜協調協働＞は（認識）がやや低い傾向が見られる。＜国際理
位群が 20%以上、下位群が 20%以下ということで意識が高い傾向にある。本クラスは、異文化理解が
かと分析した。

（2） 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

学級平均は、（標準的な得点の範囲）内にある。＜生命尊重＞＜自己認識＞＜協調協働＞＜労働観＞
的な傾向が見られ、＜国際理解＞は平均を上回っており意識が高い傾向にある。

②帯グラフ

＜自己認識＞＜協調協働＞＜科学認識＞には、標準群が多い傾向が見られ、＜労働観＞＜国際理解＞
群が多い傾向が見られた。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（行動意図）」の特徴の分析

全体的には標準的だが、（認識）において、＜自己認識＞と＜協調協働＞はやや低い傾向が見られた。
リーダーシップを自らとったり、人の前で指示を出す機会を意図的に設定することが期待される。

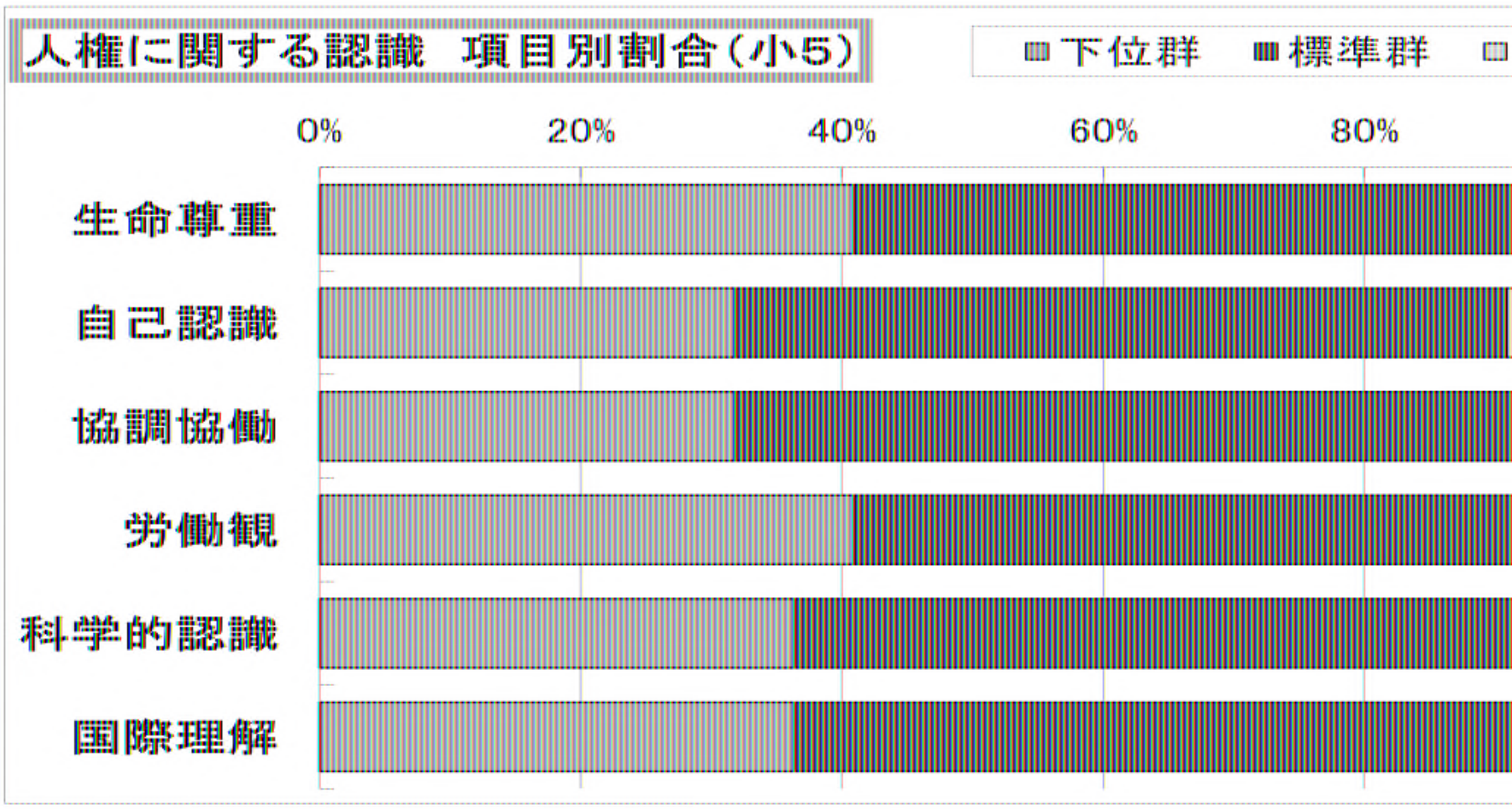
（3）「学級」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

本クラスは、（認識）における＜自己認識＞＜協調協働＞が平均を下回っている傾向が見られた。自
と関わることができる教育的取り組みが望まれる。自分で自分の良いところみつける仕掛けが必要であ
調協働＞の行動意図が標準的であることを活用して、グループワークを積極的に使用した方が良いので
えば、一つの問題を数人で考え一人で考えても答えが出なくても、助け合えば答えがでたという経験を
働」＞が＜自己認識＞を高めることにもつながるのではと考える。

（4） 「人権意識」改善への提案

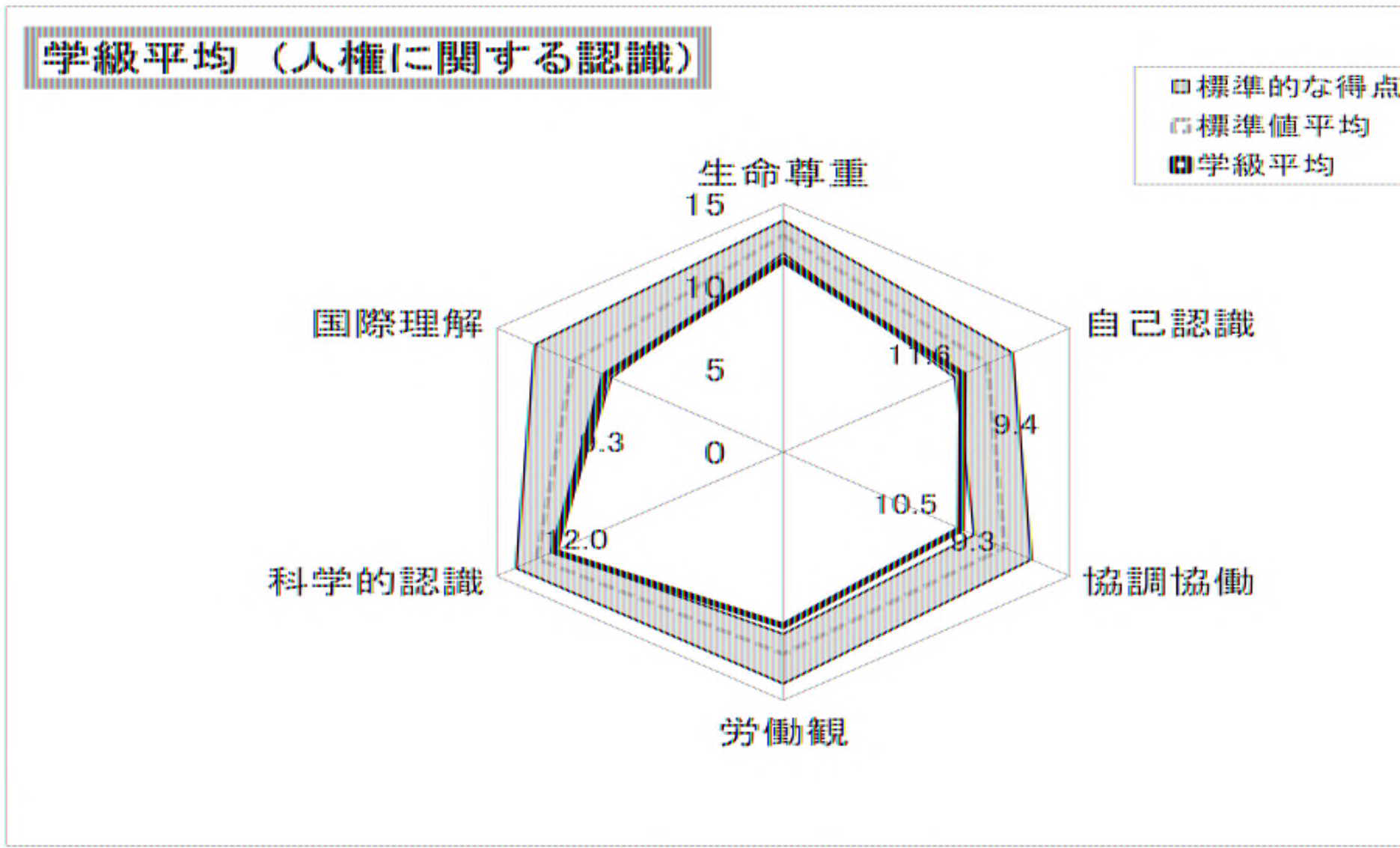
5 年 1 組は＜労働観＞が標準的であるが、この領域を伸ばすことで、他の領域に効果的につながって
る。労働と生活との関係について理解、労働によって生活を高めようとする意欲、身近な職業の見方や
も考えさせることが望まれる。例えば、道徳の授業で職業調べを行い、将来のなりたい職業や今まで知
ことで補えるのではないか。職業、働く人の姿などをビデオ学習しても良いと思う。

認　識　　吉木小学校　　5年　2組

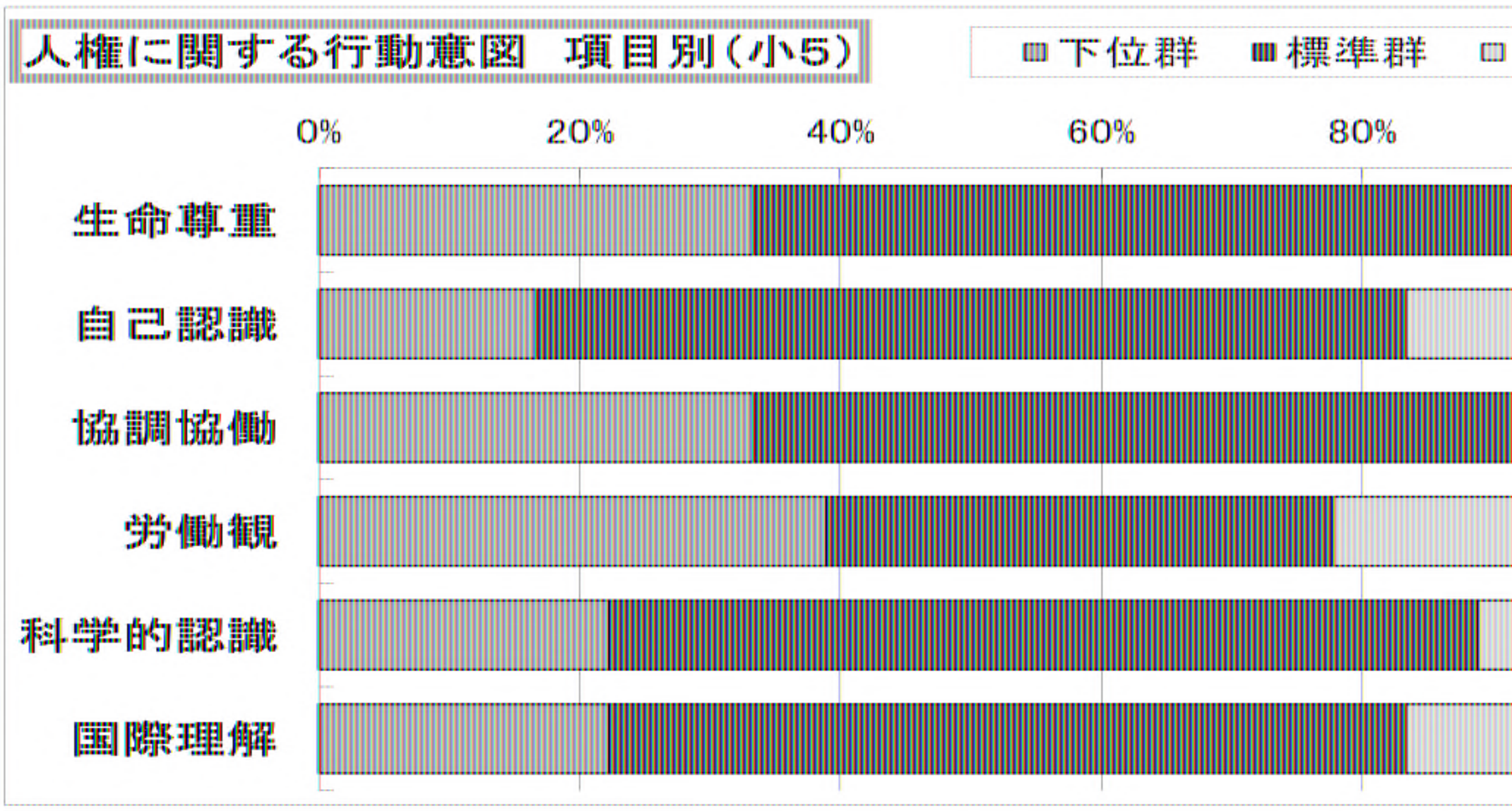


	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
上位群	4.5	↓	25.1	9.1	↓	21.9	0.0	↓	23.8	4.5	↓	17.0	4.5	↓	20.9
標準群	54.5	↓	58.0	59.1	↓	60.6	68.2	↑	59.0	54.5	↓	63.9	59.1		59.0
下位群	40.9	↑	16.9	31.8	↑	17.5	31.8	↑	17.2	40.9	↑	19.1	36.4	↑	20.1

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	11.6	9.4	9.3	10.5	12.0
上位群	1	2	0	1	1
標準群	12	13	15	12	13
下位群	9	7	7	9	8

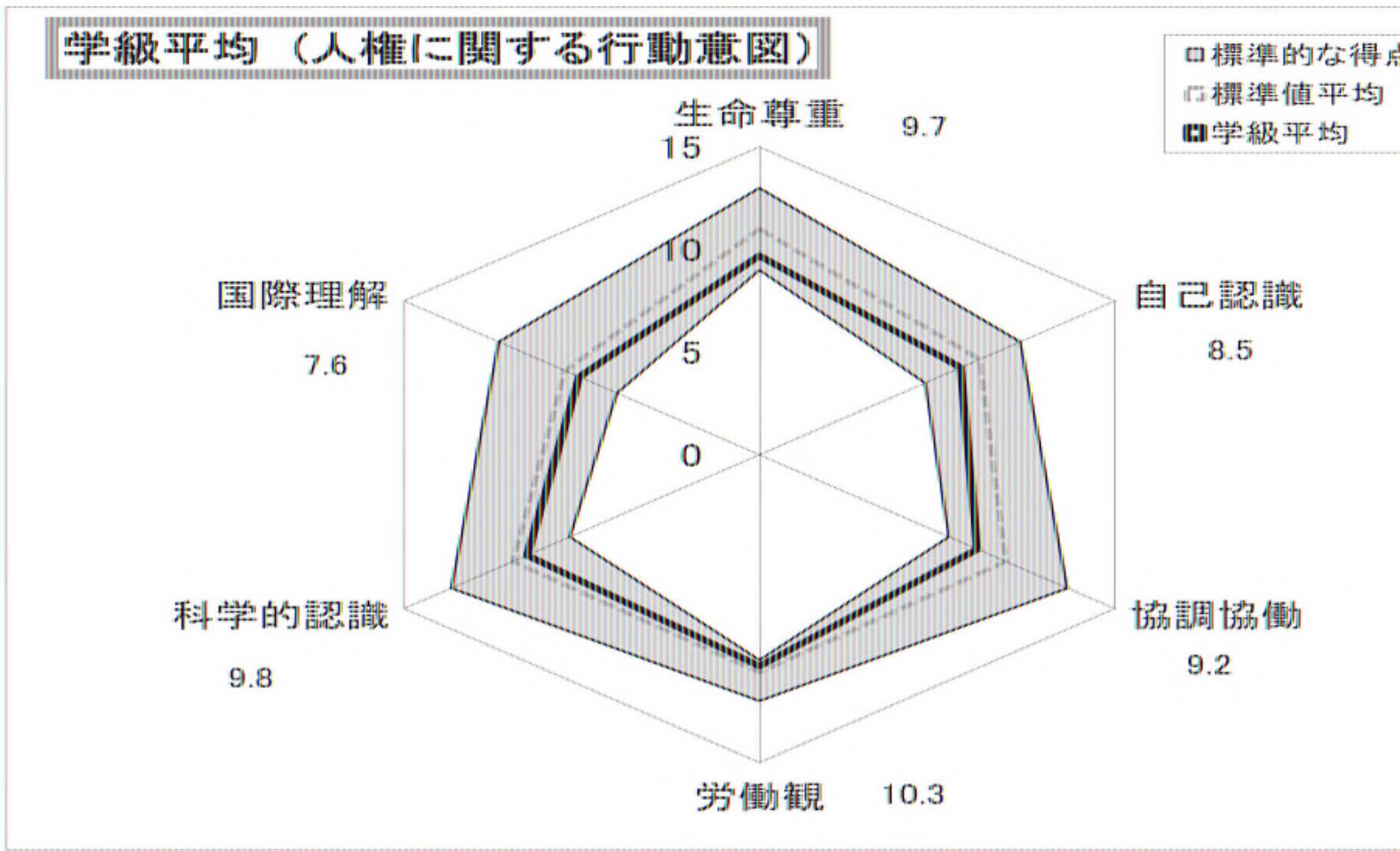


行動意図　　吉木小学校　　5年　　2組



	生命尊重			自己認識			協調協働			労働観			科学的認識		
%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%	クラス%		標準%
高群	5.6	↓	16.6	16.7	↓	22.7	5.6	↓	17.1	22.2	↑	8.8	11.1	↓	15.8
中群	61.1	↓	66.1	66.7	↑	59.6	61.1	↓	65.8	38.9	↓	69.1	66.7	↓	68.8
低群	33.3	↑	17.3	16.7	↓	17.7	33.3	↑	17.1	38.9	↑	22.1	22.2	↑	15.4

	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識
平均	9.7	8.5	9.2	10.3	9.8
高群	1	3	1	4	2
中群	11	12	11	7	12
低群	6	3	6	7	4



【5 年 2 組】

（1） 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

学級平均は<生命尊重><自己認識><科学的認識><国際理解>について、（標準的な得点の範囲識）としてやや低い傾向にある。<協調協働><労働観>については、（標準的な得点の範囲）外とない傾向にある。

②帯グラフ

6 領域<生命尊重><自己認識><協調協働><労働観><科学的認識><国際理解>の全てにおいであり上位群が 20%以下であり、（認識）は低い傾向にある。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（認識）」の特徴の分析

学級平均が低い傾向にある理由は、レーダーチャートと帯グラフから分かるように 6 領域とも標準群だ。この標準的な層の人権意識をより向上させ、上位群に移行させれば、クラス全体の意識傾向が改善

（2） 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

学級平均は、（標準的な得点の範囲）内にある。<労働観>を除いて、他の 5 領域<生命尊重><自<科学的認識><国際理解>は、（標準的な得点の範囲）の標準値平均より下限値に近くなっており、

②帯グラフ

<自己認識>を除く 5 領域<生命尊重><協調協働><労働観><科学的認識><国際理解>につい下位群が 20%を上まわっており、（行動意図）は低い傾向にあり、上位群では<労働観>のみが 20%を>は上位群こそ 20%を超えているが、下位群も 40%近くと高い割合になっており課題が残る。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学級（行動意図）」の特徴の分析

<生命尊重><自己認識><協調協働><科学的認識><国際理解>の領域が平均を下回っていた下位群が 33%、上位群も 5.6%と低い傾向が見られた。<労働観>の上位群は 22.2%と 20%を上回って と低い意識傾向を示している。

（3）「学級」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

<生命尊重><自己認識><協調協働><労働観><科学的認識><国際理解>において、標準群このクラスの特徴であり、改善の余地が大きいと考えられる。（行動範囲）でやや高い傾向にある<自に着目して、この 2 領域を向上させることから始めてはどうか。

（4） 「人権意識」改善への提案

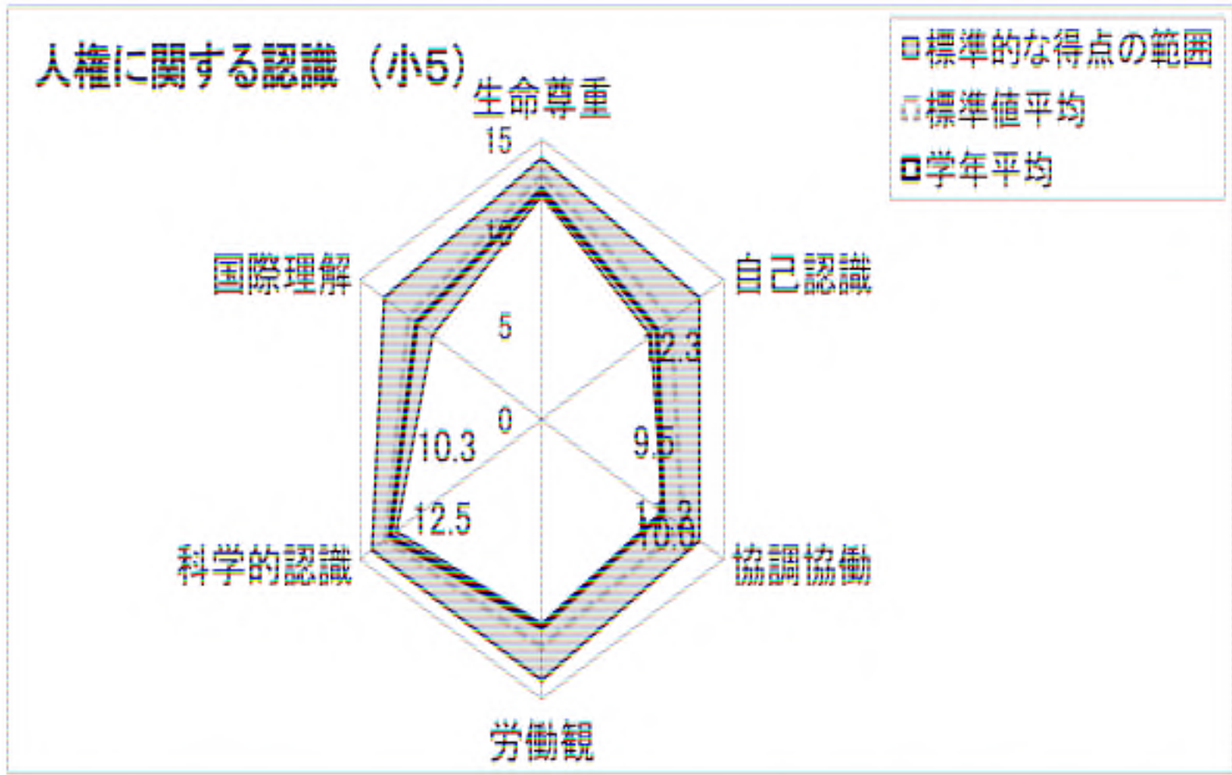
本クラスの人権意識を向上させたい領域として<協調協働>があるが、この領域を向上させるプロい意識傾向にある<自己認識>と<労働観>をより伸ばすことで、他の領域<生命尊重><科学へと波及させていくことが望まれる。<協調協働>のプログラムとして、多彩な価値観があることの力して集団を高めようとする態度の涵養のため、例えば、体育の授業でグループワークをさせ児童だけをとることでそれぞれの考えを聞き、より良いチーム作りをしようとする試みや体育の授業での集団 考えられる。

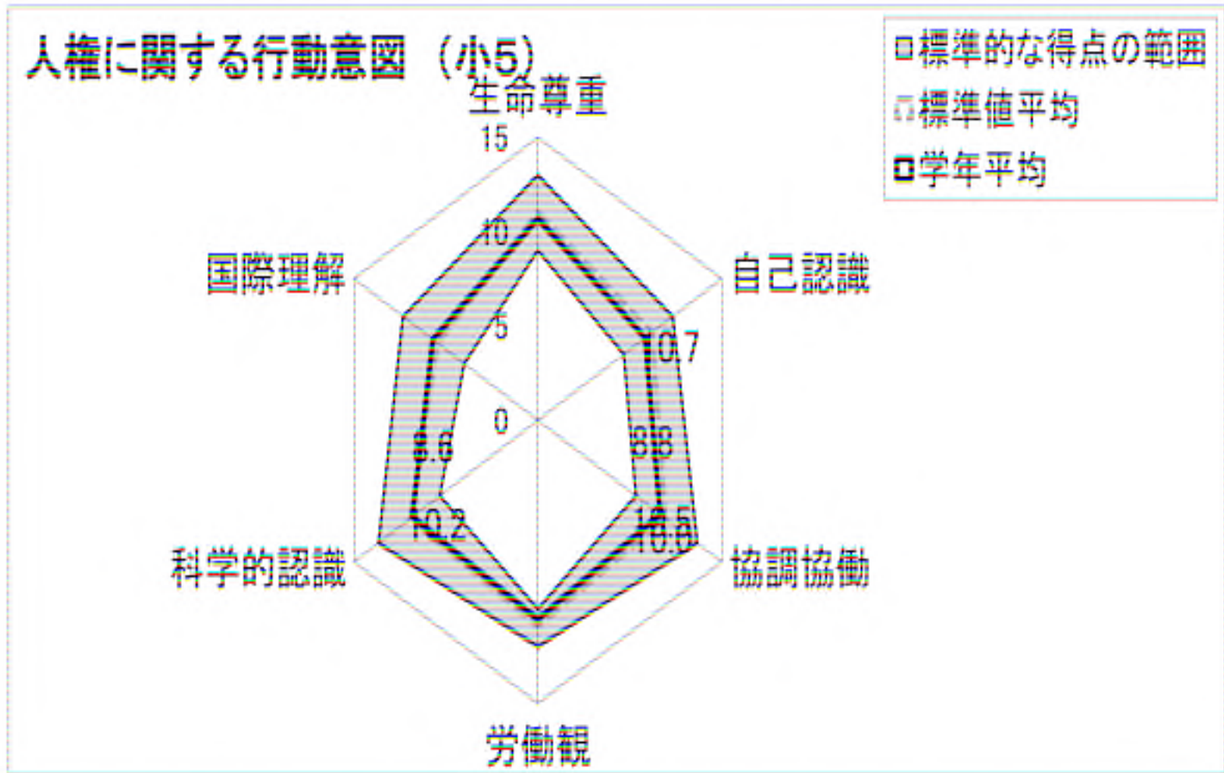
［吉木小学校　第５学年］

認識
学校名
吉木小学校

人権に関する認識	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識	国際理解
学年平均	12.3	9.5	10.0	11.2	12.5	10.3
標準値平均	13.1	10.7	11.6	12.2	12.9	11.0
標準的な得点の範囲	14	13	13	14	14	13
下位群値	12	9	10	11	12	9

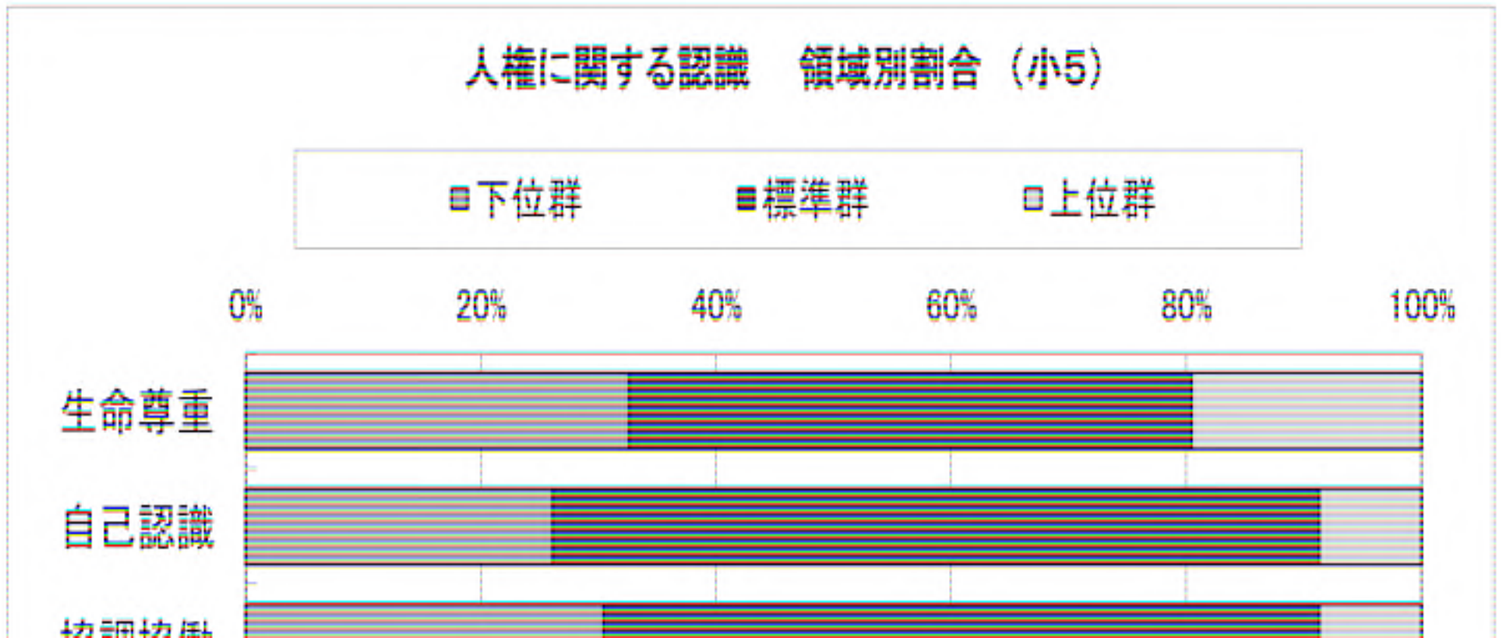
人権に関する行動意図	生命尊重	自己認識	協調協働	労働観	科学的認識	国際理解
学年平均	10.7	8.8	10.0	10.5	10.2	8.6
標準値平均	11.0	9.3	10.4	10.9	10.4	8.2
標準的な得点の範囲	13	11	13	12	13	11
下位群値	9	7	8	10	8	6

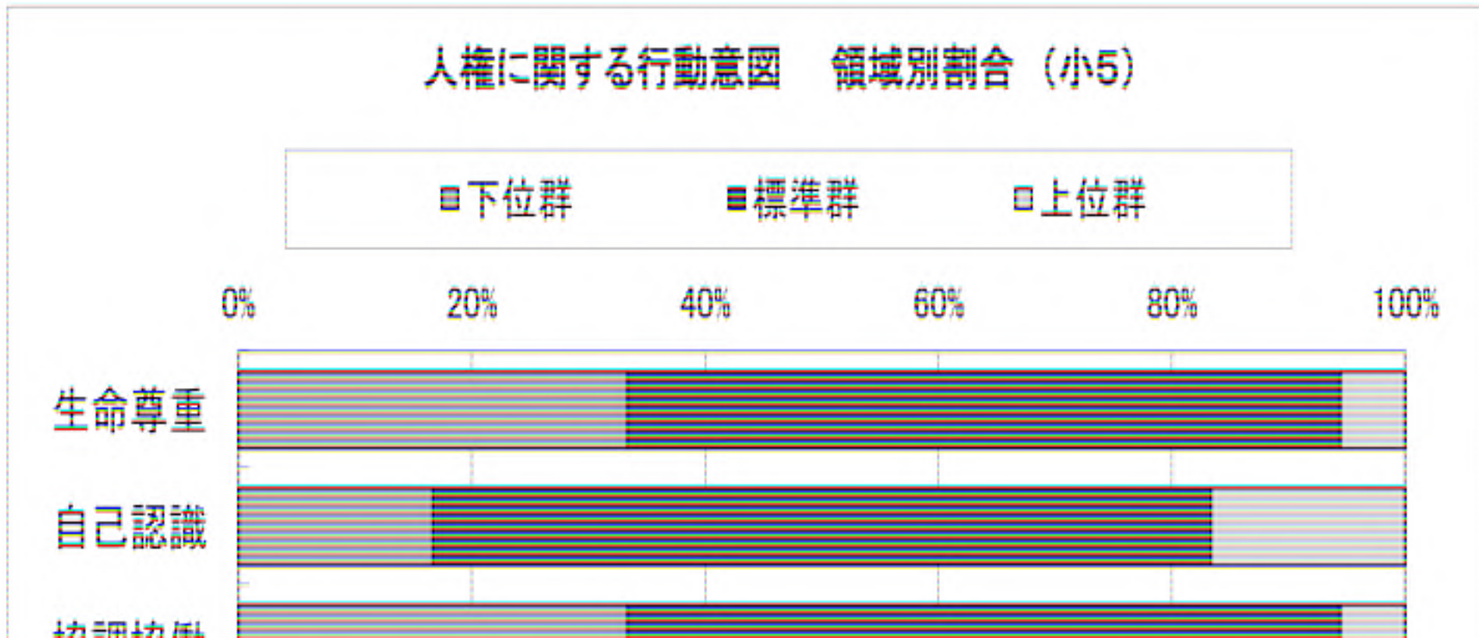




人権に関する認識		国際理解	科学的認識	労働観	協調協働	自己認識	生命尊重
5年	上位群	8	6	4	4	4	9
	標準群	26	27	28	28	30	22
	下位群	12	13	14	14	12	15

人権に関する行動意図		国際理解	科学的認識	労働観	協調協働	自己認識	生命尊重
5年	上位群	3	2	4	1	3	1
	標準群	11	12	7	11	12	11
	下位群	0	4	7	6	3	6





【学年に関する分析】

(1) 人権に関する「認識」

①レーダーチャート

学年平均は、(標準的な得点の範囲) 内にある。<国際理解>を除いた 5 領域、<生命尊重><自己
科学的認識><労働観>は、(標準的な得点の範囲) の標準値平均の下限、又は近くなっており、やや

②帯グラフ

6 領域、<生命尊重><自己認識><協調協働><労働観><科学的認識><国際理解>全ての項目
を上回っている。上位群は、<生命尊重><国際理解>20%に近く、他の領域においては 20%を下回

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学年 (認識)」の特徴の分析

全ての領域において、下位群が多く、上位群が少ないという (認識) の低い傾向になっているが、こ
う結果でもある。この層への支援をしていくことで、学年平均値の向上が期待される。

(2) 人権に関する「行動意図」

①レーダーチャート

学年平均は、(標準的な得点の範囲) 内にある。6 領域<生命尊重><自己認識><協調協働><労
<国際理解>全てで平均的であった。

②帯グラフ

<生命尊重><協調協働><労働観><科学的認識>の領域では下位群が 20%を上回っていた。<
20%を下回り、<国際理解>は下位群が 0%、上位群は 20%を上回っていた。

③レーダーチャートと帯グラフからわかる「学年 (行動意図)」の特徴の分析

全体的には標準的であるが、<生命尊重><協調協働><労働観><科学的認識>では下位群が 20
の 4 領域では (行動意図) にやや低い傾向がみられた。<国際理解>の項目では平均を 0.4 ポイント上
いう意識の高い傾向が見られた。この学年では、英語の授業などが楽しく行われているのではないか

(3)「学年」に関する総合分析　　＊「認識」と「行動意図」の関係性の分析

(認識) から (行動意図) への関係をみると、<生命尊重><協調協働><科学的認識>の上位群
労働観>の下位群が増加、<国際理解>は下位群が 0%となるなど (認識) と行動の関連性を検証す
学年では<国際理解>の意識が高いことが特徴であり、この分野を伸ばしていくことを通して他の領
とを期待したい。

(4) 「人権意識」改善への提案

5 年全体でみると、(行動意図) における 6 領域の中で<生命尊重>の上位群が最も少ない傾向が課
と自然との関係を理解させ、自然環境を守り生命を大切にしようとする意欲や態度を育てるような取
えば、理科の授業で地球温暖化、自然災害の被害や、今改善に取り組んでいることをビデオ学習や、
よって補えるだろう。

おわりに

岡垣町における人権意識調査を終え、活動した学生の成果として次の４
た。

①大学生が、人権意識アンケートの取り方・分析の説明を行う中で、人
高めることにつながった。

②学級・学年・個人の人権意識の違いを認識した。

③分析のコメントを考える時点で、人権意識の６指導目標（福岡県教育
教育指導目標）への理解が進み、彼ら自身の人権意識を振り返ることにつ

④アンケートをとおして、学校とは多様な子どもたちがいると考える契
これから子どもたちと触れ合うときの参考となる。

以上の成果は、次年度の子どもたちと出会うときの課題にもつながると
権教育プロジェクトは３年間継続する予定です）。岡垣町におかれまして
の全教育活動で教職員が一体となって人権意識を高める実践を行うに際し
を中心に重点目標を決める指標としてこのアンケートを活用していただい
す。学生が積極的に「まちづくり」に参加することは、教育の中で喫緊の課
民性（シティズンシップ）」を育てるという意義があります。今年度の活
た次年度の人権教育プロジェクトが有意義なものになることを期待してい

公益社団法人福岡県人権研
筑紫女学園大学非常勤講師
峰　司郎

九州共立大学
KYUSHU KYORITSU UNIVERSITY

平成 29 年度　岡垣町・九州共立大学　地域連携事業
『人権意識調査』分析報告書

発行　平成 29 年 11 月

山田研究室
〒807 - 8585　北九州市八幡西区自由ケ丘 1 - 8
TEL　093-693-3403　E-mail　y-akira@kyukyo-u.ac.